

社会調査士I (SA) § 社会調査士I (SA)

15443

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」「社会調査士Ⅲ」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士Ⅱ」「社会調査士Ⅲ」への導入であり基礎である。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士Ⅱ」「社会調査士Ⅲ」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会調査士課程全体の概要と導入	
第2回	社会調査の背景、社会調査とは	
第3回	社会調査のモラル、調査倫理	
第4回	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
第5回	調査票の作成 (1)	
第6回	調査票の作成 (2)	
第7回	調査対象者の選定、サンプリングとは	
第8回	社会調査の実施方法	
第9回	調査票の回収とコーディング	
第10回	データ入力とデータクリーニング	
第11回	質的調査の方法	
第12回	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
第13回	データの整理と分析 (1)	
第14回	データの整理と分析 (2)	
第15回	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かしつつ、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点評価	50 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会調査士I(SC) § 社会調査士I(SC)

15445

担当者名 / Instructor 中西 典子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」「社会調査士Ⅲ」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士Ⅱ」「社会調査士Ⅲ」への導入であり基礎である。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士Ⅱ」「社会調査士Ⅲ」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会調査士課程全体の概要と導入	
第2回	社会調査の背景、社会調査とは	
第3回	社会調査のモラル、調査倫理	
第4回	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
第5回	調査票の作成 (1)	
第6回	調査票の作成 (2)	
第7回	調査対象者の選定、サンプリングとは	
第8回	社会調査の実施方法	
第9回	調査票の回収とコーディング	
第10回	データ入力とデータクリーニング	
第11回	質的調査の方法	
第12回	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
第13回	データの整理と分析 (1)	
第14回	データの整理と分析 (2)	
第15回	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かしつつ、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点評価	50 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会調査士I (SD) § 社会調査士I (SD)

15446

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」「社会調査士Ⅲ」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士Ⅱ」「社会調査士Ⅲ」への導入であり基礎である。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士Ⅱ」「社会調査士Ⅲ」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会調査士課程全体の概要と導入	
第2回	社会調査の背景、社会調査とは	
第3回	社会調査のモラル、調査倫理	
第4回	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
第5回	調査票の作成 (1)	
第6回	調査票の作成 (2)	
第7回	調査対象者の選定、サンプリングとは	
第8回	社会調査の実施方法	
第9回	調査票の回収とコーディング	
第10回	データ入力とデータクリーニング	
第11回	質的調査の方法	
第12回	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
第13回	データの整理と分析 (1)	
第14回	データの整理と分析 (2)	
第15回	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かしつつ、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点評価	50 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会調査士II (SA) § 社会調査士II (SA)

12760

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士II」および「社会調査士III」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士II」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士III」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士I」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査主題と調査フィールドの検討 (1)	
第2回	調査主題と調査フィールドの検討 (2)	
第3回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(1)	
第4回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(2)	
第5回	班別に作業仮説の検討 (1)	
第6回	班別に作業仮説の検討 (2)	
第7回	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (1)	
第8回	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (2)	
第9回	仮説の構築 (1)	
第10回	仮説の構築 (2)	
第11回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (1)	
第12回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (2)	
第13回	調査票(案)作成等 (1)	
第14回	調査票(案)作成等 (2)	
第15回	調査票(案)作成等 (3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会調査士II (SB) § 社会調査士II (SB)

12738

担当者名 / Instructor 永橋 爲介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士II」および「社会調査士III」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士II」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士III」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士I」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査主題と調査フィールドの検討 (1)	
第2回	調査主題と調査フィールドの検討 (2)	
第3回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(1)	
第4回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(2)	
第5回	班別に作業仮説の検討 (1)	
第6回	班別に作業仮説の検討 (2)	
第7回	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (1)	
第8回	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (2)	
第9回	仮説の構築 (1)	
第10回	仮説の構築 (2)	
第11回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (1)	
第12回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (2)	
第13回	調査票(案)作成等 (1)	
第14回	調査票(案)作成等 (2)	
第15回	調査票(案)作成等 (3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会調査士II (SC)

12794

担当者名 / Instructor 永田 貴聖

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士II」および「社会調査士III」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士II」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士III」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士I」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査主題と調査フィールドの検討 (1)	
第2回	調査主題と調査フィールドの検討 (2)	
第3回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(1)	
第4回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(2)	
第5回	班別に作業仮説の検討 (1)	
第6回	班別に作業仮説の検討 (2)	
第7回	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (1)	
第8回	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (2)	
第9回	仮説の構築 (1)	
第10回	仮説の構築 (2)	
第11回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (1)	
第12回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (2)	
第13回	調査票(案)作成等 (1)	
第14回	調査票(案)作成等 (2)	
第15回	調査票(案)作成等 (3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会調査士II (SD) § 社会調査士II (SD)

12793

担当者名 / Instructor 平本 毅

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士II」および「社会調査士III」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士II」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士III」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士I」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査主題と調査フィールドの検討 (1)	
第2回	調査主題と調査フィールドの検討 (2)	
第3回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(1)	
第4回	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(2)	
第5回	班別に作業仮説の検討 (1)	
第6回	班別に作業仮説の検討 (2)	
第7回	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (1)	
第8回	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 (2)	
第9回	仮説の構築 (1)	
第10回	仮説の構築 (2)	
第11回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (1)	
第12回	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 (2)	
第13回	調査票(案)作成等 (1)	
第14回	調査票(案)作成等 (2)	
第15回	調査票(案)作成等 (3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成される、さまざまな調査に関するノートや文書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会調査士Ⅲ (SA) § 社会調査士Ⅲ (SA)

15397

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査結果の整理と確認 (1)	
第2回	調査結果の整理と確認 (2)	
第3回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(1)	
第4回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(2)	
第5回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(3)	
第6回	データクリーニング、分析案の検討 (1)	
第7回	データクリーニング、分析案の検討 (2)	
第8回	面接による補足調査 (1)	
第9回	面接による補足調査 (2)	
第10回	データ解析作業 (1)	
第11回	中間報告会	
第12回	データ解析作業 (2)	
第13回	データ解析作業 (3)	
第14回	調査報告書の作成、編集 (1)	
第15回	調査報告書の作成、編集 (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会調査士Ⅲ(SB) § 社会調査士Ⅲ(SB)

15396

担当者名 / Instructor 永橋 爲介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査結果の整理と確認 (1)	
第2回	調査結果の整理と確認 (2)	
第3回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(1)	
第4回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(2)	
第5回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(3)	
第6回	データクリーニング、分析案の検討 (1)	
第7回	データクリーニング、分析案の検討 (2)	
第8回	面接による補足調査 (1)	
第9回	面接による補足調査 (2)	
第10回	データ解析作業 (1)	
第11回	中間報告会	
第12回	データ解析作業 (2)	
第13回	データ解析作業 (3)	
第14回	調査報告書の作成、編集 (1)	
第15回	調査報告書の作成、編集 (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会調査士Ⅲ(SC)

15453

担当者名 / Instructor 永田 貴聖

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査結果の整理と確認 (1)	
第2回	調査結果の整理と確認 (2)	
第3回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(1)	
第4回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(2)	
第5回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(3)	
第6回	データクリーニング、分析案の検討 (1)	
第7回	データクリーニング、分析案の検討 (2)	
第8回	面接による補足調査 (1)	
第9回	面接による補足調査 (2)	
第10回	データ解析作業 (1)	
第11回	中間報告会	
第12回	データ解析作業 (2)	
第13回	データ解析作業 (3)	
第14回	調査報告書の作成、編集 (1)	
第15回	調査報告書の作成、編集 (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会調査士Ⅲ (SD) § 社会調査士Ⅲ (SD)

15452

担当者名 / Instructor 平本 毅

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	調査結果の整理と確認 (1)	
第2回	調査結果の整理と確認 (2)	
第3回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(1)	
第4回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(2)	
第5回	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(3)	
第6回	データクリーニング、分析案の検討 (1)	
第7回	データクリーニング、分析案の検討 (2)	
第8回	面接による補足調査 (1)	
第9回	面接による補足調査 (2)	
第10回	データ解析作業 (1)	
第11回	中間報告会	
第12回	データ解析作業 (2)	
第13回	データ解析作業 (3)	
第14回	調査報告書の作成、編集 (1)	
第15回	調査報告書の作成、編集 (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

音楽I (SA)

12241

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校音楽科の教育内容について理解を深める。表現・鑑賞領域の学習内容について、教材研究や授業づくりの基本的な方法論の検討を通して、音楽活動のあり方や教材選択と教材解釈の方法についての理解をうながし、実践的力量的の形成をめざす。また音楽科授業において必要とされる簡単な和音伴奏による伴奏や弾き歌いのスキル、代表的な歌唱教材や器楽教材の表現スキルを身につける。本講義は、クラス全体授業と個人指導を連動させて行う。(シラバスに記載するテーマによる学習と、主に鍵盤楽器を中心とした個人の実技的な学習を並行して授業を構成する。)

到達目標 / Attainment Objectives

小学校音楽科の学習内容について理解し、音楽の基礎的スキルと実践的諸能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—初等音楽で学ぶもの	音楽とは何か
2	西洋音楽の決まりごと①—五線譜を読もう	五線譜の基礎
3	鍵盤楽器の基礎・基本①—鍵盤楽器のきまりごと	読譜と記譜
4	鍵盤楽器の基礎・基本②—五線譜を表現してみよう	鍵盤楽器の基礎
5	和音伴奏の作り方①—音楽の理論を学習して、和音伴奏をつくろう	和音とは何か
6	和音伴奏の作り方②—和音伴奏をつくって弾き歌いに挑戦しよう	伴奏の形
7	和音伴奏の作り方③—いろいろな調の和音伴奏をつくろう	調とは何か
8	リコーダーの基礎・基本①—リコーダーに挑戦しよう	リコーダーの基礎 ダンギング
9	リコーダー②—リコーダーで表現しよう	リコーダー・アンサンブル
10	アンサンブル—いろいろな楽器をつかってアンサンブルに挑戦しよう	トーンチャイム
11	いろいろな音①—サウンド・スケープ	サウンドスケープとは何か 音
12	いろいろな音楽②—日本の音を体験しよう	日本音楽 和太鼓実習
13	いろいろな音楽③—世界の音楽を体験しよう	諸民族の音楽
14	音楽づくり—自由な発想で音楽をつくって表現しよう	CMM
15	発表会—演奏会をしよう	まとめと総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特に音楽実技が不得意だと思ふ人は、授業に向けて少しでも個人練習するよう心がけてください。また日常からさまざまなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするよう心がけましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	発表会での個人発表を評価の対象とします。出席、授業時の課題、授業内の小テスト、グループでの発表、参加意欲・態度等、総合的に評価します。

3分の2以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽実技は、日々の練習の積み重ねが大切です。今楽譜が読めなくても、ピアノがまったく弾けなくても、少しづつ積み重ねれば、必ず楽譜が読めて、演奏することができるようになります。根気よく投げ出さずに学習を継続することが大切です。一方で、世界の音楽の中には五線譜をつかわない音楽もたくさんあります。音楽とは何か、音楽教育とは何かという問いを常にもって、いろいろな音楽に接してみてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『最新初等科音楽科教育法』	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-82008-1 /

必ず持参してください。

このほか、必要に応じて、レジュメ等を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説・音楽編	文部科学省編 // /
音楽の基礎	鞍掛昭二、小桜秀爾、廣中宏雄、山田輝子、若林延昌 著 / 音楽之友社 / 4276100488 /
ピアノ伴奏法入門 ひとりでマスター	鈴木渉著 / 子どもの未来社 / 4-901330-07-1 /
この一冊でわかる ピアノ実技と楽典	深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 著 / 音楽之友社 / 427610050X /
音楽科重要用語300の基礎知識	吉富功修編集 / 明治図書 / 4-18-717802-3 /

その他、授業時に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ソプラノリコーダーを使用します。各自で準備してください。(パロック式、ジャーマン式いずれも可)

音楽I (SB)

12279

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校音楽科の教育内容について理解を深める。表現・鑑賞領域の学習内容について、教材研究や授業づくりの基本的な方法論の検討を通して、音楽活動のあり方や教材選択と教材解釈の方法についての理解をうながし、実践的力量的の形成をめざす。また音楽科授業において必要とされる簡単な和音伴奏による伴奏や弾き歌いのスキル、代表的な歌唱教材や器楽教材の表現スキルを身につける。本講義は、クラス全体授業と個人指導を連動させて行う。(シラバスに記載するテーマによる学習と、主に鍵盤楽器を中心とした個人の実技的な学習を並行して授業を構成する。)

到達目標 / Attainment Objectives

小学校音楽科の学習内容について理解し、音楽の基礎的スキルと実践的諸能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—初等音楽で学ぶもの	音楽とは何か
2	西洋音楽の決まりごと①—五線譜を読もう	五線譜の基礎
3	鍵盤楽器の基礎・基本①—鍵盤楽器のきまりごと	読譜と記譜
4	鍵盤楽器の基礎・基本②—五線譜を表現してみよう	鍵盤楽器の基礎
5	和音伴奏のつくり方①—音楽の理論を学習して、和音伴奏をつくろう	和音とは何か
6	和音伴奏のつくり方②—和音伴奏をつくって弾き歌いに挑戦しよう	伴奏の形
7	和音伴奏のつくり方③—いろいろな調の和音伴奏をつくろう	調とは何か
8	リコーダーの基礎・基本①—リコーダーに挑戦しよう	リコーダーの基礎 ダンギング
9	リコーダー②—リコーダーで表現しよう	リコーダー・アンサンブル
10	アンサンブル—いろいろな楽器をつかってアンサンブルに挑戦しよう	トーンチャイム
11	いろいろな音①—サウンド・スケープ	サウンドスケープとは何か 音
12	いろいろな音楽②—日本の音を体験しよう	日本音楽 和太鼓実習
13	いろいろな音楽③—世界の音楽を体験しよう	諸民族の音楽
14	音楽づくり—自由な発想で音楽をつくって表現しよう	CMM
15	発表会—演奏会をしよう	まとめと総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

特に音楽実技が不得意だと思える人は、授業に向けて少しでも個人練習するよう心がけてください。また日常からさまざまなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするよう心がけましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	発表会での個人発表を評価の対象とします。出席、授業時の課題、授業内の小テスト、グループでの発表、参加意欲・態度等、総合的に評価します。

3分の2以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽実技は、日々の練習の積み重ねが大切です。今楽譜が読めなくても、ピアノがまったく弾けなくても、少しづつ積み重ねれば、必ず楽譜が読めて、演奏することができるようになります。根気よく投げ出さずに学習を継続することが大切です。一方で、世界の音楽の中には五線譜をつかわない音楽もたくさんあります。音楽とは何か、音楽教育とは何かという問いを常にもって、いろいろな音楽に接してみてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『最新初等科音楽科教育法』	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-82008-1 /

必ず持参してください。

このほか、必要に応じて、レジュメ等を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説・音楽編	文部科学省編 / / /
音楽の基礎	鞍掛昭二、小桜秀爾、廣中宏雄、山田輝子、若林延昌 著 / 音楽之友社 / 4276100488 /
ピアノ伴奏法入門 ひとりでマスター	鈴木渉著 / 子どもの未来社 / 4-901330-07-1 /
この一冊でわかる ピアノ実技と楽典	深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 著 / 音楽之友社 / 427610050X /
音楽科重要用語300の基礎知識	吉富功修編集 / 明治図書 / 4-18-717802-3 /

その他、授業時に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ソプラノリコーダーを使用します。各自で準備してください。(パロック式、ジャーマン式いずれも可)

音楽II (SA)

11853

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校音楽科の教育内容について理解を深める。表現・鑑賞領域の学習内容について、教材研究や授業づくりの基本的な方法論の検討を通して、音楽活動のあり方や教材選択と教材解釈の方法についての理解をうながし、実践的力量的の形成をめざす。また音楽科授業において必要とされる伴奏や弾き歌いのスキル、代表的な歌唱教材や器楽教材の表現スキルを身につけるとともに、多様な音楽にふれることをとおしてさまざまな音楽のあり方を理解する。

本講義は、クラス全体授業と個人指導を連動させて行う。(シラバスに記載するテーマによる学習と、主に鍵盤楽器を中心とした個人の実技的な学習を並行して授業を構成する。)

* オープニング・エンディング・パフォーマンスとして、クラス合唱、クラス合奏を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

小学校音楽科の学習内容について理解し、音楽的技能と実践的諸能力を身につける。

いろいろな音楽のあり方について理解し、音楽観を拡大する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

音楽 I を履修済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—音楽IIで学ぶもの	オリエンテーション
2	小学校音楽科の教育内容とさまざまな音楽	学習指導要領 サウンドスケープ ワールドミュージック
3	鍵盤楽器の学習①	課題曲・練習曲を決める
4	鍵盤楽器の学習②	課題曲、練習曲の習得方法を考える
5	鍵盤ハーモニカを弾いてみよう	鍵盤ハーモニカ タンギング
6	アンサンブルを楽しもう①	リコーダーアンサンブル
7	アンサンブルを楽しもう②	リズムアンサンブル 打楽器
8	アンサンブルを楽しもう③	ボディパーカッション
9	アンサンブルを楽しもう④	器楽アンサンブル
10	日本音楽を体験してみよう	和楽器
11	諸民族の音楽を体験してみよう	民族音楽
12	声で音楽をつくってみよう	ボイスコンポジション
13	音楽をつくってみよう①	音楽づくり
14	音楽をつくってみよう②	音楽づくり
15	発表会	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業時に適宜指示します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	発表会での個人発表を評価の対象とします。 出席、授業時の課題、グループでの発表、参加意欲・態度等、総合的に評価します。

3分の2以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽実技は、日々の練習の積み重ねが大切です。今楽譜が読めなくても、ピアノがまったく弾けなくても、少しづつ積み重ねれば、必ず楽譜が読めて、演奏することができるようになります。根気よく投げ出さずに学習を継続することが大切です。

一方で、世界の音楽の中には五線譜をつかわない音楽もたくさんあります。音楽とは何か、音楽教育とは何かという問いを常にもって、いろいろな音楽に接してみてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
最新初等科音楽教育法	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-82008-1 /

授業時に適宜指示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説・音楽編	文部科学省編 / / /
この一冊でわかる ピアノ実技と楽典	深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 著 / 音楽之友社 / 427610050X /
楽しいボディ・パーカッション(1)(2)(3)	山田俊之 / 音楽之友社 / 4276315727・4276315735・4276315743 /
日本音楽がわかる本	千葉優子 著 / 音楽之友社 / 4276133149 /
音さがしの本	R.マリー・シェイファー / 春秋社 / 4-393-93438-5 /
その他、授業時に適宜紹介します。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業時に適宜紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

初等音楽科教育の理念、歴史的展開、目標、内容構成、指導計画、評価のあり方、現状と課題等について概観し、初等音楽科教育の概念と全体像の理解を深めるとともに、実践的諸問題について検討する。理論と実践を連動させながら、学習指導要領や教科書、実践事例の具体的検討を通して、初等音楽科教育の基本的原理を概観するとともに、模擬授業やディスカッションを通して、授業デザインの方法や学習指導案の作成、指導法、環境構成等、教育実習を視野に含みこんだ実践の力量の形成を目指す。音楽科教育についての課題意識を明確にし、自己の音楽教育観を確立する。

到達目標 / Attainment Objectives

初等音楽科教育の全体像を理解するとともに、基本的原理と諸課題を理解する。
授業デザインの方法や学習指導案の作成等、実践的諸能力を身につける。
初等音楽科教育における課題意識を明確にし、自己の音楽科教育観を確立する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

音楽 I を履修済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—音楽科教育とは何か	イントロダクション 音楽自分史
2	小学校音楽科の現状と課題	学校現場 教師 子ども 学習指導要領
3	音楽科の成立—音楽科教育の歴史的展開	唱歌 童謡運動 芸能科音楽 学習指導要領
4	小学校音楽科の実際—目標と指導内容	表現 鑑賞 歌唱共通教材
5	音楽づくりの実際	即興的表現 創造的音楽づくり
6	小学校音楽科の学習指導計画と音楽学習の評価	カリキュラム 年間指導計画 学習指導案 題材 評価基準
7	学習指導案の作成	学習指導案 主題による題材 楽曲による題材 教材
8	学習指導案の検討と模擬授業準備	模擬授業 教材研究
9	模擬授業とディスカッション①	表現 歌唱指導
10	模擬授業とディスカッション②	表現 器楽指導
11	模擬授業とディスカッション③	表現 音楽づくり指導
12	模擬授業とディスカッション④	鑑賞指導 視聴覚機器
13	諸民族の音楽の実際	諸民族の音楽
14	音楽科の授業研究	授業評価 授業改善
15	初等音楽科教育実践の課題と展望	総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

音楽科教育は近年新しいアプローチや指導内容がとりいれられて、授業時数は削減されているにもかかわらず、内容は多義的に拡大しています。日常からいろいろなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするように心がけ、音楽(教育)関連の書籍などを手にとってみるようにしてください。また他の教職科目や他教科の教育法とも関連づけながら、相対的に音楽科教育について考えてみてください。

* 授業はじめとおわりに、オープニング・パフォーマンス、エンディング・パフォーマンスとして、歌唱共通教材の指揮と伴奏、簡単な指導をしていただきます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	学習指導案の作成と最終レポートを課す。
平常点評価	50 %	出席状況、授業の中での課題への取り組み、授業時の学習指導案等の提出物、毎時授業後に提出する個人レポートカード等をあわせて、総合的に評価する。

三分の二以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽教育とは何かという問いを常にもって、自分の生活の中の音楽やこれまでうけてきた音楽教育などについて考えてみてください。小学校の音楽の授業が苦手だったという人や嫌いだったという人は、どういう授業をすればそれを克服できるかを考えましょう

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『最新初等科音楽科教育法』	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-8200-1 / 09年の改訂版を使用のこと。

参考書 / Reference Books

適宜授業時に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

音楽科教育法 (SB)

11745

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

初等音楽科教育の理念、歴史的展開、目標、内容構成、指導計画、評価のあり方、現状と課題等について概観し、初等音楽科教育の概念と全体像の理解を深めるとともに、実践的諸問題について検討する。理論と実践を連動させながら、学習指導要領や教科書、実践事例の具体的検討を通して、初等音楽科教育の基本的原理を概観するとともに、模擬授業やディスカッションを通して、授業デザインの方法や学習指導案の作成、指導法、環境構成等、教育実習を視野に含みこんだ実践の力量の形成を目指す。音楽科教育についての課題意識を明確にし、自己の音楽教育観を確立する。

到達目標 / Attainment Objectives

初等音楽科教育の全体像を理解するとともに、基本的原理と諸課題を理解する。
授業デザインの方法や学習指導案の作成等、実践的諸能力を身につける。
初等音楽科教育における課題意識を明確にし、自己の音楽科教育観を確立する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

音楽 I を履修済みであることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—音楽科教育とは何か	イントロダクション 音楽自分史
2	小学校音楽科の現状と課題	学校現場 教師 子ども 学習指導要領
3	音楽科の成立—音楽科教育の歴史的展開	唱歌 童謡運動 芸能科音楽 学習指導要領
4	小学校音楽科の実際—目標と指導内容	表現 鑑賞 歌唱共通教材
5	音楽づくりの実際	即興的表現 創造的音楽づくり
6	小学校音楽科の学習指導計画と音楽学習の評価	カリキュラム 年間指導計画 学習指導案 題材 評価基準
7	学習指導案の作成	学習指導案 主題による題材 楽曲による題材 教材
8	学習指導案の検討と模擬授業準備	模擬授業 教材研究
9	模擬授業とディスカッション①	表現 歌唱指導
10	模擬授業とディスカッション②	表現 器楽指導
11	模擬授業とディスカッション③	表現 音楽づくり指導
12	模擬授業とディスカッション④	鑑賞指導 視聴覚機器
13	諸民族の音楽の実際	諸民族の音楽
14	音楽科の授業研究	授業評価 授業改善
15	初等音楽科教育実践の課題と展望	総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

音楽科教育は近年新しいアプローチや指導内容がとりいれられて、授業時数は削減されているにもかかわらず、内容は多義的に拡大しています。日常からいろいろなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするように心がけ、音楽(教育)関連の書籍などを手にとってみるようにしてください。また他の教職科目や他教科の教育法とも関連づけながら、相対的に音楽科教育について考えてみてください。

* 授業はじめとおわりに、オープニング・パフォーマンス、エンディング・パフォーマンスとして、歌唱共通教材の指揮と伴奏、簡単な指導をしていただきます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	学習指導案の作成と最終レポートを課す。
平常点評価	50 %	出席状況、授業の中での課題への取り組み、授業時の学習指導案等の提出物、毎時授業後に提出する個人レポートカード等をあわせて、総合的に評価する。

三分の二以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽教育とは何かという問いを常にもって、自分の生活の中の音楽やこれまでうけてきた音楽教育などについて考えてみてください。小学校の音楽の授業が苦手だったという人や嫌いだったという人は、どういう授業をすればそれを克服できるかを考えましょう

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『最新初等科音楽科教育法』	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-8200-1 / 09年の改訂版を使用のこと。

参考書 / Reference Books

適宜授業時に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

家庭 (SA)

12126

担当者名 / Instructor 加藤 佐千子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校における家庭科の学習内容について、より高度な理解を促すと共に、教材研究や授業作りの基本的な方法論の検討を通して、実践的力量的形成を目指す。衣食住についての体験活動のあり方や適切な教材選択方法、家庭生活への関心や理解、裁縫や調理といった家庭科の内容について理解を促していく。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論、裁縫などの製作活動や調理実習なども組み入れ具体的な授業実践につながる教材研究の手法等の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校家庭科の指導内容がわかる。
- ・裁縫や調理の基本的知識、技術を理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	オリエンテーション	授業の到達目標、進め方、成績評価方法等
第2回目	家庭科の教育の本質と変遷、家庭科教育の目標と内容、学習指導要領の見方	歴史、目標、学習指導要領
第3回目	A 家庭生活と家族	家庭生活、家族
第4回目	C 快適な衣服と住まい1	衣生活の現状、被服材料、着方、手入れの仕方、洗濯、汚れの落ちる仕組み・燃焼実験
第5回目	C 快適な衣服と住まい2	基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、小物の製作
第6回目	C 快適な衣服と住まい3	基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、小物の製作
第7回目	B 日常の食事と調理の基礎1	栄養素、食品の特性
第8回目	B 日常の食事と調理の基礎2	炊飯の原理、材料の切り方、包丁の持ち方(ビデオ)、実習の説明 炊飯、切り方、実習室の使い方、実習計画立案、器具の確認、実習計画
第9回目	B 日常の食事と調理の基礎3 (調理実習1)	ご飯、味噌汁 ゆで卵
第10回目	B 日常の食事と調理の基礎4 (調理実習2)	ご飯、野菜炒め、野菜サラダ、自由献立1品
第11回目	C 快適な衣服と住まい	暖かい住まい方、涼しい住まい方 (ビデオ)
第12回目	D 身近な消費生活と環境	金銭の使い方、生活時間、環境
第13回目	学習指導の方法1(学習指導案の作成方法、機器の使い方)	学習指導案、評価、OHC、OHP、黒板、カード
第14回目	学習指導の方法2(模擬授業、研究発表、試験説明)	マイクロティーチング、研究発表
第15回目	学習指導の方法3(模擬授業、研究発表、試験説明)	マイクロティーチング、研究発表、試験説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

衣・食・住・消費生活・環境に関する専門書を読み、基本的な知識を身につけておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	学習指導要領と家庭科に関する専門的内容を理解できたかどうかを確認する検証テスト
平常点評価	40 %	授業への参加、取り組みの状況など20%。 実験のレポートの提出20%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常の生活に関心を持って望んでほしい

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説家庭科編	文部科学省 / 東洋館出版 / 978-4-491-02374-8 /
小学校家庭科教育法ワークブック	鈴木洋子 / 家政教育社 / 978-4-7606-0377-0 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title

家庭科教育法

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

佐藤文子ら／高陵社／4-7711-0028-4／

家庭科の歴史、指導方法、授業方法、設備など広く理解できる参考書である

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

最初の授業で説明する

その他 / Others

調理実習は、事前に必要な材料を計算し、当日持参すること。食器ふき、台付近、鍋つかみを準備しておくこと。
簡単な小物の製作では、材料を事前に準備し、当日持参すること。

家庭 (SB)

12141

担当者名 / Instructor 加藤 佐千子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校における家庭科の学習内容について、より高度な理解を促すと共に、教材研究や授業作りの基本的な方法論の検討を通して、実践的力量的形成を目指す。衣食住についての体験活動のあり方や適切な教材選択方法、家庭生活への関心や理解、裁縫や調理といった家庭科の内容について理解を促していく。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論、裁縫などの製作活動や調理実習なども組み入れ、具体的な授業実践につながる教材研究の手法等の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校家庭科の指導内容がわかる。
- ・裁縫や調理の基本的知識、技術を理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	オリエンテーション	授業の到達目標、進め方、成績評価方法等
第2回目	家庭科の教育の本質と変遷、家庭科教育の目標と内容、学習指導要領の見方	歴史、目標、学習指導要領
第3回目	A 家庭生活と家族	家庭生活、家族
第4回目	C 快適な衣服と住まい1	衣生活の現状、被服材料、着方、手入れの仕方、洗濯、汚れの落ちる仕組み・燃焼実験
第5回目	C 快適な衣服と住まい2	基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、小物の製作
第6回目	C 快適な衣服と住まい3	基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、小物の製作
第7回目	B 日常の食事と調理の基礎1	栄養素、食品の特性
第8回目	B 日常の食事と調理の基礎2	炊飯の原理、材料の切り方、包丁の持ち方(ビデオ)、実習の説明 炊飯、切り方、実習室の使い方、実習計画立案、器具の確認、実習計画
第9回目	B 日常の食事と調理の基礎3 調理実習1	ご飯、味噌汁 ゆで卵
第10回目	B 日常の食事と調理の基礎4 調理実習2	ご飯、野菜炒め、野菜サラダ、自由献立1品
第11回目	C 快適な衣服と住まい3	暖かい住まい方、涼しい住まい方(ビデオ)
第12回目	D 身近な消費生活と環境	金銭の使い方、生活時間、環境
第13回目	学習指導の方法1(学習指導案の作成方法、機器の使い方)	学習指導案、評価
第14回目	学習指導の方法2(模擬授業、研究発表、試験説明)	マイクロティーチング、研究発表
第15回目	学習指導の方法3(模擬授業、研究発表、試験説明)	マイクロティーチング、研究発表、試験説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

衣・食・住・消費生活・環境に関する専門書を読み、基本的な知識を身につけておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	学習指導要領と家庭科に関する専門的内容を理解できたかどうかを確認する検証テスト
平常点評価	40 %	授業への参加、取り組みの状況など20%。 実験のレポートの提出20%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活に関心を持って望んでほしい

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説家庭科編	文部科学省 / 東洋館出版 / 978-4-491-02374-8 /
小学校家庭科教育法ワークブック	鈴木洋子 / 家政教育社 / 978-4-7606-0377-0 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title

家庭科教育法

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

佐藤文子ら／高陵社／4-7711-0028-4／

家庭科の歴史、指導方法、授業方法、設備など広く理解できる参考書である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

最初の授業で説明する。

その他 / Others

調理実習は、事前に必要な材料を計算し、当日持参すること。食器ふき、台付近、鍋つかみを準備しておくこと。
簡単な小物の製作では、材料を事前に準備し、当日持参すること。

家庭科教育法 (SA)

12159

担当者名 / Instructor 表 真美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代の子どもたちは、社会状況、生活環境等の変化により、生活体験が著しく減少している。また、男女共同参画社会の進展、あるいは少子高齢社会への対応のためにも、家庭生活・家族への理解、および生活自立の基礎を培う家庭科の役割は、極めて重要である。そこで本講座では、前述のような社会背景を見据えたうえで、小学校における家庭科指導法について、具体的、かつ実践的に学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・家庭科教育の意義を理解する。
- ・質の高い家庭科の授業を構築・実践できる能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家庭科教育の特質	少子高齢化/男女共同参画社会/新学習指導要領/家庭生活/技術・家庭/家庭総合/家庭基礎/生活技術
2	家庭科教育の歴史	家事科/高等女学校/CIE/男女共修/教科書検定不合格
3	諸外国の家庭科教育	Home Economics Education /アメリカ/アジア/アフリカ/ヨーロッパ
4	家庭科教育の学習目標・内容	カリキュラム開発/問題解決能力/生活問題
5	家庭科の学習指導・評価・授業設計	学習指導過程/学習戦略/児童指導要録/自己評価/学習指導計画/学習指導案
6	「家庭生活と家族」の授業設計	家族/家庭生活/家事労働/生活時間/近隣の人/団らん
7	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計1	食事の役割/栄養素の種類と働き/食品の栄養的特徴/献立
8	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計2	調理
9	「快適な衣服と住まい」の授業設計	衣服の着用/衣服の手入れ/整理・整頓/布を用いた製作
10	「身近な消費生活と環」の授業設計	物や金銭の使い方/買い物
11	模擬授業1	
12	模擬授業2	
13	模擬授業3	
14	模擬授業4	
15	まとめ	家庭科教育総論/家庭科学習内容論/模擬授業評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	家庭科学習指導のための基礎知識に関する試験を行う。
レポート試験	25 %	模擬授業終了後に家庭科学習指導案、および実践した模擬授業の反省をまとめたレポートを提出する。
平常点評価	25 %	11から14回の授業時に行う模擬授業への取り組みを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校 家庭科の指導	中間美砂子 多々納道子編著/建帛社//2010年2月刊行予定

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
青少年期の家族と教育：家庭科教育からの展望	牧野カソコ編著/家政教育社/476060359X/

少子社会の家族と福祉 女性と高齢者の視点から 袖井孝子編著／ミネルヴァ書房／4623040162／

現代家族のアジェンダ：親子関係を考える 井上真理子編著／世界思想社／4790710858／

[参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference](#)

[教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff](#)

[その他 / Others](#)

家庭科教育法 (SB)

12222

担当者名 / Instructor 表 真美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代の子どもたちは、社会状況、生活環境等の変化により、生活体験が著しく減少している。また、男女共同参画社会の進展、あるいは少子高齢社会への対応のためにも、家庭生活・家族への理解、および生活自立の基礎を培う家庭科の役割は、極めて重要である。そこで本講座では、前述のような社会背景を見据えたうえで、小学校における家庭科指導法について、具体的、かつ実践的に学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・家庭科教育の意義を理解する。
- ・質の高い家庭科の授業を構築・実践できる能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家庭科教育の特質	少子高齢化/男女共同参画社会/新学習指導要領/家庭生活/技術・家庭/家庭総合/家庭基礎/生活技術
2	家庭科教育の歴史	家事科/高等女学校/CIE/男女共修/教科書検定不合格
3	諸外国の家庭科教育	Home Economics Education /アメリカ/アジア/アフリカ/ヨーロッパ
4	家庭科教育の学習目標・内容	カリキュラム開発/問題解決能力/生活問題
5	家庭科の学習指導・評価・授業設計	学習指導過程/学習戦略/児童指導要録/自己評価/学習指導計画/学習指導案
6	「家庭生活と家族」の授業設計	家族/家庭生活/家事労働/生活時間/近隣の人/団らん
7	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計1	食事の役割/栄養素の種類と働き/食品の栄養的特徴/献立
8	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計2	料理
9	「快適な衣服と住まい」の授業設計	衣服の着用/衣服の手入れ/整理・整頓/布を用いた製作
10	「身近な消費生活と環境」の授業設計	物や金銭の使い方/買い物
11	模擬授業1	
12	模擬授業2	
13	模擬授業3	
14	模擬授業4	
15	まとめ	家庭科教育総論/家庭科学習内容論/模擬授業評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	家庭科学習指導のための基礎知識に関する試験を行う。
レポート試験	25 %	模擬授業終了後に家庭科学習指導案、および実践した模擬授業の反省をまとめたレポートを提出する。
平常点評価	25 %	11から14回の授業時に行う模擬授業への取り組みを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校 家庭科の指導	中間美砂子 多々納道子編著/建帛社//2010年2月刊行予定

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
青少年期の家族と教育：家庭科教育からの展望	牧野カソコ編著/家政教育社/476060359X/

少子社会の家族と福祉 女性と高齢者の視点から 袖井孝子編著／ミネルヴァ書房／4623040162／

現代家族のアジェンダ：親子関係を考える 井上真理子編著／世界思想社／4790710858／

[参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference](#)

[教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff](#)

[その他 / Others](#)

算数 (SA)

12223

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、算数指導を支える数学的知識の構造的な理解を図るものとして位置付く。数体系や計量、論証と初等幾何、基礎解析、記述・推測統計など教科内容知識について、算数教育上の実践的な課題と関連づけながら探究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 算数の各内容に対応する数学的背景について理解すること。
- 2 算数指導を支える数学的な知識を深め、小学校教員として相応しい力量を形成すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

算数科教育法を履修しておくことが望ましい。その他、数学的な素養を深める科目を自ら積極的に履修すること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	算数教材研究の目的と方法	教科内容知識, 翻訳(translation), 教授学的変換
第02回	数と計算 (1)数概念と表記, 数感覚	集合・構造, 数体系, ペアノの公理, 記数法・命数法, モジュラー算術と合同式
第03回	数と計算 (2)四則計算の意味, 概数・概算	単項演算, 二項演算, 合併・添加, 求差・求残, スカラー倍, 等分除・包含除
第04回	数と計算 (3)小数・分数の概念と形式	数直線と稠密性・連続性, 同値類, 無限小数展開
第05回	数と計算 (4)計算の意味とその拡張	同数累加, 倍概念, 再定義, 同型と包摂
第06回	量と測定 (1)量の種類と測定	単位, 内包量・外延量, 加法性, 測定と誤差
第07回	量と測定 (2)面積と体積の求積	次元, Bi-Linear Tri-Linear, 錐体, 等積変形, Cavalieriの原理
第08回	図形 (1)図形の構成と性質	点・直線・平面, 作図, 定義・公理・定理, 特殊と一般
第09回	図形 (2)図形の移動と変換	拡大・縮小, 対称性, 射影と位相
第10回	数量関係 (1)式表示と関数	実数, 線形性, 座標と関数, 直交形式と極形式
第11回	数量関係 (2)統計と確率	記述統計・推測統計, 自由度と有意差 簡潔・明確・統合, 発展性, 人間活動と数学史
第12回	算数的活動 (1)算数・数学的な着想	暗示的接触, 支持的接触, 理想化・単純化・特殊化
第13回	算数的活動 (2)算数・数学的な問題解決	簡潔・明確・統合, 発展性, 人間活動と数学史
第14回	問題設定 (1)算数・数学的な発展	多様性・開放性, 拡張・一般化, well-defined
第15回	問題設定 (2)算数・数学的な活用	日常性と転移, 数学的観点, 総合性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

算数の指導内容が中学校, 高等学校, 大学の教養レベルまでいかに系統的に発展していくかを構造的に捉えていく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向と評価基準/規準は講義中に提示する。
平常点評価	50 %	コミュニケーション用紙の適宜提出を求め, 授業内容の要旨記述から, 講義の理解度をみる。また平常点(学習態度, 質問内容, 討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り, 開講回数の2/3以上を出席することを単位認定の基本条件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近い将来皆さんが行う算数授業の質は教材理解の深さに依存します。教えることが一見案に見える算数教材も, 深く広範な数学的背景をもつのです。初等とは容易という意味ではありません。教材の背後にある学校数学の全体像への気づきを促すことで, それらの教材を開発, 改善してきた先人の努力や成果に対する敬意をもち, 自らが携わる初等教育の内容の深さをしっかりと理解して欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 算数編(平成20年8月)	文部科学省 / 東洋館出版 / 4-491-02373-1 / 算数科の改善の趣旨や内容を解説。

新版 算数教育の理論と実際

数学教育学研究会 / 聖文新社 / 4-7922-0090-3 / 算数科教育の内容・方法が具体例と共に網羅してある。

図でみる日本の算数・数学授業研究

清水静海, 磯田正美, 大久保和義, 馬場卓也 / 明治図書出版 / 4-18-526616-2 / 算数指導の改善を進める際の基本情報。

基本的に、各社の算数教科書と教師用指導書、学習指導要領を参考とします。その他、参考となる上記の図書は随時紹介し、必要に応じて要約・抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ① 小学校算数・中学校数学・高等学校数学 指導資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05071101.htm
- ② 平成20年公示 学習指導要領資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

十分な予習をもって授業に臨んで欲しい。また授業において不明な点は決してそのままにしておかないように。
高等学校までの数学の教科書を用いて適宜指導内容を復習すること。

算数 (SB)

12160

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、算数指導を支える数学的知識の構造的な理解を図るものとして位置付く。数体系や計量、論証と初等幾何、基礎解析、記述・推測統計など教科内容知識について、算数教育上の実践的な課題と関連づけながら探究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 算数の各内容に対応する数学的背景について理解すること。
- 2 算数指導を支える数学的な知識を深め、小学校教員として相応しい力量を形成すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

算数科教育法を履修しておくことが望ましい。その他、数学的な素養を深める科目を自ら積極的に履修すること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	算数教材研究の目的と方法	教科内容知識, 翻訳(translation), 教授学的変換
第02回	数と計算 (1)数概念と表記, 数感覚	集合・構造, 数体系, ペアノの公理, 記数法・命数法, モジュラー算術と合同式
第03回	数と計算 (2)四則計算の意味, 概数・概算	単項演算, 二項演算, 合併・添加, 求差・求残, スカラー倍, 等分除・包含除
第04回	数と計算 (3)小数・分数の概念と形式	数直線と稠密性・連続性, 同値類, 無限小数展開
第05回	数と計算 (4)計算の意味とその拡張	同数累加, 倍概念, 再定義, 同型と包摂
第06回	量と測定 (1)量の種類と測定	単位, 内包量・外延量, 加法性, 測定と誤差
第07回	量と測定 (2)面積と体積の求積	次元, Bi-Linear Tri-Linear, 錐体, 等積変形, Cavalieriの原理
第08回	図形 (1)図形の構成と性質	点・直線・平面, 作図, 特殊と一般
第09回	図形 (2)図形の移動と変換	拡大・縮小, 対称性, 射影と位相
第10回	数量関係 (1)式表示と関数	実数, 線形性, 座標と関数, 直交形式と極形式
第11回	数量関係 (2)統計と確率	記述統計・推測統計, 自由度と有意差
第12回	算数的活動 (1)算数・数学的な着想	暗示的接触, 支持的接触, 理想化・単純化・特殊化
第13回	算数的活動 (2)算数・数学的な問題解決	簡潔・明確・統合, 発展性, 人間活動と数学史
第14回	問題設定 (1)算数・数学的な発展	多様性・開放性, 拡張・一般化, well-defined
第15回	問題設定 (2)算数・数学的な活用	日常性と転移, 数学的観点, 総合性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

算数の指導内容が中学校, 高等学校, 大学の教養レベルまでいかに系統的に発展していくかを構造的に捉えていく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向と評価基準/規準は講義中に提示する。
平常点評価	50 %	コミュニケーション用紙の適宜提出を求め, 授業内容の要旨記述から, 講義の理解度をみる。また平常点(学習態度, 質問内容, 討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り, 開講回数2/3以上を出席することを単位認定の基本条件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近い将来皆さんが行う算数授業の質は教材理解の深さに依存します。教えることが一見楽に見える算数教材も, 深く広範な数学的背景をもつのです。初等とは容易という意味ではありません。教材の背後にある学校数学の全体像への気づきを促すことで, それらの教材を開発, 改善してきた先人の努力や成果に対する敬意をもち, 自らが携わる初等教育の内容の深さをしっかりと理解して欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 算数編(平成20年8月)	文部科学省 / 東洋館出版 / 4-491-02373-1 / 算数科の改善の趣旨や内容を解説。

新版 算数教育の理論と実際

数学教育学研究会／聖文新社／4-7922-0090-3／算数科教育の内容・方法が具体例と共に網羅してある。

図でみる日本の算数・数学授業研究

清水静海, 磯田正美, 大久保和義, 馬場卓也／明治図書出版／4-18-526616-2／算数指導の改善を進める際の基本情報。

基本的に、各社の算数教科書と教師用指導書、学習指導要領を参考とします。その他、参考となる上記の図書は随時紹介し、必要に応じて要約・抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

①小学校算数・中学校数学・高等学校数学 指導資料

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05071101.htm

②平成20年公示 学習指導要領資料

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

十分な予習をもって授業に臨んで欲しい。また授業において不明な点は決してそのままにしておかないように。

高等学校までの数学の教科書を用いて適宜指導内容を復習すること

算数科教育法 (SA)

12140

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、算数科の概論として位置付き、算数の歴史的展開、目標論、内容構成論、授業論、評価論、現代の課題などについて、学習指導要領の変遷にも言及しながら、算数教育の基本的原理を概観し、実践上の諸課題を探究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 算数科の基本原則を理解し、実践上の諸課題を探究する力量を形成すること。
- 2 算数科の歴史的展開を踏まえ、その内容構成に即した指導方法について実践できること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特定しない。ただし、数学的な素養を深める科目を自ら積極的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	「算数」とは何か？	Arithmetic と Elementary Mathematics, 算数と数学の相違, 算数教育の意義と基本的性格
第02回	算数教育の目標と現状	国際調査(TIMSS, PISA), 全国学力調査, 目標論, 形式陶冶と実質陶冶
第03回	算数教育の史的展開①西洋化と近代化	和算から洋算へ, 黒表紙・緑表紙・青表紙教科書, 数理思想, 数学教育近代化
第04回	算数教育の史的展開②現代化と情報化	学習指導要領の変遷, 生活単元学習, 数学教育現代化, よさの感得と活用, 活動性
第05回	算数科指導内容論①数と計算	直観主義と数え主義, 数体系と拡張, 四則演算の意味と手続き
第06回	算数科指導内容論②量と測定	保存, 量指導の四段階, 加法性, 内包量・外延量
第07回	算数科指導内容論③図形と空間	構成的定義, 作図・敷き詰め, 概念定義と概念イメージ
第08回	算数科指導内容論④数量関係	比と比例, 同種／異種の二量の割合, 関数, 記述統計・推測統計
第09回	算数科指導方法論①基本原理	多様性・練り上げ, 協同・構成, 問題解決・問題設定, 公理的・構成的方法
第10回	算数科指導方法論②指導計画	単元, 総合化, 学習指導案, 数学的系統と指導系統
第11回	算数科指導方法論③実践展開	算数的活動, 意味と手続き, 誤答分析, オープンエンドアプローチ, よさの感得
第12回	算数科指導方法論④テクノロジー活用と限界	マルチメディア, タブレットPC, デジタルコンテンツ
第13回	算数科教材論	教授学的変換, 教科書比較, 数学的構造(順序的, 代数的, 位相的), 視覚化, 操作性
第14回	算数科授業論	授業設計, 授業研究(Lesson Study), 優れた算数授業, 発問分析
第15回	算数科評価論	評価類型, 観点別評価, 自己評価とメタ認知, 指導と評価の一体化, ポートフォリオ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

近隣地域や各附属学校の授業研究会などに自主的に参加することが望ましい。算数の学習指導において現職の先生方がどのような問題を抱え、よりよい教育の実現に向けて継続的に努力しているのかについて敬意を払いながら、算数実践の難しさを感じて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向と評価基準／規準は講義中に提示する。
平常点評価	50 %	コミュニケーション用紙の適宜提出を求め、授業内容の要旨記述から、講義の理解度をみる。また平常点(学習態度、質問内容、討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数2/3以上を出席することを単位認定の基本条件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

算数科教育法は、単に教え方(Know-how)を学ぶものではありません。人間が算数・数学を学ぶとはどういう営みであるのかを深く考えることで、小学校教員の在るべき姿や責任、心構えをしっかりと見出して欲しい。算数授業を成立させる条件を教材・教具の面から具体的に考えることは、小学校教諭としての実践的な素養を総合的に高めてくれます。将来の教育者として主体的な学習を期待しています。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 算数編(平成20年8月)	文部科学省 / 東洋館出版 / 4-491-02373-1 / 算数科の改善の趣旨や内容を解説。
日本の算数・数学教育に学べ—米国が目指す jugyoukenkyuu	James W. Stigler, James Hiebert / 教育出版 / 4-316-38910-6 / 算数授業再構築のための授業論。
新版 算数教育の理論と実際	数学教育学研究会 / 聖文新社 / 4-7922-0090-3 / 算数科教育の内容・方法が具体例と共に網羅してある。
図でみる日本の算数・数学授業研究	清水静海, 磯田正美, 大久保和義, 馬場卓也 / 明治図書出版 / 4-18-526616-2 / 算数指導の改善を進める際の基本情報。

基本的に、各社の算数教科書と指導書、学習指導要領を参考とします。その他、参考となる上記の図書は随時紹介し、必要に応じて要約・抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ①小学校算数・中学校数学・高等学校数学 指導資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05071101.htm
- ②平成20年公示 学習指導要領資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

十分な予習をもって授業に臨んで欲しい。授業において不明な点は決してそのままにしておかないように。またPCを利用した授業を行う場合もあります。PC利用に嫌悪をもたない程度のリテラシを事前に身につけておいて欲しい。

算数科教育法 (SB)

12125

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、算数科の概論として位置付き、算数の歴史的展開、目標論、内容構成論、授業論、評価論、現代の課題などについて、学習指導要領の変遷にも言及しながら、算数教育の基本的原理を概観し、実践上の諸

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 算数科の基本原則を理解し、実践上の諸課題を探究する力量を形成すること。
- 2 算数科の歴史的展開を踏まえ、その内容構成に即した指導方法について実践できること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特定しない。ただし、数学的な素養を深める科目を自ら積極的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	「算数」とは何か？	Arithmetic と Elementary Mathematics, 算数と数学の相違, 算数教育の意義と基本的性格
第02回	算数教育の目標と現状	国際調査(TIMSS, PISA), 全国学力調査, 目標論, 形式陶冶と実質陶冶
第03回	算数教育の史的展開①西洋化と近代化	和算から洋算へ, 黒表紙・緑表紙・青表紙教科書, 数理思想, 数学教育近代化
第04回	算数教育の史的展開②現代化と情報化	学習指導要領の変遷, 生活単元学習, 数学教育現代化, よさの感得と活用, 活動性
第05回	算数科指導内容論①数と計算	直観主義と数え主義, 数体系と拡張, 四則演算の意味と手続き
第06回	算数科指導内容論②量と測定	保存, 量指導の四段階, 加法性, 内包量・外延量
第07回	算数科指導内容論③図形と空間	構成的定義, 作図・敷き詰め, 概念定義と概念イメージ
第08回	算数科指導内容論④数量関係	比と比例, 同種／異種の二量の割合, 関数, 記述統計・推測統計
第09回	算数科指導方法論①基本原理	多様性・練り上げ, 協同・構成, 問題解決・問題設定, 公理的・構成的方法
第10回	算数科指導方法論②指導計画	単元, 総合化, 学習指導案, 数学的系統と指導系統
第11回	算数科指導方法論③実践展開	算数的活動, 意味と手続き, 誤答分析, オープンエンドアプローチ, よさの感得
第12回	算数科指導方法論④テクノロジー活用と限界	マルチメディア, タブレットPC, デジタルコンテンツ
第13回	算数科教材論	教授学的変換, 教科書比較, 数学的構造(順序的, 代数的, 位相的), 視覚化, 操作性
第14回	算数科授業論	授業設計, 授業研究(Lesson Study), 優れた算数授業, 発問分析
第15回	算数科評価論	評価類型, 観点別評価, 自己評価とメタ認知, 指導と評価の一体化, ポートフォリオ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

近隣地域や各附属学校の授業研究会などに自主的に参加することが望ましい。算数の学習指導において現職の先生方がどのような問題を抱え、よりよい教育の実現に向けて継続的に努力しているのかについて敬意を払いながら、算数実践の難しさを感じて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向と評価基準／規準は講義中に提示する。
平常点評価	50 %	コミュニケーション用紙の適宜提出を求め、授業内容の要旨記述から、講義の理解度をみる。また平常点(学習態度、質問内容、討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数2/3以上を出席することを単位認定の基本条件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

算数科教育法は、単に教え方(Know-how)を学ぶものではありません。人間が算数・数学を学ぶとはどういう営みであるのかを深く考えることで、小学校教員の在るべき姿や責任、心構えをしっかりと見出して欲しい。算数授業を成立させる条件を教材・教具の面から具体的に考えることは、小学校教諭としての実践的な素養を総合的に高めてくれます。将来の教育者として主体的な学習を期待しています。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 算数編(平成20年8月)	文部科学省 / 東洋館出版 / 4-491-02373-1 / 算数科の改善の趣旨や内容を解説。
日本の算数・数学教育に学べ—米国が注目する jugyoukenkyuu	James W. Stigler, James Hiebert / 教育出版 / 4-316-38910-6 / 算数授業再構築のための授業論。
新版 算数教育の理論と実際	数学教育学研究会 / 聖文新社 / 4-7922-0090-3 / 算数科教育の内容・方法が具体例と共に網羅してある。
図でみる日本の算数・数学授業研究	清水静海, 磯田正美, 大久保和義, 馬場卓也 / 明治図書出版 / 4-18-526616-2 / 算数指導の改善を進める際の基本情報。

基本的に、各社の算数教科書と指導書、学習指導要領を参考とします。その他、参考となる上記の図書は随時紹介し、必要に応じて要約・抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ① 小学校算数・中学校数学・高等学校数学 指導資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05071101.htm
- ② 平成20年公示 学習指導要領資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

十分な予習をもって授業に臨んで欲しい。授業において不明な点は決してそのままにしておかないように。またPCを利用した授業を行う場合もあります。PC利用に嫌悪をもたない程度のリテラシを事前に身につけておいて欲しい。

初等国語(書写を含む)(SA)

12238

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の教科目標・内容に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科にとって重要な、話す・聞く・書く・読むといった基本的な言語活動についての理解を促すとともに、学習指導要領にも言及しながら、教材研究、教材選択、授業づくりについての理論的実践的力量的の形成をめざす。講義は、具体的な資料・教材を活用しながら、書写を含めて展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校国語科の構造および各領域の指導目標・内容についての理解を深める。
- ・児童の言語能力の発達過程と特質についての理解を深める。
- ・日本語の特質を理解するとともに、書写指導の基礎的知識・技能を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初等国語科教育法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	言葉と人間	人間発達における言葉の役割、国語科の構造と固有の役割
2	「書くこと」領域の基礎理論①	各学年の目標と内容、入門期の文字指導、仮名と漢字、文法の基礎
3	「書くこと」領域の基礎理論②	文章表現能力の発達過程と特質、題材・取材・構成・記述・評価
4	「書くこと」領域の基礎理論③	創作指導、読み合い、他教科との関連
5	「書写」指導の目標と内容	学習指導要領と教科書の構成、書写能力の発達特質
6	「書写」の基礎技術①	姿勢・運筆・字形・筆順・筆圧・用具等に関する基本的事項の理解、硬筆の基礎
7	「書写」の基礎技術②	毛筆の基礎
8	書写指導の基礎技術③	仮名・漢字・楷書の基礎
9	「話すこと・聞くこと」領域の基礎理論	会話・スピーチ・討議の指導、ストーリーテリング、語りの技術
10	「読むこと」領域の基礎理論①	文芸教育学の基礎(文字・文体・音律・構造・話者・読者)
11	「読むこと」領域の基礎理論②	文芸教育学の基礎(人物・視点・形象・典型・象徴・思想)
12	「読むこと」領域の基礎理論③	代表的な文学教材・詩教材の検討
13	「読むこと」領域の基礎理論④	説明文教材の特質、代表的な説明文教材の検討
14	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」指導の目標と内容	伝統的な言語文化とは何か 日本語の文字・語彙・文法の特徴
15	国語科教育と学校教育	他教科・「総合的学習の時間」・道徳及び特別活動などとの関連

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となるため、事前の準備を適宜指示することがある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	国語教育の内容と目標に関する重要事項についての知識・理解を問う。
平常点評価	50 %	2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。日常の授業における諸課題や回数程度提起される小課題の履修状況に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記のテキストの各章末には、小学校の国語科教育をめぐって検討されるべき諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習として、積極的に取り組んでほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

『新しい小学国語の創造』

伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎／双文社出版／4-88164-080-1／

『小学校学習指導要領解説 国語編』

文部科学省／東洋館出版／978-4-491-02371-7／

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

参考書 / Reference Books**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

『新編書写指導』

全国大学書写書道教育学会／萱原書房／860120094／

『国語教師が知っておきたい日本語文法』

山田敏弘／くろしお出版／9784874243107 /

『分ければ見つける知ってる漢字』

宮下久夫／太郎次郎社／4-8118-0659-X／

とりわけ学習指導要領に関しては、十分に理解しておく必要がある。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。<http://www.ritsumeai.ac.jp/~t-ito/index.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

その他 / Others

初等国語(書写を含む)(SB)

12276

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の教科目標・内容に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科にとって重要な、話す・聞く・書く・読むといった基本的な言語活動についての理解を促すとともに、学習指導要領にも言及しながら、教材研究、教材選択、授業づくりについての理論的実践的力量の形成をめざす。講義は、具体的な資料・教材を活用しながら、書写を含めて展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校国語科の構造および各領域の指導目標・内容についての理解を深める。
- ・児童の言語能力の発達過程と特質についての理解を深める。
- ・日本語の特質を理解するとともに、書写指導の基礎的知識・技能を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初等国語科教育法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	言葉と人間	人間発達における言葉の役割、国語科の構造と固有の役割
2	「書くこと」領域の基礎理論①	各学年の目標と内容、入門期の文字指導、仮名と漢字、文法の基礎
3	「書くこと」領域の基礎理論②	文章表現能力の発達過程と特質、題材・取材・構成・記述・評価
4	「書くこと」領域の基礎理論③	創作指導、読み合い、他教科との関連
5	「書写」指導の目標と内容	学習指導要領と教科書の構成、書写能力の発達特質
6	「書写」の基礎技術①	姿勢・運筆・字形・筆順・筆圧・用具等に関する基本的事項の理解、硬筆の基礎
7	「書写」の基礎技術②	毛筆の基礎
8	書写指導の基礎技術③	仮名・漢字・楷書の基礎
9	「話すこと・聞くこと」領域の基礎理論	会話・スピーチ・討議の指導、ストーリーテリング、語りの技術
10	「読むこと」領域の基礎理論①	文芸教育学の基礎(文字・文体・音律・構造・話者・読者)
11	「読むこと」領域の基礎理論②	文芸教育学の基礎(人物・視点・形象・典型・象徴・思想)
12	「読むこと」領域の基礎理論③	代表的な文学教材・詩教材の検討
13	「読むこと」領域の基礎理論④	説明文教材の特質、代表的な説明文教材の検討
14	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」指導の目標と内容	伝統的な言語文化とは何か 日本語の文字・語彙・文法の特徴
15	国語科教育と学校教育	他教科・「総合的学習の時間」・道徳及び特別活動などとの関連

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となるため、事前の準備を適宜指示することがある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	国語教育の内容と目標に関する重要事項についての知識・理解を問う。
平常点評価	50 %	2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。日常の授業における諸課題や回数程度提起される小課題の履修状況に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記のテキストの各章末には、小学校の国語科教育をめぐる検討されるべき諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習として、積極的に取り組んでほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新しい小学国語の創造』 伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎／双文社出版／4-88164-080-1／

『小学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省／東洋館出版／978-4-491-02371-7／

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新編書写指導』 全国大学書写書道教育学会／萱原書房／860120094／

『国語教師が知っておきたい日本語文法』 山田敏弘／くろしお出版／9784874243107 /

『分ければ見つける知ってる漢字』 宮下久夫／太郎次郎社／4-8118-06590-X／

とりわけ学習指導要領に関しては、十分に理解しておく必要がある。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。http://www.ritsumei.ac.jp/~t-ito/index.htm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスパワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

その他 / Others

初等国語科教育法 (SA)

11696

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の指導法に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科の歴史的展開、目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、児童の言語発達の特質をふまえながら、原理的実践的に探求する。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論を組み入れることにより、教材研究、教材開発、授業改善のための実践的力量的形成を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校国語科の内容と教師の役割に関する基礎的知識を理解する。
- ・国語学力に関連する子どもの発達特性と指導方法の基礎的知識・技術を理解する。
- ・小学校国語科の教材研究、教材開発、授業改善、教育評価等に関する基礎的知識・技術を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国語科教育の歴史的展開と現代的課題	学習指導要領と教科書の特徴 教科の構造
第2回	「書くこと」領域の教材研究と授業①	文章表現技術の特質 「作文」「綴方」「書くこと」の違い 生活と表現
第3回	「書くこと」領域の教材研究と授業②	幼・小連携の課題 低学年の発達特徴 入門期の教材と指導
第4回	「書くこと」領域の教材研究と授業③	中学年の発達特徴 教材と指導の実際 創作指導の課題
第5回	「書くこと」領域の教材研究と授業④	高学年の発達特徴 教材と指導の実際 「調べて書く」ことの指導
第6回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業①	美しい声 小学生の声と体の実態 音読・朗読の基礎技術
第7回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業②	群読のためのシナリオづくり
第8回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業③	群読の実演
第9回	「読むこと」領域の教材研究と授業①	文芸学の基礎知識 構造 視点
第10回	「読むこと」領域の教材研究と授業②	民話教材の教材研究と授業
第11回	「読むこと」領域の教材研究と授業③	平和教材の教材研究と授業
第12回	「読むこと」領域の教材研究と授業④	詩の教材研究と授業
第13回	「読むこと」領域の教材研究と授業⑤	説明文教材と授業
第14回	読書・「言語事項」に関する指導法	読書指導の課題と方法 文字・語彙・文法・漢字・書写の指導法
第15回	国語科教育における教師の役割	教師のまなざし 教育実践に学ぶ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

小集団を基礎とした教材研究、指導案の作成、模擬授業など、演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となる。事前の準備を適宜指示することができる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	国語教育の内容と方法に関する諸問題の中から、受講生の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。テーマ設定の妥当性、論究過程における論理性・具体性・実証性などを評価する。
平常点評価	50 %	2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。日常の授業における諸課題や回数程度提起される小レポート(指導案等)の履修状況に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

言葉と国語教育に関してはもとより、学校と教育をめぐる幅広い関心を育ててほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新しい小学国語の創造』

伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎／双文社出版／978-4-88164-080-7／問題提起的な研究書である。

『小学校学習指導要領解説国語編

文部科学省／東洋館出版／97484491023717／

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

参考書 / Reference Books

とりわけ学習指導要領に関しては、十分に理解しておく必要がある。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。<http://www.ritsumeai.ac.jp/~t-ito/index.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスパワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

その他 / Others

初等国語科教育法 (SB)

11746

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の指導法に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科の歴史的展開、目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、児童の言語発達の特質をふまえながら、原理的実践的に探求する。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論を組み入れることにより、教材研究、教材開発、授業改善のための実践的力量的形成を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校国語科の内容と教師の役割に関する基礎的知識を理解する。
- ・国語学力に関連する子どもの発達特性と指導方法の基礎的知識・技術を理解する。
- ・小学校国語科の教材研究、教材開発、授業改善、教育評価等に関する基礎的知識・技術を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国語科教育の歴史的展開と現代的課題	学習指導要領と教科書の特徴 教科の構造
第2回	「書くこと」領域の教材研究と授業①	文章表現技術の特質 「作文」「綴方」「書くこと」の違い 生活と表現
第3回	「書くこと」領域の教材研究と授業②	幼・小連携の課題 低学年の発達特徴 入門期の教材と指導
第4回	「書くこと」領域の教材研究と授業③	中学年の発達特徴 教材と指導の実際 創作指導の課題
第5回	「書くこと」領域の教材研究と授業④	高学年の発達特徴 教材と指導の実際 「調べて書く」ことの指導
第6回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業①	美しい声 小学生の声と体の実態 音読・朗読の基礎技術
第7回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業②	群読のためのシナリオづくり
第8回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業③	群読の実演
第9回	「読むこと」領域の教材研究と授業①	文芸学の基礎知識 構造 視点
第10回	「読むこと」領域の教材研究と授業②	民話教材の教材研究と授業
第11回	「読むこと」領域の教材研究と授業③	平和教材の教材研究と授業
第12回	「読むこと」領域の教材研究と授業④	詩の教材研究と授業
第13回	「読むこと」領域の教材研究と授業⑤	説明文教材と授業
第14回	読書・「言語事項」に関する指導法	読書指導の課題と方法 文字・語彙・文法・漢字・書写の指導法
第15回	国語科教育における教師の役割	教師のまなざし 教育実践に学ぶ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

小集団を基礎とした教材研究、指導案の作成、模擬授業など、演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となる。事前の準備を適宜指示することができる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	国語教育の内容と方法に関する諸問題の中から、受講生の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。テーマ設定の妥当性、論究過程における論理性・具体性・実証性などを評価する。
平常点評価	50 %	2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。日常の授業における諸課題や回数程度提起される小レポート(指導案等)の履修状況に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

言葉と国語教育に関してはもとより、学校と教育をめぐる幅広い関心を育ててほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新しい小学国語の創造』

伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎／双文社出版／978-4-88164-080-7／問題提起的な研究書である。

『小学校学習指導要領解説 国語編』

文部科学省／東洋館出版／978-4-491-02371-7／

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

参考書 / Reference Books

十分に理解しておく必要がある。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。<http://www.ritsumeai.ac.jp/~t-ito/index.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

その他 / Others

初等社会 (SA)

12278

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、初等社会科の授業構成論または授業研究として位置付け、初等社会科の授業構成論、授業の分析や授業開発方法、指導案の作成方法などの検討及びその実践を通して、初等社会科の授業づくりや学習指導についての実践的力量的の形成を目指す。本授業は、グループ単位（または個人単位）による教材開発、学習指導案の作成、模擬授業実践という学生主体の演習形式で行う。

到達目標 / Attainment Objectives

教材研究・模擬授業を行うことによって、小学校の教員として求められる資質の内、初等社会科授業構成能力、すなわち、教材研究と学習指導案作成のための力量を培うことをねらいとする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	初等社会科教育とは何か	
2	初等社会科授業構成の理論と方法	
3	優れた初等社会科授業における教材研究	
4	演習事前協議①ーグループ分け及びグループ協議ー	
5	演習事前協議②ーグループ協議ー	
6	演習事前協議③ーグループ協議ー	
7	教材研究演習及び検討会	
8	学習指導案作成演習及び検討会	
9	模擬授業及び検討会①	
10	模擬授業及び検討会②	
11	模擬授業及び検討会③	
12	模擬授業及び検討会④	
13	模擬授業及び検討会⑤	
14	模擬授業及び検討会⑥	
15	模擬授業及び検討会⑦	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

問題意識を持って臨むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	模擬授業の結果を踏まえて改善した学習指導案の提出を求める。
平常点評価	50 %	出席及び各演習・検討会への取り組みによる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

演習が中心になるので、まずは出席すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
わたしたちの京都 3・4年 上	京都市小学校社会科教育研究会編／教材研究所／／
わたしたちの京都 3・4年 下	京都市小学校社会科教育研究会編／教材研究所／／

1-3回目については授業内容に応じたレジュメを配布する。

4回目以降の各演習は『わたしたちの京都』の中から内容を選択して行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校の“優れた社会科授業”の条件	全国社会科教育学会編著／明治図書／／
小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省／東洋館出版社／／

演習内容に応じて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail:kakuda@ss.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

初等社会 (SB)

12240

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、初等社会科の授業構成論または授業研究として位置付け、初等社会科の授業構成論、授業の分析や授業開発方法、指導案の作成方法などの検討及びその実践を通して、初等社会科の授業づくりや学習指導についての実践的力量的形成を目指す。本授業は、グループ単位（または個人単位）による教材開発、学習指導案の作成、模擬授業実践という学生主体の演習形式で行う。

到達目標 / Attainment Objectives

教材研究・模擬授業を行うことによって、小学校の教員として求められる資質の内、初等社会科授業構成能力、すなわち、教材研究と学習指導案作成のための力量を培うことをねらいとする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	初等社会科教育とは何か	
2	初等社会科授業構成の理論と方法	
3	優れた初等社会科授業における教材研究	
4	演習事前協議①ーグループ分け及びグループ協議ー	
5	演習事前協議②ーグループ協議ー	
6	演習事前協議③ーグループ協議ー	
7	教材研究演習及び検討会	
8	学習指導案作成演習及び検討会	
9	模擬授業及び検討会①	
10	模擬授業及び検討会②	
11	模擬授業及び検討会③	
12	模擬授業及び検討会④	
13	模擬授業及び検討会⑤	
14	模擬授業及び検討会⑥	
15	模擬授業及び検討会⑦	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

問題意識を持って臨むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	模擬授業の結果を踏まえて改善した学習指導案の提出を求める。
平常点評価	50 %	出席及び各演習・検討会への取り組みによる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

演習が中心になるので、まずは出席すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
わたしたちの京都 3・4年 上	京都市小学校社会科教育研究会編 / 教材研究所 //
わたしたちの京都 3・4年 下	京都市小学校社会科教育研究会編 / 教材研究所 //

1-3回目については授業内容に応じたレジュメを配布する。

4回目以降の各演習は『わたしたちの京都』の中から内容を選択して行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校の“優れた社会科授業”の条件	全国社会科教育学会編著 / 明治図書 //
小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省 / 東洋館出版社 //

演習内容に応じて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail:kakuda@ss.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

初等社会科教育法 (SA)

11747

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

授業スケジュールの前半は、社会科の目標、歴史、生活科との違い、現行学習指導要領に定められた小学校社会科の目標及び内容、学習指導要領に沿った年間指導計画の作成など小学校社会科指導の基礎的知識・技能について学ぶ。後半は、「教材」「基礎・基本」「個に応じた指導」「問題解決能力」「評価」などに焦点を当て、実際に社会科の指導を行う際のポイントについて、実践例を通して考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①小学校社会科の目標及び内容を理解できる。
- ②小学校社会科の指導計画作成・授業実践・評価のポイントが理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会科とは何か①～社会科の目標～	市民的資質
2	社会科とは何か②～社会科のあゆみ～	社会科教育史・初期社会科
3	社会科とは何か③～生活科と社会科～	社会科の特性・生活科
4	学習指導要領の内容①～3・4年生の社会科～	地域学習
5	学習指導要領の内容②～5年生の社会科～	産業学習・国土学習
6	学習指導要領の内容③～6年生の社会科～	歴史学習・政治学習・国際理解学習
7	年間指導計画の作成	年間指導計画
8	教材の工夫と開発①～よい教材とは何か～	教材開発
9	教材の工夫と開発②～地域の「素材・人材・施設」の活用～	地域教材
10	教材の工夫と開発③～「教科書」「地図帳」の活用～	教科書・地図帳
11	教材開発①計画	教材開発計画
12	教材開発②資料収集	教材づくり・資料収集
13	教材開発③制作	教材づくり・制作
14	教材開発④発表	プレゼンテーション
15	教材開発⑤振り返り	教材評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	小学校社会科の課題を、講義内容と関連させて把握した上で、自らの考えを交えてまとめられているか。
平常点評価	50 %	1. 教材開発に積極的に関わることが出来る。 2. 講義中に適宜行う講義内容に関するミニレポートにおいて、講義内容を理解した上で、自らの意見や考えをまとめることが出来る。
出席重視。2/3以上の出席が無い者は、上記の課題の成績如何に関わらず単位を認めない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職につくための知識・技能を習得する授業であると同時に、教職に対するキャリア開発の授業と考えているので、教職にふさわしくない受講態度は謹んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説社会編	文部科学省／東洋館出版／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

初等社会科教育法 (SB)

11697

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

授業スケジュールの前半は、社会科の目標、歴史、生活科との違い、現行学習指導要領に定められた小学校社会科の目標及び内容、学習指導要領に沿った年間指導計画の作成など小学校社会科指導の基礎的知識・技能について学ぶ。後半は、「教材」「基礎・基本」「個に応じた指導」「問題解決能力」「評価」などに焦点を当て、実際に社会科の指導を行う際のポイントについて、実践例を通して考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①小学校社会科の目標及び内容を理解できる。
- ②小学校社会科の指導計画作成・授業実践・評価のポイントが理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会科とは何か①～社会科の目標～	市民的資質
2	社会科とは何か②～社会科のあゆみ～	社会科教育史・初期社会科
3	社会科とは何か③～生活科と社会科～	社会科の特性・生活科
4	学習指導要領の内容①～3・4年生の社会科～	地域学習
5	学習指導要領の内容②～5年生の社会科～	産業学習・国土学習
6	学習指導要領の内容③～6年生の社会科～	歴史学習・政治学習・国際理解学習
7	年間指導計画の作成	年間指導計画
8	教材の工夫と開発①～よい教材とは何か～	教材開発
9	教材の工夫と開発②～地域の「素材・人材・施設」の活用～	地域教材
10	教材の工夫と開発③～「教科書」「地図帳」の活用～	教科書・地図帳
11	教材開発①計画	教材開発計画
12	教材開発②資料収集	教材づくり・資料収集
13	教材開発③制作	教材づくり・制作
14	教材開発④発表	プレゼンテーション
15	教材開発⑤振り返り	教材評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	小学校社会科の課題を、講義内容と関連させて把握した上で、自らの考えを交えてまとめられているか。
平常点評価	50 %	1. 教材開発に積極的に関わることが出来る。 2. 講義中に適宜行う講義内容に関するミニレポートにおいて、講義内容を理解した上で、自らの意見や考えをまとめることが出来る。
出席重視。2/3以上の出席が無い者は、上記の課題の成績如何に関わらず単位を認めない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職につくための知識・技能を習得する授業であると同時に、教職に対するキャリア開発の授業と考えているので、教職にふさわしくない受講態度は謹んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説社会編	文部科学省／東洋館出版／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

初等体育 (SA)

11855

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校体育の幾つかの領域から、典型教材やその指導の系統性を実践的に学ぶ。スポーツは体育授業では発達刺激と考えられることが多いが、人間が歴史的、社会的に生み出してきた文化としてとらえ、文化としてのスポーツを教えるという立場で授業を進めていく。体育授業は上手い下手がはっきりするため、その中でどのような授業作りを展開するのかが中心に行う。

到達目標 / Attainment Objectives

授業で取り上げる種目の中身の理解を求めることは当然であるが、それら教材に備わっている典型性を生かして、新たに教材を構成する力量を養う。また、体育授業における競争や評価の考え方を身につけることができるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションとグルーピング(教室)	学習指導要領の目的・内容と体育授業の役割
2	50m走の教材作り(第一体育館)	走の事実に向ける科学。子どもと選手に接点を見出す。
3	リレーの教材作り(第一体育館)	バトンパスで記録を縮める
4	4 短距離走のまとめ(教室)	走を教材化すること。
5	「投げる」の授業作りをやる	投げる動作習得の重要性
6	フットボール I (第一体育館)	導入とボール持っている人の動きと持っていない人の動き
7	フットボール II (第一体育館)	2対2からの展開
8	バスケットボール I (第一体育館)	シュート調査の方法とスコアリング、試しのゲーム。
9	バスケットボール II (第一体育館)	ゲーム分析と様相発達段階。子どものつまづき
10	バスケットボール III (第一体育館)	役割分担を明確にしたゲーム
11	スポーツのルールを考える(教室)	バスケットボールのルールの発展と、ルール作りの考え方
12	ソフトバレー	ワンバウンドありのバレーとなしのバレー
13	縄跳びの授業	縄跳びを表現運動に位置づける。単なわ、ダブルダッチ
14		保健の授業
	環境ホルモンを授業する	
15	ボールの授業とまとめ	体育理論—スポーツを文化としてとらえる

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	文化としてのスポーツを教える意味と教材作りの視点について問う。
平常点評価	60 %	出席と提出物など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

適宜授業で紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールで行うこと。t-ishida@ss.ritsumei.ac.jp

初等体育 (SB)

11798

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校体育の幾つかの領域から、典型教材やその指導の系統性を実践的に学ぶ。スポーツは体育授業では発達刺激と考えられることが多いが、人間が歴史的、社会的に生み出してきた文化としてとらえ、文化としてのスポーツを教えるという立場で授業を進めていく。体育授業は上手い下手がはっきりするため、その中でどのような授業作りを展開するのかが中心に行う。

到達目標 / Attainment Objectives

授業で取り上げる種目の中身の理解を求めることは当然であるが、それら教材に備わっている典型性を生かして、新たに教材を構成する力量を養う。また、体育授業における競争や評価の考え方を身につけることができるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションとグルーピング(教室)	学習指導要領の目的・内容と体育授業の役割
2	50m走の教材作り(第一体育館)	走の事実迫る科学。子どもと選手に接点を見出す。
3	リレーの教材作り(第一体育館)	バトンパスで記録を縮める
4	短距離走のまとめ(教室)	走を教材化すること。
5	「投げる」の授業作りをやる	投げる動作習得の重要性
6	フラッグフットボール I (第一体育館)	導入とボール持っている人の動きと持っていない人の動き
7	フラッグフットボール II (第一体育館)	2対2からの展開
8	バスケットボール I (第一体育館)	シュート調査の方法とスコアリング, 試しのゲーム。
9	バスケットボール II (第一体育館)	ゲーム分析と様相発達段階。子どものつまずき
10	バスケットボール III (第一体育館)	役割分担を明確にしたゲーム
11	スポーツのルールを考える(教室)	バスケットボールのルールの発展と、ルール作りの考え方
12	ソフトバレー	ワンバウンドありのバレーとなしのバレー
13	縄跳びの授業	縄跳びを表現運動に位置づける。単なわ、ダブルダッチ
14	環境ホルモンを授業する	保健の授業
15	ボールの授業とまとめ	体育理論ースポーツを文化としてとらえる

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	文化としてのスポーツを教える意味と教材作りの視点について問う。
平常点評価	60 %	出席と提出物など。

出席については厳しく取り扱います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

適宜授業で紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールで行うこと。t-ishida@ss.ritsume.ac.jp

その他 / Others

初等体育科教育法 (SA)

11744

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、小学校体育の概論的かつ実践的な位置づけにある。前半では小学校の体育授業を営むために教材作りを学習する。後半では、自ら指導案を作って授業を実践しそれに対する評価活動を通じて、教師自身の成長のための授業研究の方法を理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 体育授業とスポーツ少年団などで行われているスポーツ活動との違いがわかること。
- ② グループ学習の仕組みがわかること。
- ③ 授業を設計し、マネジメントを行う基礎がわかること。
- ④ 授業を評価するポイントがわかること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初等体育

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	戦後体育科教育の目標の変遷と今時改訂学習指導要領
2	50m走の教材作り	走の事実と迫る科学。子どもと選手に接点を見出す。
3	リレーの教材作り	バトンパスで記録を縮める。
4	教材作りの考え方	短距離走のまとめとマット運動の頭出し。グルーピングと模擬授業の種目分担
5	模擬授業のための準備1	文献収集と教材作り
6	模擬授業のための準備2	指導案作り
7	マット運動1	グループ学習をやってみよう。
8	マット運動2	側転からの系統指導 音楽マット作り
9	マット運動3	音楽マットの発表会
10	音楽マットのまとめと良い授業研究の系譜	発表と採点
11	模擬授業1	
12	模擬授業2	
13	模擬授業3	
14	模擬授業4	
15	模擬授業のまとめと授業の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

模擬授業に関わっては、指定された以外の文献や雑誌を当たることが望ましい。また、日頃から新聞やネット上で教育界の動向について敏感に反応しておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	体育授業を構成するために必要な知識や能力を問う。
平常点評価	60 %	模擬授業とその省察30%、平常点30%

出席や遅刻については厳しく取り扱います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
体育授業を観察評価する	高橋健夫他 / 明和出版 / 9784901933032 /

参考書 / Reference Books

参考文献については、授業において指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールか電話で行うこと。t-ishida@ss.ritsumeai.ac.jp

初等体育科教育法 (SB)

11694

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、小学校体育の概論的かつ実践的な位置づけにある。前半では小学校の体育授業を営むために教材作りを学習する。後半では、自ら指導案を作って授業を実践しそれに対する評価活動を通じて、教師自身の成長のための授業研究の方法を理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 体育授業とスポーツ少年団などで行われているスポーツ活動との違いがわかること。
- ② グループ学習の仕組みがわかること。
- ③ 授業を設計し、マネジメントを行う基礎がわかること。
- ④ 授業を評価するポイントがわかること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初等体育

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	戦後体育科教育の目標の変遷と今時改訂学習指導要領
2	50m走の教材作り	走の事実を迫る科学。子どもと選手に接点を見出す。
3	リレーの教材作り	バトンパスで記録を縮める
4	教材作りの考え方	短距離走のまとめとマット運動の頭出し、グルーピングと模擬授業の種目分担
5	マット運動1	グループ学習をやってみよう
6	マット運動2	側転からの系統指導と音楽マットの作成
7	マット運動3	音楽マットの発表会
8	音楽マットのまとめと模擬授業の準備	採点結果の発表。良い授業研究の系譜
9	模擬授業のための資料収集と指導案作成1	
10	模擬授業のための資料収集と指導案の作成2	
11	模擬授業1	
12	模擬授業2	
13	模擬授業3	
14	模擬授業4	
15	模擬授業のまとめと授業の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

模擬授業に関わっては、指定された以外の文献や雑誌を当たることが望ましい。また、日頃から新聞やネット上で教育界の動向について敏感に反応しておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	体育授業を構成するために必要な知識や能力を問う。
平常点評価	60 %	模擬授業とその省察30%、平常点30%

出席や遅刻については厳しく取り扱います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
体育授業を観察評価する	高橋健夫他 / 明和出版 / 9784901933032 /

参考書 / Reference Books

参考文献については、授業において指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールか電話で行うこと。t-ishida@ss.ritsumeai.ac.jp

初等理科 (SA)

12277

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では小学校理科での学習内容について、学習指導要領に準拠しながらも

- 縦断的(理科における学習内容の歴史的変遷課程)
- 横断的(生活科、また他分野、さらには他教科との関連性)

に捉えるとともに、「子どもの学びの視点」や「知的文化遺産(親学問)の継承という視点」に配慮しながら、より高度な理解を獲得し、実践的力量的の形成、ならびに「教科指導に長けた理科の先生」の育成を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 小学校理科の3領域(A区分～C区分)(新学習指導要領では2区分)とも、その内容・項目について理解し、説明できる。
2. 幼稚園(自然領域)、生活科との関連性、継続性について理解し配慮できる。
3. 児童の発達段階に応じた教材内容の提示ができる。
4. 小中高という教材自身の発展過程において小学校理科で扱うべき内容を位置づけることができ、適切な指導ができる。
5. 実験に関しては、安全性に配慮した適切な指導ができる。
6. (発展目標)模擬授業を通して、「教材」がいかに作用したかの診断、教材自身の持つ課題が発見でき、適切に解決の手だてを見出し、そのための実践ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初等理科教育法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	理科とは何を教える教科か(横断的視点の養成)	科学リテラシー、基礎知識の確認
第二回	小学校理科の指導内容の変遷(1)ー学力観と学びの内容ー	教科内容の不易と流行
第三回	小学校理科の指導内容の変遷(1)ー適時性と学びの内容ー	自然科学の体系と教材としての理科
第四回	教材としての理科の内容(1)ーA区分:生物とその環境ー	生物の生活環(生活史)、生物と環境(生物分野)
第五回	教材としての理科の内容(2)ーA区分:生物とその環境ー	種子植物の形態、魚類・昆虫の形態(生物分野)
第六回	教材としての理科の内容(3)ーB区分:物質とエネルギーー	てこを有効な教材としたつりあい、振り子の運動(物理分野)
第七回	教材としての理科の内容(4)ーB区分:物質とエネルギーー	電気と磁気(クリップモーターの製作)、電磁誘導(物理分野)
第八回	教材としての理科の内容(5)ーB区分:物質とエネルギーー	安全な化学実験、物質の溶解(化学分野)
第九回	教材としての理科の内容(6)ーB区分:物質とエネルギーー	気体の発生とその性質(化学分野)
第十回	教材としての理科の内容(7)ーC区分:地球と宇宙ー	天体と恒星の動き(地学分野)
第十一回	教材としての理科の内容(8)ーC区分:地球と宇宙ー	天気の変化、土地の変化と自然災害(地学分野)
第十二回	小中高という流れで捉えた理科の内容(学習内容の位置づけ)	小学校理科では何を、どう指導すべきか
第十三回	教材としての理科の内容(発展その1)(総合的な扱い)	開発教材の製作と学習指導案の作成
第十四回	教材としての理科の内容(発展その2)(総合的な扱い)	開発教材の製作と学習指導案の作成
第十五回	教材としての理科の内容(発展その3)(総合的な扱い)	開発教材の製作と学習指導案の作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

適宜、理科の基礎的内容(実験の手法を問う問題を含む)を問う問題を出します。それに答えることが事前学習(予習)になります。予習なくして、実験はできないと考えてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	開発教材を用いた指導案を作成し、模擬授業を実施してもらいます。
平常点評価	50 %	実験レポートの提出(各回)に対して評価します。

9回以上の出席者に対して評価します。実験レポート(8回分)をもって平常点とします(50%)。また、開発教材を作成し、それを用いた授業案を作成してもらいます。模擬授業における学生評価、自己評価を参考に評価します(50%)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実験については全回出席が条件です。それまで行ったことのある実験でも、教えるという立場から、より深く学び取ってください。臨場感を味わうために、受講生の理解に応じて平安女学院中学校等で参観授業を実施します。

教科書 / Textbooks

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
-------------------	---

小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省／東洋館出版社／／
------------------	----------------

小学校、中学校の理科の教科書を用意しておいてください。なお、実験に関しては、その都度資料を配布します。現在、使用教科書を作成しています。講義中に連絡します。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
-------------------	---

小学校理科観察実験セーフティーマニュアル	／大日本図書／／
----------------------	----------

Q&Aでわかる物理科学	／丸善出版／／
-------------	---------

参考書は、その都度紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その都度紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレスを講義中に連絡します。

その他 / Others

理科専科教員を目指す学生には、発展課題を与えます。また、授業外でも指導します。

授業の概要 / Course Outline

本講義では小学校理科での学習内容について、学習指導要領に準拠しながらも

- 縦断的(理科における学習内容の歴史的変遷課程)
- 横断的(生活科、また他分野、さらには他教科との関連性)

に捉えるとともに、「子どもの学びの視点」や「知的文化遺産(親学問)の継承という視点」に配慮しながら、より高度な理解を獲得し、実践的力量的の形成、ならびに「教科指導に長けた理科の先生」の育成を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 小学校理科の3領域(A区分～C区分)(新学習指導要領では2区分)とも、その内容・項目について理解し、説明できる。
2. 幼稚園(自然領域)、生活科との関連性、継続性について理解し配慮できる。
3. 児童の発達段階に応じた教材内容の提示ができる。
4. 小中高という教材自身の発展過程において小学校理科で扱うべき内容を位置づけることができ、適切な指導ができる。
5. 実験に関しては、安全性に配慮した適切な指導ができる。
6. (発展目標)模擬授業を通して、「教材」がいかに作用したかの診断、教材自身の持つ課題が発見でき、適切に解決の手だてを見出し、そのための実践ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初等理科教育法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	理科とは何を教える教科か(横断的視点の養成)	科学リテラシー、基礎知識の確認
第2回	小学校理科の指導内容の変遷(1)ー学力観と学びの内容ー	教科内容の不易と流行
第3回	小学校理科の指導内容の変遷(1)ー適時性と学びの内容ー	自然科学の体系と教材としての理科
第4回	教材としての理科の内容(1)ーA区分:生物とその環境ー	生物の生活環(生活史)、生物と環境(生物分野)
第5回	教材としての理科の内容(2)ーA区分:生物とその環境ー	種子植物の形態、魚類・昆虫の形態(生物分野)
第6回	教材としての理科の内容(3)ーB区分:物質とエネルギーー	てこを有効な教材としたつりあい、振り子の運動(物理分野)
第7回	教材としての理科の内容(4)ーB区分:物質とエネルギーー	電気と磁気(クリップモーターの製作)、電磁誘導(物理分野)
第8回	教材としての理科の内容(5)ーB区分:物質とエネルギーー	安全な化学実験、物質の溶解(化学分野)
第9回	教材としての理科の内容(6)ーB区分:物質とエネルギーー	気体の発生とその性質(化学分野)
第10回	教材としての理科の内容(7)ーC区分:地球と宇宙ー	天体と恒星の動き(地学分野)
第11回	教材としての理科の内容(8)ーC区分:地球と宇宙ー	天気の変化、土地の変化と自然災害(地学分野)
第12回	小中高という流れで捉えた理科の内容(学習内容の位置づけ)	小学校理科では何を、どう指導すべきか
第13回	教材としての理科の内容(発展その1)(総合的な活動)	開発教材の製作と学習指導案の作成
第14回	教材としての理科の内容(発展その2)(総合的な活動)	開発教材の製作と学習指導案の作成
第15回	教材としての理科の内容(発展その3)(総合的な活動)	開発教材の製作と学習指導案の作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

適宜、理科の基礎的内容(実験の手法を問う問題を含む)を問う問題を出します。それに答えることが事前学習(予習)になります。予習なくして、実験はできないと考えてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	開発教材を用いた指導案を作成し、模擬授業を実施してもらいます。
平常点評価	50 %	実験レポートの提出(8回分)に対して評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

9回以上の出席者に対して評価します。実験レポート(8回分)をもって平常点とします(50%)。また、開発教材を作成し、それを用いた授業案を

作成してもらいます。模擬授業における学生評価、自己評価を参考に評価します(50%)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省／東洋館出版社／／
------------------	----------------

小学校、中学校の理科の教科書を用意しておいてください。なお、実験に関しては、その都度資料を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

小学校理科観察実験セーフティーマニュアル	／大日本図書／／
----------------------	----------

Q&Aでわかる物理科学	／丸善出版／／
-------------	---------

参考書は、その都度紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレスを講義時に伝えます。

その他 / Others

理科専科教員を目指す学生には、発展課題を与えます。また、授業外でも指導します。

初等理科教育法 (SA)

11797

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校での理科教育の目標・内容・方法、および評価について包括的に解説するとともに、授業理論と指導方法について様々な事例を通して考察する。具体的には、

- 理科教育は何のために、なぜ行うのか(目的)
- 理科教育では、何を、どのように指導するのか(内容・方法)
- 理科の評価はどのように行えばよいのか(評価)

そして、

- 実験や、観察はどのように指導すればよいのだろうか(実験・観察指導)

これらについて学習を深める。理科の授業の作り方と、それをいかに効果的に実施するかについての基礎的な力量を育成したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 小学校理科の変遷について、概要が説明出来る。
- ② 小学校理科の目標と内容が、学習指導要領との関わりで説明出来る。
- ③ 学習指導案が作成出来、それに基づいて観察・実験教材を用いた模擬授業が出来る。
- ④ 実験教材のもつ有効性と限界を適切に把握し、理解出来る。
- ⑤ 観点別評価基準にしたがって、授業評価ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門Ⅰ，または理科入門Ⅱ(事前に必要な知識、また心構え等を紹介しています)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	理科への気づき —オリエンテーションを兼ねて—	授業の目標、進め方(グループ構成など)、また到達目標等の説明
第2回	理科とは何か(1)	理科の誕生(明治, 対象, 昭和から平成へ)
第3回	理科とは何か(2) —学習指導要領の変遷から—	生活理科から探究理科へ
第4回	理科とは何か(3) —学習指導要領の変遷から—	「ゆとりの時代の理科」から「確かな学びの理科」へ
第5回	小学校理科の目標と内容(内容と目標の関係)	これからの理科教育とその展望……検証テストの実施(30分)……
第6回	教材としての理科の内容(1) —A区分(生物とその環境)—	環境教育との関係(植物の受粉を事例として)
第7回	教材としての理科の内容(2) —B区分(物質とエネルギー)—	素朴概念との関係(てこによるつり合いを事例として)
第8回	教材としての理科の内容(3) —C区分(地球と宇宙)—	素朴概念との関係(地動説と天動説を事例として)
第9回	小学校における実験教材の取り扱い(安全面にも触れる)	基礎的実験技能について(振り子の動きを事例として)……検証テストの実施(30分)……
第10回	小中高という流れで捉えた理科の内容(内容と学びの関係)	小学校理科では何を、どう指導すればよいか
第11回	理科の授業と指導案(1) —基礎的な考え方—	理科の指導案とは何か、授業展開を示す指導案のスタイル
第12回	理科の授業と指導案(2) —実践例に触れる—	指導案の実例と模範授業(メンター教師による授業)
第13回	理科の授業と指導案(3) —単元の構成と本時の授業について—	授業実践を左右する指導案の書き方……検証テストの実施(30分)……
第14回	理科における評価(1) —基本的な考え方—	相対評価、絶対評価、観点別評価と評定について
第15回	理科における評価(2) —評価の生かし方—	小学校の評価計画とその実際……検証テストの実施(30分)……

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は実験室で行います。「理科の内容」に関しては実験、実習を伴った授業を計画しています。具体的な指示については、第一回の授業時に伝えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業中に実施した「検証テスト」のテーマから、受講者の関心に基づいて1つのテーマを選び、より深く追求する。あわせて、指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。

平常点評価 40 % 授業期間中に学修到達度を確認する検証テストを4回実施する。
実験・実習等の取り組み(参加度), またその結果をまとめたレポート等により授業への積極的な関わり方を評価する。

レポート試験は, 各自が構想した指導案の作成を行っていただきます。検証テストとの関係については, その詳細を6月末の講義時に発表します。なお, 検証テストは受験の翌週の授業で解説返却します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では, 各項目の概要に限定されます。より深く追求したい受講生には, グループ学習, また個別指導を行います。また, 理科の内容については, 実験による授業を行います。受講生の動向によっては, 実験による授業の後, 模擬授業を構想していただきます。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しないが, 授業では必要に応じてプリントを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省 / / /
理科は理科系のための科目ですか	山下芳樹 / 森北出版 / 4-627-16121-2 /

各種参考書は, 授業時に紹介します。なお, 後者の参考書は「教材の小中高の発展性」について詳細に扱っていますので購入しておいてください。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業時に連絡する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレスを講義時に知らせる

その他 / Others

発展的な取り組みを歓迎します。希望者には, その詳細については授業時に連絡します。

初等理科教育法 (SB)

11854

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校での理科教育の目標・内容・方法、および評価について包括的に解説するとともに、授業理論と指導方法について様々な事例を通して考察する。具体的には、

- 理科教育は何のために、なぜ行うのか(目的)
- 理科教育では、何を、どのように指導するのか(内容・方法)
- 理科の評価はどのように行えばよいのか(評価)

そして、

- 実験や、観察はどのように指導すればよいのだろうか(実験・観察指導)

これらについて学習を深める。理科の授業の作り方と、それをいかに効果的に実施するかについての基礎的な力量を育成したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 小学校理科の変遷について、概要が説明出来る。
- ② 小学校理科の目標と内容が、学習指導要領との関わりで説明出来る。
- ③ 学習指導案が作成出来、それに基づいて観察・実験教材を用いた模擬授業が出来る。
- ④ 実験教材のもつ有効性と限界を適切に把握し、理解出来る。
- ⑤ 観点別評価基準にしたがって、授業評価ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門Ⅰ、または理科入門Ⅱ(事前に必要な知識、また心構え等を紹介しています)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	理科への気づき —オリエンテーションを兼ねて—	授業の目標、進め方(グループ構成など)、また到達目標等の説明
第2回	理科とは何か(1)	理科の誕生(明治, 対象, 昭和から平成へ)
第3回	理科とは何か(2)—学習指導要領の変遷から—	生活理科から探究理科へ
第4回	理科とは何か(3)—学習指導要領の変遷から—	「ゆとりの時代の理科」から「確かな学びの理科」へ
第5回	小学校理科の目標と内容(内容と目標の関係)	これからの理科教育とその展望……検証テストの実施(30分)……
第6回	教材としての理科の内容(1)—A区分(生物とその環境)—	環境教育との関係(植物の受粉を事例として)
第7回	教材としての理科の内容(2)—B区分(物質とエネルギー)—	素朴概念との関係(てこによるつり合いを事例として)
第8回	教材としての理科の内容(3)—C区分(地球と宇宙)—	素朴概念との関係(地動説と天動説を事例として)
第9回	小学校における実験教材の取り扱い(安全面にも触れる)	基礎的実験技能について(振り子の動きを事例として)……検証テストの実施(30分)……
第10回	小中高という流れで捉えた理科の内容(内容と学びの関係)	小学校理科では何を、どう指導すればよいか
第11回	理科の授業と指導案(1)—基礎的な考え方—	理科の指導案とは何か、授業展開を示す指導案のスタイル
第12回	理科の授業と指導案(2)—実践例に触れる—	指導案の実例と模範授業(メンター教師による授業)
第13回	理科の授業と指導案(3)—単元の構成と本時の授業について—	授業実践を左右する指導案の書き方……検証テストの実施(30分)……
第14回	理科における評価(1)—基本的な考え方—	相対評価、絶対評価、観点別評価と評定について
第15回	理科における評価(2)—評価の生かし方—	小学校の評価計画とその実際……検証テストの実施(30分)……

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は実験室で行います。「理科の内容」に関しては実験、実習を伴った授業を計画しています。具体的な指示については、第一回の授業時に伝えます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業中に実施した「検証テスト」のテーマから、受講者の関心に基づいて1つのテーマを選び、より深く追求する。あわせて、指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。

平常点評価 40 % 授業期間中に学修到達度を確認する検証テストを4回実施する。
 実験・実習等の取り組み(参加度), またその結果をまとめたレポート等により授業への積極的な関わり方を評価する。

レポート試験は, 各自が構想した指導案の作成を行っていただきます。検証テストとの関係については, その詳細を6月末の講義時に発表します。なお, 検証テストは受験の翌週の授業で解説返却します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では, 各項目の概要に限定されます。より深く追求したい受講生には, グループ学習, また個別指導を行います。また, 理科の内容については, 実験による授業を行います。受講生の動向によっては, 実験による授業の後, 模擬授業を構想していただきます。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しないが, 授業では必要に応じてプリントを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省 / / /
理科は理科系のための科目ですか	山下芳樹 / 森北出版 / /

各種参考書は, 授業時に紹介します。なお, 後者の参考書は「教材の小中高の発展性」について詳細に扱っていますので購入しておいてください。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業時に連絡する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレスを講義時に知らせる

その他 / Others

発展的な取り組みを歓迎します。希望者には, その詳細については授業時に連絡します。

図画工作 (SA)

15295

担当者名 / Instructor 波多野 達二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「小学校図画工作科教育を行うための理論と実際」

小学校図画工作科の目標や内容について、具体的な題材を通して理解し、授業実践に向けての基礎的な能力を身につける。

到達目標 / Attainment Objectives

- 小学校図画工作の指導に必要なさまざまな技法を身につける。
- 題材の教材観や指導観について考え、授業を組み立てる能力を身につける。
- 学習指導要領の目標に示されている「つくりだす喜びを味わう」授業についての考えを深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	図画工作科の目標 学習指導要領 つくりだす喜びを味わう
2	表現2 絵画(1)	ローウェンフェルドの描画分類 クロッキー コンテ
3	表現2 絵画(2)	水彩絵の具 彩色の方法
4	表現2 絵画(3)	色コンテ 描画における概念くだけ
5	表現1 造形あそび(1)	造形あそびの可能性 インスタレーションのアート
6	表現1 造形あそび(2)	造形あそびの目標 低・中・高における活動内容
7	表現2 粘土(1)	粘土の特性 焼成
8	表現2 木工(1)	電動糸鋸 立体造形
9	表現2 木工(2)	電動糸鋸 立体造形
10	表現2 木工(3)	電動糸鋸 立体造形
11	表現2 版画(1)	版表現のいろいろ 版作り
12	表現2 版画(2)	版作り 刷り
13	表現3 版画(3)	画面構成
14	表現2 粘土(2)	テラコッタ粘土 彩色
15	鑑賞	対話型鑑賞 アートゲーム型鑑賞

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

小学校学習指導要領(図画工作編)をいつも手元に置き、説明したり実習したりした授業の内容と照らし合わせる。いろいろな題材について実習しますが、題材についての教材観・指導観について、いつも考え、「自分ならどのように授業を組み立てるか」問題意識を持つことが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	題材の教材観・指導観や、「つくりだす喜びを味わう」授業のあり方についてレポートする。具体性と論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点評価	60 %	授業内課題(作品) 30% 授業態度、授業への参加度 10% 授業出席 20% <授業回数の3分の1以上の欠席は、単位を認めない。>

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受け手として授業に参加するだけでなく、教える側の問題意識を持って受講すること。提出物は、必ず提出しなければなりません。事前に説明しますが、実技を行うときは、各自、材料の準備をしなければならないこともあります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 図画工作編	文部科学省 / 日本文教出版株式会社 / 4-536-4033-8 C3037 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 造形の基礎技法	宮脇理 編 / 健帛社 / 4-7679-2059-0 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

e¥mail: jin85067@kyokyo-u.ac.jp

その他 / Others

担当者名 / Instructor 横澤 茂夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講座の目的は図画工作・美術の魅力と造形表現の極意に触れ、自己肯定感を味わう体験をすること。このことにより、現場で具体的な体験を持って指導に当たれるようにするものである。したがって、実習形式とする。

到達目標 / Attainment Objectives

実際の造形表現活動を通して以下のことを身に付ける。

- ①各領域の造形表現の魅力を経験する。
- ②表現に必要な極意に気づき活動を進めることができる。
- ③活動を通して図画工作指導の進め方を体験する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

小学校・中学校の図画工作・美術をしっかりと思い出しながら、実習と比較する態度を準備しておくこと。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入はなあんだ！	自己紹介、授業の到達目標、授業評価についてのガイダンス。簡単素描で「見る力」を確かめる。
2	絵画制作『花を描く』1・・・線描表現で活動するよ！	花を描くときのポイントは、何をどのように見るかで決まるよ！それは何なのか楽しみに待ってよう！
3	絵画制作『花を描く』2・・・構図と彩色方法について学ぼうよ！	画面構成が構図である。＜画面に隙間があると幸せが逃げていく＞って何だ。幸せ色って何だろう？マイ絵の具って何だろう？
4	絵画制作『花を描く』3・・・彩色仕上げには一工夫あり！	自分の心情と表現の向こうに見える世界って何だ！神様の色遣いでチャレンジしよう！ところで、神様の色遣いって何だ？できたら＜表現の不思議＞を振り返ろう！
5	木工作『糸のこドライブ楽しいな』1・・・安全な糸鋸の扱いの極意はなあに！	電動糸鋸の扱いができるようになったら、形を考えずに板を切っていくよ。楽しいよ。切り取ったら、切り口を赤ちゃんのお肌になるように磨いて宝物にしよう！
6	木工作『糸のこドライブ楽しいな』2・・・木片に色の着物を着せてみよう！	色塗りこそ、自己肯定感が味わえる！その＜魅力と極意＞に気づき、チャレンジ・チャレンジ創造・創造・クリエイティブを楽しもう！
7	木工作『糸のこドライブ楽しいな』3・・・造形構成物を発想しよう！	＜発想の面白さ＞＜発想の極意＞は概念壊しから始まるよ！概念壊してなあーに？創造は＜自分を追い込む＞ことから出発するんだ。どうすればいいか、わくわくどきどき！！
8	木工作『糸のこドライブ楽しいな』4・・・仕上げと工夫はどうするの？	ミックス・ド・メディアってなあに？イメージの連鎖と発展が造形芸術の創造力だ！自然に自己肯定感が生まれるよ！
9	焼き物『動物の親子』1・・・動物の親子が与えてくれる＜心情＞はなあに？あなたはどんな動物を選ぶのかな？	テラコッタ粘土でつくる焼き物だ！お母さんやお父さん動物は大きく表情を付けて表そう！その＜極意＞ってなあに？
10	焼き物『動物の親子』2・・・しぐさや雰囲気はどうしたら表現できるの？	子どもの数、体のひねりと動きの表現、表情いっぱい表現、体の質感表現で、表現力がぐーんとアップするぞ！
11	焼き物『動物の親子』3・・・仕上げと工夫はどうすればいいの？	仕上げはなんて言ったって＜自分のこだわり表現＞だ。これがなかなか難しい。しかし、わかればこれ以上面白いものはない！！そして振り返りをしてみよう！
12	掘り進み木版画『私の心の中の深海の魚』1・・・安全な彫刻刀の扱いと技法とは？	掘り進み版画の魅力と極意を理解しよう！ところで、深海魚はなぜあんなにも不気味な形をしているの？誰も知らない自分を深海魚に重ねるとしたら一体どんな種類になるのだろう？
13	掘り進み木版画『私の心の中の深海の魚』2・・・彫りとプリントの極意とは？	始めに、深海魚の外形を彫刻刀で彫ってみよう！まず、1色プリントしよう！印刷が終わったら、インクを水洗いし、2～3枚プリントしよう。さらに、深海魚の内側を彫ってみよう！掘り終わったら2色目をそれぞれ印刷してみよう！
14	掘り進み木版画『私の心の中の深海の魚』3・・・最終プリントは黒インクで仕上げるよ！インクの色を重ねるのってどうなのかな？	インクは透明。透明インクを重ねるとどんな幻想世界を導き出すでしょう。最も気に入った作品にサインを入れよう。友だちとの交換も楽しいよ！

一人最も気に入った1作品をもとに、「この講座で気付いたこと」を発表し合う。友だちの考えや感想を共有し、自分の発展・拡がりにする体験を味わおう！

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

講義は実習形式で実施します。全実習を通して造形芸術の＜魅力と極意＞を体験します。現場に行ったときのよりどころとなる基本中の基本です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1 作品評価と振り返りシート評価から 2 活動の取り組みの姿勢も一部評価

評価A: 指導事項以上のことが理解できた。
 評価B: 指導事項が一通り理解できた。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実習では、服装が汚れる場合があります。したがって、汚れても良い服装とエプロン準備。さらに、ハンドタオルと筆記用具、ノートの用意。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
春の数え方	日高敏隆 / 新潮文庫 / /
裸の王様	開高健 / 新潮文庫 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
春の数え方	日高敏隆 / 新潮文庫 / /
裸の王様	開高健 / 新潮文庫 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレス: yokosawa@kts.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

図画工作科教育法 (SA)

11077

担当者名 / Instructor 横澤 茂夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

実習としては「おもてなしの造形・抹茶茶碗づくり」と絵の具づくり、思想的にはヨーロッパ及び日本の図工・美術教育を概観し、図工及び美術教育の基礎・基本を身に付ける。同時に、模擬授業を通して、初等教育の特徴と指導の極意を身に付ける。結果として、すぐに現場で実践できる教育方法を身に付ける。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①造形芸術・造形活動の魅力を味わえること。
- ②図工・美術教育及び初等教育の基本的な考え方がわかること。
- ③図工科指導の基本の方法を身に付けること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。講義毎に一つ一つしっかり理解を深めて行こうとする態度を用意すること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションで講義の方法を理解しよう。(履修上の件、自己紹介、グループ編成など)	<幸せ色>ってな〜んだ!「幸せ色による名札づくり」心情と色の関係とく重色>
2	「自製の絵の具をつくらう」講師:(株)べんてる 描画材研究所	描画材料の特徴を知り、自作の絵の具をつくり表現の可能性を想像しよう。
3	実技「マイ・お抹茶茶碗をつくらう」1・・・「お茶碗の魅力と表現の極意をはなかに?」	茶碗の魅力に気付くための方法を身に付け、茶碗の簡単な成り立ちを理解する。
4	実技「マイ・お抹茶茶碗をつくらう」2・・・茶碗の壁を薄くしよう!	「おもてなしの造形」は全部で5つ。<なり>はメッセージ。茶碗の内側は宇宙。
5	実技「マイ・お抹茶茶碗をつくらう」3・・・仕上げとサイン。乾燥。	口縁づくり、茶巾、茶筌ずり、茶だまり、高台づくり。高台はなぜ丸くないの?
6	子どもの発達と造形・・・ケログの「子どもの描画の発達過程」から探る。	ケログの発達過程のガイダンスと基本的な描画を発達順に並べ変え、遊ぶ。
7	ユング「8つのタイプ論」と「個性化の過程(自己実現)」・・・個性をどうとらえるの?	「個性をどうとらえるか」と「個性化の過程」のガイダンス。自分のタイプを図に表そう! 「自己実現」の道筋がわかるよ! 発展材は伊・レジオエミリア市の幼児教育を概観しよう!
8	「ヨーロッパの美術教育(チゼック)」と西ドイツの「視覚伝達としての美術教育」	チゼックとビジュアルコミュニケーションとしての美術(図工)教育の違いってななんだ?
9	日本の美術教育・・・大正期の自由画運動と戦後の美術教育、立命館小の図工教育について	山形鼎、北川民次、創造美育協会、指導要領の変遷、立命館小のカリキュラムはどうなっているの?
10	模擬授業にチャレンジ1・・・学習指導案の作成の準備	グループ編成、学年割り当て、題材の検討・決定、係り分担、指導案の書き方にチャレンジするよ!
11	模擬授業にチャレンジ2・・・学習指導案の作成1	図工科のねらいは全部で4つ。題材は3つの観点から考えよう! 始めに試作してみよう!
12	模擬授業にチャレンジ3・・・学習指導案の仕上げとチェック。	学年毎にチェックを受け、手直し指導案を完成するよ! 目標と評価基準の関係もしっかり理解しておこう。小学校は<気付き>のための発問が大切ですよ! あとは発表練習だ!
13	模擬授業にチャレンジ(1)	模擬授業1・2・3年、話し合い
14	模擬授業にチャレンジ(2)	模擬授業4・5・6年、話し合い
15	図工の授業のまとめと教員採用試験の問題にチャレンジ!	中学の過去問題を一緒に考えよう。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は実習も含めて具体的な内容になっています。全授業で一つ一つ丁寧に学び、授業時間で完全習得させます。そのために、振り返りシートで確認していきます。目標は、教育現場ですぐに役立つためのスキルを身に付けるようにします。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1 作品評価と振り返りシート評価から 2 活動の取り組みの姿勢も一部評価

評価A: 指導事項以上のことが理解できた。

評価B: 指導事項が一通り理解できた。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

汚れても良い服装(エプロン)の用意。ハンドタオル、筆記用具、ノートの用意。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
春の数え方	日高敏隆 / 新潮文庫 / /
裸の王様	開高健 / 新潮文庫 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
春の数え方	日高敏隆 / 新潮文庫 / /
裸の王様	開高健 / 新潮文庫 / /
「日本」とは何か	網野善彦 / 講談社文庫 / /
ユング心理学入門	河合隼雄 / 岩波現代文庫 / /
児童画の発達過程	R・ケロッグ、深田訳 / 黎明書房 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレス: yokosawa@ktc.ritumei.ac.jp

その他 / Others

図画工作科教育法 (SB)

11075

担当者名 / Instructor 横澤 茂夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

実習としては「おもてなしの造形・抹茶茶碗づくり」と絵の具づくり、思想的にはヨーロッパ及び日本の図工・美術教育を概観し、図工及び美術教育の基礎・基本を身に付ける。同時に、模擬授業を通して、初等教育の特徴と指導の極意を身に付ける。結果として、すぐに現場で実践できる教育方法を身に付ける。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①造形芸術・造形活動の魅力を味わえること。
- ②図工・美術教育及び初等教育の基本的な考え方がわかること。
- ③図工科指導の基本の方法を身に付けること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。講義毎に一つ一つしっかり理解を深めて行こうとする態度を用意すること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションで講義の方法を理解しよう。(履修上の件、自己紹介、グループ編成など)	<幸せ色>ってな〜んだ!「幸せ色による名札づくり」心情と色の関係とく重色>
2	「自製の絵の具をつくろう」講師:(株)べんてる 描画材研究所	描画材料の特徴を知り、自作の絵の具をつくり表現の可能性を想像しよう。
3	実技「マイ・お抹茶茶碗をつくろう」1・・・「お茶碗の魅力と表現の極意をはなかに?」	茶碗の魅力に気付くための方法を身に付け、茶碗の簡単な成り立ちを理解する。
4	実技「マイ・お抹茶茶碗をつくろう」2・・・茶碗の壁を薄くしよう!	「おもてなしの造形」は全部で5つ。<なり>はメッセージ。茶碗の内側は宇宙。
5	実技「マイ・お抹茶茶碗をつくろう」3・・・仕上げとサイン。乾燥。	口縁づくり、茶巾、茶筌ずり、茶だまり、高台づくり。高台はなぜ丸くないの?
6	子どもの発達と造形・・・ケログの「子どもの描画の発達過程」から探る。	ケログの発達過程のガイダンスと基本的な描画を発達順に並べ変え、遊ぶ。
7)	ユング「8つのタイプ論」と「個性化の過程(自己実現)」・・・個性をどうとらえるの?	「個性をどうとらえるか」と「個性化の過程」のガイダンス。自分のタイプを図に表そう! 「自己実現」の道筋がわかるよ! 発展材は伊・レジオエミリア市の幼児教育を概観しよう!
8	「ヨーロッパの美術教育(チゼック)」と西ドイツの「視覚伝達としての美術教育」	チゼックとビジュアルコミュニケーションとしての美術(図工)教育の違いってななんだ?
9	日本の美術教育・・・大正期の自由画運動と戦後の美術教育、立命館小の図工教育について	山形鼎、北川民次、創造美育協会、指導要領の変遷、立命館小のカリキュラムはどうなっているの?
10	模擬授業にチャレンジ1・・・学習指導案の作成の準備	グループ編成、学年割り当て、題材の検討・決定、係り分担、指導案の書き方にチャレンジするよ!
11	模擬授業にチャレンジ2・・・学習指導案の作成1	図工科のねらいは全部で4つ。題材は3つの観点から考えよう! 始めに試作してみよう!
12	模擬授業にチャレンジ3・・・学習指導案の仕上げとチェック。	学年毎にチェックを受け、手直し指導案を完成するよ! 目標と評価基準の関係もしっかり理解しておこう。小学校は<気付き>のための発問が大切ですよ! あとは発表練習だ!
13	模擬授業にチャレンジ(1)	模擬授業1・2・3年、話し合い
14	模擬授業にチャレンジ(2)	模擬授業4・5・6年、話し合い
15	図工の授業のまとめと教員採用試験の問題にチャレンジ!	中学の過去問題を一緒に考えよう。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は実習も含めて具体的な内容になっています。全授業で一つ一つ丁寧に学び、授業時間で完全習得させます。そのために、振り返りシートで確認していきます。目標は、教育現場ですぐに役立つためのスキルを身に付けるようにします。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1 作品評価と振り返りシート評価から 2 活動の取り組みの姿勢も一部評価

評価A: 指導事項以上のことが理解できた。

評価B: 指導事項が一通り理解できた。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

汚れても良い服装(エプロン)の用意。ハンドタオル、筆記用具、ノートの用意。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
春の数え方	日高敏隆 / 新潮文庫 / /
裸の王様	開高健 / 新潮文庫 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
春の数え方	日高敏隆 / 新潮文庫 / /
裸の王様	開高健 / 新潮文庫 / /
「日本」とは何か	網野善彦 / 講談社文庫 / /
ユング心理学入門	河合隼雄 / 岩波現代文庫 / /
児童画の発達過程	R・ケロッグ、深田訳 / 黎明書房 / /
チゼックの美術教育	W・ビィオラ、深田訳 / 黎明書房 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレス: yokosawa@kctc.ritumei.ac.jp

その他 / Others

生活 (SA)

11074

担当者名 / Instructor 沼澤 清一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、小学生における生活科の授業を行うにあたっての理論を現場の実践をもとに探求していく。
また、必要に応じて適宜、学習指導案の作成、模擬授業、討論などを組み入れるなどして、実践的力量養成をめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・生活科教育に対する基礎理論について理解し、その理論について説明することができる。
- ・計画通りに授業を進めるといった視点を大切にしながらも、子どもの姿に合わせて修正していく授業者としての視点をもつことができる。
- ・系統主義と構成主義の違いを授業の場でどのように意識して取り入れていくか説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生活科の「授業観」について 授業者としての意識改革	教育課程とカリキュラム論 植物単元での子どもの学びについて実践記録から
第2回	「授業をする」とは、子どもを看取るとは	教えるのではなく気付かせる。気付く力を育てる授業とは
第3回	授業のオープンエンド化 生活科での有効性について①	オープンエンドの授業形態、それを支える技術
第4回	授業のオープンエンド化 生活科での有効性について②	オープンエンドの授業形態、子どもの日記をどう生かすか
第5回	子どもの「はてな？」の導き出し方	模擬授業(1枚の写真から) 授業実践記録(バッタのひみつ)
第6回	模擬授業「点字ブロックの役割」	「はてな？」を導き出し、授業を終えるオープンエンドの授業形態を体験する
第7回	問いを残して授業を終えるための学級担任の一日	朝の会、帰りの会、休み時間、給食の時間の活用の仕方
第8回	「はてな？」の追究を通して思考の継続をどのように導くか	授業・朝の会・日記による「金木犀」の追究記録から
第9回	Q&A 沼澤への質問・意見を元にしたディスカッション	自分だったらこうするという意見を交流
第10回	反省的实践、「学びの共有体」について	佐藤学氏の理論から
第11回	国際的な学力観と日本の学力観について	学校改革と構成主義的授業観による生活科・総合的な学習の時間の位置づけ
第12回	実践記録「水の不思議」から地域性を生かした教材開発について	理科・社会科の合科としての総合的な学習の時間の実践から
第13回	子どもの日記・感想への教師の指導方法について	実際の子どもの日記を見ながら、どのようにコメントするかを検討する
第14回	授業を支える学級づくりについて	具体的な実践記録をもとに授業づくりと学級経営についてまとめる
第15回	Q&A 沼澤への質問・意見を元にしたディスカッション	自分だったらこうするという意見を交流

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	10 %	全講義終了後、A4で1枚程度のレポートを提出
平常点評価	90 %	毎回授業の最後に、その授業にかかわる感想・意見をレポート(A4用紙1枚)に記入してもらう。その内容を受けて講義の内容を変更していく。2/3以上の授業に出席し、かつレポートを提出した者のみを成績評価の対象とする。

毎時間、最後の10分間に感想と意見を書いてもらいます。評価と共に、次時の講義内容を構成していきたいと思えます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

立命館小学校で日々授業を行っています。可能であれば、子どもとの授業を見に来てください。理論は、実践をもとに構築されると考えています。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
授業研究入門	稲垣忠彦・佐藤学 / 岩波書店 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

子どもの笑顔で結ぶ保護者との連携

沼澤清一 / 明治図書 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

生活科教育法 (SA)

12479

担当者名 / Instructor 深谷 圭助

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、小学校における生活科の概論として位置づけ、生活科の目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、学習指導要領や実践事例の検討などを組み入れながら、小学校生活科の基本原則を概観するとともに、実践上の諸課題を探究する。また、必要に応じて適宜、学習指導案の作成、模擬授業、討論などを組み入れるなどして、実践的力量養成をめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

- 生活科教育に関する基礎理論について理解し、生活科教育におけるキーワードを用いながら、その理論について説明することができる
- 生活科の授業を計画、構成し、子どもにとって魅力的な教材(学習材)を開発することができる
- 子どもの展開する調査活動や具体的な体験活動の組織の仕方を学び、指導案を作成することができる。
- 生活科の中で重視される表現活動の指導法について理解することができる。
- 子どもの気づきのよさを認め、子どもの知的探究意欲を高める支援の仕方が理解することができる。
- 生活科で行われる子どもによる自己評価、相互評価の手法や教員による評価方法について理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

生活科は、低学年社会科と低学年理科を発展的に解消して設けられた教科である。したがって、その親教科というべき社会科、理科の教科教育法については履修しておくことが特に望まれる。また、生活科は教科横断型教科という特色も持っている。したがって、他の教科教育法科目について履修しておくことは有益である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生活科とは何かー教科としての独自性ー	児童中心主義 体験学習 経験主義教育 ボトムアップ
第2回	生活科の年間指導計画と単元構想、授業づくり ~ 模擬授業に向けて~	学校独自のカリキュラム開発 オープンエンド教育 グループづくり
第3回	生活科の内容(1)学校と生活	学校探検、学校の友達、先生、お世話になっている人々、学校の機能
第4回	生活科の内容(2)家庭と生活	家族の役割、家庭での仕事、家庭の機能
第5回	生活科の内容(3)地域と生活	地域探検、地域コミュニティ、お祭り、ボランティア、地域の機能
第6回	生活科の内容(4)公共物や公共施設の利用	遠足、通学、公共交通機関、公園、街、マナー、ルール
第7回	生活科の内容(5)季節の変化と生活	地域の風土、日本の風土、季節に応じた生活の工夫
第8回	生活科の内容(6)自然や物を使った遊び	制作活動、工作、おもちゃづくり、伝統的遊戯
第9回	生活科の内容(7)動植物の飼育・栽培	小動物、昆虫の飼育 飼育法 植物(花、野菜)の栽培栽培法
第10回	生活科の内容(8)自分の成長	成長歴 生命の誕生 お世話になった人たち感謝
第11回	生活科における評価活動	自己評価 相互評価 ポートフォリオ評価 表現活動の重視
第12回	模擬授業(1)	小集団(ペア)による指導案作成、学習材準備、表現活動、相互評価、自己評価
第13回	模擬授業(2)	小集団(ペア)による指導案作成、学習材準備、表現活動、相互評価、自己評価
第14回	模擬授業(3)	小集団(ペア)による指導案作成、学習材準備、表現活動、相互評価、自己評価
第15回	模擬授業(4)	小集団(ペア)による指導案作成、学習材準備、表現活動、相互評価、自己評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

第2回で模擬授業に向けての小グループ(ペア)を決める。第3回から第11回にかけて、「生活科の内容」について生活科8領域の講義を行うが、その中で、どの領域に関する模擬授業を行いたいかを小グループ(ペア)で相談する。こうした相談は授業外学習において行う。模擬授業に関する準備は基本的に授業外で行い、このことに関する相談は、必要に応じて相談すること。第12回から第15回にかけて模擬授業を実施する。模擬授業の仕方については、講義において指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱った、生活科の内容の中から1つの領域を選び、小グループ(ペア)で協力して模擬授業に取り組む。その取り組みの様子について、プロセス、指導案、指導の実際についてのレ

ポートを課す。0～3点で評価する。

平常点評価	50 %	毎回、その授業にかかわるレポート(A4用紙1枚)を課す。授業内容の理解度とともに、授業内容と自身の経験をかかわらせながら、どのような授業をしてみたいか、その具体的なアイデアを書くことを求める。0～3点で評価し、2/3以上の授業に出席し、かつレポートを提出した者のみを成績評価の対象とする。
-------	------	--

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小集団(ペア)による模擬授業を成績評価を重視する。ペアが何らかの理由で、本講義を受講し続けることが困難な場合、途中で教員の許諾を得て、異なるペアに合流する(3人グループ)となることがある。また、模擬授業の形態や時間は別途、講義において指示する。模擬授業の時間は限られているので、ワークショップ形式で行う予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『小学校学習指導要領解説生活編』	文部科学省 / 日本文教出版 / 4491015503 /
『生活科の授業方法—新しい評価を生かす構想と展開』	嶋野道弘・寺尾慎一 / ぎょうせい / 432407142X /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『7歳から「辞書」を引いて頭をきたえる』	深谷圭助 / すばる舎 / 4883995062 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

生活科教育法 (SB)

11078

担当者名 / Instructor 長谷川 昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、小学校における生活科の概論として位置づけ、生活科の目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、学習指導要領や実践事例の検討などを組み入れながら、小学校生活科の基本原則を概観するとともに、実践上の諸課題を探究する。また、必要に応じて適宜、学習指導案の作成、模擬授業、討論などを組み入れるなどして、実践的力量養成をめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

- 生活科教育に関する基礎理論を理解し、キーワードを用いながら、その理論について理解できる。
- 生活科の授業を計画、構成し、子どもにとって魅力的な教材(学習材)を作ることができる。
- 子どもの展開する調査活動や具体的な体験活動の組織の仕方を学び、生活科授業案を作成することができる。
- 生活科の中で重視される表現活動の指導法について理解することができる。
- 子どもの気づきのよさを認め、子どもの知的探究意欲を高める支援の仕方について理解できる。
- 生活科で行う子どもによる自己評価、相互評価の手法や教員による評価方法について理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

生活科は、低学年社会科と低学年理科を発展的に解消して設けられた教科である。したがって、その親教科というべき社会科、理科の教科教育法については履修しておくことが特に望まれる。また、生活科は教科横断型教科という特色も持っている。したがって、他の教科教育法科目について履修しておくことは有益である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	生活科とは何かー教科としての独自性とその魅力ー	体験学習、具体的活躍、人・自然・社会との関わりから自立への基礎へ
2	生活科の内容(1) 自然体験活動	自然への気づき 自然とのふれあいプログラム
3	生活科の内容(2) 自然や物を使った遊び	製作活動 工作 おもちゃづくり 伝統的遊戯
4	生活科の内容(3) 動植物の飼育・栽培	小動物や昆虫の飼育 植物の栽培
5	生活科の年間指導計画と単元構想 模擬授業に向けて	学校独自の特徴あるカリキュラム オープンエンド 伝え合い
6	第1回生活科ミニ授業づくり～自然との関わり～	小集団(ペア)による授業案作成 学習材 自己評価 相互評価
7	生活科の内容(4) 学校と生活	学校たんけん 学校の友達・先生 お世話になっている人々 学校の機能
8	生活科の内容(5) 家庭と生活	家族の役割 家庭での仕事 家庭の機能 自分の役割
9	第2回生活科ミニ授業づくり～人との関わり～	小集団(ペア)による授業案作成 学習材 自己評価 相互評価
10	生活科の内容(6) 地域と生活	地域たんけん 地域との関わり 地域の機能 ボランティア
11	生活科の内容(7) 公共物や公共施設の利用	通学 公共交通機関 公園 街 マナーとルール
12	生活科の内容(8) 季節の変化と生活	地域の風土 季節に応じた生活の工夫 地域の行事
13	第3回生活科ミニ授業づくり～社会との関わり～	小集団(ペア)による授業案作成 学習材 自己評価 相互評価
14	生活科の内容(9) 自分の成長	成長暦 生命の誕生 お世話になった人たちへの感謝
15	生活科の面白さ	伝え合う活動 授業づくり 評価活動 生きる力の基礎・基本

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

数回、小集団による模擬授業を行うが、授業に関する準備は基本的に授業外で行い、このことに関する相談は、必要に応じて相談すること。模擬授業の仕方については、講義において指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	模擬授業の取り組みをもとに、そのプロセス・授業案・指導の実際・振り返り、をレポートにまとめることによって評価する。
平常点評価	70 %	毎回の講義への参加意欲と取り組みの様子、また、その内容理解や講義・討議の中での思考力創造力をミニレポート等によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

小学校学習指導要領解説生活科編

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

文部科学省 / 日本文教出版 / 4491015503 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

Academic English I (S1)

10623

担当者名 / Instructor KUZEL JOHN MICHAEL

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日(第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
-----------------	--------------------	-------------------------

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic English I (S2)

10624

担当者名 / Instructor MILLER WARREN A.単位数 / Credit 2授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日(第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
-----------------	--------------------	-------------------------

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic English I (S3)

10625

担当者名 / Instructor SUMMERVILLE CHRIS単位数 / Credit 2授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日(第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
-----------------	--------------------	-------------------------

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic EnglishII (S1)

11023

担当者名 / Instructor McCCLUNG ROBERT JOHN

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences., including the family, gender issues and the media.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic EnglishII (S2)

11024

担当者名 / Instructor VIGERS PIERS NIGEL

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences., including the family, gender issues and the media.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
----------	-------------	------------------

Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic EnglishII (S3)

11025

担当者名 / Instructor MULLIGAN CHRISTOPHER

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences., including the family, gender issues and the media.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
----------	-------------	------------------

Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic EnglishIII (S1)

12411

担当者名 / Instructor FLANAGAN BRUCE

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats – in written reports, posters or oral presentations, for instance.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus and research projects for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic EnglishIII (S2)

12412

担当者名 / Instructor ROOKS MATTHEW JOHN

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats – in written reports, posters or oral presentations, for instance.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus and research projects for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic EnglishIII (S3)

12413

担当者名 / Instructor 坂本 利子

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats – in written reports, posters or oral presentations, for instance.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus and research projects for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic EnglishIV (S2)

10634

担当者名 / Instructor MILLER WARREN A.

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic EnglishIV (S3)

10635

担当者名 / Instructor HARING DIANE

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic EnglishV (S2)

11580

担当者名 / Instructor FLANAGAN BRUCE単位数 / Credit 2授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日(第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
-----------------	--------------------	-------------------------

Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Academic EnglishV (S3)

11581

担当者名 / Instructor MILLER WARREN A.単位数 / Credit 2授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日(第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
-----------------	--------------------	-------------------------

Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

担当者名 / Instructor MULLIGAN CHRISTOPHER

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

The focus of this course will be the discussion and debate of critical issues related to Japan. A variety of issues will be discussed and eventually formatted for in class debates. Students will learn the vocabulary and brainstorming strategies necessary to generate ideas. In groups they will learn to organize these ideas into effective arguments and provide specific support used to further defend their positions. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students. Students will be expected to present their ideas to an audience in a clear and persuasive manner using a formal debate format.

到達目標 / Attainment Objectives

To develop students ability to brainstorm and organize their own opinions clearly in a persuasive manner. To provide the necessary support to make their opinions effective. To acquire the vocabulary, phrases and procedures necessary for a formal debate. To be able to present and defend their opinions effectively in a formal debate format.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
Week-1/2	Week-1/2 Should Smoking be Prohibited on Campus?	Introduction to Resolutions—what is a Resolution? Express for and against positions—Brainstorm reasons to support it
Week-3/4	Immigration: Should Japan Liberalize its Immigration Policy?	Create resolution and opposing reasons—conclusion
Week-5/6	Should the Death Penalty be Abolished in Japan?	Types of support—language used to express it
Week-7/8	Should English be Taught in Elementary Schools?	Refutation and language necessary to express this sign post, rephrase, refute and support
Week-9/10	Should Japanese Women be Allowed the Used Surrogate Mothers?	Organizing Refutations
Week-11/12	Should Commercial Whaling be Resumed?	Looking for weakness in opposing arguments
Week-13/14	Were the Atomic Bombs of Hiroshima and Nagasaki Necessary to end the War?	
Week-15	Should the US Bases Be Removed from Okinawa?	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Attendance /participation 50% Debates 50%

Attendance: This is very important! If you're not in class you can't learn the language or develop the target skills. Each class missed will result in grade point deductions from your final grade. More than 4 unexcused absence will result in a failing grade. If you are more than 30 minute late, it will count as one absence. Being late 3 time, will count as 1 absence. Students' streaming into class late is a disruption!

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Materials will be provided by the instructor.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staffその他 / Others

アカデミックライティング (SB) § Academic EnglishIV (S1)

30074

担当者名 / Instructor FLANAGAN BRUCE

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule

<u>授業日(第N回)</u>	<u>テーマ / Theme</u>	<u>キーワード / Key Word</u>
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Class instructors will provide contact details during the 1st week of the semester.

その他 / Others

Comparative Society (SA)

12314

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

We live in a media-saturated world: advertising, communication, information, and entertainment. This vast infiltration into our everyday lives means that the media not only provide communication and entertainment, but the media now also shape the way we conceptualize ourselves and the world around us. For societal observers, the media can therefore serve as valuable sources for examining other cultures and societies. In this class students will take on the role of cultural observers and learn about North American culture and society by examining various forms of media from the United States and Canada.

到達目標 / Attainment Objectives

- Students will develop the analytical skills necessary for critically interpreting various types of media (advertisements, newspapers, film, etc.).
- Students will enhance their English reading, writing, speaking, and listening skills.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Course Introduction	media, media-saturated society
2	What is Media Literacy?	media literacy
3	Key Concepts of Media Literacy	representation
4	Media and Audience	audience, encoding and decoding
5	Advertisement (1) TV Commercials	codes, roles of TV commercials
6	Advertisement (2) Branding and Consumer Culture	brand royalty
7	Advertisement (3) Marketing to Children	target audience
8	Media Representation and Identity (1) Gender	stereotype, gender
9	Media Representation and Identity (2) Race and Ethnicity	Self and Other, race, ethnicity
10	Violence in Media (1)	Violence in children's media
11	Violence in Media (2)	Violence in action films and video games
12	Media Education (1)	Media education in Canada
13	Media Education (2)	Media education in Japan
14	Student Presentation (1)	
15	Student Presentation (2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Each class will start with a student presentation on selected readings, followed by discussion, a lecture by the instructor, and media analysis activities. Students are expected to come to class with careful preparation: finish reading assignments and familiarize yourself with topics in advance in order to actively participate in discussion.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Participation (45%) Presentation (25%) Final paper (30%)

For the participation grade, class attendance is not sufficient. Students are expected to 1)submit all assignments, and 2)actively participate in discussion and media analysis activities in class.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

The reading list will be distributed in class.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Representation: Cultural Representations and Signifying Practices	Stuart Hall (Ed) / SAGE / 0761954325 /
Media Education: Literacy, Learning and Contemporary Culture	David Buckingham / Polity Press / 0475628303 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

Comparative Society (SB)

12390

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

We live in a media-saturated world: advertising, communication, information, and entertainment. This vast infiltration into our everyday lives means that the media not only provide communication and entertainment, but the media now also shape the way we conceptualize ourselves and the world around us. For societal observers, the media can therefore serve as valuable sources for examining other cultures and societies. In this class students will take on the role of cultural observers and learn about North American culture and society by examining various forms of media from the United States and Canada.

到達目標 / Attainment Objectives

- Students will develop the analytical skills necessary for critically interpreting various types of media (advertisements, newspapers, film, etc.).
- Students will enhance their English reading, writing, speaking, and listening skills.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Course Introduction	media, media-saturated society
2	What is Media Literacy?	media literacy
3	Key Concepts of Media Literacy	representation
4	Media and Audience	audience, encoding and decoding
5	Advertisement (1) TV Commercials	codes, roles of TV commercials
6	Advertisement (2) Branding and Consumer Culture	brand royalty
7	Advertisement (3) Marketing to Children	target audience
8	Media Representation and Identity (1) Gender	stereotype, gender
9	Media Representation and Identity (2) Race and Ethnicity	Self and Other, race, ethnicity
10	Violence in Media (1)	Violence in children's media
11	Violence in Media (2)	Violence in action films and video games
12	Media Education (1)	Media education in Canada
13	Media Education (2)	Media education in Japan
14	Student Presentation (1)	
15	Student Presentation (2)	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods**

Each class will start with a student presentation on selected readings, followed by discussion, a lecture by the instructor, and media analysis activities. Students are expected to come to class with careful preparation: finish reading assignments and familiarize yourself with topics in advance in order to actively participate in discussion.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Participation (45%) Presentation (25%) Final paper (30%)

For the participation grade, class attendance is not sufficient. Students are expected to 1)submit all assignments, and 2)actively participate in discussion and media analysis activities in class.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

The reading list will be distributed in class.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Representation: Cultural Representations and Signifying Practices	Stuart Hall (Ed) / SAGE / 0761954325 /
Media Education: Literacy, Learning and Contemporary Culture	David Buckingham / Polity Press / 0475628303 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

Critical Reading (SA)

11466

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

In any culture, there is always a great diversity of meanings about any topic, and more than one way of interpreting or representing it. We give things meaning by how we interpret or represent them. To understand the frameworks of interpretation and the systems of representation, we take visual materials from film, TV, theatre, and performance arts, as well as written materials, and discuss issues of gender, class, race, and nation from the critical perspectives of Post-Colonial Studies, Cultural Studies, and Gender Studies.

到達目標 / Attainment Objectives

The main goal of this course is to develop students' reading ability and encourage their critical thinking through reading various articles written about contemporary culture. Students are also expected to present their analysis about some cultural forms by applying one of the critical theories introduced in class.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction about Critical Theory	Race and Gender
2	Distinguishing Sex and Gender	Gender as a Social Construct
3	Gender Polarization	Penalties and Privileges Associated with Being Male and Female
4	Mechanisms of Perpetuating Gender Ideals	Socialization and Society's Gender Expectations
5	Representation as a Signifying Practice	How 'Sexual Difference' is Represented
6	Commercialization of Gender Ideals	Advertisements, TV dramas, Films
7	Identity Politics of Gender: Transsexual and Transgender	Compliance and Resistance to Gender Polarization
8	Presentation I	Analysis of some cultural forms from the Perspectives of Gender Studies
9	Midterm Exam	
10	Post-Colonial Studies	Orientalism and Colonial Discourses
11	Race Category and Classification	The U.S. System of Racial Classification
12	Ethnic Category and Classification	The U.S. System of Ethnic Classification
13	The Consequences of Racial and Ethnic Classification	Institutionalized Discrimination and Racist Ideologies
14	The Intersection of Gender, Race, Ethnicity, and Nation	Global Implications
15	Presentation II	Analysis of some cultural forms from the Perspectives of Post-Colonial Studies

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

This course is offered as one of the Sansha Fukusenken Courses, and entirely conducted in English. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	Write your in-depth analysis about some cultural forms.
平常点評価	70 %	Presentations, Group Discussions, and Midterm exam.

We read various articles from the Post-Colonial Studies, Cultural Studies, and Gender Studies.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Sociology--Global Perspective	Joan Ferrante / Thomson Wadworth / 0-495-00561-4 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

Critical Reading (SB)

11468

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

In any culture, there is always a great diversity of meanings about any topic, and more than one way of interpreting or representing it. We give things meaning by how we interpret or represent them. To understand the frameworks of interpretation and the systems of representation, we take visual materials from film, TV, theatre, and performance arts, as well as written materials, and discuss issues of gender, class, race, and nation from the critical perspectives of Post-Colonial Studies, Cultural Studies, and Gender Studies.

到達目標 / Attainment Objectives

The main goal of this course is to develop students' reading ability and encourage their critical thinking through reading various articles written about contemporary culture. Students are also expected to present their analysis about some cultural forms by applying one of the critical theories introduced in class.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction about Critical Theory	Race and Gender
2	Distinguishing Sex and Gender	Gender as a Social Construct
3	Gender Polarization	Penalties and Privileges Associated with Being Male and Female
4	Mechanisms of Perpetuating Gender Ideals	Socialization and Society's Gender Expectations
5	Representation as a Signifying Practice	How 'Sexual Difference' is Represented
6	Commercialization of Gender Ideals	Advertisements, TV dramas, Films
7	Identity Politics of Gender: Transsexual and Transgender	Compliance and Resistance to Gender Polarization
8	Presentation I	Analysis of some cultural forms from the Perspectives of Gender Studies
9	Midterm Exam	
10	Post-Colonial Studies	Orientalism and Colonial Discourses
11	Race Category and Classification	The U.S. System of Racial Classification
12	Ethnic Category and Classification	The U.S. System of Ethnic Classification
13	The Consequences of Racial and Ethnic Classification	Institutionalized Discrimination and Racist Ideologies
14	The Intersection of Gender, Race, Ethnicity, and Nation	Global Implications
15	Presentation II	Analysis of some cultural forms from the Perspectives of Post-Colonial Studies

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

This course is offered as one of the Sansha Fukusenko Courses, and entirely conducted in English. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	Write your in-depth analysis about some cultural forms.
平常点評価	70 %	Presentations, Group Discussions, and Midterm exam.

We read various articles from the Post-Colonial Studies, Cultural Studies, and Gender Studies.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

///

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Sociology--Global Perspective

Joan Ferrante / Thomson Wadworth / 0-495-00561-4 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

Cultural Studies (SA)

12313

担当者名 / Instructor 坂本 利子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Culture has come to occupy an increasingly important position in the last few decades not only in the 'arts' but also in seemingly most 'material' domains, such as the worlds of business, the economic, the political, the academy, and many others. 'Cultural studies' (CS) has accordingly become a very popular area of study and research in the past decade or so.

CS is the study of culture/cultures using 'interdisciplinary' methods which means to use diverse methods and ideas borrowed from such disciplines as sociology, anthropology, psychology, history, literary criticism, media studies, linguistics, philosophy, etc. It is also related to intellectual movements, such as feminism, Marxism and the studies of colonialism, postcolonialism, modernity, postmodernity, and so on.

This course explores the issues of 'culture and identity' (CI) which are central to all sociological debates and discussions. It also looks at how culture works in the present day, that is, how culture is represented, produced (and reproduced), consumed and regulated. Students will learn the role of culture in social life/practices and how identity develops in a social context. The course also focuses on mass culture and popular culture, youth culture and subculture, class, gender, sexuality and the body, ethnicity, and nationality and globalization.

到達目標 / Attainment Objectives

Goal of the Course:

Students are required to understand contemporary debates on culture and identity by using contemporary theories that are based on discussions of the role of culture and identity in society. Students should also acquire knowledge of CI and academic skills in sociology through doing cultural studies. The skills include 'understanding', 'identifying', 'analyzing', 'interpreting' and 'evaluating' issues of CI (culture and identity).

Emphasis will also be placed on skill development in English, use of the Internet for research, project development, and production of short oral and written tasks linked to CS (cultural studies).

Standards for Achieving Goal:

Students will:

- complete reports and presentations to reflect the language and knowledge structures of CS.
- become familiar with a specific research methodology to support written and oral activities in CS.
- produce medium-length written reports and oral presentations that reflect a high standard of academic competence within the subject matter of CS.
- employ graphic, statistical and textual information in a variety of formats.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
Week 1	Introduction to the course and overview	
Week 2	Key issues in the study of culture and identity	
Week 3	Classical views on culture and identity	
Week 4	The new sociology of culture and identity: modernity and postmodernity	
Week 5	Mass culture and popular culture	
Week 6	Youth culture and subculture	Research paper proposal due
Week 7	Signs, discourse and power	
Week 8	Class and consumption	
Week 9	Feminism, gender and sexuality	
Week 10	Ethnicity and identity	
Week 11	Community, nation and globalization	
Week 12	Culture and globalization	
Week 13	<Presentation>	
Week 14	<Presentation>	
Week 15	Final exam and research paper due	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	
1.Attendance & Participation:20%		

- 2.Oral Assignment (Presentation):20%
- 3.Writing Assignment (Research paper):20%
- 4.Informal Evaluations(homework,quiz,on-line discussion):20%
- 5.Formal Evaluation (Final exam):20%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Course Requirements

1.Attendance and participation: All students begin the semester with full marks for participation (20 points). Each day of unexcused non-attendance will lose a student 1 point of the possible total course mark, up to 20 points. Students arriving late for a class will receive a half day of non-attendance. A student with more than 1/3 non-attendance rate (5 absences) will fail the course.

Students are required to participate actively in the work of the course. Those who are unwilling to participate will be treated as absent for the day if their attendance is substantially non-participatory.

2.Achievement test: Students will be partially evaluated through use of one achievement test (final exam), totaling 20 percent of the marks for the course. Achievement will be assessed on the basis of the content, skills and knowledge.

3.Readings: Students are required to read texts and materials in advance and to do assignments stated in the materials.

4.Assignments and tasks: Course content will also consist of assignments and tasks, such as homework, quiz, on-line discussion, research project, presentation and research paper.

5.Plagiarism: All students must know that they may not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. Students must know the importance of not plagiarizing and of proper citation, and there should be appropriate penalties, if they plagiarize. No mark is given to plagiarized works.

教科書 / Textbooks

No set textbook is used for this course but handouts and other materials will be given in class.

参考書 / Reference Books

- 1.Ben Rafael, Eliezer and Yitzak Sternberg (Eds.) (2001). Identity, culture and globalization. Leiden: Brill.
- 2.Eades, J.S. and Shinji Yamashita (eds.) (2003). Globalization in Southeast Asia: local, national, and transnational perspectives. New York & Oxford: Berghahn Books.
- 3.Featherstone, Mike (1995). Undoing culture: Globalization, Postmodernism and Identity. London: Sage Publications.
- 4.Freccero, Carla (1999). Popular culture : an introduction New York: New York University Press.
- 5.Hall, Stuart (Ed.) (1997). Representation: cultural representations and signifying practices. Newbury Park: Sage Publications in association with The Open University.
- 6.Hallam, Elizabeth and Brian V. Street (Eds.) (2000). Cultural encounters: representing 'otherness'. London & New York: Routledge.
- 7.Johnson, Richard, et al. (2004). The practice of cultural studies. London: Sage Publications.
- 8.Kellner, Douglas (1995). Media culture: cultural studies, identity and politics between the modern and the postmodern. London & New York: Routledge.
- 9.Lawson, Stephanie (2003). Europe and the Asia-Pacific: culture, Identity and representations of region. London & New York: Routledge.
- 10.Storey, John (Ed.)(1996). What is cultural studies?: A reader. New York: Arnold.
- 11.Said, Edward W (1978). Orientalism: western conceptions of the orient. London: Routledge & Kegan Paul, London: Penguin, 1991
- 12.hwaites, Tony, et al. (2002). Introducing cultural and media studies: a semiotic approach. New York: Palgrave.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 坂本 利子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Culture has come to occupy an increasingly important position in the last few decades not only in the 'arts' but also in seemingly most 'material' domains, such as the worlds of business, the economic, the political, the academy, and many others. 'Cultural studies' (CS) has accordingly become a very popular area of study and research in the past decade or so.

CS is the study of culture/cultures using 'interdisciplinary' methods which means to use diverse methods and ideas borrowed from such disciplines as sociology, anthropology, psychology, history, literary criticism, media studies, linguistics, philosophy, etc. It is also related to intellectual movements, such as feminism, Marxism and the studies of colonialism, postcolonialism, modernity, postmodernity, and so on.

This course explores the issues of 'culture and identity' (CI) which are central to all sociological debates and discussions. It also looks at how culture works in the present day, that is, how culture is represented, produced (and reproduced), consumed and regulated. Students will learn the role of culture in social life/practices and how identity develops in a social context. The course also focuses on mass culture and popular culture, youth culture and subculture, class, gender, sexuality and the body, ethnicity, and nationality and globalization.

到達目標 / Attainment Objectives

Goal of the Course:

Students are required to understand contemporary debates on culture and identity by using contemporary theories that are based on discussions of the role of culture and identity in society. Students should also acquire knowledge of CI and academic skills in sociology through doing cultural studies. The skills include 'understanding', 'identifying', 'analyzing', 'interpreting' and 'evaluating' issues of CI (culture and identity).

Emphasis will also be placed on skill development in English, use of the Internet for research, project development, and production of short oral and written tasks linked to CS (cultural studies).

Standards for Achieving Goal:

Students will:

- complete reports and presentations to reflect the language and knowledge structures of CS.
- become familiar with a specific research methodology to support written and oral activities in CS.
- produce medium-length written reports and oral presentations that reflect a high standard of academic competence within the subject matter of CS.
- employ graphic, statistical and textual information in a variety of formats.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
Week 1	Introduction to the course and overview	
Week 2	Key issues in the study of culture and identity	
Week 3	Classical views on culture and identity	
Week 4	The new sociology of culture and identity: modernity and postmodernity	
Week 5	Mass culture and popular culture	
Week 6	Youth culture and subculture	Research paper proposal due
Week 7	Signs, discourse and power	
Week 8	Class and consumption	
Week 9	Feminism, gender and sexuality	
Week 10	Ethnicity and identity	
Week 11	Community, nation and globalization	
Week 12	Culture and globalization	
Week 13	<Presentation>	
Week 14	<Presentation>	
Week 15	Final exam and research paper due	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	
1.Attendance & Participation:20%		

- 2.Oral Assignment (Presentation):20%
- 3.Writing Assignment (Research paper):20%
- 4.Informal Evaluations(homework,quiz,on-line discussion):20%
- 5.Formal Evaluation (Final exam):20%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Course Requirements

1.Attendance and participation: All students begin the semester with full marks for participation (20 points). Each day of unexcused non-attendance will lose a student 1 point of the possible total course mark, up to 20 points. Students arriving late for a class will receive a half day of non-attendance. A student with more than 1/3 non-attendance rate (5 absences) will fail the course.

Students are required to participate actively in the work of the course. Those who are unwilling to participate will be treated as absent for the day if their attendance is substantially non-participatory.

2.Achievement test: Students will be partially evaluated through use of one achievement test (final exam), totaling 20 percent of the marks for the course. Achievement will be assessed on the basis of the content, skills and knowledge.

3.Readings: Students are required to read texts and materials in advance and to do assignments stated in the materials.

4.Assignments and tasks: Course content will also consist of assignments and tasks, such as homework, quiz, on-line discussion, research project, presentation and research paper.

5.Plagiarism: All students must know that they may not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. Students must know the importance of not plagiarizing and of proper citation, and there should be appropriate penalties, if they plagiarize. No mark is given to plagiarized works.

教科書 / Textbooks

No set textbook is used for this course but handouts and other materials will be given in class.

参考書 / Reference Books

- 1.Ben Rafael, Eliezer and Yitzak Sternberg (Eds.) (2001). Identity, culture and globalization. Leiden: Brill.
- 2.Eades, J.S. and Shinji Yamashita (eds.) (2003). Globalization in Southeast Asia: local, national, and transnational perspectives. New York & Oxford: Berghahn Books.
- 3.Featherstone, Mike (1995). Undoing culture: Globalization, Postmodernism and Identity. London: Sage Publications.
- 4.Freccero, Carla (1999). Popular culture : an introduction New York: New York University Press.
- 5.Hall, Stuart (Ed.) (1997). Representation: cultural representations and signifying practices. Newbury Park: Sage Publications in association with The Open University.
- 6.Hallam, Elizabeth and Brian V. Street (Eds.) (2000). Cultural encounters: representing 'otherness'. London & New York: Routledge.
- 7.Johnson, Richard, et al. (2004). The practice of cultural studies. London: Sage Publications.
- 8.Kellner, Douglas (1995). Media culture: cultural studies, identity and politics between the modern and the postmodern. London & New York: Routledge.
- 9.Lawson, Stephanie (2003). Europe and the Asia-Pacific: culture, Identity and representations of region. London & New York: Routledge.
- 10.Storey, John (Ed.)(1996). What is cultural studies?: A reader. New York: Arnold.
- 11.Said, Edward W (1978). Orientalism: western conceptions of the orient. London: Routledge & Kegan Paul, London: Penguin, 1991
- 12.hwaites, Tony, et al. (2002). Introducing cultural and media studies: a semiotic approach. New York: Palgrave.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

Issues of Democracy (SA)

11396

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Democracy is a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What relationship is there, if any, between the classical democracy of ancient Athens and modern day democracies like Japan and the UK? What is the relationship between democracy and individual rights? Can modern communications technology improve the quality of democracy, and what is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

到達目標 / Attainment Objectives

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is only open to students enrolled on the Sansha English Fukusenken Programme.
Preferably, students will already have completed Academic English I, II & III before taking this course.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Defining democracy: key concepts and questions Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
2	Athenian democracy Reading from Robert Dahl, 'Democracy & Its Critics'	
3	How democratic was Athenian democracy? Reading from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'	
4	The Second Transformation: Democracy as Representative Government Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
5	Virtual Democracy? The democratizing potential of the Internet#1 Reading: 'Virtual Democracy?' tapescript	
6	Digital democracy: The democratizing potential of the Internet#2 Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
7	Electoral Systems: How can elections be 'free and fair'? Written assignment: Should voting be compulsory?	
8	Should voting be compulsory? Readings Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuinness, 'The case against compulsory voting'	
9	Measuring democracy: Basic criteria Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
10	Measuring democracy: The Freedom House index Reading from Freedom House, 'Freedom In The World'	
11	The Third Wave of Democracy Reading Renske Doorenspleet, 'Reassessing the Three Waves of Democratization'	
12	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#1 Reading & Research activity - Afghan democracy	
13	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#2 Reading from James Fishkin, 'The Voice of the People'	
14	Deliberative Polls - a new initiative for democracy	
15	Final Examination and Course Summary	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

This is a demanding course. Of course, as with other B-gun courses on the sansha English Fukusenken Programme, all classes are conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary. Regular attendance and active participation in class are essential.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
-----------	-----------------	-------------------------------

平常点評価	100 %	
-------	-------	--

1. The above schedule of classes may change. More details will be given in class.
2. Students must complete all coursework in order to pass.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1. The readings provided on this course are authentic English texts – that is, they are the kinds of texts used by students at English-speaking universities. It's important that you complete the readings each week, but don't worry if you don't understand every word. Focus on the main ideas. Use the worksheet provided by the instructor to help you (the questions / tasks on the worksheet will help you to identify the main points in the reading).
2. Make a list of key words that come up in the readings. Certain key words / phrases will come up again and again in the lectures / readings (e.g. legitimacy; accountability)
3. If you don't already do so, get into the habit of reading a newspaper regularly – either in print or online. In class discussions, we will often talk about current political events in the world.

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
『On Democracy』	Robert Dahl / Yale University Press / 0300084552 / A useful general introduction to the topic.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Freedom House <http://www.freedomhouse.org/template.cfm?page=1>
 International IDEA <http://www.idea.int/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

Issues of Democracy (SB)

12310

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Democracy is a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What relationship is there, if any, between the classical democracy of ancient Athens and modern day democracies like Japan and the UK? What is the relationship between democracy and individual rights? Can modern communications technology improve the quality of democracy, and what is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

到達目標 / Attainment Objectives

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is only open to students enrolled on the Sansha English Fukusenken Programme.
Preferably, students will already have completed Academic English I, II & III before taking this course.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Defining democracy: key concepts and questions Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
2	Athenian democracy Reading from Robert Dahl, 'Democracy & Its Critics'	
3	How democratic was Athenian democracy? Reading from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'	
4	The Second Transformation: Democracy as Representative Government Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
5	Virtual Democracy? The democratizing potential of the Internet#1 Reading: 'Virtual Democracy?' tapescript	
6	Digital democracy: The democratizing potential of the Internet#2 Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
7	Electoral Systems: How can elections be 'free and fair'? Written assignment: Should voting be compulsory?	
8	ould voting be compulsory? Readings Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuinness, 'The case against compulsory voting'	
9	Measuring democracy: Basic criteria Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
10	Measuring democracy: The Freedom House index Reading from Freedom House, 'Freedom In The World'	
11	The Third Wave of Democracy Reading Renske Doorenspleet, 'Reassessing the Three Waves of Democratization'	
12	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#1 Reading & Research activity - Afghan democracy	
13	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#2 Reading from James Fishkin, 'The Voice of the People'	
14	Deliberative Polls - a new initiative for democracy	
15	Final Examination and Course Summary	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

This is a demanding course. Of course, as with other B-gun courses on the sansha English Fukusenken Programme, all classes are conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary. Regular attendance and active participation in class are essential.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
-----------	-----------------	-------------------------------

平常点評価	100 %	
-------	-------	--

-
1. The above schedule of classes may change. More details will be given in class.
 2. Students must complete all coursework in order to pass.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1. The readings provided on this course are authentic English texts – that is, they are the kinds of texts used by students at English-speaking universities. It's important that you complete the readings each week, but don't worry if you don't understand every word. Focus on the main ideas. Use the worksheet provided by the instructor to help you (the questions / tasks on the worksheet will help you to identify the main points in the reading).
2. Make a list of key words that come up in the readings. Certain key words / phrases will come up again and again in the lectures / readings (e.g. legitimacy; accountability)
3. If you don't already do so, get into the habit of reading a newspaper regularly – either in print or online. In class discussions, we will often talk about current political events in the world.

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
『On Democracy』	Robert Dahl / Yale University Press / 0300084552 / A useful general introduction to the topic.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Freedom House <http://www.freedomhouse.org/template.cfm?page=1>
 International IDEA <http://www.idea.int/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 伊東 寿泰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This is a fukusenko B-gun course with 2 credits mainly for the third year students. This course is designed to develop students' English language and academic skills through the study of sociolinguistics.

- 1) Students will be introduced to key vocabulary and some of the central themes of sociolinguistics.
- 2) Students will work to develop 4 English skills, especially reading and speaking skills, by a variety of study activities, including:
 - Lectures and explanations by the instructor;
 - Teacher directed and independent reading;
 - Research-based writing projects;
 - Student directed a pair or group presentation;
 - Class and group discussions.

到達目標 / Attainment Objectives

Students will be expected to:

- Develop an understanding of language and concepts related to the topic of sociolinguistics;
- Learn and use a variety of reading skills and content-analysis skills;
- Become familiar with research methodology to support written and oral arguments;
- Work with a partner or group to give a formal presentation of a high standard;
- Complete a short research/writing project as part of their preparation for the presentation;
- Communicate verbally in English with the instructor and classmates on a range of activities.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Introduction to the course: Overview of course objectives and requirements	Introduction to Sociolinguistics
第2回	Language & Society (Reading critically)	
第3回	Language & Society (Skimming / Scanning)	
第4回	Language & Geography (Essay structure)	
第5回	Language & Geography (Research method)	
第6回	Language & Social Class (Citation & references)	
第7回	Language & Social Class (Due: Essay Draft)	
第8回	Feedback on Essay Draft	Preparation for presentations
第9回	Language & Education	
第10回	Language & Education (Due: Essay)	
第11回	Language & Media	
第12回	Language & Culture	
第13回	Review	Final Class test
第14回	Group presentations, and Evaluation	
第15回	Group presentations, and Evaluation	Summary of the course

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho**

Students are required to read given materials in advance and to do writing assignments stated in the materials or instructed by the teacher.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Attendance and class participation (20%), Assignments including homework (10%), Research/writing project (20%), Presentation (25%), and Final Class Test (25%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Participation:

A high level of preparation outside of class as well as active participation in class will be required.

Responsibility of Absent Students:

Students who are absent from class must contact classmates to find out about work done or assigned during their absence. If absent on a day when an assignment is due, students must submit that assignment on their first day back in class.

Plagiarism:

Students must not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. A student who plagiarizes will receive a mark of zero for the assignment and may fail the course.

教科書 / Textbooks

The instructor will provide lesson materials through the webCT.

参考書 / Reference Books

All students will be expected to bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary to class each week.

Additional materials will be introduced in class.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 伊東 寿泰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This is a fukusenko B-gun course with 2 credits mainly for the third year students. This course is designed to develop students' English language and academic skills through the study of sociolinguistics.

- 1) Students will be introduced to key vocabulary and some of the central themes of sociolinguistics.
- 2) Students will work to develop 4 English skills, especially reading and speaking skills, by a variety of study activities, including:
 - Lectures and explanations by the instructor;
 - Teacher directed and independent reading;
 - Research-based writing projects;
 - Student directed a pair or group presentation;
 - Class and group discussions.

到達目標 / Attainment Objectives

Students will be expected to:

- Develop an understanding of language and concepts related to the topic of sociolinguistics;
- Learn and use a variety of reading skills and content-analysis skills;
- Become familiar with research methodology to support written and oral arguments;
- Work with a partner or group to give a formal presentation of a high standard;
- Complete a short research/writing project as part of their preparation for the presentation;
- Communicate verbally in English with the instructor and classmates on a range of activities.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Introduction to the course: Overview of course objectives and requirements	Introduction to Sociolinguistics
第2回	Language & Society (Reading critically)	
第3回	Language & Society (Skimming / Scanning)	
第4回	Language & Geography (Essay structure)	
第5回	Language & Geography (Research method)	
第6回	Language & Social Class (Citation & references)	
第7回	Language & Social Class (Due: Essay Draft)	
第8回	Feedback on Essay Draft	Preparation for presentations
第9回	Language & Education	
第10回	Language & Education (Due: Essay)	
第11回	Language & Media	
第12回	Language & Culture	
第13回	Review	Final Class test
第14回	Group presentations, and Evaluation	
第15回	Group presentations, and Evaluation	Summary of the course

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho**

Students are required to read given materials in advance and to do writing assignments stated in the materials or instructed by the teacher.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Attendance and class participation (20%), Assignments including homework (10%), Research/writing project (20%), Presentation (25%), and Final Class Test (25%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Participation:

A high level of preparation outside of class as well as active participation in class will be required.

Responsibility of Absent Students:

Students who are absent from class must contact classmates to find out about work done or assigned during their absence. If absent on a day when an assignment is due, students must submit that assignment on their first day back in class.

Plagiarism:

Students must not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. A student who plagiarizes will receive a mark of zero for the assignment and may fail the course.

教科書 / Textbooks

The instructor will provide lesson materials through the webCT.

参考書 / Reference Books

All students will be expected to bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary to class each week.

Additional materials will be introduced in class.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 東 自由里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Instructor: Julie Higashi (Professor, Faculty of Social Sciences)

A close look at statistical data will give us some understanding of the state of the world we live in today. Many of the world's problems are caused by the imbalance of resources between the rich, industrialized world and the poorer, developing nations. We will analyze issues that are related to four major themes: War, Conflicts, Women and Men, and Children. For sure, the facts and data introduced in this course will not only change your views of this world but also enable you to demonstrate the current condition of social problems we need to face around the world.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students are expected to present their own views and provide new data based on their research on the topic discussed in class from a critical point of view.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This class is not open for international students from 2007 spring. You have to be registered as a "fukusenko" student or a graduate student. The class is suitable for 3rd year students or above. Graduate students will be assigned extra work.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction to the Course: "If the world were a village of 100 people"	Grading system, goal of course, and pre-reading activities
2	PART I: WAR AND CONFLICTS (1)	"A quarter of the world's conflicts of recent years have involved a struggle for natural resources"
3	WAR AND CONFLICTS (2)	"Landmines kill or maim at least one person every hour"
4	WAR AND CONFLICTS (3)	"Every day, one in five of the world's population -- some 800 million people -- go hungry"
5	REVIEW and Short TEST (15%)	
6	A: Individual Presentations on landmines (or other weapons), conflicts for natural resources, or hunger in Africa	
7	MEN AND WOMEN (1)	"7 million American Woman and 1 milion American men suffer from an eating disorder"
8	MAN AND WOMEN (2)	"In more than 70 countries, same-sex relationships are illegal"
9	MAN AND WOMEN (3)	"Some 30 million people in Africa are HIV-positive"
10	Reveiw and Short Test No. 2 (15%)	
11	B: Individual Presentations on eating disorder, same-sex relationships, or AIDS (any other diseases)in Africa"	*Deadline*: Paper First Draft
12	PART III CHILDREN (1)	"There are 44 million Child laborers in India"
13	CHILDREN (2)	"There are 300,000 child soldiers fighting in conflicts around the world" *Deadline*: Paper Second Draft
14	C: Individual Presentations on child soldiers or child laborers	Q. and A. Discussion
15	REVIEW and SHORT TEST No. 3 (10%)	*Deadline*: Short paper final draft (20%)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

This course is conducted entirely in English. This course is open to *fukusenko* undergraduate and graduate students only and no longer open to international students. Your participation is a must to make this course successful. Please come to class *well prepared* with your reading assignment completed beforehand.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	In-Class short test No. 1: 15% No. 2: 15% No. 3: 10% Weekly Participation, reading assignment(30%) Presentation (10%) short paper (20%)

The course grade will be evaluated based on a continuous assessment. Therefore, if you miss taking the in-class test(s), there will be *no make-up* tests.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Please complete the reading assignments before you come to class. Your *active* participation in the discussion is a must to make this class a success.

Please buy the textbook from your favorite bookstore or the internet. You need to have the textbook in hand by the 2nd week of class. The textbook we are using is the *2007 edition.*

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
50 facts that should change the world	Jessica Williams / Icon Books / 978-1840468-46-5 / 2007 edition

Please buy the textbook from your favorite bookstore or the internet. You need to have the textbook in hand by the 2nd week of class. The textbook we are using is the *2007 edition.*

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Office hours and email address written on the handout syllabus distributed in class. You can also download it from the web. Pls. send your emails (in English) from your RU account only. All other mails from hotmail/yahoo/gmail/mobile phone mails will not be acknowledged. Contact: jhigashi[at mark]ss.ritsume.ac.jp

その他 / Others

担当者名 / Instructor 東 自由里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Instructor: Julie Higashi (College of Social Sciences)

A close look at statistical data will give us some understanding of the state of the world we live in today. Many of the world's problems are caused by the imbalance of resources between the rich, industrialized world and the poorer, developing nations. We will analyze issues that are related to four major themes: War, Conflicts, Men and Women, and Children. For sure, the facts and data introduced in this course will not only change your views of this world but also enable you to demonstrate the current condition of social problems we need to face around the world.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students are expected to present their own views and provide new data based on their research on the topic discussed in class from a critical point of view.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This class is not open for international students from 2007 spring. You have to be registered as a "fukusenko" student or a graduate student. The class is suitable for 3rd year students or above.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction to the course: "If the world were a village of 100 people"	Grading system, goal of course, and pre-reading activities
2	PART I: WAR AND CONFLICTS (1)	"A quarter of the world's conflicts of recent years have involved a struggle for natural resources"
3	WAR AND CONFLICTS (2)	"Landmines kill or maim at least one person every hour"
4	WAR AND CONFLICTS (3)	"Every day, one in five of the world's population -- some 800 million people -- go hungry"
5	REVIEW and Short TEST (15%)	
6	A: Individual Presentations on landmines (or other weapons), conflicts for natural resources, or hunger in Africa	Q. and A. and discussion
7	PART II MEN AND WOMEN (1)	"7 million American Woman and 1 million American men suffer from an eating disorder"
8	MAN AND WOMEN (2)	"In more than 70 countries, same-sex relationships are illegal"
9	MAN AND WOMEN (3)	"Some 30 million people in Africa are HIV-positive"
10	Review and Short Test No. 2 (15%)	
11	B: Individual Presentations on eating disorder, same-sex relationships, or AIDS (any other diseases) in Africa"	*Deadline*: Paper First Draft
12	PART III CHILDREN (1)	"There are 44 million Child laborers in India"
13	CHILDREN (2)	"There are 300,000 child soldiers fighting in conflicts around the world" *Deadline*: Paper Second Draft
14	C: Individual Presentations on child soldiers or child laborers	Q. and A. and discussion
15	REVIEW and SHORT TEST No. 3 (10%)	*Deadline*: Short paper final draft (20%)

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

This course is conducted entirely in English. This course is open to *fukusenko* undergraduate and graduate students only and no longer open to international students. Your participation is a must to make this course successful. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Short test No. 1: 15%; No. 2: 15%; No. 3: 10%
		Weekly Participation, reading assignment(30%) Presentation (10%) short paper (20%)

The course grade will be evaluated based on a continuous assessment. Therefore, even if you miss taking the in-class test(s), there will be no make-up tests.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Please complete the reading assignments before you come to class. Your *active* participation in the discussion is a must to make this class a success.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
50 facts that should change the world (2007 edition)	Jessica Williams / Icon Books / 978-1840468-46-5 /

Please buy the textbook from your favorite bookstore or the internet. You need to have the textbook in hand by the 2nd week of class. The textbook we are using is the *2007 edition.*

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Office hours and email address written on the handout syllabus distributed in class. You can also download it from the web. Pls. send your emails (in English) from your RU account only. All other mails from hotmail/yahoo/gmail/mobile phone mails will not be acknowledged by your instructor.

その他 / Others

Study Abroad Program (S)

20294

担当者名 / Instructor 坂本 利子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

Study Abroad Programは、これまでみなさんが培ってきた総合的な英語運用能力を基礎としつつ、専門領域における英語運用能力向上のための短期集中プログラムです。本プログラムでは、講義はもちろんのこと、フィールドトリップや小旅行などを通して、オーストラリアの社会・歴史・文化などについての理解を深め、英語運用能力の更なる向上をめざしていきます。出発前に4回の事前学習を英語教員(オーストラリア出身)の指導のもとで行います。その後、University of Southern Queensland(USQ)(オーストラリア クイーンズランド州)で20時間の英語スキルトレーニング、60時間の講義、フィールドトリップ、小旅行からなる5週間の夏期研修プログラムを実施します。さらに帰国後も成果を公表するためにポスター展示と文集作成があります。

到達目標 / Attainment Objectives

必修英語の履修を通じて学んできた総合的な英語運用能力を基礎に、産業社会学部でさまざまな専門を学ぶ学生の関心と必要に応じた短期集中特別プログラムを通じて、専門領域でも役立つ英語運用能力をさらに向上させるとともに、フィールドトリップや講義を通して派遣先の国の社会、歴史、文化についての理解を深めます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

英語副専攻の学生は、A群科目を履修していること。産業社会学部英語副専攻の履修者以外から参加者を募る場合は、別途案内します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
----------	-------------	------------------

- ①事前学習(4回):オーストラリアの歴史・文化・社会などの諸問題の学習を進めます。
- ② USQとの遠隔授業を実施します。
- ③ 留学・渡航手続に関するガイダンスを実施します。
- ④ 帰国後の成果物作成について説明を行います。

現地ではUniversity of Southern Queensland 所属の担当教員から詳しい予定表、成績のつけ方について資料が配布されますので、それを参照すること。

留学の成果物として、ポスターと報告集を作成します。ポスターは完成後、掲示・公開します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ホームステイの滞在なので、ホストファミリーとの交流を深めるためにも、通常の英語クラスでは、特に積極的に英語で話すように努力をすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習、オーラルプレゼンテーション、エッセイライティング、出席、参加度を含む。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

ドイツ語の基礎を終えた人に、ドイツの社会なども紹介しつつ、ドイツ語のレベルアップをしてもらう授業です。ドイツの公共放送テレビZDFのニュースを数多く見つつ、読む力、聞く力も身につけることを目指します。ドイツのニュースに数多く登場する話題は、1、ナチスの負の遺産(ホロコースト)、2、環境大国ドイツ、3、科学技術大国ドイツ、4、ドイツの子供、若者、家庭、5、異文化の統合(トルコ人移民問題)、6、テロとの戦い、7、キリスト教国ドイツ、8、その他文化の諸相(スポーツ、食事、交通、法律、連邦軍、ドイツメディアに映った日本など)です。毎回いくつかのニュースを見ます。そしてテキスト(ニュースの原稿です)も読んでゆきます。ドイツ語はどう読むのかを解説します。毎時間の終わりの20分くらいは、ドイツ文化理解の一環として、ワグナーのオペラをお見せします。前期に1~4を、後期に5~8を取り上げてゆこうと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

発音のレベルアップ。
読解力のレベルアップ。
聴取力のレベルアップ。
ドイツ文化についてのある程度の知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンスと実力診断	一年間の授業の進め方、評価方法を説明します。教材もお渡ししますので、授業を取る人は、必ず出席して下さい。
2	シリーズ1、ナチスの負の遺産(1) 「アウシュヴィッツ解放(1945.1.27)記念式典(2007/1/28のニュース)」をこれから三回の授業を使って読んでゆきます。 この関係のニュースは多く、「ナチス政権下の強制労働の被害者(16万人)への補償金(45億ユーロ)払い終わる」(07/6/6)や、「ナチの親衛隊とゲシュタポ本部の跡地に展示ホール設置」(07/11/3)、「メディアによる反ナチネスネットワーク結成、サッカー代表バラックも参加」(08/5/6)、「アウシュヴィッツで、元収容者とドイツの若者が対話」(08/5/10)などのニュースがあります。その映像も、3回に分けて見てゆきます。	さまよえるオランダ人、前奏曲
3	シリーズ1、ナチスの負の遺産(2)	さまよえるオランダ人、第一幕
4	シリーズ1、ナチスの負の遺産(3) シリーズ1の教材を使って、最後に小さな実力テストを行います。	さまよえるオランダ人、第二幕
5	シリーズ2、環境大国ドイツ(1) 「EUの地球温暖化対策(2007/1/11のニュース)」を、これから四回の授業を使って読んでゆきます。 この関係のニュースは、ドイツのマスコミに登場する頻度が多くなる。「北極と南極の姿」(07/3/2)、「あと20年で無くなるツークシュピッツェの氷山」(07/5/4)、「最も環境にやさしい車は？日本のハイブリッド車」(08/8/21)、「客のステップで発電するエコ・ディスコ」(08/9/6)など、実に多岐にわたっています。それらを4回に分けて見てゆきます。	さまよえるオランダ人、第三幕
6	シリーズ2、環境大国ドイツ(2)	タンホイザー、序曲
7	シリーズ2、環境大国ドイツ(3)	タンホイザー、第一幕
8	シリーズ2、環境大国ドイツ(4) シリーズ2のテキストを使って、最後に小さな実力テストを行います。	タンホイザー、第二幕

9	シリーズ3、科学技術大国ドイツ(1) 「サイボーグの腕」(06/9/16のニュース)をこれから三回の授業を使って読んでゆきます。 この関連もニュースが多く「ハノーファーのコンピュータメッセ」(07/3/13)、「世界最大の地下3.4kmのX線顕微鏡」(07/6/6)、「ロボットゴキブリでゴキブリ退治」(07/12/22)、「人間の精巣からES細胞形成に成功」(08/10/10)などがあります。3回の授業で順に見てゆき	タンホイザー、第三幕
10	シリーズ3、科学技術大国ドイツ(2)	ローエン格林、序曲
11	シリーズ3、科学技術大国ドイツ(3) シリーズ3のテキストを使って、最後に小さな実力テストを行います。	ローエン格林、第一幕
12	シリーズ4、ドイツの子供、若者、家族(1) 「DNA親子鑑定の法律改正」(07/3/28のニュース)を、これから三回の授業を使って読んでゆきます。 この関係のニュースも多く、「青少年の飲酒問題」(07/3/14)、「父親の育児休暇増加」(07/5/17)、「国際読解力テストでドイツは45国中11位」(07/11/29)「未成年少女の美容整形の政治的禁止を求める声」(08/4/24)などがあります。三回の授業で順に見てゆきます。	ローエン格林、第二幕
13	シリーズ4、ドイツの子供、若者、家族(2)	ローエン格林、第三幕
14	シリーズ4、ドイツの子供、若者、家族(3) シリーズ4のテキストを使って、最後に小さな実力テストを行います。	リクエスト
15	実力診断テストとその解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	4回の小さな実力テストと、 最終回の実力診断テストで判定します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリントを配ります。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://home.comcast.net/%7Edkalischer/WebRadio/DeutscherRundfunk.htm> (ドイツのラジオが聞けます。)
<http://www.n-tv.de/> (ドイツのニュースを生放送で見ることができます。)
<http://www.tagesschau.de/> (ドイツのニュースを録画で見ることができます。)
<http://www.dw-world.de/> (ドイツの様々な情報が得られます。)

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

異文化研究I (SB)

11917

担当者名 / Instructor BOUVARD JULIEN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日常生活の生活場面で使われる言葉が理解できるように、聞く・話す・読む・書くの4能力をバランスよく養成し、フランス語会話の基礎を身につけると共に、フランス語が話されている地域への理解、または映画・アニメ・マンガ・歌などの大衆文化の紹介を通じてフランス文化についての知識を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

フランスの日常生活や文化や社会などについての簡単なエッセイを読んで様々な現代の話題に関しての意見を言うことができること。フランスの社会と日本の社会を比較して国際理解を深めることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

フランス語 表現I・II

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業構成の説明/資料の紹介	
第2回目	フランス人の日常生活について話す	
第3回目	フランス人の日常生活について話す (日本の日常生活と比較する)	
第4回目	フランス人の趣味と自由時間について話す	
第5回目	フランス人の趣味と自由時間について話す (日本の状態と比較する)	
第6回目	フランスのメディア業界について話す	
第7回目	フランスのメディア業界について話す (2)	
第8回目	フランスのメディア業界について話す (日本のメディア業界と比較する)	
第9回目	フランスのマンガについて話す	
第9回目	フランスのマンガについて話す (2)	
第10回目	フランスのマンガについて話す (日本のマンガと比較する)	
第11回目	フランスの家族について話す	
第12回目	フランスの家族について話す (2)	
第13回目	フランスの家族について話す (日本の家族と比較する)	
第14回目	フランスでの宗教の事情	
第15回目	フランスでの宗教の事情 (2)	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	発表、参加、出席を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	///
プリント	

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

異文化研究I (SC)

12897

担当者名 / Instructor 緒方 賢一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

中国の現在の政治・経済・文化について様々なアプローチを試みる。テキストを中心に授業を行うが、随時その他のメディア(映画・ドラマ・小説・漫画など)も取り入れて、多角的な視野から中国という国を眺めてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

中国語に習熟するとともに、中国の“今”に関する自分なりの見方を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第一課「中国人2009年念頭の願い」	
第2回	第一課「中国人2009年念頭の願い」	
第3回	第二課「中国人をファッションステージに」	
第4回	第二課「中国人をファッションステージに」	
第5回	第三課「二つの故宮博物院」	
第6回	第三課「二つの故宮博物院」	
第7回	第四課「大都市ごぼれ話」	
第8回	第四課「大都市ごぼれ話」	
第9回	第五課「“家電を農村へ”政策を巡って」	
第10回	第五課「“家電を農村へ”政策を巡って」	
第11回	第六課「簡体字論争とネット言語論争」	
第12回	第六課「簡体字論争とネット言語論争」	
第13回	第七課「中国企業、いざ日本へ」	
第14回	第七課「中国企業、いざ日本へ」	
第15回	小テスト(60分) + 講義(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	
中国語の辞書は必携。電子辞書も可。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

必ず予習を行ってこよう。予習を忘れた場合は欠席扱いとする。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
2010年度版 時事中国語の教科書	三猪正道・陳祖蓓 / 朝日出版社 / 9784255451879 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

ドイツ語の基礎を終えた人に、ドイツの社会なども紹介しつつ、ドイツ語のレベルアップをしてもらう授業です。ドイツの公共放送テレビZDFのニュースを数多く見つつ、読む力、聞く力も身につけることを目指します。ドイツのニュースに数多く登場する話題は、1、ナチスの負の遺産(ホロコースト)、2、環境大国ドイツ、3、科学技術大国ドイツ、4、ドイツの子供、若者、家庭、5、異文化の統合(トルコ人移民問題)、6、テロとの戦い、7、キリスト教国ドイツ、8、その他文化の諸相(スポーツ、食事、交通、法律、連邦軍、ドイツメディアに映った日本など)です。毎回いくつかのニュースを見ます。そしてテキスト(ニュースの原稿です)も読んでゆきます。ドイツ語はどう読むのかを解説します。毎時間の終わりの20分くらいは、ドイツ文化理解の一環として、ワグナーのオペラをお見せします。前期に1~4を、後期に5~8を取り上げてゆこうと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

発音のレベルアップ。
読解力のレベルアップ。
聴取力のレベルアップ。
ドイツ文化についてのある程度の知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	シリーズ5、異文化の統合(トルコ人移民問題)(1) 「トルコ首相の講演を機に Assimilation(同化)か Integration(統合)かの議論」(08/2/13のニュース)を、これから三回の授業を使って読んでゆきます。 この関係のニュースは、「メルケル首相、移民の子供たちと対話」(07/5/9)、「新移民法は人種差別か?」(07/7/12)、「ドイツ帰化を希望する外国人が受けるべきテスト、発表さる」(08/7/9)、「移民の子の二重国籍を認めるべきか否か」(08/7/11)「シンティとロマ(いわゆるジプシーの人々)の生活改善をEUで会議」(08/9/17)などです。3回に分けて見てゆきます。	トリストアンとイゾルデ、序曲
2	シリーズ5、異文化の統合(トルコ人移民問題)(2)	トリストアンとイゾルデ、第一幕
3	シリーズ5、異文化の統合(トルコ人移民問題)(3) シリーズ5のテキストを使って、最後に小さな実力テストを行います。	トリストアンとイゾルデ、第二幕
4	シリーズ6、テロとの戦い(1) 「9.11の5年目の追悼式」(06/9/12のニュース)を、これから三回の授業を使って読んでゆきます。 この関係のニュースとしては、「テロ対策のため国はどこまで個人情報に入っているのか」(07/4/20)、「テロリストにのっとられた飛行機は撃墜してよいのか」(07/9/20)、「イラク侵攻、5周年」(08/2/20)などがあります。三回に分けて見てゆきます。	トリストアンとイゾルデ、第三幕
5	シリーズ5、テロとの戦い(2)	ニュルンベルクのマイスタージンガー、序曲
6	シリーズ6、テロとの戦い(3) シリーズ6のテキストを使って、最後に小さな実力テストを行います。	ニュルンベルクのマイスタージンガー、第一幕
7	シリーズ7、キリスト教国ドイツ(1) 「ホロコースト否定の保守聖職者の破門を解いたローマ法王に批判広がる」(09/2/3のニュース)を、これから三回の授業を使って読んでゆきます。 この関係のニュースは、この関係でしたら「メルケル首相、ローマ法王庁を異例の批判」(2/4)、「ローマ法王庁からの明確な言葉なし」(2/5)、「メルケル首相に「越権行為」との批判の声」(2/6)などがあり、他には「ローマ法王イスラエル訪問。まずホロコースト記念館へ」(09/5/12)、「カルヴァン生誕500年式典」(09/7/11)などがあります。	ニュルンベルクのマイスタージンガー、第二幕
8	シリーズ7、キリスト教国ドイツ(2)	ニュルンベルクのマイスタージンガー、第三幕

9	シリーズ7、キリスト教ドイツ(3) シリーズ7のテキストを使って、最後に小さな実力テストを行います。	パルジファル、序曲
10	シリーズ8、その他文化の諸相(スポーツ、食事、交通、法律、連邦軍、ドイツメディアに映った日本など)(1) 「ドイツ連邦軍の若い兵士の4割が肥満」(08/3/5のニュース)を、これから5回の授業を使って読んでゆきます。 この関係のニュースは、それぞれ無限にあって「バイエルンミュンヘンの監督にクリンスマン起用」(07/1/12)、「宇宙食の缶詰を作るため、超一流シェフをスカウト」(08/2/16)、「150年の歴史の鉄道模型メルクリン、経営破綻」(09/2/5)、「妊娠23週以降の中絶に対する相談と助言」(08/12/19)、「日本と捕鯨」(07/2/14)などがあります。	パルジファル、第一幕
11	シリーズ8、その他文化の諸相(2)	パルジファル、第二幕
12	シリーズその8、その他文化の諸相(3)	パルジファル、第三幕
13	シリーズその8、その他文化の諸相(4)	リクエスト、その1
14	シリーズその8、その他文化の諸相(5) シリーズ8のテキストを使って、最後に小さな実力テストを行います。	リクエスト、その2
15	実力診断テストとその解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	4回の小さな実力テストと、 最終回の実力診断テストで判定します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリントを配ります。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://home.comcast.net/%7Edkalischer/WebRadio/DeutscherRundfunk.htm> (ドイツのラジオが聞けます。)
<http://www.n-tv.de/> (ドイツのニュースを生放送で見ることができます。)
<http://www.tagesschau.de/> (ドイツのニュースを録画で見ることができます。)
<http://www.dw-world.de/> (ドイツの様々な情報が得られます。)

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

異文化研究II (SB)

12008

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日常生活な生活場面で使われる言葉が理解できるように、聞く・話す・読む・書くの4能力をバランスよく養成し、フランス語会話の基礎を身につけると共に、フランス語が話されている地域への理解、または映画・アニメ・マンガ・歌などの大衆文化の紹介を通じてフランス文化についての知識を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

フランスの日常生活や文化や社会などについての簡単なエッセイを読んで様々な現代の話題に関しての意見を言うことができること。フランスの社会と日本の社会を比較して国際理解を深めることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

フランス語 表現I・II

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業構成の説明/資料の紹介	
第2回目	フランスの教育制度について話す	
第3回目	フランスの教育制度について話す (2)	
第4回目	フランスの教育制度について話す (3)	
第5回目	フランスの教育制度について話す (日本の教育制度と比較する)	
第6回目	フランス映画について話す	
第7回目	フランス映画について話す (2)	
第8回目	フランス映画について話す (3)	
第9回目	フランス映画について話す (日本の映画と比較する)	
第10回目	フランスのアニメについて話す	
第11回目	フランスのアニメについて話す (2)	
第12回目	フランスのアニメについて話す (日本のアニメと比較する)	
第13回目	フランスのシャンソンについて話す	
第14回目	フランスのシャンソンについて話す (2)	
第15回目	フランスのシャンソンについて話す (日本の歌の比較する)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	発表、参加、出席を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	///
プリント	

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

異文化研究II (SC)

15523

担当者名 / Instructor 緒方 賢一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

中国の現在の政治・経済・文化について様々なアプローチを試みる。テキストを中心に授業を行うが、随時その他のメディア(映画・ドラマ・小説・漫画など)も取り入れて、多角的な視野から中国という国を眺めてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

中国語に習熟するとともに、中国の“今”に関する自分なりの見方を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第八課「魅惑の地麗江、風趣満載」	
第2回	第九課「明日の仕事は一体どこに」	
第3回	第十課「震災後の北川、初めての集団結婚」	
第4回	第十一課「飲食が中国人の健康に脅威」	
第5回	第十二課「世界で唯一活況を呈する自動車市場」	
第6回	第十三課「“四不像”里帰りの物語」	
第7回	第十四課「中国の代表的ニュースキャスター羅京」	
第8回	第十五課「ネットで嫁さん募集、真剣なんです！」	
第9回	第十六課「漢族の民族服はいかが？」	
第10回	第十七課「男女の退職年齢一本化、路険し」	
第11回	第十八課「卓球と中国人」	
第12回	中国のネットを見てみよう。	
第13回	中国語字幕で映画を見てみよう。	
第14回	中国語の歌を聴いてみよう。	
第15回	テスト(60分)+講義(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

中国語の辞書は必携。電子辞書も可。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

必ず予習を行ってこよう。予習を忘れた場合は欠席扱いとする。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
2010年度版 時事中国語の教科書	三渚正道・陳祖蓓 / 朝日出版社 / 9784255451879 /

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

インターンシップ入門 (GA) § キャリア形成特殊講義 (SE) § ヴィジョン形成特殊講義 (インターンシップ入門) (GA) § 特殊講義 (インターンシップ入門) (GA)

15402

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、単にインターンシップに向けた入門的・準備的な講義ではありません。インターンシップは優れた産学連携教育プログラムの一つです。その意味や意義を「基礎学習」で理解した上で、「実践学習」、「発展学習」、「総括学習」の各段階に進みます。特に実践学習では、専攻の異なる学部生が少人数のグループを編成し、現実の課題に立ち向かうユニークな授業が展開されます。その結果、3年生時に集中するインターンシップに向けて必要とされる教養、知識、スキルなどを修得するばかりでなく、その後の就職活動や卒業後のキャリア形成にもつながる幅広い学びを実現します。

到達目標 / Attainment Objectives

「基礎学習」では、産学連携教育の意義と高度人材との関わりを考察します。「実践学習」では週末集中講義形式(2講義×2回)をとり、外部講師を招き現実課題に学部複合チームで取組むことで企画立案能力とプレゼンテーション能力を習得します。「発展学習」では一転、科学的にインターンシップを理解することを目指します。その上で、高倍率時代を迎えているインターンシップのエントリーを確実に通過できるための戦略的スキルなどを、「総括学習」でマスターします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義と同じキャリア教育科目の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目)の受講が望まれます。また、3年生以上の受講生は「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目)の受講や、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3年生以上後期配当科目)にもチャレンジしてください。さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3年生以上配当科目、衣笠開講)も夏期集中講義として開講されますので、3年生以上でさらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【基礎学習】	
第1回目	テーマ/キャリア教育考 (加藤/講義+グループワーク)	概要/一人称から二人称へ。インターンシップを通じて身につけるべき科学的な視座とは何かを学ぶとともに、所属する学部の学びを検証するインターンシップ本来の意味も理解する。
第2回目	テーマ/産学連携教育と高度人材 (加藤)	概要/インターンシップからキャリア教育まで、定義を中心に科学的に産学連携教育を理解し21世紀型高度人材とは何かを考察する。
	【実践学習】	
	※5、6回と7、8回は3週空けて週末(土曜)に連続講義形式で行います。	
第3回目	テーマ/問題発見と課題解決に向けて① (加藤/講義+グループワーク)	概要/論理的思考法、討論技法をもとに、問題発見、課題解決、企画立案の基礎的スキルを学習する。
第4回目	テーマ/問題発見と課題解決に向けて② (加藤/講義+グループワーク)	概要/発想法をもとに、問題発見、課題解決、企画立案の基礎的スキルを学習する。
第5、6回目(10月第4週土曜)	テーマ/企画立案への挑戦① (講師:菅野聡之、セガエンタテインメント施設開発統括部長/犬走泰信、ららぽーとリテール事業部長/講義+グループワーク)	概要/学外講師2名を招き、2教室に分かれ2回連続の週末集中講義を実施。現実課題の企画立案に学部複合チームで挑戦する。第6回目は、ビジネス社会における企画立案の重要性や、そこに求められる基礎知識や素養等をまず講師が指導。その上で、現実的な課題が講師から提示される。第7回目は、学部の異なる顔ぶれのチームに分かれ問題発見や課題解決に向けた議論を展開する。
第7、8回目(11月第3週土曜)	テーマ/企画立案への挑戦② (同上/グループ別発表と評価、総括)	概要/前回授業から3週間にわたりチームで取り組んできた企画立案の発表。2回連続の週末集中講義形式。終盤に、発表に対する評価コメントと総括が講師からなされる。
	【発展学習】	
第9回目	テーマ/行政の目線でとらえる人材 (公務研究科教員)	概要/インターンシップの受入者のひとつに行政がある。インターンシップ業務の内容も企業と異なり、街づくり支援や環境への取組みなど、社会性・公共性が強い。行政独自の官学連携教育のあり方について学習する。

第10回目	テーマ/コンテンツ人材とは (映像学部教員)	概要/従来のモノづくりの尺度で規定できる仕事から、多様な業務に対応可能な企画・制作ノウハウを多面的に併せ持つコンテンツ型人材へと、理想的な人材像が急速に変化している。本講義ではコンテンツ型人材とコンテンツ産業の解析を行った上で、インターンシップにおける望ましい学びについて考察する。
第11回目	テーマ/ベンチャーマインド(精神)を考える (経営学部教員)	概要/就職を前提としない進路選択の一つに、起業がある。創造性と高い目標や志を求められるベンチャー起業を教材に、自律的なインターンシップの学びを検証する。
【総括学習】		
第12回目	テーマ/戦略的エントリー法① (加藤)	概要/高倍率のインターンシップエントリーに対処するための連続講義。1回目は初級・中級編。小手先の文章作成スキルでは高倍率のエントリーを突破できない。講義では論理思考に基づく作文法をもとに「読み手の心に刺さる」文章の作成法を学習する。
第13回目	テーマ/戦略的エントリー法② (加藤)	概要/連続講義の2回目は上級編。1回目の授業で培われた基礎的文章力をもとに、高倍率のエントリーに通用する確かな作文能力の習得を目指す。
第14回目	テーマ/受入者から見たインターンシップ (インターンシップ受入れ会社役員)	概要/インターンシップの受入れ側は何を学生に求め、何を求めているのか。本学との間で様々なインターンシッププログラムを展開する企業から講師を招き、受入者の視座からインターンシップの客観的分析を試みる。
第15回目	テーマ/大学での学びとインターンシップ (加藤+グループワーク)	概要/最終講義では総括的授業を行った上で、グループワークを通じて内省化を図る。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

インターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	10 %	「基礎学習」、「実践学習」、「発展学習」、「総括学習」の4つの学習カテゴリーの理解度とともに、エントリーシート作成を中心に筆記試験形式で検証します。
平常点評価	90 %	①出席状況、②受講態度、③実践学習(第6～9講)のチーム成果、④エントリーシート(第14講)、の4要素をもとに評価しますが、評価の中核をなすのは「出席状況」です。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の留意点は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。90%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に、時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

大規模教室でありながら、グループワークが数多く導入される講義です。グループワークは様々な形で評価に影響します。よって、常に能動的な受講意志を持つことが肝要です。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明/立命館大学//日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明/立命館大学//コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	/産学連携教育日本フォーラム//国内外のインターンシップに関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。

主に「基礎学習」の参考書を3冊挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

春期のインターンシップ・ガイダンスに参加すると、参加者全員に「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、インターンシップに関連するサイトが紹介されます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

インターンシップ入門に関わる履修上の質問は、コーディネーター教員である加藤(katoshi@fc.ritsumeai.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Others

インターンシップオフィスは情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。受講で得られた各種の能力、スキルを大いに生かすためにも。

キャリア形成特殊講義 (SD)

15447

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業の目的は、さまざまな業種・職種の職業理解を通じて、自己の個性や職業適性について考え、将来を考えた大学での学びのモチベーションづくりや自律的な進路選択の一助とすることにある。同時に、フィールドワークを伴う実践型授業を通して、企画構想力、分析力、表現力、実践力、チームで協同して課題を遂行する能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などを涵養することも目指す。

具体的には、外部講師による講演、本学卒業生によるパネルディスカッション、文献調査によるさまざまな業種・分野の職種と職種要件(資格・語学・アカデミックキャリアなど)の調査、OB・OGへのインタビュー調査・企業見学、パワーポイントによるプレゼンテーション・討論などを予定している。なお、1グループ4~5名程度のグループワークとし、訪問先企業は初回授業時に抽選により決定する。

※ 2009年度訪問先企業(参考): イシダ、ニトリ、阪急電鉄、クラブマーヴィーズ、京都銀行、毎日放送、京都府庁。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・卒業後の人生・仕事と学生生活との関連についてイメージできる。
- ・さまざまな業種・職種についてその職業適性ととも理解できる。
- ・インタビュー調査の基本的な手法・マナーを理解して実践できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1・2回生推奨。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	概要説明、業界・企業研究の方法	
2	業界・企業研究(Ⅰ)外部講師による講演・質疑応答	
3	業界・企業研究(Ⅱ)外部講師による講演・質疑応答	
4	業界・企業研究(Ⅲ)本学卒業生によるパネルディスカッション	
5	業界・企業研究(Ⅳ)	
6	業界・企業研究(Ⅴ)	
7	フィールドワーク事前ガイダンス	
8	フィールドワーク実習・プレゼンテーション準備(Ⅰ)	
9	フィールドワーク実習・プレゼンテーション準備(Ⅱ)	
10	フィールドワーク実習・プレゼンテーション準備(Ⅲ)	
11	プレゼンテーション・討論(Ⅰ)	
12	プレゼンテーション・討論(Ⅱ)	
13	プレゼンテーション・討論(Ⅲ)	
14	プレゼンテーション・討論(Ⅳ)	
15	礼状作成、授業のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

自らが取材する企業・業界についての研究をしっかり行い、理解を深め、十分な準備をしてから、インタビュー調査に臨むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業への出席を重視する。業界・企業研究レポート、パワーポイントプレゼンテーション、コミュニケーションペーパーなどを評価。

P(合格)またはF(不合格)として評価する。欠席は4回以上でF評価とする。

第1回目の授業で授業の進め方や成績評価などの重要な説明を行うので必ず出席すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業は多くの先輩や企業の教育に対する理解と協力・連携により成り立っている。

そのため、信頼関係を損なうような行為(無断欠席・遅刻・私語など)に対しては厳しく対処する。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sugimot@ss.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

キャリア形成特殊講義(SF) § キャリア形成論Ⅲ(コーオペ教育概論)(GA) § コーオペ教育概論(L) § 政策科学特殊講義(コーオペ教育概論)(P) § 特殊講義(コーオペ教育概論)(W) § 特殊講義(基礎)1(コーオペ教育概論)(G1) § 特殊講義(基礎)I(コーオペ教育概論)(T) § 特殊講義(自由選択)I(コーオペ教育概論)(T) § 特殊講義(各部門共通)I(RK)

20227

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、約半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラム、コーオペ演習と教育的にリンクする科目として開講される夏期集中講義です。対象は全学で、学部や大学院の枠組みを超えた顔ぶれが受講するほか、大学コンソーシアム京都を通じた公開授業でもあり、学外からも受講生が参加します。演習名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオペ教育(Cooperative Education)に由来しています。9月第一週の夏期集中講義で、衣笠・BKCの隔年開講です。2010年度は衣笠での開講です。本科目は大学院生及び学部生が共に受講します。

到達目標 / Attainment Objectives

科目名称のコーオペ教育にふさわしく、講義全体を通じて、①高度な産業社会に通用する高い問題発見・課題解決能力の涵養、②学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、③自律的な学習意志・姿勢の確立、を旨とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義に教育的にリンクする講義として、「コーオペ演習」(3年生以上後期配当科目)が開講されています。同演習受講生は、必ず受講することが望まれます。

また、本講義は全学型キャリア教育科目にも位置づけられていることから、同じ科目群の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目)の受講も勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1日目]		
1講(2限)	テーマ/導入-コーオペ教育とは (加藤)	概要/1906年に米国・シンシナティ大学で導入されて以来、一世紀に及ぶコーオペ教育の歴史や、近年日米とも大きな高まりを見せるキャリア教育の動向などを解説する。
[第2日目]		
2講(3限)	テーマ/理論を实践する1 (課題の提示と解説、学外講師)	概要/学外講師として渡海一博ドリームリンクス代表取締役を招き、現実の課題をもとに13、14講の発表に向け受講生がチームを結成してその解決立案に挑戦する。
3講(4限)	テーマ/理論を实践する2(問題の発見と課題の整理、学外講師)	概要/前講義で示された現実の課題を受けて、学外講師の指導の下で受講生チームが問題の発見と課題の整理をグループワークを通じて実践する。
4講(5限)	テーマ/理論を实践する3(問題の発見と課題の整理、加藤)	概要/前講義で示された現実の課題を受けて、受講生チームが問題の発見と課題の整理をグループワークを通じて実践する。
[第3日目]		
5講(3限)	テーマ/①技術者として生きて、②メディア人として生きて(いずれも学外講師)	概要/理系、文系の両クラスに分かれ、職業人生を考察する連続講義。理系クラス講師は丸山 博京セラ部品研究開発本部責任者、文系クラス講師は桑原 毅京都新聞社編集局次長。5講終了時にグループワーク課題が講師から提示され、6、7講ではそれをもとに学習する。
6、7講(4、5限)	テーマ/①21世紀の技術者人生を考える、②21世紀のメディア人人生を考える	概要/前講義をもとに、グループワークを通じて21世紀に向けての職業人生を考察する。
[第4日目]		
8講(3限)	テーマ/理論を学ぶ1 (学外講師)	概要/講師に、溝上慎一京都大学高等教育研究開発推進センター准教授を招き、教育学から見た産学連携教育について学習する。講義の終了時に、9講のグループワーク課題が提示される。
9講(4限)	テーマ/理論を学ぶ2 (同上)	概要/前回講義で提示された課題に、受講生がグループワークを通じて取り組む。
[第5日目]		
10、11、12講(3、4、5限)	テーマ/理論を实践する4(企画立案への挑戦、加藤)	概要/2講、3、4講を受けて、受講生チームが翌日の企画立案発表に向けて準備を行う。

[第6日目]

13、14講(3、4限)	テーマ/理論を实践する5(企画立案発表、学外講師)	概要/2講、3講、4講、10、11講、12講を通じて積み上げてきた企画立案を受講生チームが発表する。
15講(5限)	テーマ/理論と実践を総括する(加藤)	概要/コーディネーター教員が講義全体を総括した上で、総括レポートを作成し講義時間内に提出する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義には産業界からも受講生が参加します。グループワークなどを通じて社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。特に、コーオプ演習受講生は、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかりと目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	10 %	最終授業で総括レポートを課します。
平常点評価	90 %	①出席状況、②学習姿勢、③チーム別の企画立案発表(13、14講)、の3要素をもとに総合的に評価しますが、中核をなすのは「出席状況」です。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の留意点は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は公開講座を除き、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきま。90%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は大学院生や学外からの受講生を交え、グループワークなど双方向型の授業形式を数多く採り入れていますので、受講生自らが学び取るという能動的な姿勢が強く求められます。教室内でビジネス社会と触れ合う良い機会です。多くのものを学んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明/立命館大学//日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明/立命館大学//コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
キャリア教育－歴史と未来	Kenneth B. Hoyt, 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄訳/雇用問題研究会//キャリア教育の先駆的立場にある米国の歴史的展開を整理。その上で、今後の方向性を示すキャリア教育の基本書。
インターンシップ産学連携教育白書	/産学連携教育日本フォーラム//国内外のコーオプ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊
アメリカの産学連携	宮田由紀夫/東洋経済新報社//産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。

コーオプ教育の基本書を5冊挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

学外講師の所属する企業、団体の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

本演習に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤 (katoshi@fc.ritsumei.ac.jp) まで問い合わせてください。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

キャリア形成特殊講義 (SG)

15346

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒、水野 篤夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
- キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
- 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

青少年の自立と成長をどのように促進するのか。この問いは青少年教育において古くからあるものだ。しかし、ニートや引きこもりの増加に見られるように、若者を巡る課題や社会環境は複雑化し続けており、近年、改めてクローズアップされる問いとなっている。こうした現況にあって、青少年の自立と成長を促進する専門職(いわゆる「ユースワーク」)に対して注目が集まっている。

本講義では、若者の自立と成長をどのように促進するのかという問いに対し、実践的な答えを提示しつつ、受講生とともに新たな企画・政策の立案を試みたい。その際、実際に「わかものを元気にする仕事」に従事している方々をゲストにお招きする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義を通じて、個々の青少年の課題と向かい合うと同時に、そうした課題を生起させている社会構造にも目を向けることを受講生には期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクションーユースサービスとは何か?	ユースサービス 青年 若者 思春期
第2回	現代日本の青少年が抱える課題を考える(ワークショップ)	ポスト青年期
第3回	ユースサービスの実践から学ぶ①ー非行・犯罪と青少年	非行 少年犯罪
第4回	ユースサービスの実践から学ぶ②ーセクシュアルヘルスと青少年	セクシュアルヘルス リプロダクティブヘルス
第5回	ユースサービスの実践から学ぶ③ーニート、フリーターと青少年	ニート フリーター 就労
第6回	ユースサービスの実践から学ぶ④ー不登校、引きこもりと青少年	不登校 引きこもり
第7回	ユースサービスの実践から学ぶ⑤ードラッグ依存と青少年	依存 薬物
第8回	ユースサービスの実践から学ぶ⑥ー多文化共生と青少年	多文化共生
第9回	ユースサービスの実践から学ぶ⑦ー政治参加/社会参加と青少年	政治参加 社会参加
第10回	海外のユースサービスの活動を知る	イギリス ユースワーク
第11回	ユースサービスの基本プロセスを学ぶ	ユースサービスの企画/政策の立案、実施、見直し、フィードバック
第12回	現代日本の青少年のニーズを調べる(グループワーク)	
第13回	現代日本の青少年のニーズを調べる(グループワーク)	
第14回	新たなユースサービスの取り組みを企画するーグループ発表会①	
第15回	新たなユースサービスの取り組みを企画するーグループ発表会②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	グループ発表およびレポートの提出
平常点評価	60 %	講義の最後にミニレポートを課す場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、青少年支援のあり方について、多角的に学ぶと同時に、受講生自身が新しいユースサービスプログラムを考案する場でもある。したがって、したがって恒常的な出席が難しい学生には適さない。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title

柴野昌山編

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

青少年・若者の自立支援 / 世界思想社 / 9784790914347 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

キャリア形成論Ⅲ(G) § キャリア形成論Ⅲ(L) § キャリア形成特殊講義(SC) § ヴィジョン形成
特殊講義(キャリア形成論Ⅲ)(GA) § 特殊講義(キャリア形成論Ⅲ)(W)

12542

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、総合大学としての立命館大学の英知を結集して組み立てられている点に最大の特長があります。学生数(大学院生含む)約3万6000人の日本有数の大規模総合大学、立命館大学には、国内外で高い評価を受けている優れた教員が数多く在籍しています。その一方で、3キャンパスに分かれていることもあり、他キャンパスの、さらには他学部での優れた英知に触れる機会に乏しいのが現状です。このため、13学部中、10学部・1研究科(予定)から研究・教育実績に定評のある優れた教員を講師として招き、本講義を組み立てました。「立命館の英知」をぜひこの機会に学びとってください。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は二つです。

一つは、専攻学問の再検証です。入学以来の学習上のモチベーションはいかがですか？ 学生生活にも慣れ、学ぶ目的や目標を見失いやすい時期に差し掛かっているのではないのでしょうか。今ここで、改めて所属する学部の教学を見直し、その社会的な意味や意義、何よりも学ぶ楽しさを再認識してほしいのです。教材は「立命館の英知」です。総合大学ならではの幅広い領域の科学的英知に触れることで、自ら専攻する学問体系の意味や意義を検証する。これが第一の到達目標です。

もう一つは、「会社」に対する負のイメージの科学的な払拭です。1990年前後に生まれた皆さんは、日本経済が成長期をバブル経済の崩壊とともに終え、長い低迷期が始まる時代に育った最初の世代に該当します。このため、皆さんの世代は、会社に代表される経済組織に負のイメージを強く持つことが統計等でも検証されています。本講義では、この偏ったイメージを3つの科学的カテゴリー(経済・経営学、法学、総合科学)から払拭します。会社(職業人生)は人生の多くを占めるとともに、皆さんの才能が発露される場でもあります。インターンシップや就職活動を控えたこの時期、卒業後の進路・就職の選択に前向きな気持ちで臨めるよう、イメージにとらわれることなく科学的な視座を獲得するのが第二の到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義と同じキャリア教育科目の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオペ演習」(3回生以上後期配当科目)の受講にもチャレンジしてください。

さらに、高度なインターンシップ、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講)も夏期集中講義として開講されますので、さらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	テーマ/会社とは何者か (加藤)	概要/副題「会社と科学」の会社とは、ビジネス社会の意。科学的なもの見方、考え方の基本を説く。 【経済学・経営学カテゴリー】
第2回目	テーマ/「経済学」がとらえる会社と企業社会 (経済学部教員)	概要/会社=企業は経済の担い手の1つであり、経済社会に大きな影響を与えている。企業社会といわれるものには、会社内部で形成されている一種の社会という意味と、社会自体が企業中心の社会になっているという2つの意味がある。会社は市場を媒介にして、他の社会領域と関係を結び、またそれに影響を与えているので、ここでは、消費者問題を中心にして広く企業の社会的立場や役割について考える手がかりを提供したいと考える。
第3回目	テーマ/「国際経済」の中の日本企業 (国際関係学部教員)	概要/企業が海外進出し、多国籍化していく原理は、それほど単純なものではない。この問題を、今日もっとも一般的な理論パラダイムとして受け入れられているJ. H. Dunningの折衷理論を柱にしながら、わかりやすく解説していく。具体例として、日経新聞を用いながら日本企業のケースを取り上げる。
第4回目	テーマ/「経営学」と会社 (経営学部教員)	概要/組織(会社)とは何か。会社の根源に経営学的手法から迫る。加えて、新しい会社形態とその特長、そこで働く意味や意義など実践的な内容を加味した授業を展開する。
第5回目	テーマ/「財務」から見た会社 (経営管理研究科教員)	概要/ディスクロージャー(財務内容の開示)は、企業の社会的評価を左右する重要な課題である。その中で最も有力な開示手段である「有価証券報告書」を使って、これを縦横に分析し、真の企業価値を読み解くのに不可欠な基本的な知識と考え方を学ぶ。 【法学カテゴリー】

第6回目	テーマ/「商法(会社法)」と株式会社 (法学部教員)	概要/受講生の中には卒業後会社に就職する人も、すぐにも自分で会社を作りたいと考えている人もいると思う。会社に就職した人であっても、いずれ社長になれば自ら会社を経営することになる。会社の経営には多くの関係者が存在するため、その利害を調整する一定のルールが必要になる。会社法は会社に関する法的ルールを定めた法律である。この講義では、株式会社の経営に関する具体的な問題について、会社法の観点からできる限りわかりやすく説明する。
第7回目	テーマ/「税法」と株式会社 (法学部教員)	概要/前回の講義では、会社組織を経営する側に近い視点(会社法)で法学的アプローチを試みた。本講義では一転して、働く側の視点で会社組織をとらえる。納税は日本国民の三大義務の一つであり、どのような働き方を選択しても深く関わるものである。授業では、税の観点から組織をとらえるユニークな視座の獲得を目指す。会社組織で働くための基礎的な法学的知識・素養としての税法を、法学部以外の学生にも理解できるよう簡易に教示するとともに、納税への意識を高めることで能動的な就労観を習得する。
第8回目	テーマ/経済学、経営学、法学を概観して (加藤)	概要/3つの科学分野からの会社(ビジネス社会)へのアプローチを行った上で、専攻学問の異なる受講生で編成するグループによる学習検証のワーキングを行う。議論の成果をレポート課題として課す。
第9回目	テーマ/「人文地理学」でとらえる会社 (文学部教員)	概要/地理学は哲学から早い段階で分派した歴史ある科学領域の一つであり、社会や地域をとらえる、ものの見方や考え方に有効な学問でもある。授業では、歴史ある京都の街づくりを教材に、人文地理学固有の視座の獲得とともに、京都で学ぶ意義についても深く考察する。
第10回目	テーマ/「社会福祉」から見た会社 (産業社会学部員)	概要/貧困と格差はいまや日本社会の喫緊の課題となっている。本講義では、社会福祉の観点から、あるべき社会の姿を追究するとともに、人間らしい就労とはどのようなものか、働き方、生き方について学ぶ。
第11回目	テーマ/「コンテンツ」でとらえる会社 (映像学部教員)	概要/百年に一度という世界的な経済危機にあって、日本の産業は大きな転換期を迎えつつある。そんな時代にあって、日本が誇るべき産業にコンテンツ産業があり、また次世代型人材像としてもコンテンツ方人材が挙げられる。日本の救世主となり得るか、本講義ではコンテンツに焦点を当てつつ、キャリア形成のあり方や働き方を考察する。
第12回目	テーマ/「プロデュース型人材」でとらえる会社 (政策科学部教員)	概要/高付加価値創造型の人材は、21世紀の知識基盤社会に必須である。人材が唯一の資源である日本社会では、とりわけ新しい時代に対応した人材の育成が急務といわれている。本講義では、求められる人材像をまず解き明かし、その上で高付加価値型人材に向けて何が必要かを学ぶ。
第13回目	テーマ/「自然科学(工学)」でとらえる会社 (理工学部教員)	概要/本講義は、工学の立場から会社へのアプローチを試みる。実学の工学は社会システムなど多方面でその成果が活用されている。授業では、工学的な社会観、地域観を習得するとともに、大学の学びと社会での学びのつながりについても深く考察する。
第14回目	テーマ/「知能ロボット」から見た会社 (情報理工学部教員)	概要/本講義では、認知工学の立場から緊急時の情報と人間(社会)との関わりを、企業や自治体における事業継続管理(BCM)をもとに解き明かす。社会はシステムであり、会社もまたそのシステムの中に組み込まれた組織体に過ぎない。会社を超えた社会観のダイナミズムをぜひ深く理解し、将来のキャリア形成につなげてほしい。

【総括】

第15回目 テーマ／専攻学問(科学)と会社 (加藤)

概要／インターンシップおよび就職活動直前期にあたって、会社(ビジネス社会)を自ら専攻する学問的視点から、さらには他の科学領域も含めた広い科学的視座からとらえるべく、3つのカテゴリからのアプローチを総括。総括レポート課題を課す。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	10 %	「経営学・経済学」、「法学」、「総合科学」の3つのカテゴリ全体にわたる理解度を中心に評価します。
平常点評価	90 %	①出席状況、②受講態度、③授業期間内に学修到達度を検証するレポート課題を、中間的総括(第8講)、総括(第15講)で実施、の3要素をもとに評価しますが、中核となる評価軸は「出席状況」です。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の留意点は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。90%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

10学部・1研究科(予定)から学内教員が次々に登壇し、講義を展開します。それをコーディネーター教員が講義の開始時、終了時に関連づけるのが、本講義の基本スタイルです。講義の多くは衣笠では受講機会の乏しい理工学など皆さんの専門外の分野ですから、講師が基本書を指定する場合は、事前に必ず読了しておいてください。基本書の指定は、原則として1週前の講義終了時にコーディネーター教員が行います。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
会社はこれからどうなるのか	岩井克人／平凡社／ISBN4-582-82977-5／会社は何者か、誰のものか、どうなるのか。会社論の根源に迫る良書。小林秀雄賞受賞。
キャリア教育－歴史と未来	Kenneth B. Hoyt, 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄訳／雇用問題研究会／ISBN4-87563-230-4／キャリア教育の先駆的立場にある米国の歴史的展開を整理。その上で、今後の方向性を示すキャリア教育の基本書。

初回の授業に向けての基本書を2冊挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、立命館大学公式ホームページの「教員紹介」で担当講師の研究業績を閲覧することを勧めます。講義の理解度が深まると思います。また、この機会に、授業外の学内の教員の研究業績も閲覧してみてください。「立命館の英知」を感じ取ることができるはずです。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

本講義に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsumei.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Others

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠のインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な視座を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいと考えます。

コーオペ演習 (GA) § コーオペ演習 (IA) § インターンシップ演習 (LA) § 政策科学特殊講義
(コーオペ演習) (P1) § 特殊講義(コーオペ演習) (WA)

51806

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムです。具体的には、後期セメスター期間を通じて企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム(5名程度)が取り組む実践的で自律的な学習プログラムです。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

本演習は4月中旬～5月頃に募集と選考を行います。詳細は3月下旬～4月頃にガイダンスを行いますので、学部事務室の掲示板またはインターンシップオフィスで日程を確認してください。なお、選考合格後には履修料(1万円)の納入が必要となります。本科目は大学院生及び学部生が共に受講します。

到達目標 / Attainment Objectives

演習名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオペ教育(Cooperative Education)に由来しています。

名称にふさわしく、演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会に向けて求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3年生以上配当科目、衣笠開講)が夏期集中講義として開講されます。

また、本演習は全学型キャリア教育科目にも位置づけられていて、同じ科目群の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目)の受講も望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回) (開講前)	テーマ / Theme 【学内公募】	キーワード / Key Word
	【リスクマネジメント研修等】	①参加企業からの課題が2009年度末に出揃います。②ただちに学内公募が2010年4～5月頃にかけて行われます。③学内選考(レポート、面接)が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
(開講)	【学内研究会】	7月3日(土)衣笠、4日(日)BKC共12:50～16:10に実施される、全学インターンシップ・プログラムの「リスクマネジメント研修等」を受講します。
	【企業研修】	6月下旬～7月上旬(6月下旬※大学院生のみ対象、7月3日(土)衣笠10:40-12:10、7月4日(日)10:40-12:10)に第1回(チームの顔合わせ、課題・会社研究)が、9月下旬から年末まで原則として毎週、授業形式で学内研究会が両キャンパスで行われます。内容は、チームによる自主的学習活動です。
	【企画立案研修】	8月上旬～9月下旬(予定)に会社研究を目的に、原則2日間で参加企業に出向き研修(インターンシップ)を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	【プレゼンテーション研修】	9月5日(日)に、企画立案に関する基本的なノウハウを習得します。
	【中間発表】	10月上旬(予定)に、専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表、中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
	【成果発表】	11月上旬(予定)に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。
		2010年末、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。

【総括評価】

2011年1月初旬の学内研究会で、自己評価と他者評価を通じた総括評価を評価シートをもとに行うほか、リーダーに関してはグループワーク形式で別途総括授業を行います。

【報告書作成】

2010年度内に、チーム単位で報告書を作成します。報告書は受講生にも配布されますので、就職活動などに大いに活用できます。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢、②各種レポートの提出(随時)、③中間発表、成果発表における取組み姿勢、④成果発表における受入者評価、⑤報告書、の5要素をもとに総合的に評価します。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員(加藤)が最終的な成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取ろうという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオペ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明 / 立命館大学 / 日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオペ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオペ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明 / 立命館大学 / コーオペ教育をめぐる動向とともに、コーオペ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム / 国内外のコーオペ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫 / 東洋経済新報社 / 産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント(ミレニアム版)	フィリップ・コトラー / ピアソン・エデュケーション / 問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。

コーオペ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

本演習に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsumei.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

コーオペ演習(GB) § インターンシップ演習(LB) § 政策科学特殊講義(コーオペ演習)(P2)
§ コーオペ演習(IB) § 特殊講義(コーオペ演習)(WB)

51807

担当者名 / Instructor 廣瀬 幸弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムです。

後期セメスター期間を通じて、企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム(5名程度)が取り組む実践的で自律的な学習プログラムであること。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

本演習は4月中旬～5月頃に募集と選考を行います。詳細は3月下旬～4月頃にガイダンスを行いますので、学部事務室の掲示板またはインターンシップオフィスで日程を確認してください。なお、選考合格後には履修料(1万円)の納入が必要となります。本科目は大学院生及び学部生が共に受講します。

到達目標 / Attainment Objectives

演習名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオペ教育(Cooperative Education)に由来しています。

名称にふさわしく、演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会に向けて求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3年生以上配当科目、衣笠開講)が夏期集中講義として開講されます。

また、本演習は全学型キャリア教育科目にも位置づけられていて、同じ科目群の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講も望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回) (開講前)	テーマ / Theme 【学内公募】	キーワード / Key Word
	【リスクマネジメント研修等】	①参加企業からの課題が2009年度末に出揃います。②ただちに学内公募が2010年4～5月頃にかけて行われます。③学内選考(レポート、面接)が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
(開講)	【学内研究会】	7月3日(土)衣笠、4日(日)BKC共12:50～16:10に実施される、全学インターンシップ・プログラムの「リスクマネジメント研修等」を受講します。
	【企業研修】	6月下旬～7月上旬(6月下旬※大学院生のみ対象、7月3日(土)衣笠10:40-12:10、7月4日(日)10:40-12:10)に第1回(チームの顔合わせ、課題・会社研究)が、9月下旬から年末まで原則として毎週、授業形式で学内研究会が両キャンパスで行われます。内容は、チームによる自主的学習活動です。
	【企画立案研修】	8月上旬-9月下旬(予定)に会社研究を目的に、原則2日間で参加企業に出向き研修(インターンシップ)を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	【プレゼンテーション研修】	9月5日(日)に、企画立案に関する基本的なノウハウを習得します。
	【中間発表】	10月上旬(予定)に、専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表、中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
	【成果発表】	11月上旬に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を、原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。
		2010年末、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向きます。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。

【総括評価】

2011年1月初旬の学内研究会で、自己評価と他者評価を通じた総括評価を評価シートをもとに行うほか、リーダーに関してはヒアリング形式で別途総括評価を行います。

【報告書作成】

2010年度内に、チーム単位で報告書を作成します。報告書は受講生にも配布されますので、就職活動などに大いに活用できます。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢、②各種レポートの提出(随時)、③中間発表、成果発表における取組み姿勢、④成果発表における受入者評価、⑤報告書、の5要素をもとに総合的に評価します。学内研究会や各種研修に出席するだけでなく、自律的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員(廣瀬)が最終的な成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取ろうという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオペ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオペ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオペ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／コーオペ教育をめぐる動向とともに、コーオペ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／国内外のコーオペ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫／東洋経済新報社／産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント(ミレニアム版)	フィリップ・コトラー／ピアソン・エデュケーション／問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。

コーオペ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

本演習に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsumeai.ac.jp)、または廣瀬(hirop-se@fc.ritsumeai.ac.jp) まで問い合わせてください。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

国内インターンシップ(専門)(GA) § 国内インターンシップ(GA) § 海外インターンシップ(GA)
 § 海外インターンシップ(専門)(GA) § 国内インターンシップ(IA) § 海外インターンシップ
 (IA) § 学校インターンシップ(GA)

54961

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生(2年生以上)を対象に単位認定を行います。そのためにはインターンシップ受入先機関の決定後、①受講登録を行い、②「事前、事後研修」をすべて受講し、③最終レポートなど必要書類をすべて提出することが前提条件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末から5月にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。本科目は大学院生及び学部生が共に受講します。

到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部やインスティテュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、関連科目の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)および「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目)の受講が望まれます。また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3回生以上後期配当科目)の受講にもぜひチャレンジしてください。

なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講)が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【事前研修】	
第1回目	オリエンテーション、企業研究(検証)	
第2回目	テーマ/リスクマネジメント研修	概要/研修先で起こりうる可能性のあるあらゆるリスクについて、法学的理解を深め、基本的な心構えと対処法を習得
第3回目	テーマ/ビジネスマインド講座1(社会常識編)	概要/1. 一組織人としての基本的な心得、2. インターンシップの心構え、3. 仕事の進め方、4. ケーススタディ
第4回目	テーマ/ビジネスマインド講座2(マナー編)	概要/1. マナーの果たす役割、2. コミュニケーションは第一印象から、3. 話し方と聞き方、4. ケーススタディ
第5回目	テーマ/ビジネスマナー講座1(文書編)	概要/1. 宿題発表、2. ビジネス文書の基本、3. 文書の書き方、4. 総まとめ
第6回目	テーマ/ビジネスマナー講座2(実技編)	概要/1. FAXとEメールの活用、2. 電話対応の基本、3. ケーススタディ<電話対応編>、4. 総まとめ
第7回目	企業研究に関するレポートを活用した個人発表・グループワーク、総括	
第8回目	同上	
第9回目	同上	
	【インターンシップ研修】	
第10回目	テーマ/インターンシップ研修1	概要/原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の、授業がない時期に実施されるものを基本とする
第11回目	テーマ/インターンシップ研修2	概要/同上
第12回目	テーマ/インターンシップ研修3	概要/同上
	【事後研修】	
第13回目	テーマ/総括講義	概要/インターンシップにおける学びの検証と幅広い学びを、発表(個人単位)を通じて内省化する
第14回目	テーマ/基礎講義(個人発表、グループワーク)	概要/問題発見、課題解決型グループワーク(教材配布)
第15回目	テーマ/基礎講義(グループ発表、総括)	概要/グループワークを受けてグループ別発表、指導教員による総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業(団体)に関わる記事にはしっかりと目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常点(事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習の内容をもとに評価します): 70%、最終レポートなど: 20%、その他(研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります): 10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。正当な理由なく事前・事後研修に遅刻や欠席をしたり、各種提出物の締め切り後の提出は、その時点でF評価になります。十分注意してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

当たり前のことですが、インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事!	スタッズ・ターケル / 晶文社 / ISBN4-7949-5661-4 / 1972年に発刊された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社 / 編 / 日本経済新聞社 / ISBN4-532-35114-6 / 日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上 龍 / 幻冬舎 / ISBN4-344-00429-9 / 人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立つような3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

3月末から5月にかけて開催される学内の様々なインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学 Internship Guide Book」が配布されます。その中で、情報が紹介されます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

全学インターンシップ・プログラムに関する質問は、コーディネーター教員である加藤 (katoshi@fc.ritsumeit.ac.jp) まで問い合わせてください。

その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

国内インターンシップ(専門)(GA) § 国内インターンシップ(GA) § 海外インターンシップ(GA)
 § 海外インターンシップ(専門)(GA) § 国内インターンシップ(IA) § 海外インターンシップ
 (IA) § 学校インターンシップ(GA)

54962

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生(2年生以上)を対象に単位認定を行います。そのためにはインターンシップ受入先機関の決定後、①受講登録を行い、②「事前、事後研修」をすべて受講し、③最終レポートなど必要書類をすべて提出することが前提条件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末から5月にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。本科目は大学院生及び学部生が共に受講します。

到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部やインスティテュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、関連科目の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅱ」(2回生前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)および「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目)の受講が望まれます。また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3回生以上後期配当科目)の受講にもぜひチャレンジしてください。

なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講)が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【事前研修】	
第1回目	オリエンテーション、企業研究(検証)	
第2回目	テーマ/リスクマネジメント研修	概要/研修先で起こりうる可能性のあるあらゆるリスクについて、法学的理解を深め、基本的な心構えと対処法を習得
第3回目	テーマ/ビジネスマインド講座1(社会常識編)	概要/1. 一組織人としての基本的な心得、2. インターンシップの心構え、3. 仕事の進め方、4. ケーススタディ
第4回目	テーマ/ビジネスマインド講座2(マナー編)	概要/1. マナーの果たす役割、2. コミュニケーションは第一印象から、3. 話し方と聞き方、4. ケーススタディ
第5回目	テーマ/ビジネスマナー講座1(文書編)	概要/1. 宿題発表、2. ビジネス文書の基本、3. 文書の書き方、4. 総まとめ
第6回目	テーマ/ビジネスマナー講座2(実技編)	概要/1. FAXとEメールの活用、2. 電話対応の基本、3. ケーススタディ<電話対応編>、4. 総まとめ
第7回目	企業研究に関するレポートを活用した個人発表・グループワーク、総括	
第8回目	同上	
第9回目	同上	
	【インターンシップ研修】	
第10回目	テーマ/インターンシップ研修1	概要/原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の、授業がない時期に実施されるものを基本とする
第11回目	テーマ/インターンシップ研修2	概要/同上
第12回目	テーマ/インターンシップ研修3	概要/同上
	【事後研修】	
第13回目	テーマ/総括講義	概要/インターンシップにおける学びの検証と幅広い学びを、発表(個人単位)を通じて内省化する
第14回目	テーマ/基礎講義3(個別発表、グループワーク)	概要/問題発見、課題解決型グループワーク(教材配布)
第15回目	テーマ/基礎講義4(グループ発表、総括)	概要/グループワークを受けてグループ別発表、指導教員による総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業(団体)に関わる記事にはしっかりと目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常点(事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します):70%、最終レポートなど:20%、その他(研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります):10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。正当な理由なく事前・事後研修を遅刻や欠席したり、各種提出物の締め切り後提出は、その時点でF評価になります。十分注意してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

当たり前のことですが、インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事!	スタッズ・ターケル / 晶文社 / ISBN4-7949-5661-4 / 1972年に発刊された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編 / 日本経済新聞社 / ISBN4-532-35114-6 / 日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上 龍 / 幻冬舎 / ISBN4-344-00429-9 / 人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立つような3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

3月末から5月にかけて開催される様々な学内のインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学 Internship Guide Book」が配布されます。その中で、情報が紹介されます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

全学インターンシップ・プログラムに関する質問は、コーディネーター教員である加藤 (katoshi@fc.ritsumeai.ac.jp) まで問い合わせてください。

その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

特殊講義(キャリア形成論I) (GA) § キャリア形成論I (L) § キャリア形成特殊講義 (SA) §
 ヴィジョン形成特殊講義(キャリア形成論I) (GA)

12546

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、様々な科学分野の視座から「自己」や「社会」、そして「立命館大学」を見つめ直すことで、これから始まる大学の学びを体系化する点に、最大の特長があります。

講義では、思想、哲学や多文化理解の概念、経済学といった人文・社会科学のアプローチから自己を科学的にとらえる授業とともに、数学、認知工学、動物行動学という自然科学領域からも自己を見つめます。さらに、立命館大学の教学理念「平和と民主主義」についてもしっかりと学びます。講義の終盤では、内定の決まった4回生を招き、授業を総括するとともに大学での学びを展望します。

到達目標 / Attainment Objectives

立命館大学は全学横断的に「キャリア教育科目」を配置しており、本講義はその中に位置付けられます。各科目は、学生のキャリア発達に応じた段階的な到達目標を掲げていて、本講義は発達段階の第一段階である科学的な「自己理解」です。本講義には、文学部、産業社会学部、国際関係学部、理工学部、系列高校など学内の教員が数多く登壇します。総合大学で学ぶ意味、喜びも併せて感じ取ってもらいたいものです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義は、全学型のキャリア教育科目に位置づけられています。立命館大学では、1回生前期から3回生前期まで、キャリア発達に応じたキャリア教育科目を配置していて、本講義はそのスタートに該当します。受講しますと、講義の中で全学型キャリア教育科目についての詳細を紹介いたします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	テーマ/大学での学びを考える (加藤)	概要/副題「科学からとらえる自己」の意味を考え、大学における学びの大切さや意義につき解説する。後半は、グループワーク。
第2回目	テーマ/多文化社会を生きる (産業社会学部教員)	概要/異文化間コミュニケーションギャップの観点から、多文化社会と自己を考察する。
第3回目	テーマ/多文化理解を通じて自己と向き合う (加藤)	概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて多文化社会に生きる意味を考察する。
第4回目	テーマ/思想、哲学に見る自己の在り方 (文学部教員)	概要/思想、哲学の領域から、人間とは何か、日本人とは何か、私(自己)とは何かを深く問いかけ、考察します。
第5回目	テーマ/思想、哲学を通じて自己と向き合う (加藤)	概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて私(自己)とは何かにつき考察する。
第6回目	テーマ/数学でとらえる自己 (系列高等学校教員)	概要/数学は哲学である。数学の持つ世界観、社会観を通じて自己と社会のつながりを考察する。
第7回目	テーマ/数学を通じて自己と向き合う (加藤)	概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて数学を通した世界観について考察する。
第8回目	テーマ/認知工学における自己の世界 (情報理工学部教員)	概要/自己認識を人工知能の立場から解析する。脳のメカニズムと自己認識の関わりを学ぶとともに、経済社会に生きる意味も併せて考察する。
第9回目	テーマ/認知工学を通じて自己と向き合う (加藤)	概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて脳の科学を通した社会観について考察する。
第10回目	テーマ/立命館大学の教学理念を理解する (国際関係学部教員)	概要/立命館大学の教学理念「平和と民主主義」について、その背景と社会的な意義を考察する。
第11回目	テーマ/教学理念を通じて自己と向き合う (加藤)	概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて教学理念の持つ意味と立命館大学での学びについて考察する。
第12回目	テーマ/経済学でとらえる自己と社会 (加藤)	概要/労働経済学ライフスタイル論を通じて自己と職業人人生、社会を考察する。
第13回目	テーマ/経済学を通じて自己と向き合う (共通教育推進機構教員)	概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて経済学(ライフスタイル論)の立場から自己を理解し、将来のキャリア形成を考察する。
第14回目	テーマ/働くこと、生きること (加藤+ジュニアアドバイザー)	概要/本学を卒業しビジネス社会で活躍する直前のジュニアアドバイザーを招き、パネルディスカッション形式で受講生と双方向で展開する授業。司会は加藤が務める。

概要/全講義を振り返り、コーディネーターがまず自己理解と大学での学びの内省化につき総括。それをもとに受講生がグループワークを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人々と交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	10 %	自己理解とその延長線上の社会認識の理解度を中心に評価します。
平常点評価	90 %	①出席状況、②受講態度、③5回設けている前回講義の検証授業(第3、5、7、9、11講)においてグループワークを実施し、そこで学修到達度を検証する目的の課題レポートを実施、の3要素をもとに評価しますが、中核をなす評価軸は「出席状況」です。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の留意点は、出席要件です。いずれ受講生の皆さんが巣立つ先のビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。90%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学部やキャンパスを超えて数多くの本学教員が次々に登壇し、講義の開始時にコーディネーター教員が各講義の位置づけ、前後の講義との関連性などについて解説するのが本講義の基本スタイルです。講義内容の多くは皆さんの専門外の分野であると同時に、受講機会の極めて少ない貴重な学びとなるはず。総合大学ならではの多彩な講師陣から多くの英知を受け取り、ものの見方、考え方を広げて欲しいもの。そのためにも、受け身とならず能動的な受講姿勢を心がけてください。受講ノートはしっかりと作成するように。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代科学の誕生(講談社学術文庫、上・下巻)	H・バスターフィールド著、渡辺正雄訳/講談社/科学史の不朽の名著。人間社会の価値観の変遷とともに科学の歴史を紐解く。
はじめての哲学史講義	鷲田小彌太 /PHP研究所 /古代ギリシャ哲学から近代西洋哲学、現代の構造哲学、言語哲学を表題どおり分かりやすく解説する。

受講前の準備として、科学と哲学の基本書を2冊挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、立命館大学公式ホームページの「教員紹介」で担当講師の研究業績を閲覧することを勧めます。講義の理解度が深まると思います。また、この機会に、他の教員の研究業績も閲覧してみてください。「立命館の英知」を感じ取ることができるはずです。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

本講義に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsumeai.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Others

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠のインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な自己観や社会観を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいものです。

特殊講義(キャリア形成論II) (GA) § キャリア形成特殊講義 (SB) § ヴィジョン形成特殊講義
(キャリア形成論II) (G3) § キャリア形成論II (L)

12709

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義には、本学の学長をはじめ、会社経営者、起業家、ヘッドハンター、編集者、動物園長、探検家、表現者、行政マン、技術者など幅広い職業人が講師として登壇します。仕事(職業人生)の広がりや深く理解し、将来のキャリア形成に寄与する内容です。

到達目標 / Attainment Objectives

立命館大学は全学横断的に「キャリア教育科目」を配置しており、本講義はその中に位置付けられます。各科目は、学生のキャリア発達に応じた段階的な到達目標を掲げていて、本講義は科学的に「仕事(職業人生)」をとらえるのが到達目標です。本講義には、川口清史学長をはじめビジネスの第一線で活躍する学外講師がオムニバス形式で多数登壇し、仕事(職業人生)について深く考察します。プロフェッショナルたちの知見から、仕事(職業人生)への科学的な認識能力を大いに高めてほしいものです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義と同じキャリア教育科目の「キャリア形成論Ⅰ」(1回生前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)の受講が望まれます。

また、3回生以上の受講生は「キャリア形成論Ⅲ」(3回生前期配当科目)の受講や、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3回生以上後期配当科目)にもチャレンジしてください。さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講)も夏期集中講義として開講されますので、3回生以上でさらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	テーマ / (導入)大学の学びと職業人生1 (加藤+グループワーク)	概要 / キャリア発達段階における「自己理解」に続く「他者認識」のあり方について解説した上で、本講義の位置づけと学び方を教示する。
第2回目	テーマ / 学長という仕事 (川口清史立命館大学学長)	概要 / 立命館大学学長が、学園の教学精神を踏まえ立命館のあるべき姿と、その下で学が意義、意味について深く考察する。その上で、学長としての仕事について言及する。
第3回目	テーマ / 動物園長という仕事 (動物園園長)	概要 / 環境教育ビジネスとしての21世紀型動物園経営を通じ、ユニークな動物園長としての仕事の概要を解説する。
第4回目	テーマ / 技術者人生とは (大手メーカー技術開発部門社員)	概要 / 工学を学び、ものづくり(製造業の開発部門)の世界で働く技術者人生は、大学の学びと職業人生が直結する。本講義では、ものづくり日本の現状と課題を整理した上で、大学における学びの意義について深く考察する。
第5回目	テーマ / 教育に携わる仕事 (元・官僚、中学校長)	概要 / 中学校長に転身した元・官僚が講師。大胆な人生選択の契機とは何か、伸びやかな選択肢を持つ働き方、仕事観について学ぶ。
第6回目	テーマ / 行政という仕事 (現役官僚)	概要 / 講師は、工学博士号を持つ研究畑の行政マン。産学連携教育に高い知見を持ち、大学における学びの重要性を説く。前回講義(第5講)とはある意味、対比的な位置づけにある。
第7回目	テーマ / (中間総括)大学の学びと職業人生2 (加藤+グループワーク)	概要 / 前半の5人の講師、つまり職業人生について改めて総括し、グループワークを通じて内省化を図る。その成果をもとに、中間的なレポートを課す。
第8回目	テーマ / 作家という仕事 (作家)	概要 / 講師は本学の卒業生。女流作家として数多くの作品を世に出している。特に、現代的な社会事象に深く関わるテーマを追求し続けており、仕事観とともに独自の社会観、人生観についても解き明かす。
第9回目	テーマ / 起業して仕事を創る (女性起業家)	概要 / 概要 / 就職ばかりが進路選択ではない。仕事を創る選択肢もある。本講義では、起業家を招き、仕事を自らの手で作り出す職業人生について学ぶ。女性としての働き方も併せて解説される。
第10回目	テーマ / 人材を見つける (ヘッドハンティング会社役員)	概要 / 講師は本学の卒業生で、ヘッドハンティング会社の副社長を務める女性。日々、人材の発掘と仲介を行う。21世紀型の知識基盤社会に相応しい人材とはどのようなものか。人材の視点から仕事(職業人生)を検証する。

第11回目	テーマ／探検家という仕事（カザフスタン研究者、探検家）	概要／講師は、長年にわたりカザフスタンの特定地域を定点観測研究する異色の探検家。就職の世界とは真逆のユニークな仕事を教材に、仕事の世界の広がりを学ぶ。
第12回目	テーマ／会社を経営する（広告代理店会社社長）	概要／講師は本学の卒業生で、名古屋の中堅広告代理店のヒラ社員から社長まで上り詰めた経歴の持ち主。人間味豊かな雇用重視の経営方針を貫いており、社会の公器といわれる会社を、高い志を持って経営する仕事について深く考察する。
第13回目	テーマ／JA(ジュニアアドバイザー、内定確定4回生)を招いて①	概要／JAとの双方向形式の授業。厳しい就職戦線をどのように勝ち抜くか、目指す仕事(職業人生)を達成するための実学。
第14回目	テーマ／JA(ジュニアアドバイザー、内定確定4回生)を招いて②	概要／JAとの双方向形式の授業。厳しい就職戦線をどのように勝ち抜くか、目指す仕事(職業人生)を達成するための実学。
第15回目	テーマ／(総括)大学の学びと職業人生3（加藤＋グループワーク）	概要／後半の5人の講師、およびJAから得た知見を総括し、グループワークを通じて内省化を図る。その成果をもとに、総括的なレポートを課す。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	10 %	仕事(職業人生)の広がりを科学的にどのように認識し内省化できたかを中心に、筆記試験で検証します。
平常点評価	90 %	①出席状況、②受講態度、③授業期間内に学修到達度を検証するレポート課題を、中間的総括(第7講)、総括(第15講)で実施、の3要素をもとに評価しますが、中核となる評価軸は「出席状況」です。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の留意点は、出席要件です。いずれ受講生の皆さんが巣立つ先のビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきま。90%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ビジネスの第一線で活躍する学外講師が数多く登壇し、講義の開始時にコーディネーター教員が各講義の位置づけ、前後の講義との関連性などについて解説します。講義内容の多くは皆さんが将来キャリアを形成する際に大きな力となるものばかりですから、この機会にぜひ、専門的な知識ばかりでなくモノの見方、考え方を広げて欲しいものです。そのためにも、受け身とならず能動的な受講姿勢を心がけてください。受講ノートはしっかりと作成するように。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
working 仕事!	スタッズ・ターケル／晶文社／4-7949-5661-4 c0036／115の職業、133人の職業人にインタビュー手法で迫る「仕事」の古典的名著。
インタビューという仕事!	スタッズ・ターケル／晶文社／4-7949-5674-6 c0036／『WORKING 仕事!』の筆者が仕事の内幕に迫る。
13歳のハローワーク	村上 龍／幻冬社／4-344-00429-9 c0095／社会現象にもなった作家村上龍の話題作。

「仕事」の広がりや内実に迫る国内外の定番書を紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、学外講師はいずれもビジネスの第一線で活躍する顔ぶれです。ホームページで検索すれば多くの情報が得られますので、講義の前に必ずチェックしてみてください。講師陣の英知を間近に感じ取ることができるはずです。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

本講義に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsumeit.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Others

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠のインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャ

リアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な自己観や社会観を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいものです。

(共) ボランティアインターンシップ (GA) § 特殊講義(自由選択)I(VTインターンシップ) (TA) §
 特殊講義(自由選択)1(ボランティアインターンシップ) (GA) § 特殊講義(自由選択)(ボランティア
 インターンシップ) (GA)

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、講義科目、演習科目と連動しながら行われる。主に夏期休暇中で90時間以上のインターンシップをおこなう。

到達目標 / Attainment Objectives

講義や演習での学習成果を元に、受講生自らが活動課題を設定し、それに沿った研修先でボランティアコーディネーターに関わる研修を行う。その中で当初設定した活動課題を自ら検証し、より具体的な課題に再設定することを目標とする。この実習で再設定された課題が、後期の講義・演習への基礎となる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1) 社会とボランティア(前期・講義)
- (2) ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3) ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4) ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5) ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~15	インターンシップ	合計90時間以上のボランティア活動を行います。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	活動時間、計画作成、提出物、報告内容等から判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
 「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
 「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeijp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共) ボランティアインターンシップ (GB) § 特殊講義(自由選択)I(VTインターンシップ) (TB) § 特殊講義(自由選択)1(ボランティアインターンシップ) (GB) § 特殊講義(自由選択)(ボランティアインターンシップ) (GB)

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの実習科目であり、講義科目、演習科目と連動しながら行われる。主に夏期休暇中で90時間以上のインターンシップをおこなう。

到達目標 / Attainment Objectives

講義や演習での学習成果を元に、受講生自らが活動課題を設定し、それに沿った研修先でボランティアコーディネーターに関わる研修を行う。その中で当初設定した活動課題を自ら検証し、より具体的な課題に再設定することを目標とする。この実習で再設定された課題が、後期の講義・演習への基礎となる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1) 社会とボランティア(前期・講義)
- (2) ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3) ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4) ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5) ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~15	インターンシップ	合計90時間以上のボランティア活動を行います。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	活動時間、計画作成、提出物、報告内容等から判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeijp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)ボランティアマネジメント論 (GA) § 特殊講義(自由選択)I(VTマネジメント) (TA) § 特殊講義(自由選択)1(ボランティアマネジメント論) (GA) § 特殊講義(自由選択)(ボランティアマネジメント論) (GA)

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア活動支援演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動を組織し、調整、推進していくうえでコーディネーターに求められる役割と業務および倫理について学ぶ。ボランティア振興に関わるイベントの企画運営と展開のあり方、ボランティアの登録や管理、ボランティア活動の相談から調整と評価までの需給調整、社会資源の活用と開発などについての基本的な考え方、知識や技術をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ボランティアコーディネーションの応用的理解	ボランティア活動・ボランティアコーディネーションの評価
2	ボランティアコーディネーションの応用的理解	情報技術を使ったボランティア支援
3	ボランティアコーディネーションの応用的理解	ボランティア活動を発展させる資源
4	ボランティアコーディネーションの応用的理解	ボランティアのリーダーシップ
5	リスクマネジメント	ボランティア活動に関する倫理問題
6	リスクマネジメント	ボランティア活動上のトラブルと保険
7	リスクマネジメント	災害時のボランティアコーディネーション
8	リスクマネジメント	困難なコーディネーションの対処(ケース)
9	ボランティアの活動展開	ボランティアの活動展開
10	ボランティアの活動展開	ボランティアグループからNPOへ(1)
11	ボランティアの活動展開	ボランティアグループからNPOへ(2)
12	ボランティアの活動展開	NPOを成功に導くために
13	ボランティアコーディネーションまとめ	ボランティアコーディネーションまとめ(1)
14	ボランティアコーディネーションまとめ	ボランティアコーディネーションまとめ(2)
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業への積極性、課題提出及びその内容を踏まえて評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。

「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。

「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。

http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ボランティアマネジメント	桜井政成/ミネルヴァ書房//

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeijp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)ボランティアマネジメント論(GB) § 特殊講義(自由選択)I(VTマネジメント)(TB) § 特殊講義(自由選択)1(ボランティアマネジメント論)(GB) § 特殊講義(自由選択)(ボランティアマネジメント論)(GB)

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア活動支援演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動を組織し、調整、推進していくうえでコーディネーターに求められる役割と業務および倫理について学ぶ。ボランティア振興に関わるイベントの企画運営と展開のあり方、ボランティアの登録や管理、ボランティア活動の相談から調整と評価までの需給調整、社会資源の活用と開発などについての基本的な考え方、知識や技術をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ボランティア活動の応用的理解	ボランティア活動, コーディネーション評価
2	活動のプランニング①	ボランティア・ニーズ
3	活動のプランニング②	社会資源, 連携, 調整
4	活動のプランニング③	ボランティアの募集, 情報, 講座
5	活動のプランニング④	相談援助とマッチング
6	報告会	インターンシップの報告
7	リスクマネジメント	トラブル対応, 保険
8	グループ運営, 支援①	NPO
9	グループ運営, 支援②	ボランティア・グループ
10	グループ運営, 支援③	国際関係団体
11	ボランティアマネジメント総論①	
12	ボランティアマネジメント総論②	
13	レポート構想報告会	
14	レポート報告会①	
15	レポート報告会②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業への積極性、課題提出及びその内容を踏まえて評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)ボランティア活動支援演習(GA) § 特殊講義(自由選択)I(VT活動支援演習)(TA) § 特殊講義(自由選択)1(ボランティア活動支援演習)(GA) § 特殊講義(自由選択)(ボランティア活動支援演習)(GA)

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「ボランティアマネジメント論」と連動しながら行われる。ボランティア、ボランティアグループ、ボランティア推進機関などの状況や連絡調整および支援のあり方、地域や市民の生活実態やニーズについての理解を深める。インターンシップの振り返りや事例研究などを通じ、ボランティアコーディネーターとしての実践的な力量を身に着けることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	インターンシップの振り返り	
2~8	インターンシップ等に関心を持ったテーマを深める(企画 & プレゼンスキルの向上)	
9~14	修了レポートの作成(ライティングスキルの向上)	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeijp.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)ボランティア活動支援演習(GB) § 特殊講義(自由選択)I(VT活動支援演習)(TB) § 特殊講義(自由選択)1(ボランティア活動支援演習)(GB) § 特殊講義(自由選択)(ボランティア活動支援演習)(GB)

担当者名 / Instructor 南 多恵子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「ボランティアマネジメント論」と連動しながら行われる。ボランティア、ボランティアグループ、ボランティア推進機関などの状況や連絡調整および支援のあり方、地域や市民の生活実態やニーズについての理解を深める。インターンシップの振り返りや事例研究などを通じ、ボランティアコーディネーターとしての実践的な力量を身に着けることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	インターンシップの振り返り	
2~8	インターンシップ等に関心を持ったテーマを深める(企画 & プレゼンスキルの向上)	
9~14	修了レポートの作成(ライティングスキルの向上)	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeijp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)ボランティア活動支援演習(GC) § 特殊講義(自由選択)I(VT活動支援演習)(TC) § 特殊講義(自由選択)1(ボランティア活動支援演習)(GC) § 特殊講義(自由選択)(ボランティア活動支援演習)(GC)

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「ボランティアマネジメント論」と連動しながら行われる。ボランティア、ボランティアグループ、ボランティア推進機関などの状況や連絡調整および支援のあり方、地域や市民の生活実態やニーズについての理解を深める。インターンシップの振り返りや事例研究などを通じ、ボランティアコーディネーターとしての実践的な力量を身に着けることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	各グループで振り返り	
2	リサーチ課題設定、発表準備	
3	グループセッション①	リサーチ課題確認
4	グループセッション②	リサーチ課題確認
5	グループセッション③	リサーチ課題確認
6	報告会	インターンシップの報告
7	修了レポート書き方	レポート作成・発表準備①
8	構想報告①	レポート作成②
9	構想報告②	レポート作成③
10	構想報告③	レポート作成④
11	構想報告④	レポート作成⑤
12	ボランティアマネジメント総論②	
13	レポート構想報告会	
14	レポート報告会①	
15	レポート報告会②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)ボランティア活動支援演習 (GD) § 特殊講義(自由選択)I(VT活動支援演習) (TD) § 特殊講義(自由選択)1(ボランティア活動支援演習) (GD) § 特殊講義(自由選択)(ボランティア活動支援演習) (GD)

担当者名 / Instructor 奥村 昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「ボランティアマネジメント論」と連動しながら行われる。ボランティア、ボランティアグループ、ボランティア推進機関などの状況や連絡調整および支援のあり方、地域や市民の生活実態やニーズについての理解を深める。インターンシップの振り返りや事例研究などを通じ、ボランティアコーディネーターとしての実践的な力量を身に付けることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	各グループで振り返り	
2	リサーチ課題設定、発表準備	
3	グループセッション①	リサーチ課題確認
4	グループセッション②	リサーチ課題確認
5	グループセッション③	リサーチ課題確認
6	報告会	インターンシップの報告
7	修了レポート書き方	レポート作成・発表準備①
8	構想報告①	レポート作成②
9	構想報告②	レポート作成③
10	構想報告③	レポート作成④
11	構想報告④	レポート作成⑤
12	ボランティアマネジメント総論②	
13	レポート構想報告会	
14	レポート報告会①	
15	レポート報告会②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)ボランティア情報・調査演習(GA) § 特殊講義(自由選択)I(VT情報・調査演習)(TA) § 特殊講義(自由選択)1(ボランティア情報・調査演習)(GA) § 特殊講義(自由選択)(ボランティア情報・調査演習)(GA)

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「社会とボランティア」「ボランティアインターンシップ」と連動しながら行われる。ボランティアコーディネーターの業務では、常に様々な情報を取り扱う。演習では、インターンシップの事前準備と絡めながら、ボランティア活動に関わる情報の収集・管理・提供の方法について学ぶ。また、様々な課題についての状況把握、計画、実行、情報発信に関わる演習活動をととしてコーディネーターの役割について理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介等
2~4	インターンシップの目標設定	
5~9	インターンシップ先の調査	
10~14	インターンシップ計画書の作成	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeijp.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)ボランティア情報・調査演習(GB) § 特殊講義(自由選択)I(VT情報・調査演習)(TB) § 特殊講義(自由選択)1(ボランティア情報・調査演習)(GB) § 特殊講義(自由選択)(ボランティア情報・調査演習)(GB)

56881

担当者名 / Instructor 南 多恵子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「社会とボランティア」「ボランティアインターンシップ」と連動しながら行われる。ボランティアコーディネーターの業務では、常に様々な情報を取り扱う。演習では、インターンシップの事前準備と絡めながら、ボランティア活動に関わる情報の収集・管理・提供の方法について学ぶ。また、様々な課題についての状況把握、計画、実行、情報発信に関わる演習活動をととしてコーディネーターの役割について理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介等
2~4	インターンシップの目標設定	
5~9	インターンシップ先の調査	
10~14	インターンシップ計画書の作成	
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeijp.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)ボランティア情報・調査演習(GC) § 特殊講義(自由選択)I(VT情報・調査演習)(TC) § 特殊講義(自由選択)1(ボランティア情報・調査演習)(GC) § 特殊講義(自由選択)(ボランティア情報・調査演習)(GC)

56885

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「社会とボランティア」「ボランティアインターンシップ」と連動しながら行われる。ボランティアコーディネーターの業務では、常に様々な情報を取り扱う。演習では、インターンシップの事前準備と絡めながら、ボランティア活動に関わる情報の収集・管理・提供の方法について学ぶ。また、様々な課題についての状況把握、計画、実行、情報発信に関わる演習活動をとらえてコーディネーターの役割について理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	開会式, オリエンテーション
2	ワークショップ①	ボランティアとコーディネーターの役割
3	ワークショップ②	演習の進め方
4	意見交換	スタッフと受講生, 受講生間の問題意識の交換と共有
5	レポート課題の発表①	
6	レポート課題の発表②	
7	レポート課題の発表③	
8	インターンシップ各論①	ゲストスピーカーとの質疑応答
9	インターンシップ各論②	ゲストスピーカーとの質疑応答
10	インターンシップ各論③	ゲストスピーカーとの質疑応答
11	レポート課題の発表④	
12	インターンシップの準備	OBの体験談、注意事項、計画の作成
13	インターンシップ先の情報収集①	グループワーク
14	インターンシップ先の情報収集②	グループと個人目標設定、プレゼン準備
15	まとめ	発表会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)ボランティア情報・調査演習(GD) § 特殊講義(自由選択)I(VT情報・調査演習)(TD) § 特殊講義(自由選択)1(ボランティア情報・調査演習)(GD) § 特殊講義(自由選択)(ボランティア情報・調査演習)(GD)

56889

担当者名 / Instructor 奥村 昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「社会とボランティア」「ボランティアインターンシップ」と連動しながら行われる。ボランティアコーディネーターの業務では、常に様々な情報を取り扱う。演習では、インターンシップの事前準備と絡めながら、ボランティア活動に関わる情報の収集・管理・提供の方法について学ぶ。また、様々な課題についての状況把握、計画、実行、情報発信に関わる演習活動をとらしてコーディネーターの役割について理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	開会式、オリエンテーション
2	ワークショップ①	ボランティアとコーディネーターの役割
3	ワークショップ②	演習の進め方
4	意見交換	スタッフと受講生、受講生間の問題意識の交換と共有
5	レポート課題の発表①	
6	レポート課題の発表②	
7	レポート課題の発表③	
8	インターンシップ各論①	ゲストスピーカーとの質疑応答
9	インターンシップ各論②	ゲストスピーカーとの質疑応答
10	インターンシップ各論③	ゲストスピーカーとの質疑応答
11	レポート課題の発表④	
12	インターンシップの準備	OBの体験談、注意事項、計画の作成
13	インターンシップ先の情報収集①	グループワーク
14	インターンシップ先の情報収集②	グループと個人目標設定、プレゼン準備
15	まとめ	発表会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)社会とボランティア(GA) § 特殊講義(自由選択)I(社会とVT)(TA) § 特殊講義(自由選択)1(社会とボランティア)(GA) § 特殊講義(自由選択)(社会とボランティア)(GA)

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア情報・調査演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動の実態と動向、社会的な意義と課題、そしてボランティアコーディネーターの役割と実践のあり方について学ぶ。また、国や自治体などの政策動向等の社会状況を踏まえたうえで、ボランティア活動の固有性について考えるとともに、求められるボランティアコーディネーター像を検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	開講式、オリエンテーション
2	ボランティア概論(1)	ボランティア活動の現在
3	ボランティア概論(2)	ボランティアイメージの国際比較
4	ボランティア概論(3)	VCTP修了生の活動
5	ボランティア概論(4)	ボランティアと地域社会
6	ボランティアコーディネーションの基礎(1)	ボランティアコーディネーション概論
7	ボランティアコーディネーションの基礎(2)	個別援助の知識・技術・倫理(1)
8	ボランティアコーディネーションの基礎(3)	個別援助の知識・技術・倫理(2)
9	ボランティアコーディネーションの基礎(4)	グループの運営と支援(1)
10	ボランティアコーディネーションの基礎(5)	グループの運営と支援(2)
11	ボランティア活動の開始(1)	ボランティア活動のプランニング(1)
12	ボランティア活動の開始(2)	ボランティア活動のプランニング(2)
13	ボランティア活動の開始(3)	ボランティア募集の方法(1)情報発信
14	ボランティア活動の開始(4)	ボランティア募集の方法(2)ボランティアのリクルート
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業への積極性、レポート課題の提出等を加味して判断

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ボランティアマネジメント	桜井政成 / ミネルヴァ書房 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeij.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

(共)社会とボランティア (GB) § 特殊講義(自由選択)I(社会とVT) (TB) § 特殊講義(自由選択)1(社会とボランティア) (GB) § 特殊講義(自由選択)(社会とボランティア) (GB)

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア情報・調査演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動の実態と動向、社会的な意義と課題、そしてボランティアコーディネーターの役割と実践のあり方について学ぶ。また、国や自治体などの政策動向等の社会状況を踏まえたうえで、ボランティア活動の固有性について考えるとともに、求められるボランティアコーディネーター像を検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	開講式、オリエンテーション
2	ボランティアと社会①	ボランティアとコーディネーターの役割
3	ボランティアと社会②	NPO・市民活動の広がり
4	意見交換	スタッフと受講生、受講生間の問題意識の交換と共有
5	ボランティア活動の広がり①	福祉
6	ボランティア活動の広がり②	環境
7	ボランティア・コーディネーター概論	役割と機能
8	インターンシップ各論①	インターンシップの概要
9	インターンシップ各論②	インターンシップの概要
10	インターンシップ各論③	インターンシップの概要
11	コーディネーション・スキル①	マネジメント技術
12	コーディネーション・スキル②	ファシリテーション
13	先進的経験に学ぶ①	社会福祉協議会
14	先進的経験に学ぶ②	NPO
15	まとめ	発表会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業への積極性、レポート課題の提出等を加味して判断

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」は「予備登録」が必要です。
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の詳細は、以下URLの「履修ガイド」を参照してください。

http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_j.html

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

基本民法(民法入門・債権各論)(JA) § 基本民法(民法入門・債権各論)(GA)

16662

担当者名 / Instructor 本山 敦

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

導入期の民法科目として、入門的な内容(民法の意義、歴史、基本原理、諸制度の概説)に加え、民法の債権編のうち、債権の発生原因である契約、事務管理、不当利得、不法行為に関する部分を扱う。契約法の部分では、売買を中心に、契約の成立・効力(債務不履行を含む)・解除について概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 民法の「契約」「事務管理」「不当利得」「不法行為」を、大まかに理解する。
2. 民法の基本的な思考方法を身につける。
3. 各条文の要件・効果を正確に覚えたり、教科書や判例など、長文の法律文献を読むなどして、基本的な学修習慣を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

法学入門

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	民法の概要	民法
第2回	受講に関するガイダンス	ガイダンス
第3回	判決文(判例)を読んでみる	判例
第4回	教科書《ガイダンス》 ※教科書に関しては下欄「教科書/Textbooks」を参照。	読者の皆さんへの挨拶、本書についてのガイダンス PART1、民法(債権法)についてのガイダンス、本書についてのガイダンスPART2
第5回	教科書《契約総論》第1回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
第6回	教科書《契約総論》第2回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
第7回	教科書《契約総論》第3回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
第8回	教科書《契約総論》第4回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
第9回	教科書《契約総論》第5回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
第10回	教科書《契約総論》第6回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
第11回	教科書《契約各論》第1回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
第12回	教科書《契約各論》第2回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
第13回	教科書《契約各論》第3回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
第14回	教科書《契約各論》第4回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
第15回	教科書《契約各論》第5回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
第16回	教科書《契約各論》第6回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
第17回	教科書《契約各論》第7回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
第18回	教科書《契約各論》第8回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
第19回	教科書《契約各論》第9回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
第20回	教科書《契約各論》第10回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
第21回	教科書《契約以外の債権発生原因》第1回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為

第22回	教科書≪契約以外の債権発生原因≫第2回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第23回	教科書≪契約以外の債権発生原因≫第3回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第24回	教科書≪契約以外の債権発生原因≫第4回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第25回	教科書≪契約以外の債権発生原因≫第5回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第26回	教科書≪契約以外の債権発生原因≫第6回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第27回	教科書≪契約以外の債権発生原因≫第7回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第28回	教科書≪契約以外の債権発生原因≫第8回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第29回	教科書≪契約以外の債権発生原因≫第9回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第30回	教科書≪契約以外の債権発生原因≫第9回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

1回あたりの授業の進度は教科書の5頁分から10頁分ぐらいに相当するであろう。教科書を徹底的に予習・復習することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な制度・語句・判例等の理解を問うとともに、それらを応用して簡単な事例問題を解いてもらう。 少し難しく言うと、民法上の基本概念が正確に理解できているかどうか、また、条文や判例法理といった規範(ルール)を具体的な事例(紛争の場面)に適用して妥当な結論を導くことができるか、ということである。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書1(池田真朗『スタートライン債権法(第5版)』)の前半部分および教科書2(同『スタートライン民法総論』の関係箇所)を徹底的に読み込むかたちの講義となるので、必ず教科書を購入すること。両教科書は、今後の民法学習をはじめ、新司法試験や公務員試験の準備にも役立つはずである。
六法必携。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スタートライン債権法(第5版)	池田真朗 / 日本評論社 / 978-4-535-51774-5 / 2010年
スタートライン民法総論	池田真朗 / 日本評論社 / 4-535-51403-8 / 2006年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法Visual Materials	池田真朗ほか / 有斐閣 / 978-4-641-13522-2 / 2008年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基本民法(民法入門・債権各論)(JB) § 基本民法(民法入門・債権各論)(GB)

16663

担当者名 / Instructor 山田 希

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義は、1回生が入学後にはじめて履修する専門科目であり、かつ、全部で18単位ある民法科目のうちの最初の科目でもある。日常生活で直面する法律問題(契約や事故など)を素材に、民法の基本的な諸制度について学んでいく。講義の範囲は、民法典第3編債権のうち、第1章(総則)を除いた部分(第2章契約、第3章事務管理、第4章不当利得、第5章不法行為)のほか、民法入門(民法の意義・歴史、判例や学説の意義、民法典の全体像など)である(なお、第1章にある「債務不履行」も含む)。

民法は、私法(市民と市民間の法律関係を規律する法)の一般法(原則となる法)であるといわれる。それだけに本講義で習得する内容は、他の科目の理解にも必要であることが多い。90分の授業が2コマ連続するため、1日の授業で進む量は、かなり多いものと覚悟してほしい。したがって、担当教員の指示に従い、予習や復習をしっかりと行うことが求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 民法の基本的な思考方法を身につける。
- ② 民法典に用意された制度の全体像を、大まかに理解する。
- ③ 各条文の要件・効果を正確に覚える。
- ④ 教科書や判例など、長文の法律文献を読む習慣を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにないが、「法学入門」で扱われる内容は、「基本民法」の理解にも資するものと思われる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	民法入門①民法の意義	私法の一般法、法源、歴史
第2回	民法入門②民法の構造	パンデクテン方式、民法の基本原則、物権と債権
第3回	契約の主体	権利能力、意思能力、行為能力
第4回	契約の成立	申込みと承諾、申込みの誘引、契約の成立時期(到達主義・発信主義)、意思表示、法律行為論(心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺、強迫)、無効と取消し
第5回	受領遅滞	弁済の提供(民法492条、493条)、法定責任説・債務不履行説
第6回	履行の強制	直接強制、代替執行、間接強制
第7回	債務不履行の要件	債務不履行の類型(履行遅滞、履行不能、不完全履行)、帰責事由、後発的不能、履行補助者
第8回	債務不履行の効果	金銭賠償の原則、積極的損害・消極的損害(逸失利益)、精神的損害、通常損害・特別損害
第9回	契約締結上の過失	原始的不能、不当な契約交渉破棄、説明義務
第10回	契約の解除	法定解除・約定解除、相当期間を定めた催告、定期行為、原状回復、解除と第三者
第11回	双務契約における牽連関係	同時履行の抗弁権、危険負担
第12回	債務不履行の効果1	金銭賠償の原則、損害の概念、損害の種類、損害賠償の範囲、損害額算定の基準時
第13回	契約の種類	典型契約、諾成・要物契約、双務・片務契約、有償・無償契約
第14回	贈与・売買	撤回、手付け、予約
第15回	売主の担保責任	他人物売買、数量指示売買、瑕疵担保責任
第16回	消費貸借・使用貸借・賃貸借	返還時期の定めのない契約、使用・収益させる義務、修繕義務、賃借権の譲渡・転貸
第17回	借地借家法	法定更新、対抗要件、定期借地権・定期借家権
第18回	請負・委任	請負人の瑕疵担保責任、善管注意義務
第19回	中間まとめ	ここまでの復讐、事例式問題の答案作成
第20回	不法行為の意義	損害てん補・制裁・予防、過失責任・中間責任・無過失責任
第21回	一般的不法行為の要件	故意・過失、権利・利益侵害、損害の発生、因果関係(事実的因果関係・相当因果関係)
第22回	違法性を阻却する事由	正当防衛、緊急避難、自力救済、正当業務行為、被害者の承諾

第23回	不法行為の効果①	金銭賠償の原則、損害賠償請求権者、損害賠償額の算定方法
第24回	不法行為の効果②	損益相殺、過失相殺、被害者の素因、損害賠償請求権の行使期間
第25回	使用者責任・土地工作物責任	使用関係、外形標準説、土地工作物、設置・保存の瑕疵
第26回	監督義務者の責任	責任能力、監督義務者
第27回	自動車損害賠償保障法(自賠法)	運行供用者
第28回	共同不法行為	関連共同性、加害者不明、不真正連帯債務
第29回	事務管理	他人の事務、他人のためにする意思、費用償還請求権
第30回	不当利得	給付利得・侵害利得、受益と損失、法律上の原因

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

具体的な学習方法については授業中に指示するが、基本的には、教科書や概説書を何度も繰り返し読むことを勧める。また、基本的な概念や判例の準則については、ノートにまとめるなど、各自工夫して覚えてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	・民法上の基本概念が正確に理解できているか ・条文や判例法理といった規範を具体的な事例に適用して妥当な結論を導くことができるか
定期試験の点数が合格点に達していない者については、成績評価にあたって出席状況を考慮に入れる。このため、コミュニケーション・ペーパーを授業中に配布する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメを配布する。なお、講義には、コンパクトなサイズのものでよいから、必ず六法を持参されたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スタートライン民法総論	池田真朗 / 日本評論社 / /
スタートライン債権法	池田真朗 / 日本評論社 / /
「スタートライン債権法」は、この春に第5版が出版される可能性がある。なお、この教科書は、必ずこれではなければならないという「指定教科書」ではない。教科書については、授業中に何冊か紹介するので、それを参考に、どれか1冊購入されたい。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・キーワード民法	中田邦博 = 高嶋英弘 / 法律文化社 / /
民法判例百選Ⅱ [第五版 新法対応補正版]	星野英一ほか / 有斐閣 / /
ケースではじめる民法 [補正版]	山野日章夫 = 野澤正充編 / 弘文堂 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基本民法(民法入門・債権各論)(JC) § 基本民法(民法入門・債権各論)(GC)

16664

担当者名 / Instructor 小山 泰史

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義は、1回生が入学後にはじめて履修する専門科目であり、かつ、全部で18単位ある民法科目のうちの最初の科目でもある。日常生活で直面する法律問題(契約や事故など)を素材に、民法の基本的な諸制度について学んでいく。講義の範囲は、民法典第3編債権のうち、第1章(総則)を除いた部分(第2章契約、第3章事務管理、第4章不当利得、第5章不法行為)のほか、民法入門(民法の意義・歴史、判例や学説の意義、民法典の全体像等)である(なお、第1章にある「債務不履行」の範囲もこの授業で扱う野で注意)。

民法は、私法(市民と市民間の法律関係を規律する法)の一般法(原則となる法)であるといわれる。それだけに本講義で習得する内容は、他の科目の理解にも必要であることが多い。90分の授業が修2コマ開講されるため、1回の授業で進む量は、かなり多いものと覚悟してほしい。したがって、担当教員の指示に従い、予習や復習をしっかりと行うことが求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 民法の基本的な思考方法を身につける。
- ② 民法典に用意された制度の全体像を、大まかに理解する。
- ③ 各条文の要件・効果を正確に覚える。
- ④ 教科書や判例など、長文の法律文献を読む習慣を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1回生前期の「法学入門」と「政治学入門」。特に前者で扱われる内容は、この「基本民法」の理解にも役立つと考えられる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	民法入門1	民法の意義、歴史、法源、民法の基本原則 民法典の概観、民法典の成立と沿革、法体系の中の民法の位置づけ
第2回	民法入門2	民法典の構造(パンデクテン方式)、意思表示と法律行為、債権の基本的な性質、契約の定義、契約の拘束力、債務不履行、損害賠償、契約の解除、
第3回	民法入門3	法定債権(事務管理・不当利得・不法行為)、不法行為に基づく損害賠償、物、不動産と動産、物権の定義と物権法定主義、物権の種類
第4回	契約の成立——契約成立のプロセス	契約の種類(双務契約・片務契約、有償契約・無償契約等)、「契約の拘束力」、申込みと承諾、申込みの誘引、契約の成立時期(到達主義・発信主義)
第5回	契約の有効性	意思表示と法律行為、無効と取消し
第6回	契約の主体	権利能力・意思能力・行為能力、法人、代理、第三者のためにする契約
第7回	契約の効力(1)	原始的不能、同時履行の抗弁権、危険負担
第8回	契約の効力(2)・債務不履行序論	危険負担、債務の履行の強制(直接強制・代替執行・間接強制)債務不履行の意義、債務不履行の諸態様(履行遅滞・履行不能・不完全履行)と共通の要件、履行補助者、
第9回	債務不履行の効果(1):損害賠償	金銭賠償の原則、損害の概念、損害の種類、損害賠償の範囲、損害額算定の基準時、損害賠償額の予定、賠償者の代位、代償請求権
第10回	契約の解除	解除の意義と機能、法定解除・約定解除、解除の効果
第11回	債務不履行の効果(2):受領遅滞と弁済の提供	受領遅滞、弁済の意義、弁済の提供
第12回	現代的な債務不履行類型:債務不履行の効果(3)	契約締結上の過失、安全配慮義務付・事情変更の原則
第13回	贈与・売買	贈与の効力、特殊の贈与、売買の予約、手付け、売買契約の効力
第14回	売主の担保責任(1)	担保責任の意義、担保責任の種類、権利の瑕疵に関する売主の担保責任
第15回	売主の担保責任(2)——瑕疵担保責任	目的物の瑕疵自体についての売主の担保責任、瑕疵担保責任の法的性質——債務不履行責任との関係
第16回	売主の担保責任(3)と「答案構成のやり方」	不特定物と瑕疵担保、模擬問題の出題
第17回	売買以外の典型契約(1)	交換・消費貸借・使用貸借・質貸借
第18回	「答案構成の考え方」についての解説と売買以外の典型契約(2)——質貸借(1)	模擬問題の解説、質貸借契約の性質、「売買は質貸借を破る」、質借権の対抗力、質貸人・質借人の権利義務

第19回	売買以外の典型契約(3)——賃貸借(3)・請負	賃借権の無断譲渡・賃借物の無断転貸、賃貸借の解約、請負契約の成立
第20回	売買以外の典型契約(4)——請負・委任・寄託	結果債務、請負人の瑕疵担保責任、委任の成立、受任者の義務、委任者の義務
第21回	法定債権関係(1)——事務管理・不当利得	事務管理の成立要件、不当利得の意義、一般不当利得の要件、転用物訴権、不法原因給付
第22回	法定債権関係(2)——不法行為(1)：一般不法行為の成立要件その1	不法行為の意義、不法行為の成立要件(故意または過失)、違法性(権利・利益の侵害)
第23回	不法行為(2)——一般不法行為の成立要件その2	損害の発生、因果関係、責任能力
第24回	不法行為(3)——不法行為の効果その1	損害賠償の方法、損害賠償の範囲、損害賠償の請求権者の範囲
第25回	不法行為(4)——不法行為の効果その2	損益相殺、過失相殺、権利行使の期間制限(消滅時効・除斥期間)
第26回	不法行為(5)——監督義務者の責任	責任無能力者、責任能力、胎児の地位、死者の損害賠償請求権の相続性
第27回	不法行為(6)——使用者責任	報償責任(「利益の存する処に損失もまた帰する」)、責任要件、求償
第28回	不法行為(7)——土地工作物責任・共同不法行為	所有者・占有者の責任、客観的共同関係・主観的共同関係、不真正連帯債務
第29回	特別法上の不法行為	自動車損害賠償保障法(自賠法)、国家賠償保障法(国賠法)、製造物責任法
第30回	全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業前の予習(教科書の該当箇所の事前のチェックと関連条文の素読)。授業中の講義ノートの作成(自分で自分のノートを作ることの重要性)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	事例問題を中心とした論述形式を予定している。 授業で取り上げた民法の条文について、その制度趣旨や基本的な要件・効果等を、基本的な事例に当てはめて論述し、展開できること。代表的な専門用語の内容について、一通り理解できていること。

自分なりのノートの作成をすることで、勉強のプロセスを後付けでフォローすることが出来る。授業の過程で、各自のその回の講義ノートの提出を求めることがある。ただし、ノート提出は、成績評価の対象とはしない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・毎回の授業には必ず出席すること。出席を継続することなく民法科目をマスターすることはほとんど不可能に近い。民法科目は、試験直前の一夜漬けで単位は取れない。
- ・民法に限らず、条文を声を出して音読することをお勧めする。声を出して読み上げることで、条文のどの部分で意味が区切られるかを知ることが出来る。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スタートライン民法総論	池田真朗 / 日本評論社 / 4-535-51403 /
スタートライン債権総論	池田真朗 / 日本評論社 / / 2010年度中に[第5版]が刊行される予定。
基本民法各クラスとも、上記の2冊をテキストとして指定する。ただし、特に不法行為法の部分等は、下記に挙げる参考書等で補うことが望ましい。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
債権各論Ⅱ 不法行為法	前田陽一 / 弘文堂 / 978-4-335-30313-5 /
基本講義債権各論Ⅰ 契約法・事務管理・不当利得	潮見佳男 / 新世社 / / 新しい版が出版される可能性あり
民法Ⅳ——債権各論[第3版補訂版]	藤岡康宏・磯村保・浦川道太郎・松本恒雄 / 有斐閣 / 978-4-641-15933-4 /
民法Ⅱ 債権各論[第2版]	内田貴 / 東大出版会 / 978-4-13-032308-6 /
民法判例百選Ⅱ 債権[第6版]	中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編 / 有斐閣 / 978-4-641-11496-8 /

毎回の授業には必ず出席すること。友人からノートを借りてコピーをする、というのでは、自分の頭の中に定着させるための手間を惜しんでいる限り、実力はつかない。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

研究室 修学館5F 515号室
TEL.075-466-3046(内線3515)
e-mail:y-koyama@law.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

担当者名 / Instructor 西村 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

米国が主張するグローバル・スタンダードは、自由な市場取引と市場開放である。そこで、最初に、市場取引の成果を測る“ものさし”の一つである「余剰」の概念を紹介する。そして、「余剰」の視点から競争市場の成果と問題点を概観しながら、ミクロ経済学の基礎的な知識(需要曲線・供給曲線、消費者行動、生産者行動、市場の役割と失敗等)を説明していく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・留保価格と市場価格の関連、および、需要曲線と供給曲線の経済的な意味を理解する。
- ・消費者余剰、生産者余剰および総余剰の概念と、その意味を理解する。
- ・競争的な市場取引についての評価とその限界を理解する。
- ・競争的な市場と非競争的な市場における生産者行動の違いを理解する。
- ・市場主義についてのメリットやデメリットについて論理的な考え方ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1～3回目	市場取引の成果を測る方法についての紹介。	消費者余剰、生産者余剰および総余剰の意味。競争取引と相対取引がもたらす総余剰の違い。
第4～5回目	市場が不均衡の場合の調整。数量割当や価格規制などの経済規制がもたらす総余剰への影響。	価格調整と非価格調整の違いと総余剰への影響。消費税の実質負担と課税による社会的損失の発生。
第6～8回目	可変費用、固定費用、限界収入、限界利潤、限界費用などの内容説明。	競争企業の合理的行動と利潤最大の条件。
第9～11回目	独占企業の利潤最大化行動と独占価格の設定。独占市場の弊害を測るラーナーの独占度。	限界費用原理、独立採算制および二部料金制に基づく公共料金の設定と総余剰との関連。
第12～14回目	ゲームの理論の紹介。	複占市場の企業行動とクールノー競争およびベルトラン競争の相違。
第15回目	競争市場が効率的な資源配分を実現する取引であることの確認。	競争市場が機能しない場合の公共料金や公共政策の存在意義。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特にありません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	マークシートを利用した択一方式の試験で、出題範囲はすべての講義内容をカバーする。
平常点評価	0 %	講義の理解度を深める一助として、不定期に宿題を課したり、教室で練習問題を解いたりすることもある。その場合、成績評価の際に宿題の理解度を参考にする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

経済学は論理的な学問です。ミクロ経済学の知識は全講義で完結します。したがって、毎回講義に出席することが大切です。それから、講義のスタイルは、グラフや記号を多用した形式になります。受講生は、このようなスタイルに抵抗を抱かないことを願います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
インタラクティブ・エコノミクス	篠原総一・西村理・平山健二郎 / 有斐閣 / ISBN4-641-16140-2 /

教科書でカバーできない箇所は、資料をその都度配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

- ・電話連絡: 075-251-3653
- ・メール: onishimu@mail.doshisha.ac.jp

その他 / Others

担当者名 / Instructor 西村 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現在の日本経済を概観しながら、マクロ経済学の基礎的な知識(国民経済の枠組み、国民所得決定理論、マネーサプライと貨幣市場、失業と需要管理政策、労働市場の特徴等)を紹介していく。そして、国内総生産(GDP)決定の均衡分析を説明しながら、最終的には、開放経済における金融政策や財政政策の効果について言及する。さらに、労働市場の特殊性についても説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・マクロ経済の基本的な概念についての用語を知る。
- ・マクロ経済の循環と生産物市場・労働市場・金融市場の関連について理解する。
- ・均衡GDPの決定とその要因について理解する。
- ・主要な一般新聞に掲載される経済記事のアウトラインを理解できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「経済原論I」を履修することが望ましい。履修できない場合、指定参考書の第II編「ミクロ経済学」の第1～3章および第6～10章を読んで受講すると、「経済原論II」の講義内容が理解しやすくなる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1～2回目	国民所得統計から見た日本経済のスケール。	GDPの定義、名目値と実質値の違い、成長率と総合物価変化率との関係。
第3～5回目	マクロ経済の枠組み(需要サイドと供給サイドの両面から)についての説明。	国内総支出の構成項目の説明。成長率と内需寄与度・外需寄与度の関係。経済循環図からみた三面等価。
第6～7回目	総需要関数の決定要因についての説明。	消費関数とその説明変数。投資関数とその説明変数。投資の金利非対称性と投資の二面性についての説明。
第8～10回目	GDP決定の均衡分析および乗数効果について。	貨幣の需要関数とI-S曲線およびL-M曲線の意味。
第11～12回目	財政・金融政策の効果と流動性の罫における政策効果。	輸出入関数と為替相場の動き。
第13～14回目	日本の労働市場の特徴について。	少子高齢社会と経済のグローバル化による日本型雇用への影響。
第15回目	マクロ経済全体の枠組みとその構成項目の理解。	インフレ(デフレ)や失業者の発生メカニズムと財政・金融政策の役割についての理解。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
平常点評価	0 %	講義の理解度を深める一助として、不定期に宿題を課す場合もある。その場合、成績評価の際に、宿題の理解度を参考にする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

経済学は論理的な学問である。マクロ経済学の知識は全講義で完結する。したがって、毎回講義に出席することが大切になる。それから、講義のスタイルは、グラフや記号を多用した形式になるが、受講生はこのようなスタイルに抵抗を抱かないことを願う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アウトルック 日本経済	西村理・加藤一誠 / 萌書房 / 978-4-86065-039 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
インタラクティブ・エコノミクス	篠原総一・西村理・平山健二郎 / 有斐閣 / ISBN4-641-16140-2 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

- ・電話: 075-251-3653
- ・メール: onishimu@mail.doshisha.ac.jp

その他 / Others

憲法I (JA) § 憲法I (GA)

16654

担当者名 / Instructor 中島 茂樹

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義は、国民主権・平和主義および基本的人権の諸問題を扱う。

到達目標 / Attainment Objectives

「権利の保障が確保されず、権力の分立が規定されていないすべての社会は、憲法をもつものではない」。これは1789年のフランス人権宣言第16条の規定である。ここには、「権利の保障」と「権力分立」が「憲法」の不可欠の構成要素とされているが、このような意味での憲法が世界史のなかで具体化されるのは、近代市民革命以降のことに属する。憲法 I では、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重といった日本国憲法をめぐる憲法上の諸原理や憲法解釈上の諸問題について、歴史的な観点と比較憲法的な視点をもふまえて検討することとしたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	憲法 の 概念 と 立 憲 主 義	憲法 の 概念、立 憲 主 義 の 構 造 と 展 開
2	日 本 国 憲 法 の 成 立	明 治 憲 法 の 特 色、日 本 国 憲 法 の 成 立 過 程
3	国 民 主 権 の 原 理 と 象 徴 天 皇 制	
4	平 和 主 義 の 原 理	憲 法 9 条 の 成 立 と 展 開、日 米 安 保 体 制
5	基 本 的 人 権 の 妥 当 範 囲	人 権 の 私 人 間 効 力、特 別 権 力 関 係 論、人 権 と 公 共 の 福 祉
6	包 括 的 基 本 権 と 法 の 下 の 平 等	生 命・自 由・幸 福 追 求 権、法 の 下 の 平 等
7	精 神 的 自 由 (1)	思 想・良 心 の 自 由、学 問 の 自 由
8	精 神 的 自 由 (2)	信 教 の 自 由 お よ び 政 教 分 離 の 原 則
9	精 神 的 自 由 (3)	表 現 の 自 由
10	経 済 的 自 由	職 業 選 択 の 自 由、財 産 権
11	人 身 の 自 由 と 適 正 手 続 の 保 障	
12	国 務 請 求 権 と 参 政 権	国 務 請 求 権、参 政 権
13	社 会 権 (1)	生 存 権
14	社 会 権 (2)	教 育 を 受 け る 権 利
15	社 会 権 (3)	労 働 基 本 権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

下記のテキストを用いるほか、レジュメを配布する。適宜受講者を指名して応答を求めるほか、小テストを実施することもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な知識の確認や簡単な事例問題の解決を通じて、論点がしっかり理解できているかを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法 第4版	芦部信喜／岩波書店／

レジュメを適宜配布するので、その他の概説書を所有している者は、当該概説書でも差し支えない。

参考書 / Reference Books

判例解説として、『憲法判例百選〔第四版〕I・II』(有斐閣)、その他、講義の際に適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

憲法I (JB) § 憲法I (GB)

16657

担当者名 / Instructor 小松 浩

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義は、憲法の総論と人権の部分を対象とする。時間の許す限り、現代日本に現実に生起している憲法問題を具体的に取り上げ、憲法を単に知識として捉えるのではなく、自らの問題として捉えなおす機会となるような講義を心がけたい。

到達目標 / Attainment Objectives

憲法学説、判例を単に頭で理解し、習得するだけでなく、日本国憲法の理念、精神を文字通り体得し、現代日本で生起する憲法問題に対して主体的な判断ができるようになることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	憲法 の 概念	憲法とは何か、憲法の意味、分類、立憲主義
2	日本憲法史(1)	明治憲法の基本原理
3	日本憲法史(2)	日本国憲法の制定
4	国民主権原理	国民主権、象徴天皇制
5	平和主義(1)	平和主義の原理、憲法9条の解釈
6	平和主義(2)	平和主義に関する判例
7	人権総論(1)	人権の歴史的展開
8	人権総論(2)	人権の分類、享有主体
9	人権総論(3)	人権の限界、特別権力関係、私人間効力
10	包括的基本権	幸福追求権、自己決定権
11	法の下 の 平等	平等の意味、憲法14条の解釈
12	精神的自由権(1)	思想・良心の自由、信教の自由
13	精神的自由権(2)	表現の自由、集会・結社の自由
14	経済的自由権	職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権の保障
15	社会権	生存権、教育を受ける権利、労働基本権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

下記の教科書を中心にして講義を進めるが、教科書に掲載されていない内容にも当然触れるので、講義に出席することが必須である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述問題 学説、判例が理解され、それらの検討が行えているかを評価する。
平常点評価	20 %	択一式小テスト 法学部生としての最低の基礎知識の有無を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法(第4版)	芦部信喜(高橋和之補訂) / 岩波書店 / /

一応上記教科書を指定するが、他の体系書、基本書でもかまわない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法判例特選	笹川紀勝ほか / 敬文堂 / /
憲法1人権(第3版)	渋谷秀樹・赤坂正浩 / 有斐閣 / /
憲法判例百選 I・II(第5版)	高橋和之ほか / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

法学館憲法研究所 <http://www.jiclj.jp/>

憲法会議 <http://www.kenpoukaigi.gr.jp/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 多田 一路

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この講義では、憲法一般及び日本国憲法の基本原理(民主主義、平和主義)と、基本的人権について扱います。意外に思うかもしれませんが、「人権」という言葉は、しばしば矮小化されて使用されています。この矮小化された「人権」概念の呪縛を解きほぐし、憲法の基本理念に即した法学的な人権理解の手助けとなるような講義を意識的に追求します。

到達目標 / Attainment Objectives

憲法原理および基本的人権に関する基本的な論点を把握し理解することを目標とします。当然ですが、理解とは、その問題について、論理的に説明ないし表現できるということです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

法学入門
並行履修が望ましい科目として、基本民法、戦後日本政治史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	憲法 の 概念 と 立 憲 主 義	形式的意味、実質的意味、憲法規範の特徴、憲法の類型
2	近代市民憲法の成立(1)	明治憲法、自由民権運動、外見的立憲主義
3	近代市民憲法の成立(2)	日本国憲法の制定、近代立憲主義、憲法の運用
4	国民主権	主権、国民主権の二面性、国民主権の性格
5	国民主権の下での象徴天皇制	天皇の地位、天皇の行為
6,7	平和主義(1)(2)	戦争の違法化、自衛権、戦力不保持
8	基本的人権総論(1) 人権の展開	権力に対抗する権利、立法権に対抗する権利、社会的権利、第三世代の人権
9	基本的人権総論(2) 人権の概念、人権の保障、人権の類型論	基本的人権の意義、人権を保障する主体、裁判的救済
10	基本的人権総論(3) 人権の主体	未成年者の人権、外国人の人権、法人の人権
11,12	基本的人権総論(4) 人権の制約	公共の福祉、内在的制約
13	基本的人権総論(5) 人権が妥当する範囲	公務員の人権、在監者の人権、私人間における人権保障
14,15	包括的権利(1)(2)	幸福追求権、人格的権利、名誉権、プライバシー権、自己決定権
16	平等	形式的平等、実質的平等、アファーマティブ・アクション、合理的差別、裁判における審査
17	思想良心の自由、信教の自由(1)	内心の自由、沈黙の自由、信教の自由
18	信教の自由(2)、学問の自由	政教分離原則、教育の自由、教育権、大学の自治
19~21	表現の自由(1)(2)(3)	表現の自由を保障する意義、知る権利、表現の自由に対する規制
22	職業選択の自由、居住・移転の自由	営業の自由、規制目的、居住・移転の自由の性質
23	財産権	財産権保障の意味、公用収用、損失補償
24,25	人身の自由と適正手続の保障(1)(2)	適正手続主義、罪刑法定主義、被疑者の権利、刑事被告人の権利
26	社会権の意義と生存権	生存権の法的性格、環境権
27	教育を受ける権利と労働に関する権利	教育の機会均等、学習権、勤労権、労働基本権
28	国務請求権	裁判を受ける権利、国家賠償請求権
29,30	参政権	請願権、選挙権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・講義はそのアウトラインをプラズマディスプレイで提示しながら進めます。アウトラインのファイルはwebコースツールに置いておくので、必要ならば事前にプリントアウトしてもかまいません。
- ・webコースツール上で小テストを課します。この小テストは、教室で一斉に行うものではなく、オンデマンドで一定の期間内に行うものです。詳細は、講義で説明します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な論点について、論理的に表現できているかを評価します。
平常点評価	30 %	小テストを、webコースツール上で、講義時間外に数回行い、講義にかかわる論点の理解度を評価します。

webコースツール上での小テストを上記のように成績に反映させますから、各自、webコースツールの利用について習得しておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小テストを「自らの力で(=他人の力によってではなく)」コツコツ取り組まなければ、合格できないしくみになっています。期末試験一発勝負をかける人には向いていません。

また、小テストの解説を、講義の中で行う予定ですので、出席するほうがトクです。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。自宅学習等については、体系書・概説書を利用してください。体系書・概説書は、参考書の欄で例示します。いうまでもないことですが、六法は必携です。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法(第四版)	芦部信喜 高橋和之補訂 / 岩波書店 / /
憲法学教室(全訂第2版)	浦部法穂 / 日本評論社 / /
憲法(第三版)	佐藤幸治 / 青林書院 / /
憲法(第3版)	辻村みよ子 / 日本評論社 / /
憲法 I・II(第4版)	野中、中村、高橋、高見 / 有斐閣 / /

上記は、あくまで例示であり、この他にも、体系書・概説書は多数。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

市民と憲法研究者をむすぶ憲法問題Web <http://www.jca.apc.org/~kenpoweb/>
 法学館憲法研究所 <http://www.jicj.jp/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義に関する質問などは、講義終了直後のほかは、できるだけwebCTの「電子掲示板」を利用すること。
 そのほか、講義外で教員の研究室に訪問などする際は、事前に電子メールでアポイントメントをとること。
 ichtada@law.ritsume.ac.jp

その他 / Others

憲法II (JA) § 憲法II (GA)

13995

担当者名 / Instructor 中島 茂樹

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本講義は、憲法 I で扱われた人権保障理論を前提として、国民主権と政治制度というテーマのもとに統治機構にかんする諸問題を扱う。

到達目標 / Attainment Objectives

現代社会における国家の諸活動はかつて見られなかったほどに肥大化し、国民の社会・経済生活とのかかわり、したがってまた、国民の権利・自由とのかかわりも著しく複雑・多様な様相を示している。この憲法 II では、国民主権原理を基軸とし、人権保障の手段としての統治機構という観点から、歴史的な視点と比較憲法的な視点をふまえて、現実政治を洞察できる能力を獲得することを目標としたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	国民主権と国民代表制度	国民主権と代表の概念、国民代表制
2	選挙制度と政党	国民主権と選挙制度、政党の憲法上の位置、政治資金の規制と政党への公的助成
3	権力分立の原理	近代憲法の権力分立制、権力分立制の現代的変容
4	国会	国会の地位、国会の組織と活動、国会と議院の権能
5	内閣	行政権と内閣、内閣の組織と権能、議院内閣制
6	裁判所	司法権の意味と範囲、裁判所の組織と権能、司法権の独立
7	違憲審査制	意義と類型、違憲審査権の対象、違憲審査の方法と基準、違憲判決の効力
8	財政	財政民主主義と租税法律主義、予算制度
9	地方自治	地方自治の本旨、地方公共団体の機関、条例

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な知識の確認や簡単な事例問題の解決を通じて、論点がしっかり理解できているかを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記のテキストを用いるほか、レジュメを適宜配布する。受講者を指名して応答を求めるほか、小テストを実施することもある。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法 第4版	芦部 信喜 / 岩波書店 / /

レジュメを適宜配布するので、その他の概説書を所有している者は、当該概説書でも差し支えない。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

中学校や高等学校の社会科(「公民」「現代社会」「政治・経済」)でもおなじみの日本国憲法は、まず何よりも「基本的人権」(第11条、第97条)を保障してくれている「最高法規」(第98条第1項)です。誰もが「法の下に平等」(第14条第1項)な「個人として尊重される」(第13条)ために、「人類普遍の原理」(前文)に基づく法の支配により、さまざまな権利の保障が規定され、それぞれの権力の限界が設定されています。

この授業では、これに直結する科目『憲法I』において、日本国憲法の存在理由や全体構造(前文、第9章「改正」、第10章「最高法規」)、その基本原理である国民主権と平和主義と人権保障の分野(第1章「天皇」、第2章「戦争の放棄」、第3章「国民の権利及び義務」)が学習されていることにかんがみ、日本国憲法による権力の構成と抑制の両面に着目して、統治の分野(第4章「国会」、第5章「内閣」、第6章「司法」、第7章「財政」、第8章「地方自治」)の基本的なルールやシステムを解説します。個別の論点について統治の基本原理の双壁をなしている権力分立と国民主権の関係を考察してもらい、全体を通じて日本国憲法に基づく権利と権力の関係を憲法Iとは別の視角から再検討してもらいますが、抽象的な理論の展開に終始して無味乾燥だという感想しか得られないようでは困りますから、判例の解説を重点的に盛り込み、ときには諸外国との比較も織り込みながら、講義の形式で授業を進めます。

到達目標 / Attainment Objectives

日本国憲法に基づく統治の基本的なルールやシステムについて、基礎的な学識を習得してもらうこと。もう少し具体的には、講義のなかで解説する学説や判例について批判的に検討してもらい、それを通じて獲得された学識を論理的な文章で説明できる程度に、日本国憲法を使いこなせるようになってもらうこと。そもそも「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」(学校教育法第52条)ととらえられていますが、この授業では、統治をめぐる現実のおよび理論的な憲法問題について「深く専門の学芸」に親しんでもらいたいと思います。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

『憲法I』と『法学入門』が実質的にも履修済であることが望ましいですが、形式的にも未履修である場合などは、参考書を意欲的に活用して積極的に補うようにしてください。また、『法学フロンティア』が履修済であることも望ましいでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	権力分立	権利と権力 抑制と均衡
3～4	国民主権	正当性の契機 権力性の契機
5～6	国民代表	代表概念
7～8	国政選挙	選挙権 選挙区 代表法
9～10	国会(日本国憲法第4章)	国会の地位
11～12	国会(日本国憲法第4章)	議院の権限
13～14	国会(日本国憲法第4章)	議員の特権
15～16	内閣(日本国憲法第5章)	内閣の構成
17～18	内閣(日本国憲法第5章)	議院内閣制
19～20	司法(日本国憲法第6章)	司法権の意義
21～22	司法(日本国憲法第6章)	裁判所の権限
23～24	司法(日本国憲法第7章)	裁判官の身分
25～26	財政(日本国憲法第7章)	財政民主主義 財政立憲主義
27～28	地方自治(日本国憲法第8章)	団体自治 住民自治
29～30	改正(日本国憲法第9章) 最高法規(日本国憲法第10章)	憲法保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で扱う内容に関連した報道などには、日常的に留意しておいてください。授業を欠席した場合は、コースツール(WebCT)を利用して講義資料を入手し、任意の参考書を活用して補うようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	応用力をともなった学識の定着を確認するため、定期試験期間中に筆記試験を実施します。定期試験の出題には、日本国憲法に基づく論述を求める設問を用います。
レポート試験	0 %	レポート試験は、実施しません。

平常点評価 20 % 重要な事項に関する知識と理解を確認するため、授業時間中に小テストを実施します。小テストの出題では、多肢選択式(択一式)などの短答式の設問を用います。

この授業の成績評価は、定期試験の得点に小テストの得点を加算した合計点に基づき、厳正におこないます。なお、通常の授業時間中に実施する小テストについては、原則として何を参照してもかまわないこととしますが、定期試験については、法学部において2010年度前期の定期試験への持ち込みが許可される種類および状態の六法のみを持ち込み許可物件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

予習よりも復習が大切な授業だと心得てください。そして、効果的かつ効率的な学習のために、継続的かつ系統的な復習を心掛けてください。なお、日本国憲法に基づいて保障されるべき「学問の自由」(第23条)を、自分の権利としても、他人の権利としても、大切にしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。独自に作成して配付する資料をもとに講義をおこないます。聴講による学習を効果的かつ効率的に補完するには、概説書(基本書や体系書などとも呼ばれる教科書)などが必要ですが、これについては、講義のなかで紹介する参考書などを各自で用意して、任意の予習や復習に役立ててください。なお、受講に際しては、適当な六法を携行してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法(第4版)	芦部信喜(著)・高橋和之(補訂) / 岩波書店 / 4000227643 / 定評あるオーソドックスな概説書
憲法の本	浦部法穂(著) / 共栄書房 / 476341030X / 読みやすいコンサイスな入門書
憲法2統治(第3版)	渋谷秀樹・赤坂正浩(著) / 有斐閣 / 4641123090 / 使いやすいコンパクトな概説書

初回の講義時に以上の3点を含めた参考書のリストを配付します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- (1) <http://www.asaho.com>
水島朝穂氏による
「平和憲法のメッセージ」
- (2) <http://www.jicl.jp>
法学館憲法研究所
- (3) <http://www.ndl.go.jp/constitution/>
国立国会図書館による
「日本国憲法の誕生」
- (4) http://homepage.mac.com/kazkinos/C_Reference.html
木下和朗氏による
「憲法参考文献表」

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

憲法II (JC) § 憲法II (GC)

13996

担当者名 / Instructor 多田 一路

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

憲法の統治機構に関わる部分を扱います。近年、政治の場面では、立憲主義という大原則がないがしろにされる傾向にありますが、立憲主義は憲法の本質的理解と深く関わっています。国民主権や権力分立、違憲審査などの個別の問題を基盤に、なぜ憲法で統治制度が定められているのか、といった本質的な問題も意識してもらうことをめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

統治機構に関する基本的な論点を把握し理解することを目標とします。当然ですが、理解とは、その問題について、論理的に説明ないし表現できるということです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法 I、戦後日本政治史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	統治の原理としての立憲主義	近代立憲主義、外見的立憲主義
2	国民主権	正統性の契機、権力的契機、憲法制定権力、人民主権
3	国民代表制	純粹代表、半代表、社会学的代表、命令的委任
4	選挙制度	選挙権の法的性格、選挙の原則
5	権力分立	立法府と行政府との関係、司法府との関係
6,7	国会と立法権(1)(2)	国会の地位、国会の組織
8,9	国会と立法権(3)(4)	国会の権限、議院の権限
10,11	国会と立法権(5)(6)	議員、会期、衆議院の解散
12,13	内閣と行政権(1)(2)	内閣の地位、行政の概念
14,15	内閣と行政権(3)(4)	内閣の組織、内閣の権限、内閣の責任
16,17	裁判所と司法権(1)(2)	司法の概念、司法権の限界
18,19	裁判所と司法権(3)(4)	裁判所の組織、裁判所の権限、司法権の独立、裁判官の民主的統制
20	違憲審査制度(1)	違憲審査の意義、違憲審査制の類型、違憲審査権の法的性格
21	違憲審査制度(2)	憲法訴訟、憲法判断の手法、法令違憲判決の効力
22	租税法律主義と財政民主主義(1)	財政議会主義の原則、租税法律主義
23	租税法律主義と財政民主主義(2)	公金支出の制限、予算の法的性格
24,25	地方自治(1)(2)	地方自治の意義、地方自治の本旨
26,27	地方自治(3)(4)	地方公共団体の組織、地方公共団体の権限
28	憲法改正と憲法保障(1)	憲法の変動、憲法保障
29	憲法改正と憲法保障(2)	憲法改正の手續、憲法改正の限界、現代改憲論
30	総括と各回の補遺	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

・講義はそのアウトラインをブラウザディスプレイで提示しながら進めます。アウトラインのファイルはwebコースツールに置いておくので、必要ならば事前にプリントアウトしてもかまいません。

・webコースツール上で小テストを課します。この小テストは、一斉に行うものではなく、オンデマンドで一定の期間内に行うものです。詳細は、講義で説明します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な論点について、論理的に表現できているかを評価します。
平常点評価	30 %	小テストを、webコースツール上で、講義時間外に数回行い、講義にかかわる論点の理解度を評価します。

webコースツール上での小テストを上記のように成績に反映させますから、各自、webコースツールの利用について習得しておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小テストを「自らの力で(=他人の力によってではなく)」コツコツ取り組まなければ、合格できないしくみになっています。期末試験一発勝負をかける人には向いていません。

また、小テストの解説を、講義の中で行う予定ですので、出席するほうがトクです。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。自宅学習等については、体系書・概説書を利用してください。体系書・概説書は、参考書の欄で例示します。いうまでもないことですが、六法は必携です。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法(第四版 高橋和之補訂)	芦部信喜 / 岩波書店 / /
憲法学教室(全訂第2版)	浦部法穂 / 日本評論社 / /
憲法(第三版)	佐藤幸治 / 青林書院 / /
憲法(第3版)	辻村みよ子 / 日本評論社 / /
憲法 I・II (第4版)	野中、中村、高橋、高見 / 有斐閣 / /

上記は、あくまで例示であり、この他にも、体系書・概説書は多数。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

市民と憲法研究者をむすぶ憲法問題Web <http://www.jca.apc.org/~kenpoweb/>
 法学館憲法研究所 <http://www.jicl.jp/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義に関する質問などは、講義終了直後のほかは、できるだけwebCTの「電子掲示板」を利用すること。
 そのほか、講義外で教員の研究室に訪問などする際は、事前に電子メールでアポイントメントをとること。
 ichtada@law.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

担当者名 / Instructor 村上 弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

行政学は政治学の一分野で、国や地方自治体の行政を対象とするものである。現代の政府活動が拡大するなかで、行政機構は政策の執行だけでなく決定に関しても大きな役割を果たすとともに、さまざまな問題も抱えている。

この講義では、行政学全体への導入部のあと、行政の内部過程、つまり中央省庁等の運営・管理のためのさまざまなしくみについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

行政学の標準的な知識と分析枠組みを身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

受講者は、関連づけて、政治学諸科目、行政法、憲法、財政学を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	<導入>	行政学とは、行政学(政治学)と行政法(法律学)の違い、教科書の説明
2-4	<第1部 行政と行政学の歴史> ●行政と行政学の歴史	国家と政府の役割、絶対王政、自由主義、福祉国家、新自由主義、市場と政府
5-6	●日本の行政の戦前と戦後、行政学における価値基準	
7-9	<第2部、行政の内的過程> ●組織理論の展開	科学的管理法、古典的組織論、人間関係論、サイモン理論
10-11	●行政組織における分業と統合調整	日本の行政組織、計画、リーダーシップ
12-13	●公務員人事	原理、採用、昇進、天下り、服務
14-15	●財政	予算編成過程、財政健全化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書または準教科書を、授業の前または後に読むことが望ましい。準教科書の場合には、その編成と授業の進み方は一致しないので、目次や索引を活用して関連ページを探すこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	知識と論述能力を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

板書を多用するが、口頭で述べたことも重要な部分はノートすること。

資料レジュメは、教室でのみ配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる行政学	村上弘・佐藤満編 / ミネルヴァ書房 / 2009年

<準教科書>

* 上の教科書を持たない人は、下のどれか1冊を選んで買うことを薦めます。

真淵勝『行政学』有斐閣、2009

今村都南男ほか『ホーンブック基礎行政学』改訂版、北樹出版、2009

西尾勝『行政学』新版、有斐閣、2001

村松岐夫『行政学教科書』第2版、有斐閣、2001

参考書 / Reference Books

西尾勝・村松岐夫編『講座行政学』全6巻、有斐閣、1994~95

福田耕治・真淵勝・縣公一郎編『行政の新展開』法律文化社、2002

新藤宗幸『講義・現代日本の行政』東京大学出版会、2001

東田親司『現代行政と行政改革—改革の要点と運用の実際』(新版)、芦書房、2004

総務省『行政管理・総合調整白書』毎年

行政管理研究センター『データ・ブック日本の行政』毎年

飯尾潤『日本の統治構造—官僚内閣制から議院内閣制へ』中公新書、2007

山口二郎『内閣制度』(行政学叢書)東京大学出版会、2007

大森彌『官のシステム』(行政学叢書)東京大学出版会、2006

草野厚『官僚組織の病理学』ちくま新書、2001

岩田規久男『「小さな政府」を問いなおす』ちくま新書、2006
小此木潔『消費税をどうするか』岩波新書、2009

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

総務省ホームページ <http://www.soumu.go.jp>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問等は、授業のあと教室で寄せてください。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 村上 弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

行政学は政治学の一分野で、国や地方自治体の行政を対象とするものである。現代の政府活動が拡大するなかで、行政機構は政策の執行だけでなく決定に関しても大きな役割を果たすとともに、さまざまな問題も抱えている。

この講義では、行政の外部過程、つまり政治過程のなかでの行政の活動、行政と議会や市民の関係などについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

行政学の標準的な知識と分析枠組みを身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

受講者は、関連づけて、政治学諸科目、行政法、憲法、財政学を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	* 1つのテーマを2~3回で扱う	
1-3	●行政責任	行政責任の諸類型、行政統制の諸方法
4-6	●官僚制理論	M. ウエーバーの官僚制論とその今日的意味、その後の理論展開
7-9	●議会と行政	立法、執行過程における官僚制の機能と権力
10	●利益団体と行政	各種社会集団の参加方法と影響力
11-12	●市民と行政	行政情報の流れ、市民参加の諸方法
13-15	●行政改革	行政改革の多面性、小さな政府、NPM、規制緩和・規制の充実、政策評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書または準教科書を授業の前または後に読むことが望ましい。

準教科書の場合には、その編成と授業の進み方は一致しないので、目次や索引を活用して関連ページを探すこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	知識と論述能力を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

板書を多用するが、口頭で述べたことも重要な部分はノートすること。

資料レジュメは、教室でのみ配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる行政学	村上弘・佐藤満編 / ミネルヴァ書房 / 2009年

< 準教科書 >

* 上の教科書を持たない人は、下のどれか1冊を選んで買うことを薦めます。

真淵勝『行政学』有斐閣、2009

今村都南男ほか『ホーンブック基礎行政学』改訂版、北樹出版、2009

西尾勝『行政学』新版、有斐閣、2001

村松岐夫『行政学教科書』第2版、有斐閣、2001

参考書 / Reference Books

西尾勝・村松岐夫編『講座行政学』全6巻、有斐閣、1994~95

福田耕治・真淵勝・縣公一郎編『行政の新展開』法律文化社、2002

新藤宗幸『講義・現代日本の行政』東京大学出版会、2001

東田親司『現代行政と行政改革—改革の要点と運用の実際』(新版)、芦書房、2004

総務省『行政管理・総合調整白書』毎年

行政管理研究センター『データ・ブック日本の行政』毎年

飯尾潤『日本の統治構造—官僚内閣制から議院内閣制へ』中公新書、2007

山口二郎『内閣制度』(行政学叢書)東京大学出版会、2007

草野厚『官僚組織の病理学』ちくま新書、2001

岩田規久男『「小さな政府」を問いなおす』ちくま新書、2006

田中一昭『行政改革』新版、ぎょうせい、2006

福山嗣朗『NPM実務の考え方・進め方—効率的・効果的な政策形成・実施・評価改善』学陽書房、2006年
自治体問題研究所編『NPM行革の実像と公務・公共性』自治体研究社、2006
行政管理研究センター 編『政策評価ハンドブック 新基本方針対応版—評価新時代の到来』ぎょうせい、2007
小此木潔『消費税をどうするか』岩波新書、2009

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

総務省ホームページ <http://www.soumu.go.jp>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問等は、授業のあと教室で寄せてください。

その他 / Others

行政法I (JA) § 行政法I (GA)

16666

担当者名 / Instructor 正木 宏長

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

行政法は、国や自治体といった行政機関が、民間事業者の取り締まりのような行政活動をするとき、どのような法の拘束を行政がうけるのか、あるいは、行政の規制を受けた民間事業者が、国や自治体に対して裁判を起こすとき、いかなる訴訟を提起することができるか、というような問題を扱う。

つまり、行政に関する法が行政法である。

本講義では、行政法のうち、「行政法総論」を講義する

到達目標 / Attainment Objectives

- ・行政法の基本概念と判例について、包括的な理解を得る。
- ・行政手続法や情報公開法のような行政に関する基本的な制度について総合的な理解を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法や民法(特に総則、不法行為の分野)についての、基本的知識を習得した上で履修に臨むことが望ましいが、必須というわけではない。刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、環境法、経済法、社会保障法、労働法、行政学といった科目も、行政法を修得する上で有益な知識を与える。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1, 2	「導入講義」、「行政と法」	
3, 4	「行政法の観念」、「公法と私法」	
5, 6	「行政法の法源」、「行政法の基本原理」	
7, 8	「行政組織法」	
9, 10	「行政過程論と行政の法的仕組み」、「行政立法」	
11, 12	「行政行為の種類」、「行政行為の効力」	
13, 14	「行政行為の瑕疵」、「行政行為の効力の発生」、「行政行為の失効」、「行政行為の附款」	
15, 16	「行政裁量」	
17, 18	「行政契約」、「行政指導」	
19, 20	「行政計画」、「行政と私人」	
21, 22	「行政手続の基本理念」、「行政手続法」	
23, 24	「行政上の義務履行確保」、「即時強制」	
25, 26	「情報公開」	
27, 28	「行政調査」、「行政情報管理」	
29, 30	「規制、給付、調達、誘導の法的仕組み」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習・復習をすれば学習効果が上がることはいうまでもない。

予習をするときは授業の順序が、教科書と必ずしも一致しないので気をつけること

指定の教科書が難しいと感じたときは、より簡単な教科書(授業で指定する)を用いて予習・復習をすること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	95 %	行政法の基本的理解即ち行政法の基本原則及び概念の理解度とその応用力が習得できているかを評価基準とする。
平常点評価	5 %	※授業中に著しい受講態度不良があった者は、成績評価に際し考慮する場合がある

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法I 第五版	塩野宏 / 有斐閣 / 978-4-641-13054-8 /
六法は必ず最新版を用意すること。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法判例百選 I・II	小早川光郎他 / 有斐閣 / /

行政法解釈学 1	阿部泰隆／有斐閣／9784641130449／
行政法①	大橋洋一／有斐閣／9784641130524／
新版 行政法	高田敏編／有斐閣／9784641183551／
個人情報保護法の逐条解説 第3版	宇賀克也／有斐閣／9784641130593／
行政法 第2版	櫻井敬子＝橋本博之／有斐閣／9784335354472／

判例百選以外の参考書は図書館への発注リスト

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

正木宏長のHP
<http://www.ops.dti.ne.jp/~andm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

研究室は修学館524。用事があるときは下のアドレスに連絡
andm@ops.dti.ne.jp
ただし、期末試験が終わった後に配慮してください系の連絡・訪問はしないこと

その他 / Others

webCTは使っていないので注意

授業の概要 / Course Outline

行政法 I は、いわゆる行政法通則と行政作用法の領域を講義の対象とする。行政法通則とは行政法の基礎的概念とか原理を扱うものである。行政作用法は、多数の行政法令に基づく行政活動に共通に存在する法理を抽出し説明するものといえる。行政法は、よくとつきにくいと敬遠されることがある。確かに、行政法は学習の軸となるべき基本的な法典がないため、刑法や民法のように法典の内容を個々の条文に即して修得するという科目とは異なるためそうした印象は拭えない。しかし、行政法の「おもしろさ」は多くの行政法令の背後にあって条文に書かれていない一般法理を探究するところにあるといえる。また、そういう意味で学説のもつ意味も大きいといえよう。やや抽象的なイメージを持たれるかもしれない行政法をできるだけわかりやすく講義したいと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

行政法の基本的構造及び概念を理解してもらうことを第一の到達目標としたい。
さらに、行政法の履修者の多くが公務員試験受験を考えていることにも配慮しそれに対応する基礎的能力がつくことを目標としたい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

行政法は、憲法と民法の知識が必要な場合があり、これらの科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義のすすめ方、行政と法のかかわりなど。 この回では行政法関係について概略を説明することにした。	行政と私人
第2回	公法と私法 公法と私法の区別する意味について議論を紹介する。	
第3回	法律による行政の原理について、その内容である法律の法規創造力、法律の優位、法律の留保について説明する。	侵害留保、全部留保、
第4回	法律による行政の原理以外の行政法の一般原則 特に、民事法上の一般原則の適用について判例の動向を説明する。	
第5回	行政の組織の概観 行政機関概念を簡単に説明する。	行政主体、行政機関、行政庁概念
第6回	行政の行為形式論 行政立法(1) 伝統的な法規命令と行政規則の区別について説明するとともに、それぞれの概念も検討する。	
第7回	行政立法(2) 法規命令と行政規則の相対化、あるいは行政規則の外部位化現象について説明する。	
第8回	行政行為論(1)行政行為の意義、種類 行政の行為形式の中心である行政行為について学ぶ。	
第9回	行政行為論(2)行政行為の諸効力 公定力を中心に行政行為の特殊な効力の意義について説明する。	公定力、取消訴訟の排他的管轄、不可変更力
第10回	行政行為論(3)行政行為の附款 附款の概念を理解する。	
第11回	行政行為論(4)行政行為の瑕疵論	取消原因となる瑕疵と無効原因となる瑕疵の区別
第12回	行政行為論(5)行政行為の取消と撤回 行政行為の取消と撤回を理解するとともに、その制限の法理について論じる。	
第13回	行政裁量(1) 行政裁量とは何か、行政裁量に関するこれまでの学説の状況を学ぶ。	法規裁量、自由裁量
第14回	行政裁量(2)裁量統制の議論 裁量の所在、現行行訴法30条の下での裁量処分の扱いなど。	要件裁量、効果裁量、時の裁量
第15回	行政裁量(3)裁量審査の手法と基準 裁量統制手法の主流になりつつある判断合理性審査に着目して説明する。	判断代置型審査、手続的審査

第16回	行政計画 行政計画の意義、計画の争訟可能性 小田急高架化訴訟など行政計画をめぐる訴訟を紹介する。	
第17回	行政指導 行政指導の定義、行政指導に関する手続法規定の内容	任意性
第18回	行政契約 行政契約の意義	
第19回	行政上の実効性確保手段(1)行政上の強制執行 行政上の強制執行制度について説明し、行政上の義務の司法的執行の可否についても検討する。	行政代執行、直接強制、執行罰、強制徴収
第20回	行政上の実効性確保手段(2)行政代執行 行政代執行法について概説する。 行政罰など制裁について説明する。	行政刑罰、秩序罰、過料
第21回	即時強制 即時強制の意義とその問題について理解する。	
第22回	行政調査 強制調査の問題点を判例を中心に説明する。	任意調査、間接強制調査、強制調査
第23回	行政手続(1)行政手続の意義 行政手続とは何か、適正手続4原則など判例を交えて説明する。	
第24回	行政手続(2)申請に対する処分手続 行政手続法の申請処分に関する規定を説明する。	審査基準
第25回	行政手続(3)不利益処分手続 行政手続法の不利益処分に関する規定を説明するが、特に、履践すべきとしている聴聞と弁明手続を解説する。	処分基準、聴聞、弁明、
第26回	行政手続(4)届出手続、意見公募手続、手続瑕疵と処分の効力 パブリックコメント手続を説明し、手続の瑕疵が本体の処分にどのように影響するか、判例の検討を行う。	
第27回	情報管理法制(1)情報公開制度の概要	
第28回	情報管理法制(2)情報公開判例の検討	
第29回	情報管理法制(3)個人情報保護制度	
第30回	まとめ:行政作用法の主要内容を再確認するとともに、各回で触れられなかった部分を補充する。	法律による行政の原理、行政裁量論、行為形式論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	行政法の基本的理解即ち行政法の基本原則及び概念の理解度とその応用力が習得できているかを評価基準とする。
平常点評価	0 %	※授業中に著しい受講態度不良があった者は、成績評価に際し考慮する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業には、六法の携帯を必要とする。また、判例集を参照する機会もあるが、詳しくは初回の講義で話したいと思う。なお、講義のスケジュールどおりにすすめないこともありうることを予め断っておきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法の基本	北村・佐伯・佐藤・高橋 / 法律文化社 / 標準的でわかりやすい。
教科書で詳しく触れられていない点や判例について、プリントで補う。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法判例百選 I	小早川光郎 ほか / 有斐閣 /
行政法のエッセンス	櫻井敬子 / 学陽書房 / 行政法入門書。行政法のとっつきにくさに悩む学生にとってはわかりやすい書物として薦めたい。
第四版行政法 I (総論)改訂版	藤田宙靖 / 青林書院 / 水準の高い体系書

上記の判例百選は講義で参照することがある。

[参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference](#)

[教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff](#)

[その他 / Others](#)

授業の概要 / Course Outline

違法な行政活動によって国民の権利が侵害された場合、国民の権利はどのように救済され得るでしょうか？行政法学は、違法な行政活動によって国民の権利が侵害された場合の救済方法を、大きく二通りの考え方に分けて説明します。ひとつには、国家賠償法という法律によって、民事法の不法行為と同様に、損害賠償として金銭賠償の方法で権利の救済を図るという考え方です。この救済方法の欠点は、金銭賠償を得ることが出来ても原因行為は存続しているため権利を侵害されている国民にとって抜本的な解決方法にはならない、という点が挙げられます。もう一つの考え方は、違法な行政の行為を「取消す」ことによって救済する、というものです。行政不服審査法に基づいて行政機関に対して不服を申し立てる方法と、行政事件訴訟法に基づいて裁判所に出訴する方法がありますが、行政不服審査法及び行政事件訴訟法で争うことのできる行政活動は限定的なものであり、かつ、民事法にはない特殊な「効力」を伴う行為として説明されます。行政法Ⅰでは様々な行政の行為類型を学びましたが、行政法Ⅱでは、行政法Ⅰで学んだ行為類型のうち、どういった行為類型が行政不服審査法・行政事件訴訟法の救済の対象となり得るかということから始まり、行政上の不服申立ての仕組み、行政訴訟の種類、審理の方法、判決の効力など、行政訴訟特有の考え方を学んでいきます。

行政法Ⅱで主要となるのは行政事件訴訟法と国家賠償法ですが、行政法Ⅱの4単位には行政救済法のみならず行政組織法も含まれていますから、授業内容は、行政組織法(行政組織、公務員法)から始めて、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法(国家賠償法2条の講義の

到達目標 / Attainment Objectives

- ・行政法Ⅰで学んだことと、行政法Ⅱで学ぶべきこととの関係を理解する
- ・現行法の「不服申立て」の仕組みとその問題点を理解し、自民党政権下で廃案となった法案や現政権下で検討されている法案内容との差異に注目する
- ・行政訴訟の種類、審理の方法、判決の効力など、行政訴訟特有の考え方を理解する
- ・最高裁判例の整理・検討を通じて、国家賠償責任に関する理解を深める

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

行政法Ⅰを履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業ガイダンスおよび導入講義を行う	行政法三分野(行政作用法、行政救済法、行政組織法)の関係
第2回	行政組織法① 二つの行政機関概念	行政機関概念
第3回	行政組織法② 行政主体の多様性	行政庁と行政主体、独立行政法人と特殊法人、「民営化」と「民間化」
第4回	行政組織法③ 公務員法制	国家公務員法と地方公務員法
第5回	行政上の不服申し立て制度①	行政不服審査法
第6回	行政上の不服申し立て制度②	行政不服審査法
第7回	行政上の不服申し立て制度③	行政審判
第8回	行政事件訴訟の種類	抗告訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟
第9回	取消訴訟の訴訟要件①	処分性
第10回	取消訴訟の訴訟要件②	処分性をめぐる最高裁判例検討
第11回	取消訴訟の訴訟要件③	原告適格
第12回	取消訴訟の訴訟要件④	原告適格をめぐる最高裁判例検討
第13回	取消訴訟の訴訟要件⑤	狭義の訴えの利益
第14回	取消訴訟の審理	民事訴訟法と行政事件訴訟法の関係
第15回	取消訴訟の判決	執行停止、判決の効力
第16回	取消訴訟以外の抗告訴訟①	不作為の違法確認訴訟、無効等確認訴訟
第17回	取消訴訟以外の抗告訴訟②	義務付け訴訟、差止訴訟、仮の救済
第18回	当事者訴訟	確認訴訟の明文化
第19回	民衆訴訟と機関訴訟	住民訴訟の仕組み
第20回	国家補償法① 国家賠償法1条の要件	国家賠償責任の法的性質、「公権力の行使」、「公務員」
第21回	国家補償法② 国家賠償法1条の要件	過失と違法性
第22回	国家補償法③ 国家賠償法1条の要件	特殊な公務員の違法
第23回	国家補償法④ 国家賠償法1条の要件	行政の不作為責任
第24回	国家補償法⑤ 国家賠償法2条の要件	営造物責任の法的性質、「営造物」概念
第25回	国家補償法⑥ 国家賠償法2条の要件	「設置・管理」の瑕疵、道路の瑕疵

第26回	国家補償法⑦ 国家賠償法2条の要件	河川、転落事故
第27回	国家補償法⑧ 国家賠償法2条の要件	機能的瑕疵・・・空港、新幹線、国道等
第28回	国家補償法⑨ 国家賠償法3条、4条、5条、6条	費用負担、民法との関係
第29回	国家補償法⑩ 損失補償の概念	日本国憲法と損失補償、補償の要件
第30回	国家補償法⑪	公共事業と損失補償

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書を繰り返し読むことが基本です。教科書を難しいと感じたら、より平易な説明をしているテキストを図書館で探してみましょう。無理をして理解できないことを詰め込むよりも、基本を理解して知識を積み上げることが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的知識の有無。 具体的設問に対して、法律の条文をあてはめることができるかどうか。

授業時に小テストを行うことがあります。自分で到達度を確認するために行うものですから、平常点評価に使用することはありません。成績には反映させない小テストです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法 第2版	櫻井敬子・橋本博之 / 弘文堂 / / 2009年度後期行政法 I で使用した教科書です

- ・適宜、教材を配布します。

- ・訴訟法の授業ですから、授業に六法を必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政判例百選 I、II	小早川光郎ほか / 有斐閣 / /
行政法概説 II	宇賀克也 / 有斐閣 / /
行政法概説 III	宇賀克也 / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

・授業で理解できなかった難解な事柄をメールでやりとりして理解しようとしても、それはやはり理解できません。授業終了後に教員に直接尋ねてください。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 河音 琢郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、今日の日本経済の現状とその下での財政活動の総体的な表象を獲得することを前提として、今日の日本の財政構造とそれが抱える諸問題について、講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の日本の経済・財政構造について理解すること
今日の日本財政の抱える諸課題について理解すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーションと概説講義	財政学の大意
第2回	現代日本の経済構造の概観	輸出主導型経済、内需主導型経済への転換
第3回	現代世界経済の特徴と財政過程	世界金融危機、小さな政府、拡張財政
第4回	現代資本主義財政の一般的機能①—公共財の供給と資源配分	公共財、フリーライダー
第5回	現代資本主義財政の一般的機能②—所得再分配	所得再分配、累進課税、社会保障制度
第6回	現代資本主義財政の一般的機能③—景気安定化	ケインズ主義政策、ビルト・イン・スタビライザー
第7回	現代日本の財政制度の概観:①租税構造	課税根拠、租税原則、租税体系、租税論
第8回	現代日本の財政制度の概観:②予算制度	予算制度、増分主義、概算要求、予算論
第9回	現代日本の財政制度の概観:③財政投融资と公的金融	財政投融资、政策金融、郵政民営化
第10回	現代日本の財政制度の概観:④国と地方の財政関係	地方分権、財政調整制度、地方交付税
第11回	財政赤字と財政再建①—財政赤字の問題点	財政赤字、クラウドディングアウト、財政の硬直化
第12回	財政赤字と財政再建②—財政赤字ファイナンスの経済構造	財政赤字ファイナンス、国債市場、擬制資本
第13回	財政再建と予算制度改革①—増分主義と財政規律	増分主義的予算過程、財政規律
第14回	財政再建と予算制度改革②—政策評価と予算編成	ニュー・パブリック・マネジメント、政策評価
第15回	講義全体のまとめ:今後の日本財政をめぐる諸課題	小さな政府、財政再建、税制改革

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日常の経済、政治に関する一般的知識の獲得のため、一般紙を購読することが望ましい。

講義の活用法、自学自習の方法等について、詳しくは下記の文献を参照されたい。

麻生潤・河音琢郎・上瀧真生・和田寿博『学びの一步——大学の主人公になる』新日本出版社、2003年刊、第2章

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	各回で取り上げた諸論点について理解し、自らの言葉で適切に論じることができるかを評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。講義の中で配布するレジュメと資料に基づいて講義を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の財政	内山昭 / 税務経理協会 / 4419047216 / 日本財政の表象と財政学の全体像をつかむための書
図説 日本の財政(平成21年度版)	福田 淳一 / 東洋経済新報社 / 978-4492031865 / 現代の日本経済、財政に関する基礎資料
Basic現代財政学(第3版)	重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編 / 有斐閣 / 978-4-641-18377-3 / 日本財政を対象としたオーソドックスなテキスト
その他、講義の中で適宜指示する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

財務省ホームページ <http://www.mof.go.jp>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎回の講義にて、質問・感想用紙(コミュニケーション・ペーパー)を配布する。質問、意見、要望のある方は、講義後に提出いただきたい。次回の講義において口頭ないし文書の形でリプライする。

また、メールにての質問、要望も受け付ける。メールアドレスは下記の通り。

takuro@eco.wakayama-u.ac.jp

その他 / Others

財政学Ⅱ(G)

15098

担当者名 / Instructor 河音 琢郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、今日の日本における財政改革をめぐる主な諸論点を取り上げ、解説する。まず、ケインズ主義政策から新自由主義政策へという経済政策の大きなトレンドの中に、今日の財政改革を位置づけ、その特徴を明らかにする。その上で、税制改革、地方財政改革、社会保障財政の改革、という3つのテーマに絞って、現在の日本財政が抱えている課題と改革の展望を探りたい。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の経済政策の基本トレンドの中に財政改革を位置づけて理解すること。
税制改革、地方財政改革、社会保障財政の改革、をめぐる現実と諸理論について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

財政学Ⅰを履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーションと概説講義	財政学の体系
第2回	今日の経済政策の基本トレンド①—ケインズ主義から新自由主義へ	ケインズ主義政策、新自由主義政策、積極的調整
第3回	今日の経済政策の基本トレンド②—新自由主義政策の展開過程	供給サイドの経済学、グローバル化、労働市場の流動化、間接金融から直接金融へ
第4回	今日の経済政策の基本トレンド③—新自由主義政策の限界	供給サイドの経済学、バブル経済、世界金融危機
第5回	今日の経済政策の基本トレンド④—経済政策の今日の特徴と財政政策	大きな政府と小さな政府、財政の持続可能性
第6回	今日の租税構造と税制改革①—課税根拠と租税原則	応能説と応益説、租税原則、公平・中立・簡素
第7回	今日の租税構造と税制改革②—現代税制改革の基本トレンド	経済活性化税制、「薄く広く」の負担
第8回	今日の租税構造と税制改革③—現代日本税制の課題と展望	格差社会と累進制、グローバル化と税制
第9回	現代の政府間関係と地方財政改革①—現代日本の地方財政の基本構造	地方分権、団体自治と住民自治、地方交付税、補助金
第10回	現代の政府間関係と地方財政改革②—地方財政の伝統的諸問題	公共投資依存型財政、地方債、地方交付税の補助金化
第11回	現代の政府間関係と地方財政改革③—地方財政改革の展開と課題	三位一体の改革、自治体財政健全化法
第12回	現代日本の社会保障と財政改革①—年金財政の仕組みと改革	賦課方式と積立方式、保険料方式と税方式、
第13回	現代日本の社会保障と財政改革②—医療保険制度と財政問題	公的医療保険制度、医療構造改革、医療格差
第14回	現代日本の社会保障と財政改革③—社会保障の財源問題	少子高齢化、社会保障財源、消費税
第15回	講義全体のまとめ—国民本位の財政改革への展望	財政再建、財政民主主義

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日常の経済、政治に関する一般的知識の獲得のため、一般紙を購読することが望ましい。

講義の活用法、自学自習の方法等について、詳しくは下記の文献を参照されたい。
麻生潤・河音琢郎・上瀧真生・和田寿博『学びの一步—大学の主人公になる』新日本出版社、2003年刊、第2章

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	各回で取り上げた諸論点について理解し、自らの言葉で適切に論じることができるかを評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。講義の中で配布するレジュメと資料に基づいて講義を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

Basic現代財政学[第3版]

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編／有斐閣／978-4-641-18377-3／日本を対象とした財政学のオーソドックスなテキスト

そのほか、適宜講義の中で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

財務省ホームページ <http://www.mof.go.jp>

そのほか、適宜講義の中で指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎回の講義にて、質問・感想用紙(コミュニケーション・ペーパー)を配布する。質問、意見、要望のある方は、講義後に提出いただきたい。次回の講義において口頭ないし文書の形でリプライする。

また、メールにての質問、要望も受け付ける。メールアドレスは下記の通り。

takuro@eco.wakayama-u.ac.jp

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

1999年に地方分権一括法が成立して、今次の地方分権改革が始まったが、2006年に地方分権改革推進法ができ、2007年から第2次地方分権改革がスタートした。また、近時においては道州制など地方制度の今後の動向が注目されている。本講義では、こうした状況を踏まえ、地方分権改革の動向にも関心を持ちつつ、現行の地方自治制度の法的仕組みをできるだけわかりやすく説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

地方自治の法制度の全体像を把握できるようになる。
地方自治に関わる法的紛争について理解ができるようになる。
自治体実務について関心をもつことができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地方自治法は行政組織法の一部であるので、行政法の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の進め方、地方自治の仕組みの概要、自治体の種類など	団体自治と住民自治
第2回	自治体の事務の問題について、概説する。特に、自治事務と法定受託事務について解説する。	自治事務、法定受託事務、関与
第3回	国と地方の関係 団体自治のテーマである「国と地方の関係」について説明する。	自治権、国の関与
第4回	特別地方公共団体 民間委託や指定管理者制度など、地方自治の担い手の変容について説明する。	特別区、組合 外郭団体、公の施設
第5回	地方分権改革の動向について説明する。	
第6回	自治体の組織構造(1) 自治体組織の基本構造原理である首長制について詳しく説明する。自治体の議事機関たる議会について説明する。	二元代表制、 議会の権限
第7回	自治体の組織構造(2) 議会に引きつづき、長を中心とする執行機関について説明をしたのち、議会と長の関係について法的視点から考察する。また、地方公務員法制についても簡単に触れる。	執行機関の多元主義、長の総合調整権 議会と長の関係(長の不信任と議会解散、再議権、専決処分)
第8回	自治体法論(1) 自治体の法形式、条例、特に条例制定権(自治立法権)について説明する。	条例、規則
第9回	自治体法論(2) 地方自治法の重要なテーマのひとつである法令と条例の関係について、判例を紹介しつつ説明する。	自主条例、徳島市公安条例事件最高裁判決、法律先占論
第10回	自治体法論(3) 規則や要綱など条例以外の自治体法について説明する。	
第11回	住民の権利総論 自治体の情報公開制度	
第12回	直接民主主義的制度(1) 直接請求制度の解説し、住民参加制度の1つであるパブリックコメント手続について紹介する。	
第13回	直接民主主義的制度(2) 住民投票制度の動向についてその問題点も含め紹介する。	投票結果の法的拘束力
第14回	住民訴訟(1) 住民監査請求制度の概要、住民訴訟制度の概要を説明する。	監査委員、財務会計行為
第15回	住民訴訟(2) 住民訴訟に関する判例を分析する。	住民訴訟の拡大傾向

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

現実の地方自治の動きに関心を持って欲しい

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	地方自治法の基本的問題に関して出題する。地方自治法の基本的知識を理解しているかが評価の基準である。

場合によっては、定期試験の評価に加えて小レポートを課すことがあることを留意しておいてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストを中心に講義をすすめるが、不十分な場合は随時レジュメで補うことにする。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ファンダメンタル地方自治法第2版	村上・高田編 / 法律文化社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地方自治判例百選	/ 有斐閣 / /
地方自治法概説第3版	宇賀克也 / 有斐閣 / /

判例百選を授業で使うことはあまりないが、参照してもらうときは指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 山田 希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

民法の財産法のうち「物権法」、具体的には民法第2編「物権」の第1章「総則」から第6章「地役権」まで(民法175条～294条)の解説を行う。講義では、物権変動に関する法規範を中心に扱う。

到達目標 / Attainment Objectives

物権法に共通する以下の問題について、理解を深める。

- ① 物権とは何か、物権にはどのようなものがあるか。
- ② 物権を有する者は、物権に基づいてどのような権利を行使することができるか。
- ③ 物権が誰に帰属するかが、どのようにして定まるか。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「基本民法」や「民法総則」を中心とした民事法系科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	物権法序論	物権の意義・種類、物権の客体「物」、物権法定主義
第2回	物権の効力	物権的請求権(返還・妨害排除・妨害予防請求権)
第3回	物権変動序論	公示原則、不動産登記、動産引渡し、対抗要件主義、公信原則、民法176条「意思主義」の意義、物権変動の時期
第4回	不動産物権変動①「登記」による公示	民法177条「対抗要件主義」の意義、登記を要する物権変動
第5回	不動産物権変動②二重譲渡の法的構成	上記に関する諸学説
第6回	不動産物権変動③	背信的悪意者・悪意者排除に関する諸学説
第7回	不動産物権変動④意思表示以外の物権変動と登記(その1)	法律行為の取消しと登記、解除と登記
第8回	不動産物権変動⑤意思表示以外の物権変動と登記(その2)	取得時効と登記、相続と登記
第9回	登記手続き	中間省略登記、登記請求権
第10回	動産物権変動①「占有移転」による公示	引渡しの意義・種類、現実の引渡し、簡易の引渡し、占有改定、指図による占有移転、立木取引と明認方法
第11回	動産物権変動②占有の公信力「即時取得」	公信力、民法192条の即時取得、盗品・遺失物に関する民法193条
第12回	占有権	占有の取得・態様、占有の効力「占有訴権」、占有の消滅、準占有
第13回	所有権とその共同所有	無主物先占、遺失物拾得、埋蔵物発見、添付、共有、合有、総有、建物区分所有
第14回	用益物権①地上権と永小作権	地上権、永小作権
第15回	用益物権②地役権と入会権	地役権、入会権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業外学習の中心は、何といっても教科書や概説書を繰り返し読むことある。その際、授業で配布したレジュメに記載のある内容の箇所を重点に読むとよい。なお、押さえておくべき基本概念や判例の準則は、授業の中で指摘するので、ノートにまとめるなど、各自で覚えるための工夫をしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100% 物権に関する基本的な概念や考え方(判例や学説)を理解しているかどうか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

六法(コンパクトなものでもよい)を必ず持参すること。教室では、なるべく前のほうに座ることをお勧めする。

教科書 / Textbooks

教科書は、人によって合う合わないがあるため、初回講義時に紹介するものを参考に、どれか1冊購入されたい。

参考書 / Reference Books

参考書も、教科書と同様、初回講義時に紹介するものを参考に、図書館で借りるか、もしくは経済的に余裕があれば、購入されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

物権法 (JB) § 物権法 (GB)

15180

担当者名 / Instructor 小田 美佐子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

民法典第二編「物権」のうち担保物権を除く部分を中心に扱う。

到達目標 / Attainment Objectives

物権はどのような権利であるのか、どのような性質を備えているのか、物権にはどのような種類のものがあるのか、どのような効力があるのか、不動産物権と動産物権の変動をめぐる問題は何かについて、その基本的理解を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

民法 I、II

授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	本講義の概観	物権、不動産物権、動産物権
2-3	物権法序論	物権の意義と性質、客体、種類
4	物権の一般的効力	優先的効力、物権的請求権
5-6	物権変動論序説	物権変動の意義と原因、公示の原則、公信の原則
7-8	物権変動を生じる法律行為	物権変動における2つの立法主義、日本民法の解釈
9-12	不動産物権変動の公示	「対抗」の意義、登記を必要とする第三者の範囲、登記を必要とする物権変動の範囲
13-15	動産物権変動の公示	動産物権変動の対抗要件、即時取得

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	物権に関する基本的な概念、考え方(判例や学説)の理解

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 石橋 秀起

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

民法総則における諸制度の概説。

到達目標 / Attainment Objectives

民法総則における諸制度の理解、およびそれに基づいた法的思考力の涵養。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本民法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	民法総則の体系的位置と規律内容	
第2回	一般条項	
第3回	法律行為論① 法律行為とは何か	
第4回	法律行為論② 法律行為の成立	
第5回	法律行為論③ 法律行為の内容確定—契約の解釈	
第6回	法律行為論④ 契約の有効要件 —合意内容の有効性	
第7回	法律行為論⑤ 契約の有効要件 —意思表示の有効性 —意思不存在 —心裡留保と虚偽表示	
第8回	法律行為論⑤ 契約の有効要件 —意思表示の有効性 —意思不存在 —民法94条2項類推適用法理 / 錯誤	
第9回	法律行為論⑥ 契約の有効要件 —意思表示の有効性 —意思不存在 —錯誤	
第10回	法律行為論⑦ 契約の有効要件 —意思表示の有効性 —瑕疵ある意思表示	
第11回	自然人① 権利能力	
第12回	自然人② 意思能力および行為能力制度	
第13回	自然人③ 行為能力制度 / 住所 / 不在者の財産管理	私権の客体(物)
第14回	無効と取消し ① 両者の基本的特徴・両者の相違点	
第15回	無効と取消し ② 法律行為の無効・取消しと第三者	
第16回	事例式問題の出題と解説	
第17回	代理① 代理とは何か	
第18回	代理② 代理行為	
第19回	代理③ 無権代理	
第20回	代理④ 表見代理	
第21回	法人① 法人とは何か	
第22回	法人② 法人の対外的関係	
第23回	法人③ 権利能力なき社団、民法上の組合	
第24回	条件・期限、期間の計算	
第25回	時効① 時効総論	
第26回	時効② 取得時効	
第27回	時効③ 消滅時効・除斥期間	
第28回	事例式問題の出題と解説(答案構成方法を中心に)	
第29回	事例式問題の出題と解説(答案構成方法を中心に)	
第30回	事例式問題の出題と解説(多論点にまたがる応用問題)	

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	民法第1編「総則」の諸制度、関連する法概念、判例・学説の見解等を正確に理解し、習得した知識をもとにして一定の法的思考をおこなうことができるかどうかによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回の講義に出席するとともに、自宅学習(本講義に関しては特に復習)をきちんと行うことが望まれる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
有斐閣Sシリーズ 民法 I ―総則〔第3版補訂〕	山田卓生ほか / 有斐閣 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法判例百選 I ―総則・物権〔第6版〕	中田裕康ほか / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 臼井 豊

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本授業では、民法第一編「総則」の解説を行う。条文では、民法1から37条、第85条から第174条の2までになる。民法のなかでも総則部分は、民法全体に共通する問題を扱っていて、それだけに全体に抽象的な民法のなかでも、特に抽象度が高く取つきにくいことから、初期法学教育にふさわしい教授法に関する工夫がもっとも重ねられてきた部分でもある。私もこれまでの先人の工夫に学びながら、できるだけ具体的な設例を用いて、分かりやすい授業に努めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

民法第一編「総則」の諸制度、それに関する法律概念・用語・条文を正確に理解していること。
上記に関する判例通説の見解・基本問題を幅広く論理的に理解していること。
以上の理解を踏まえて、応用問題にも正確な法的判断を下せること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくに基本民法については、単位を取得したか、履修中であること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	本講義の学習内容－民法1条から37条、85条から174条の2までを眺めて、講義内容をイメージしてみよう！	
第2回	権利行使の基本原則	公共の福祉、信義則、権利濫用
第3回	権利の主体「自然人」①権利能力・意思能力	胎児の法的地位(阪神電鉄事件、停止条件説と解除条件説)、私的自治の原則
第4回	権利の主体「自然人」②行為能力—未成年者	
第5回	権利の主体「自然人」③行為能力—成年後見制度	後見・保佐・補助
第6回	権利の主体「自然人」④相手方の保護と行為能力制限制度の総括	制限行為能力者の詐術による取消権剥奪
第7回	住所・不在者の財産管理及び失踪宣告・同時死亡の推定・権利の客体「物」	居所・仮住所、普通失踪・特別失踪、有体物、不動産・動産
第8回	法律行為と意思表示	意思主義と表示主義、法律行為の種類、意思表示の構造
第9回	法律行為の有効要件①一般条項「公序良俗」	
第10回	法律行為の有効要件②心裡留保・通謀虚偽表示	意思の不存在(意思の欠缺)、相手方・第三者の保護
第11回	法律行為の有効要件③錯誤	錯誤の種類・類型、動機の錯誤
第12回	法律行為の有効要件④詐欺強迫・意思表示の効力発生時期	二段の故意、欺罔行為の違法性、到達主義
第13回	第1回小テスト実施(45分)とその解説(45分)	
第14回	消費者契約法	
第15回	民法総則の前半部分を終えた「まとめ」	
第16回	代理総論・有権代理論	代理の意義・機能、任意代理・法定代理、代理権授与と代理行為、顕名主義、自己契約・双方代理の禁止、復代理
第17回	無権代理論	無権代理人の責任、無権代理と相続
第18回	表見代理論	代理権授与表示による表見代理、越権代理、代理権消滅後の表見代理
第19回	代理権の濫用法理	民法93条ただし書類推適用、親権者の法定代理権
第20回	法人総論－最近の法人制度改革を中心に－	法人制度の意義・必要性、社団法人・財団法人、一般法人・公益法人・営利法人、定款、設立主義
第21回	一般法人法・公益法人認定法の概要と「権利能力なき社団」法理	一般社団・財団法人、準則主義(登記)、公益社団・財団法人、認定主義、権利能力なき社団法理
第22回	法人の外部関係	法人学説、民法34条の定款の目的による制限、定款による理事の代表権の制限、法人の不法行為責任
第23回	法人の内部関係と法人格否認の法理	社員総会、理事・監事、評議員・評議員会、法人の解散、法人格否認の法理
第24回	第2回小テスト実施とその解説	

第25回	無効・取消し、条件と期限・期間の計算	無効行為の追認・転換、取消権の時効、停止条件・解除条件、確定期限・不確定期限、期限の利益
第26回	時効総論	時効の意義・正当化根拠、取得時効・消滅時効、時効の援用、時効利益の放棄、時効の中断
第27回	取得時効	自主占有・他主占有、長期・短期取得時効、原始取得、占有の承継、自然中断
第28回	消滅時効	短期消滅時効
第29回	除斥期間－民法724条後段の20年の期間制限を中心に	除斥期間、権利濫用・信義則
第30回	「民法総則」の後半部分を終えた「まとめ」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

配布予定のレジュメには、「復習」、「調査」、「自宅学習」、「発展学習」、「演習事例問題」などがあるので、教員の指示に従い随時しっかりと行っていたきたい。

なお、数回予定している小テストは、必ず受験して現在の自分自身の到達度を把握し、予習・復習に生かして欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	民法第1編「総則」の諸制度・規定、関連する法概念、判例・学説の見解等を正確に理解し、習得した知識をもとにして一定の法的思考をおこなうことができるかどうかによって評価する(シラバスの「到達目標」も参照のこと)。 なお小テストなどの機会に随時具体的に提示して、イメージしてもらう。

定期試験を基本に成績評価する。なお受講態度の悪い者については、減点を行うことがあるので、十分注意していただきたい。
また、実施した小テストを成績評価に加味すると判断した場合は、定期試験の割合が90～80%程度になることもありうる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業外学習の指示」に従って勉強してください。

また分からないことがあれば、恥ずかしからず、担当教員に直接相談するか、本授業に配属の予定されているTA(またはES)に指定時間に相談することをオススメする。

なお授業では、六法は適宜参照するので、コンパクトなものでよから、常に持参すること。条文に慣れるときわめて重宝するので、面倒くささらずに必ず六法をめくること。

教科書 / Textbooks

教材・資料については、担当者が独自に作成したものを配布する予定にしている。

なお、新年度に伴い新しい教科書が複数出版されることが予想されるため、詳細については、初回授業時に説明する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法判例百選 I	／有斐閣／／
民法の争点	内田眞＝大村敦志 / 有斐閣 / /

新年度に伴い新しい参考書が複数出版されることが予想されるため、詳細は初回講義時にご紹介するつもりである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 木村 和成

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

《法学入門》および《基本民法》で取り扱われた内容を理解していることを前提に、民法第一編《総則》(1条～174条の2)について講義します。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 各制度の制度趣旨を理解する。
- (2) 基本的な条文の要件と効果を正確に把握する。
- (3) 具体的な紛争に適切な法規範を適用する能力を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

法学入門、基本民法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに(ガイダンス)、《基本民法》の復習	
2	民法総則入門、通則	パンデクテン方式、公共の福祉、信義則、権利濫用の禁止、一般条項
3	自然人(1)	権利能力、意思能力、行為能力、同時死亡の推定、失踪宣告
4	自然人(2)	意思能力、行為能力、未成年者、後見
5	自然人(3)	保佐、補助、催告、詐術
6	法人(1)	社団法人、財団法人、公益法人、営利法人、非営利法人
7	法人(2)	法人の権利能力・行為能力、権利能力なき社団・財団
8	物	有体物、不動産と動産、主物と従物、元物と果実
9	問題演習(1) ※講義の進度調整にあてる可能性あり	
10	法律行為総論	法律行為、意思主義、表示主義、慣習、任意規定、強行規定、条理、公序良俗
11	意思表示総論、心裡留保、虚偽表示(1)	意思の不存在、瑕疵ある意思表示
12	虚偽表示(2)	94条2項の類推適用、善意の第三者
13	錯誤	要素錯誤、表示錯誤、動機錯誤
14	詐欺、強迫	取消しと第三者
15	消費者契約法における特則、意思表示にかかわるその他の問題	誤認の惹起、困惑の惹起、不当条項規制、到達主義
16	問題演習(2) ※講義の進度調整にあてる可能性あり	
17	代理(1)	法定代理、任意代理、自己契約、双方代理、代理権の濫用
18	代理(2)	代理行為、代理行為の瑕疵、無権代理
19	代理(3)	無権代理
20	代理(4)	表見代理
21	代理(5)	表見代理、94条2項と110条
22	問題演習(3) ※講義の進度調整にあてる可能性あり	
23	無効、取消し	無効行為の転換、追認
24	条件、期限、期間の計算	停止条件、解除条件、期限の利益、初日不算入の原則
25	時効(1)	消滅時効、起算点、援用
26	時効(2)	中断、停止
27	時効(3)	除斥期間、権利失効の原則
28	時効(4)	取得時効、占有
29	問題演習(4) ※講義の進度調整にあてる可能性あり	
30	講義のまとめ－民法改正の動き	

講義での理解をスムーズなものとするために、受講生には事前の予習を求め(予習の範囲はコースツールにて事前に指定します)、その予習を前提として講義を進めます。予習といってもハードなものではなく、教科書の該当部分をあらかじめ通読しておく程度のことです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述式の試験で、上記の《到達目標》に到達しているかどうかをみます。
平常点評価	0 %	※講義中の私語等により退室を求められるような著しい受講態度不良があった場合には、定期試験の結果にかかわらず不合格(F評価)とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

必ず予習・復習をするようにしてください。
予習をしなければ、講義についていけなくなる可能性があります。
復習を怠らなければ、試験前にあわてることもなくなると思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スタートライン民法総論	池田真朗 / 日本評論社 / 予習用教材
ポケット六法などの小型六法(最新のもの)	///

講義自体はレジュメと板書によって進めますので、『スタートライン民法総論』を講義中に使用することはほとんどありませんが、予習用に必須です。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法の基礎1(第3版)	佐久間毅 / 有斐閣 / //
民法講義 I (第2版)	山本敬三 / 有斐閣 / //
法学講義民法1総則(第2版)	奥田昌道ほか / 悠々社 / //
民法判例百選 I (第6版)	中田裕康ほか / 有斐閣 / //
判例講義民法 I (補訂版)	奥田昌道ほか / 悠々社 / //

講義のレベルにもっとも近いのは、佐久間『民法の基礎1』です。
民法総則の教科書は他にも多数ありますので、手にとってみて自分に合いそうなものを利用してください。
後2つは判例集。学習の助けになるのは「判例講義」のほうかと思えます。
いずれにせよ《解説》の部分よりも《事実関係》と《判決理由》の部分を読み込むよう心がけましょう。
なお、いずれも最新版が刊行された場合は、そちらを利用するようにください。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

日本語教育学I (LA)

13574

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育IとIIでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義 (I) では言語学、日本語の文法・音声、日本語学史などを学び、言語一般や日本語の構造・語彙・意味などについての基礎的な知識の習得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育に必要とされる基礎知識の習得とともに、日本語を含む言語一般の持つ様々な問題を自分自身で分析できるようになるための方法論を身につけることが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション, 言語学	比較言語学
2	言語学	ソシユールの言語学
3	言語学	形態論, 語彙論
4	言語学	形態論, 語彙論
5	言語学	統語論, アメリカ構造主義言語学, 生成文法
6	言語学	統語論, 生成文法
7	言語学	意味論, 古典的意味論, 認知言語学
8	言語学	意味論, 認知言語学
9	言語学	意味論, 認知言語学, カテゴリー
10	言語学	意味論, 認知言語学, 比喩, イメージスキーマ
11	日本語文法	品詞, 活用, 日本語学史
12	日本語文法	動詞
13	日本語文法	動詞, 受身
14	日本語文法	使役, ヴォイス, テンス
15	日本語文法	アスペクト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	・授業内容の理解度 ・レポートの構成力
平常点評価	50 %	・出席 ・タスク・ディスカッションなどへの能動的な参加

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が大いに望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布(ハンドアウトがかなり多いので、ハンドアウトを整理できるようクリアファイルなどを準備すること)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

fleetwood@mac.com または il.nome.della.rosa@softbank.ne.jp

その他 / Others

日本語教育学I (LB)

13593

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育IとIIでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義 (I) では言語学、日本語の文法・音声、日本語学史などを学び、言語一般や日本語の構造・語彙・意味などについての基礎的な知識の習得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育に必要とされる基礎知識の習得とともに、日本語を含む言語一般の持つ様々な問題を自分自身で分析できるようになるための方法論を身につけることが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション, 言語学	比較言語学
2	言語学	ソシユールの言語学
3	言語学	形態論, 語彙論
4	言語学	形態論, 語彙論
5	言語学	統語論, アメリカ構造主義言語学, 生成文法
6	言語学	統語論, 生成文法
7	言語学	意味論, 古典的意味論, 認知言語学
8	言語学	意味論, 認知言語学
9	言語学	意味論, 認知言語学, カテゴリー
10	言語学	意味論, 認知言語学, 比喩, イメージスキーマ
11	日本語文法	品詞, 活用, 日本語学史
12	日本語文法	動詞
13	日本語文法	動詞, 受身
14	日本語文法	使役, ヴォイス, テンス
15	日本語文法	アスペクト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	・授業内容の理解度 ・レポートの構成力
平常点評価	50 %	・出席 ・タスク・ディスカッションなどへの能動的な参加

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が大いに望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布(ハンドアウトがかなり多いので、ハンドアウトを整理できるようクリアファイルなどを準備すること)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

fleetwood@mac.com または il.nome.della.rosa@softbank.ne.jp

その他 / Others

日本語教育学II (LA)

16292

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育ⅠとⅡでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義(Ⅱ)では日本語教育学Ⅰで学んだ知識を土台として、語用論、第二言語習得理論(主な習得モデル、中間言語、学習ストラテジーなど)及びバイリンガル教育、コミュニケーション理論、異文化コミュニケーション、日本語教育事情、音声教育などを学ぶ。

授業では実際にさまざまなタスクを行い、日本語教育能力検定試験及び教育の現場で役に立つ実践的な知識や能力の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育の現状及び多様な文化的背景を持つ学習者の実態への理解を深め、言語・日本語・日本語教育等に関する個々の知識を検定や教育の現場で役に立つ能力へとつなげていくことが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰ

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	語用論	発話行為、間接発話行為、協調の原理
3	語用論	ポライトネス・ストラテジー
4	語用論	非言語コミュニケーション、アコモデーション理論、コミュニケーション・スキル、アサーティブ・コミュニケーション
5	社会言語学	言語接触、ピジン・クリオール、言語連合、外来語
6	第二言語習得	対照分析研究、誤用分析研究、中間言語研究
7	第二言語習得	バイリンガリズム、イマージョン・プログラム
8	第二言語習得	年少者に対する日本語教育、学習者のストラテジー
9	方言と共通語	方言、共通語、ネオ方言、新方言
10	方言と共通語	コード・スイッチング、ウチナーヤマトウグチ
11	異文化コミュニケーション	異文化適応、リエントリー・クライシス
12	異文化コミュニケーション	異文化トレーニング、気づきのエクササイズ
13	異文化コミュニケーション	異文化トレーニングの形式・目的・内容
14	音声教育	音声教育の教材・教授法
15	アクション・リサーチ	アクション・リサーチ、自己研修型教師

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	・授業内容の理解度 ・文章の構成力
平常点評価	50 %	・出席 ・タスク・ディスカッションなどへの能動的な参加

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布(ハンドアウトがかなり多いので、ハンドアウトを整理できるようクリアファイルなどを準備すること)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

fleetwood@mac.com または il.nome.della.rosa@softbank.ne.jp

日本語教育学II (LB)

16308

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イノベーションプログラム「日本語教育」では、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本・日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習・外国語教育について自身で積極的に思考しながら学ぶことを目標とする。プログラムの最初の講義として日本語教育ⅠとⅡでは日本語教育に必要な基礎知識を身につける。

この講義(Ⅱ)では日本語教育学Ⅰで学んだ知識を土台として、語用論、第二言語習得理論(主な習得モデル、中間言語、学習ストラテジーなど)及びバイリンガル教育、コミュニケーション理論、異文化コミュニケーション、日本語教育事情、音声教育などを学ぶ。

授業では実際にさまざまなタスクを行い、日本語教育能力検定試験及び教育の現場で役に立つ実践的な知識や能力の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育の現状及び多様な文化的背景を持つ学習者の実態への理解を深め、言語・日本語・日本語教育等に関する個々の知識を検定や教育の現場で役に立つ能力へとつなげていくことが目標とされる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰ

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	語用論	発話行為、間接発話行為、協調の原理
3	語用論	ポライトネス・ストラテジー
4	語用論	非言語コミュニケーション、アコモデーション理論、コミュニケーション・スキル、アサーティブ・コミュニケーション
5	社会言語学	言語接触、ピジン・クリオール、言語連合、外来語
6	第二言語習得	対照分析研究、誤用分析研究、中間言語研究
7	第二言語習得	バイリンガリズム、イマージョン・プログラム
8	第二言語習得	年少者に対する日本語教育、学習者のストラテジー
9	方言と共通語	方言、共通語、ネオ方言、新方言
10	方言と共通語	コード・スイッチング、ウチナーヤマトウグチ
11	異文化コミュニケーション	異文化適応、リエントリー・クライシス
12	異文化コミュニケーション	異文化トレーニング、気づきのエクササイズ
13	異文化コミュニケーション	異文化トレーニングの形式・目的・内容
14	音声教育	音声教育の教材・教授法
15	アクション・リサーチ	アクション・リサーチ、自己研修型教師

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	・授業内容の理解度 ・文章の構成力
平常点評価	50 %	・出席 ・タスク・ディスカッションなどへの能動的な参加

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が望まれる。予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に遠慮なく質問する等のことを行うこと。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布(ハンドアウトがかなり多いので、ハンドアウトを整理できるようクリアファイルなどを準備すること)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

fleetwood@mac.com または il.nome.della.rosa@softbank.ne.jp

日本語教授法演習 (LA)

14771

担当者名 / Instructor 北出 慶子、遠山 千佳

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教育学I、II、日本語教授法基礎演習で学んだ基礎知識をもとに、実際の授業に必要な実践的な力を養うことを目標とする。

前期は、シラバス作成、学習目標設定、教材分析などのコースデザイン方法について学ぶ。また主な外国語教授法とその背景、特徴、教室活動について学ぶ。初級レベルの教材分析を通して各教材の背景となる教授法や効果的な指導法を検討する。

後期は、前期で学習したコースデザイン方法、教科書分析、教授法をもとに、具体的にどのように授業を組み立て、どのような練習を行えばよいかを学ぶ。初級学習者対象の設定で教案を作成し、模擬授業ならびに授業分析を行う。模擬授業の振りかえりから教師、学習者、両方の視点について考える。

到達目標 / Attainment Objectives

前期:

- 1) 実際に日本語を教える前に必要な準備項目と方法について知る。(シラバス、学習目標設定)
- 2) 初級教材分析を通して日本語教育の教材と教材選択について学ぶ。
- 3) 日本語教育における教授法の基礎知識を学び、授業への取り入れ方について考える。

後期:

- 1) 実際に教壇に立って教えるための具体的な練習方法を考える。
- 2) 1回の授業の組み立て方について学ぶ。(教案作成、学習活動の選択、模擬授業、授業の評価)
- 2) 以上の項目について、教師、学習者、両方の視点から考える姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学I、II、日本語教授法基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	前期の授業の概要と導入 日本語教師の役割	
2	コースデザイン I (レディネス、ピリフ、ニーズ)	
3	コースデザイン II (シラバス)	
4	コースデザイン III (授業の目標、教材、教具)	
5	コースデザイン IV (副教材の利用)	
6	教授法 I	
7	教授法 II (文法翻訳法、直説法、オーディオリンガル法、TPR、コミュニケーション・アプローチ)	
8	教授法 III (コミュニケーション・アプローチの練習例、教授法の流れ)	
9	教材分析と教え方 I	
10	教材分析と教え方 II	
11	教材分析発表 I	
12	教材分析発表 II	
13	教材分析発表 III	
14	学期末課題 I (グループディスカッション)	
15	学期末課題 II (グループディスカッション)	
16	後期の授業の概要と導入 初級の学習目標、日本語能力	
17	コミュニケーション能力を育てる授業 I (授業の流れ、導入)	
18	コミュニケーション能力を育てる授業 II (基本練習)	
19	コミュニケーション能力を育てる授業 III (応用練習)	
20	授業設計 (1回の授業の学習内容と学習目標の設定)	
21	教案作成	
22	日本語教育の実情 (ゲストスピーカー)	

23	教案指導
24	模擬授業と反省
25	模擬授業と反省
26	模擬授業と反省
27	模擬授業と反省
28	模擬授業と反省
29	模擬授業と反省
30	振り返りと反省

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

実習演習形式(グループや個人で課題に取り組み、それを評価し合う)で授業を進めるので、クラス外でも、各自で選択したテーマについての授業内外での主体的な取り組みが必要となる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点評価	70 %	

実習演習形式(グループや個人で課題に取り組み、それを評価し合う)で授業を進めるので、課題への主体的な取り組み、授業への積極的参加を望む。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語教師の役割／コースデザイン	国際交流基金 / ひつじ書房 / 前期
初級を教える	国際交流基金 / ひつじ書房 / 後期

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる教授法	小林ミナ / アルク出版 //
初心者向き すぐ役立つ 日本語の教え方	小島 聡子 / アルク出版 //
実践にほんご指導見なおし本—語彙と文法指導編	K.A.I.T / ASK(アルク) //
日本語の教え方ABC	寺田和子 他 / アルク出版 //
日本語教授法ワークショップ	鎌田修 他 / 凡人社 //

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

日本語教授法演習 (LB)

14778

担当者名 / Instructor 北出 慶子、遠山 千佳

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

日本語教育学I、II、日本語教授法基礎演習で学んだ基礎知識をもとに、実際の授業に必要な実践的な力を養うことを目標とする。

前期は、シラバス作成、学習目標設定、教材分析などのコースデザイン方法について学ぶ。また主な外国語教授法とその背景、特徴、教室活動について学ぶ。初級レベルの教材分析を通して各教材の背景となる教授法や効果的な指導法を検討する。

後期は、前期で学習したコースデザイン方法、教科書分析、教授法をもとに、具体的にどのように授業を組み立て、どのような練習を行えばよいかを学ぶ。初級学習者対象の設定で教案を作成し、模擬授業ならびに授業分析を行う。模擬授業の振りかえりから教師、学習者、両方の視点について考える。

到達目標 / Attainment Objectives

前期:

- 1) 実際に日本語を教える前に必要な準備項目と方法について知る。(シラバス、学習目標設定)
- 2) 初級教材分析を通して日本語教育の教材と教材選択について学ぶ。
- 3) 日本語教育における教授法の基礎知識を学び、授業への取り入れ方について考える。

後期:

- 1) 実際に教壇に立って教えるための具体的な練習方法を考える。
- 2) 1回の授業の組み立て方について学ぶ。(教案作成、学習活動の選択、模擬授業、授業の評価)
- 2) 以上の項目について、教師、学習者、両方の視点から考える姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学I、II、日本語教授法基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	前期の授業の概要と導入 日本語教師の役割	
2	コースデザイン I (レディネス、ピリフ、ニーズ)	
3	コースデザイン II (シラバス)	
4	コースデザイン III (授業の目標、教材、教具)	
5	コースデザイン IV (副教材の利用)	
6	教授法 I	
7	教授法 II (文法翻訳法、直説法、オーディオリンガル法、TPR、コミュニケーション・アプローチ)	
8	教授法 III (コミュニケーション・アプローチの練習例、教授法の流れ)	
9	教材分析と教え方 I	
10	教材分析と教え方 II	
11	教材分析発表 I	
12	教材分析発表 II	
13	教材分析発表 III	
14	学期末課題 I (グループディスカッション)	
15	学期末課題 II (グループディスカッション)	
16	後期の授業の概要と導入 初級の学習目標、日本語能力	
17	コミュニケーション能力を育てる授業 I (授業の流れ、導入)	
18	コミュニケーション能力を育てる授業 II (基本練習)	
19	コミュニケーション能力を育てる授業 III (応用練習)	
20	授業設計 (1回の授業の学習内容と学習目標の設定)	
21	教案作成	
22	日本語教育の実情 (ゲストスピーカー)	

23	教案指導
24	模擬授業と反省
25	模擬授業と反省
26	模擬授業と反省
27	模擬授業と反省
28	模擬授業と反省
29	模擬授業と反省
30	振り返りと反省

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

実習演習形式(グループや個人で課題に取り組み、それを評価し合う)で授業を進めるので、クラス内外でも、各自で選択したテーマについての主体的な取り組みが必要となる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点評価	70 %	

実習演習形式(グループや個人で課題に取り組み、それを評価し合う)で授業を進めるので、課題への主体的な取り組み、授業への積極的参加を望む。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語教師の役割/コースデザイン	国際交流基金/ひつじ書房 //前期
初級を教える	国際交流基金/ひつじ書房 //後期

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる教授法	小林ミナ /アルク出版 //
初心者向き すぐ役立つ 日本語の教え方	小島 聡子 /アルク出版 //
実践にほんご指導見なおし本—語彙と文法指導編	K.A.I.T /ASK(アルク) //
日本語の教え方ABC	寺田和子 他 /アルク出版 //
日本語教授法ワークショップ	鎌田修 他 /凡人社 //

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

日本語教授法基礎演習 (LA)

14762

担当者名 / Instructor 彦坂 萬智子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

- 1 日本語教授法には大きく分けて2つの課題がある。ひとつは何を教えるかという内容であり、もうひとつはどのように教えるかという方法である。前期では内容について学ぶ。
- 2-1まず、音声学について[IPA]と比較しながら日本語の音声・発音の特徴を学ぶ。2-2次に、文字・語彙についてそれを支える仮名・漢字を中国漢字との対照、外国語との意味比較から考える。2-3そして、文法―構文については、文末決定性のある日本語を、テンス・アスペクト・ムードなど、述部の特徴を中心に学習する。
- 3 後期では方法について学ぶ。4-1まず、言語教育のメソッド、アプローチ、テクニック等と呼ばれる教授法を概観する。4-2次に、教室でのインターアクションについて考える。教室環境、練習の種類と教具・教材、また教師からの働きかけに焦点を絞って、クラスルーム・リサーチという実証的な方法で分析を試みる。4-3最後に、評価法について学び信頼性と妥当性ある評価の方策を考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 日常生活でも留学生や異文化に対して交流・理解を深める姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語教育能力検定試験合格を意識すること。
- 2 日本語教授法には絶対的なものがあるわけではないことを理解し、日本語学習者と意味を分かち合おうとする姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語への学術的な関心を寄せ、それを日常生活全般に活かす努力を重ねること。
- 3 講義の内容を正確に受信し、また自ら発信する力を養う。タスクの相互評価会を通して、他者の評価を受け入れ、客観的な自己評価能力の伸長を図る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- 1 まず、日本語学、日本語教育学および言語系周辺の科目を履修する
- 2 次に、日本事情及び異文化間コミュニケーション周辺の科目を履修することが望ましい
- 3 また、日本と国際関係論についての科目を履修することが望ましい
- 4 自らも外国語科目習得に努力し、日本語学習者の気持ちが理解できるようにしたい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	前期ガイダンスコース・デザインのために事前に 1 ニーズ調査 2 レイネン調査 3 学習者背景調査の実施	受講に当たっての留意点 1 欠席時と遅刻時の留意点 (5&6交換可能) 2 評価基準の説明(試験の種類と割合) 3 前期15週間に亘るコースデザインの概観
2	ニーズ分析と抽出 コース・デザイン(シラバスとカリキュラム)の修正	音声・音韻論 1 [IPA]と50音図
3	音声・音韻論 2	拍とシラブル
4	音声・音韻論 3 アクセントとイントネーションとプロミネンス	客観テスト1「音声・音韻論」
5	タスク1「音声・音韻論」についての課題。課題内容については該当授業時に提示する	相互評価
6	文字・語彙論 1	日本語の文字、仮名と漢字と外来語
7	文字・語彙論 2	語の構成
8	文字・語彙論 3 語の意味	客観テスト2「文字・語彙論」
9	タスク2「文字・語彙論」についての課題。課題内容については該当授業時に提示する	相互評価
10	文法―構文論 1	日本語構文の特徴
11	文法―構文論 2	テンスとアスペクト
12	文法―構文論 3 モダリティとヴォイス	客観テスト3「文法―構文論」
13	タスク3「文法―構文論」についての課題。課題内容については該当授業時に提示する	相互評価
14	前期試験その1 客観テスト60分 + 試験解答解説30分 = 90分間	信頼性と妥当性に留意したテストを作成し実施したい。 多肢選択、再生法、組み合わせ法、空所補充法など、複合的形式の試験をする。
15	前期試験その2 主観テスト60分 + 試験解答解説30分 = 90分間文章産出テスト + インタビュー	前期試験1を返却し、今後の研究上での課題・問題点を話し合う
16	後期ガイダンス コース・デザインのために事前に 1 ニーズ調査 2 レイネン調査 3 学習者背景調査の実施	受講に当たっての留意点 1 欠席時と遅刻時の留意点 (5&6交換可能)2 評価基準の説明(試験の種類と割合) 後期15週間に亘るコースデザインの概観

17	ニーズ分析と抽出 コース・デザイン(シラバスとカリキュラム)の修正	日本語教授法の概観: Natural Method、Direct Method、Oral Method、Army Method、Phonetic Method、Natural Approach、Audio-Lingual Approach、Total Physical Response Approach
18	教授法に関する過去問題の実施と解説1	教授法に関する過去問題の実施と解説2
19	タスク1 日本語教授法概観 課題内容については該当授業時に提示する	
20	コース・デザインの第一段階 教室の環境 学習活動の形態 学習者と教師 学習者と用具	
21	コース・デザインの第二段階 シラバスとカリキュラム	
22	コース・デザインの 第三段階 教育の実施—接続助詞をタスクとして	
23	タスク2 コースデザイン 課題内容については該当授業時に提示する	
24	日本語テキストの実例 1 練習の種類 : デイバート法 ロールプレイ法 プロジェクト・ワーク法 その他	
25	日本語テキストの実例 2 ゲームを使った教授法	
26	日本語テキストの実例 3 ゲームを使った教授法	
27	タスク3 日本語テキスト 課題内容については該当授業時に提示する	
28	評価法 : 教師の働きかけ 発問・応答の行動 誤用の扱いとフィードバック テストの種類 評価法 : 評価の誤差	
29	後期試験1 60分 + 試験解答解説 30分 =90分 筆記試験: 客観テスト	
30	後期試験2 後期試験を返却し、今後の研究上での課題・問題点を話し合う+文章表現 口頭試験: 主観テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1 前期最終講義日に到達度試験 2 後期最終講義日に到達度試験 1+2=25% 3 月例のタスク 25% 4 月例の試験 25% 5 出席遅刻数+授業への積極的な参加度 25%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

日本語教授法基礎演習 (LB)

14770

担当者名 / Instructor 彦坂 萬智子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

- 1 日本語教授法には大きく分けて2つの課題がある。ひとつは何を教えるかという内容であり、もうひとつはどのように教えるかという方法である。前期では内容について学ぶ。
- 2-1まず、音声学について[IPA]と比較しながら日本語の音声・発音の特徴を学ぶ。2-2次に、文字・語彙についてそれを支える仮名・漢字を中国漢字との対照、外国語との意味比較から考える。2-3そして、文法―構文については、文末決定性のある日本語を、テンス・アスペクト・ムードなど、述部の特徴を中心に学習する。
- 3 後期では方法について学ぶ。4-1まず、言語教育のメソッド、アプローチ、テクニック等と呼ばれる教授法を概観する。4-2次に、教室でのインターアクションについて考える。教室環境、練習の種類と教具・教材、また教師からの働きかけに焦点を絞って、クラスルーム・リサーチという実証的な方法で分析を試みる。4-3最後に、評価法について学び信頼性と妥当性ある評価の方策を考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 日常生活でも留学生や異文化に対して交流・理解を深める姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語教育能力検定試験合格を意識すること。
- 2 日本語教授法には絶対的なものがあるわけではないことを理解し、日本語学習者と意味を分かち合おうとする姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語への学究的な関心を寄せ、それを日常生活全般に活かす努力を重ねること。
- 3 講義の内容を正確に受信し、また自ら発信する力を養う。タスクの相互評価会を通して、他者の評価を受け入れ、客観的な自己評価能力の伸長を図る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- 1 まず、日本語学、日本語教育学および言語系周辺の科目を履修する
- 2 次に、日本事情及び異文化間コミュニケーション周辺の科目を履修することが望ましい
- 3 また、日本と国際関係論についての科目を履修することが望ましい
- 4 自らも外国語科目習得に努力し、日本語学習者の気持ちが理解できるようにしたい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	前期ガイダンスコース・デザインのために事前に 1 ニーズ調査 2 レディネス調査 3 学習者背景調査の実施	受講に当たっての留意点 1 欠席時と遅刻時の留意点 (5&6交換可能) 2 評価基準の説明(試験の種類と割合) 3 前期15週間に亘るコースデザインの概観
2	ニーズ分析と抽出 コース・デザイン(シラバスとカリキュラム)の修正	音声・音韻論 1 [IPA]と50音図
3	音声・音韻論 2	拍とシラブル
4	音声・音韻論 3 アクセントとイントネーションとプロミネンス	客観テスト1「音声・音韻論」
5	タスク1「音声・音韻論」についての課題。課題内容については該当授業時に提示する	相互評価
6	文字・語彙論 1	日本語の文字、仮名と漢字と外来語
7	文字・語彙論 2	語の構成
8	文字・語彙論 3 語の意味	客観テスト2「文字・語彙論」
9	タスク2「文字・語彙論」についての課題。課題内容については該当授業時に提示する	相互評価
10	文法―構文論 1	日本語構文の特徴
11	文法―構文論 2	テンスとアスペクト
12	文法―構文論 3 モダリティとヴォイス	客観テスト3「文法―構文論」
13	タスク3「文法―構文論」についての課題。課題内容については該当授業時に提示する	相互評価
14	前期試験その1 客観テスト60分 + 試験解答解説30分 = 90分間	信頼性と妥当性に留意したテストを作成し実施したい。多肢選択、再生法、組み合わせ法、空所補充法など、複合的形式の試験をする。
15	前期試験その2 主観テスト60分 + 試験解答解説30分 = 90分間文章産出テスト + インタビュー	前期試験1を返却し、今後の研究上での課題・問題点を話し合う
16	後期ガイダンス コース・デザインのために事前に 1 ニーズ調査 2 レディネス調査 3 学習者背景調査の実施	受講に当たっての留意点 1 欠席時と遅刻時の留意点 (5&6交換可能)2 評価基準の説明(試験の種類と割合)後期15週間に亘るコースデザインの概観

17	ニーズ分析と抽出 コース・デザイン(シラバスとカリキュラム)の修正	日本語教授法の概観: Natural Method、Direct Method、Oral Method、Army Method、Phonetic Method、Natural Approach、Audio-Lingual Approach、Total Physical Response Approach
18	教授法に関する過去問題の実施と解説1	教授法に関する過去問題の実施と解説2
19	タスク1 日本語教授法概観 課題内容については該当授業時に提示する	
20	コース・デザインの第一段階 教室の環境 学習活動の形態 学習者と教師 学習者と用具	
21	コース・デザインの第二段階 シラバスとカリキュラム	
22	コース・デザインの 第三段階 教育の実施—接続助詞をタスクとして	
23	タスク2 コースデザイン 課題内容については該当授業時に提示する	
24	日本語テキストの実例 1 練習の種類 : デイバート法 ロールプレイ法 プロジェクト・ワーク法 その他	
25	日本語テキストの実例 2 ゲームを使った教授法	
26	日本語テキストの実例 3 ゲームを使った教授法	
27	タスク3 日本語テキスト 課題内容については該当授業時に提示する	
28	評価法 : 教師の働きかけ 発問・応答の行動 誤用の 扱いとフィードバック テストの種類 評価法 : 評価の誤差	
29	後期試験1 60分 + 試験解答解説 30分 =90分 筆記 試験: 客観テスト	
30	後期試験2 後期試験を返却し、今後の研究上での課題・問題点を話し合う+文章表現 口頭試験: 主観テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1 前期最終講義日に到達度試験 2 後期最終講義日に到達度試験 1+2=25% 3 月例のタスク 25% 4 月例の試験 25% 5 出席遅刻数+授業への積極的な参加度 25%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

本授業では、日本語教師として知っておくべき「日本語の歴史的な諸相」を概説する。
現代日本語の実態を理解するためには、過去の日本語を知る必要がある。変化の経緯、規則的な方向性を知ることが、現代語の理解に大きく役に立つからである。
ことばが時間の経過に伴って、さまざまな条件のもとで変化して現在に至っている。
音韻、語形、意味、文法など大きく変化している。
このような現状を踏まえ、本授業では、音韻、文字、語彙、文法、標準語と方言をテーマに日本語がどのように変化し、今日に至っているかを捉えられるよう説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本語を理解する上で必要な日本語の過去の様相について、その主要点を理解でき、それを文章の形でまとめられること。また、他者にわかりやすく説明できること。
さらに、これらの「知識」を知っているだけでなく、自ら感知し、調べられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- ・日本語学、日本語教育学に関わる科目。
- ・イノベーション・プログラム「日本語教育」の初年度の諸科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス 現代日本語の源流としての日本語の歴史	日本語の時代的特徴をあげ、現代日本語への変化の過程を概観 共時態と通時態
2	音韻の概説1	五十音図、8世紀の母音体系(上代特殊仮名遣い)、音韻の種類と変化
3	音韻の概説2	語音配列の変化、ハ行子音の歴史とハ行転呼音
4	音韻の概説3	アクセントの体系の変化
5	文字の概説1	現代仮名遣いの性格、定家仮名遣い、歴史的仮名遣い
6	文字の概説2	現代日本語の文字と書記法、送りがな
7	文字の概説3	漢字の伝来と日本化、仮名の発達
8	語彙の概説1	語彙の体系、意味変化(人称代名詞を例に)
9	語彙の概説2	日本語の語彙の出自(語種)
10	文法の概説1 動詞	活用の種類の変化、終止形・連体形の合一化、二段活用の一段化
11	文法の概説2	係り結びの変化、呼応の関係の変化
12	文法の概説3 助動詞の変化(分析的傾向へ)	受身・使役の助動詞(ヴォイス)、テンス・アスペクト、敬語の変化
13	文法の概説4 条件表現(接続助詞)の推移	条件表現、古代語から近代語への分析的傾向
14	方言と標準語概説	方言・方言史、中央語史と方言史、標準語の形成、共通語
15	理解検証テスト・解説・授業まとめ	テスト(60分)、解説・授業まとめ(30分)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・理解検証テスト 授業内容の要点を理解し、それを自分のことばで文章の形にまとめられること。 ・平常点 出席状況(1/3以上の欠席は不可、20分以上の遅刻は欠席扱いとする)、授業への意欲的な態度も加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

クラスはLAとLBの2クラスあるが、内容は同じである。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

ケーススタディ日本語の歴史

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

半沢幹一他／おうふう／4-273-03267-8／常時使用する

参考書 / Reference Books

書名 / Title

講座日本語と日本語教育

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

／明治書院／／

講座日本語学

／明治書院／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

大学共同利用機関法人人間文化研究機構－国立国語研究所<http://www.ninjal.ac.jp/index.html>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

第1回目授業で、メールアドレスを告知する。

その他 / Others

初年度から日本語教育能力検定試験に挑戦すること。
ただし、このプログラムはその受験対策のためのものではない。

日本語史 (LB)

13658

担当者名 / Instructor 彦坂 佳直

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本語教師として知っておくべき「日本語の歴史的な諸相」を概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本語を理解する上で必要な過去の日本語の様相について、その主要点を理解できること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- ・日本語学、日本語教育学に関わる科目。
- ・インベーション・プログラム「日本語教育」の初年度の諸科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代日本語の源流としての日本語の歴史を学ぶにあたって	ソシユール、共時態と通時態、今日の日本語につながる遺産としての過去の日本語という視点
2	音韻史の概説1	音声と音韻、音韻の種類と変化-上代特殊仮名遣い、50音図など
3	音韻の概説2	アクセントの体系、型の対応 現代日本語のアクセント
4	語彙の概説1	語彙の量的側面、語種、語構成
5	語彙の概説2	語彙の体系、意味、意味変化
6	文法概説1	活用の仕組み、活用体型の変化
7-8	文法概説2	助動詞の変化-分析的傾向へ- 助詞の機能
9-10	文法概説3	係り結びの変化、呼応の関係の変化
11-12	文法概説4	主語と助詞、格助詞、接続助詞の変化
13-14	標準語と方言概説	標準語と方言、位相
15	達成度テスト、解説と学習のまとめ	学習のまとめ-現代日本語を理解するための日本語史の役割

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

あらかじめテキストを読んで予習すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1.教室での活動-学習への参加度-30パーセント 2.達成度テスト-70パーセント 現代語を理解するための日本語史の理解度 それを自分のことばで表現できる度合い

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

みの講座は日本語教育の全般の視界を得る体系的な勉学をめざすものである。

初年度から日本語教育能力検定試験に挑戦すること。
ただし、このプログラムはその受験対策のためのものではない。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ケーススタディ日本語の歴史	半沢幹一他 / おうふう / 4-273-03267-8 / 常に使用する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社団法人 日本語教育学会 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

教室

ないし電子メール yht02860@lt.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

初年度から日本語教育能力検定試験に挑戦すること。
ただし、このプログラムはその受験対策のためのものではない。

地域活性化ボランティア (GA) § 専門特殊講義 (SR) § 地域活性化ボランティア (JA) § 地域活性化ボランティア (PA) § 特殊講義(自由選択)I(地域活性化VT) (TA) § 特殊講義(自由選択)1 (V1) § 特殊講義(自由選択) (V1) § 特殊講義(基礎)1 (地域活性化ボランティア) (CA)

60316

担当者名 / Instructor 小田切 康彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」(前期2単位)
BKCの学部生「近江・草津論」(後期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	事前学習 I (授業2回分)	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習 II に持参してもらう。
4	事前学習 II (授業1回分)	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5~7	ボランティア活動(前半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り(授業1回分)	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9~11	ボランティア活動(後半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13

事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

14～15

活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。
- ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
 - ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
 - ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
 - ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか
- ※日時が決定しています。衣笠 12月18日
BKC 12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<p>評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること。 <p>※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。(正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また、20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。</p>

評価対象物は、目標設定&達成度評価シート、ジャーナル(活動日ごとに作成)、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。

とは言え、難しく考える必要はありません。「私は〇〇を学びたい」「僕は〇〇をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。

この授業は、教室の外(キャンパス近隣の地域)で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスマーケティング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそ醍醐味です。また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。学部によって受講条件・単位認定が異なります。予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。また、サービスマーケティングセンター(ボランティアセンター)HPを参照のこと。
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ

何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習 I で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター

http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html

〈携帯サイト〉

http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)に加入していただきます。

地域活性化ボランティア (GB) § 専門特殊講義 (SX) § 地域活性化ボランティア (JB) § 地域活性化ボランティア (PB) § 特殊講義(自由選択)I(地域活性化VT) (TB) § 特殊講義(自由選択)1 (V2) § 特殊講義(自由選択) (V2) § 特殊講義(基礎)1 (地域活性化ボランティア) (CB)

60324

担当者名 / Instructor 寺村 安道

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」(前期2単位)
BKCの学部生「近江草津論」(後期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	事前学習 I (授業2回分)	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習 II に持参してもらう。
4	事前学習 II (授業1回分)	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5~7	ボランティア活動(前半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り(授業1回分)	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9~11	ボランティア活動(後半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12~13

事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

14~15

活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15~20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。
- ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
 - ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
 - ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
 - ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか
- ※日時が決定しています。衣笠 12月18日
BKC 12月19日

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<p>評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること。 <p>※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。(正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また、20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。</p>

評価対象物は、目標設定&達成度評価シート、ジャーナル(活動日ごとに作成)、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。

とは言え、難しく考える必要はありません。「私は〇〇を学びたい」「僕は〇〇をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。

この授業は、教室の外(キャンパス近隣の地域)で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスマーケティング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそ醍醐味です。また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。学部によって受講条件・単位認定が異なります。予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。また、サービスマーケティングセンター(ボランティアセンター)HPを参照のこと。
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ

何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習 I で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター

http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_01_j.html

〈携帯サイト〉

http://www.ritsumeiacjp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeiacjp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)に加入していただきます。

地域活性化ボランティア (GC) § 専門特殊講義 (SY) § 地域活性化ボランティア (JC) § 地域活性化ボランティア (PC) § 特殊講義 (自由選択) I (地域活性化 VT) (TC) § 特殊講義 (自由選択) 1 (V3) § 特殊講義 (自由選択) (V3) § 特殊講義 (基礎) 1 (地域活性化ボランティア) (CC)

担当者名 / Instructor 寺村 安道

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」(前期2単位)
BKCの学部生「近江草津論」(後期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	事前学習 I (授業2回分)	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習 II に持参してもらう。
4	事前学習 II (授業1回分)	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5~7	ボランティア活動(前半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り(授業1回分)	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9~11	ボランティア活動(後半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13

事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

14～15

活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。
- ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
 - ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
 - ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
 - ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか
- ※日時が決定しています。衣笠 12月18日
BKC 12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<p>評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること。 <p>※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。(正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また、20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。</p>

評価対象物は、目標設定&達成度評価シート、ジャーナル(活動日ごとに作成)、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。

とは言え、難しく考える必要はありません。「私は〇〇を学びたい」「僕は〇〇をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。

この授業は、教室の外(キャンパス近隣の地域)で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスマーケティング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそ醍醐味です。また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。学部によって受講条件・単位認定が異なります。予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。また、サービスマーケティングセンター(ボランティアセンター)HPを参照のこと。
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ

何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習 I で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター

http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_01_j.html

〈携帯サイト〉

http://www.ritsumeiacjp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeiacjp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)に加入していただきます。

地域活性化ボランティア (GD) § 専門特殊講義 (S1) § 地域活性化ボランティア (JD) § 地域
 活性化ボランティア (PD) § 特殊講義(自由選択)I(地域活性化VT) (TD) § 特殊講義(自由選
 択)1 (V4) § 特殊講義(自由選択) (V4) § 特殊講義(基礎)1 (地域活性化ボランティア) (CD)

60340

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」(前期2単位)

BKCの学部生「近江草津論」(後期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	事前学習 I (授業2回分)	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参する。
4	事前学習Ⅱ(授業1回分)	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5~7	ボランティア活動(前半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り(授業1回分)	①目今の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9~11	ボランティア活動(後半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12~13

事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

14~15

活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15~20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。
- ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
 - ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
 - ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
 - ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか
- ※日時が決定しています。衣笠 12月18日
BKC 12月19日

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<p>評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること。 <p>※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。(正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また、20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。</p>

評価対象物は、目標設定&達成度評価シート、ジャーナル(活動日ごとに作成)、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。

とは言え、難しく考える必要はありません。「私は〇〇を学びたい」「僕は〇〇をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。

この授業は、教室の外(キャンパス近隣の地域)で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスマーケティング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。学部によって受講条件・単位認定が異なります。予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。また、サービスマーケティングセンター(ボランティアセンター)HPを参照のこと。
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ

何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習 I で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター

http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_01_j.html

〈携帯サイト〉

http://www.ritsumeiac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeiac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)に加入していただきます。

地域活性化ボランティア (GE) § 専門特殊講義 (S2) § 地域活性化ボランティア (JE) § 地域活性化ボランティア (PE) § 特殊講義 (自由選択) I (地域活性化 VT) (TE) § 特殊講義 (自由選択) 1 (V5) § 特殊講義 (自由選択) (V5) § 特殊講義 (基礎) 1 (地域活性化ボランティア) (CE)

60348

担当者名 / Instructor 山口 洋典

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地域活性化ボランティアは、社会貢献活動と大学での学びを結びつけた「サービラーニング」という教育(学習)手法を用いて実施されます。受講生は、教室での事前・事後学習などに出席するほか、サービラーニングセンターが協定を結んだ京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどに協力して地域でのボランティア活動に参加します。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指しています。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」(前期2単位)
BKCの学部生「近江・草津論」(後期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	事前学習 I (授業2回分)	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習 II に持参してもらう。
4	事前学習 II (授業1回分)	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5~7	ボランティア活動(前半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り(授業1回分)	①目今の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9~11	ボランティア活動(後半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12~13

事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

14~15

活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15~20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。
- ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
 - ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
 - ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
 - ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか
- ※日時が決定しています。衣笠 12月18日
BKC 12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<p>評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること。 <p>※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。(正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また、20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。</p>

評価対象物は、目標設定&達成度評価シート、ジャーナル(活動日ごとに作成)、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。

とは言え、難しく考える必要はありません。「私は〇〇を学びたい」「僕は〇〇をやってみよう」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。

この授業は、教室の外(キャンパス近隣の地域)で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスマーケティング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそ醍醐味です。また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。学部によって受講条件・単位認定が異なります。予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。また、サービスマーケティングセンター(ボランティアセンター)HPを参照のこと。
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ

何事においても積極的に取り組んでください。

ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。

ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。

キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習 I で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター

http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_01_j.html

〈携帯サイト〉

http://www.ritsumeiacjp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeiacjp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)に加入していただきます。

地域活性化ボランティア (GF) § 専門特殊講義 (S3) § 地域活性化ボランティア (JF) § 地域活性化ボランティア (PF) § 特殊講義 (自由選択) I (地域活性化VT) (TF) § 特殊講義 (自由選択) 1 (V6) § 特殊講義 (自由選択) (V6) § 特殊講義 (基礎) 1 (地域活性化ボランティア) (CF)

60356

担当者名 / Instructor 大谷 洋士、角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」(前期2単位)
BKCの学部生「近江草津論」(後期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	事前学習 I (授業2回分)	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習 II に持参してもらう。
4	事前学習 II (授業1回分)	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5~7	ボランティア活動(前半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り(授業1回分)	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9~11	ボランティア活動(後半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13 事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくかを検討する。
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

14～15 活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。
- ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
 - ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
 - ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
 - ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか
- ※日時が決定しています。衣笠 12月18日
BKC 12月19日

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<p>評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること。 <p>※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。(正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また、20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。</p>

評価対象物は、目標設定&達成度評価シート、ジャーナル(活動日ごとに作成)、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。

とは言え、難しく考える必要はありません。「私は〇〇を学びたい」「僕は〇〇をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。

この授業は、教室の外(キャンパス近隣の地域)で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスマーケティング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそ醍醐味です。また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。学部によって受講条件・単位認定が異なります。予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。また、サービスマーケティングセンター(ボランティアセンター)HPを参照のこと。
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ

何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習 I で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター

http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_01_j.html

〈携帯サイト〉

http://www.ritsumeiacjp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeiacjp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)に加入していただきます。

地域活性化ボランティア (GG) § 専門特殊講義 (S4) § 地域活性化ボランティア (JG) § 地域活性化ボランティア (PG) § 特殊講義(自由選択)I(地域活性化VT) (TG) § 特殊講義(自由選択)1 (V7) § 特殊講義(自由選択) (V7) § 特殊講義(基礎)1 (地域活性化ボランティア) (CG)

60364

担当者名 / Instructor 上田 洋平

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」(前期2単位)
BKCの学部生「近江草津論」(後期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	事前学習 I (授業2回分)	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ (授業1回分)	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5~7	ボランティア活動(前半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り(授業1回分)	①目今の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9~11	ボランティア活動(後半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13 事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

14～15 活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。
- ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
 - ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
 - ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
 - ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか
- ※日時が決定しています。衣笠 12月18日
BKC 12月19日

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<p>評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること。 <p>※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。(正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また、20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。</p>

評価対象物は、目標設定&達成度評価シート、ジャーナル(活動日ごとに作成)、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。

とは言え、難しく考える必要はありません。「私は〇〇を学びたい」「僕は〇〇をやってみよう」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。

この授業は、教室の外(キャンパス近隣の地域)で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスマーケティング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそ醍醐味です。また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。学部によって受講条件・単位認定が異なります。予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。また、サービスマーケティングセンター(ボランティアセンター)HPを参照のこと。
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ

何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習 I で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター

http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_01_j.html

〈携帯サイト〉

http://www.ritsumeiacjp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeiacjp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)に加入していただきます。

地域活性化ボランティア (GH) § 専門特殊講義 (S5) § 地域活性化ボランティア (JH) § 地域活性化ボランティア (PH) § 特殊講義(自由選択)I(地域活性化VT) (TH) § 特殊講義(自由選択)1 (V8) § 特殊講義(自由選択) (V8) § 特殊講義(基礎)1 (地域活性化ボランティア) (CH)

60372

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」(前期2単位)
BKCの学部生「近江草津論」(後期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	事前学習 I (授業2回分)	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習 II に持参してもらう。
4	事前学習 II (授業1回分)	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5~7	ボランティア活動(前半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り(授業1回分)	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9~11	ボランティア活動(後半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13

事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

14～15

活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。
- ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
 - ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
 - ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
 - ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか
- ※日時が決定しています。衣笠 12月18日
BKC 12月19日

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<p>評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること。 <p>※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。(正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また、20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。</p>

評価対象物は、目標設定&達成度評価シート、ジャーナル(活動日ごとに作成)、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。

とは言え、難しく考える必要はありません。「私は〇〇を学びたい」「僕は〇〇をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。

この授業は、教室の外(キャンパス近隣の地域)で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスマーケティング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそ醍醐味です。また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。学部によって受講条件・単位認定が異なります。予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。また、サービスマーケティングセンター(ボランティアセンター)HPを参照のこと。
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ

何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習 I で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター

http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_01_j.html

〈携帯サイト〉

http://www.ritsumeiac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeiac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)に加入していただきます。

地域活性化ボランティア (GI) § 専門特殊講義 (S6) § 地域活性化ボランティア (JI) § 地域活性化ボランティア (PI) § 特殊講義 (自由選択) I (地域活性化 VT) (TI) § 特殊講義 (自由選択) 1 (V9) § 特殊講義 (自由選択) (V9) § 特殊講義 (基礎) 1 (地域活性化ボランティア) (CI)

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。
全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」(前期2単位)
BKCの学部生「近江草津論」(後期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~2	事前学習 I (授業2回分)	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ (授業1回分)	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5~7	ボランティア活動(前半)	①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り(授業1回分)	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。

- ①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。
- ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。
- ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。
- ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12~13 事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

14~15 活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15~20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。
- ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
- ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
- ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
- ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか

授業スケジュールについての留意事項

※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。

全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されず、また別途経費がかかります。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<p>評価はP/F評価です。</p> <p>評価は下記の要件を必要とします。</p> <p>①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。</p> <p>②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること。</p> <p>③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること。</p> <p>※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。(正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。</p> <p>※また、20分以上の遅刻は、欠席とみなします。</p> <p>※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。</p>

評価対象物は、目標設定&達成度評価シート、ジャーナル(活動日ごとに作成)、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。

とは言え、難しく考える必要はありません。「私は〇〇を学びたい」「僕は〇〇をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。

この授業は、教室の外(キャンパス近隣の地域)で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせ「サービスマーケティング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。

全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。学部によって受講条件・単位認定が異なります。予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。また、サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)HPを参照のこと。
http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ

何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books**

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習 I で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumeijp/vc/vc01_01_01_j.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeijp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)に加入していただきます。
※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。
全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Office総合(入門)』:Officeソフト総合演習..(SLクラスと同内容)

「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。

上級クラスは、『Office総合(中級)』(SJクラス)。

Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Windows/パソコンの基礎。

Officeソフトの基礎と応用。

特にExcelの実用的な使用方法。

パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を含んでいる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト/書式/プリント・スクリーンの利用)
3	実習(1)	パソコン・マニュアル
4	Excel復習-1	(位置関係/表と計算/絶対参照)
5	Excel復習-2	(表示形式/関数(sum,average,count,if)/グラフ)
6	Excel復習-3	(復習と応用)
7	実習(2)	Excelによる分析
8	Excel発展-1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展-2	(エラー処理(isna)/検索応用)
10	Excel発展-3	(復習と応用)
11	実習(3)	検索実習
12	OLE発展-1	(Web上のデータ利用/ペイント)
13	OLE発展-2	(リンク貼り付け)
14	実習(4)-1	課題
15	実習(4)-2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行う。

最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 破田野 智己

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

web上で見かける様々なアニメーションは、単にページを装飾する手段にとどまらず、アート、アドバタイジング、あるいはWBT(web-based-training)など、様々な目的に活用されています。つまりweb上で動くアニメーション作成のスキルを身につけることは、インターネットが日常に深く入り込んだ現代では、非常に強力な表現の手段を身につけることと同義といえます。そこでこの授業では、Flashというソフトウェアを用いて、なるべく直感的かつ簡単に、そのようなアニメーションを作成する方法を紹介します。

到達目標 / Attainment Objectives

Flashによるアニメーション作成スキルの修得、アニメーションを用いた「作品」が作成できること、効果的にアニメーションを用いる能力を身につけること、以上3点を到達目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII、もしくはこれらの科目終了と同等のスキル・レベルを必要とします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	とにかく描いて動かす	Flashのお絵描きの特徴。とにかく動かしてみる
2	基本のお絵描き	様々な描画ツールと、その特徴
3	基本的なアニメーション	モーショントウイーン、シンボル、インスタンスなど
4	基本的なアニメーション2	シェイプトウイーン、レイヤーなど
5	ちょっと凝ったアニメーション	アルファチャンネル、マスク、パスなど
6	シンボルを使いこなす	シンボル内アニメ、グラフィック、ムービークリップなど
7	インタラクティブに動かす	ボタンイベント、アニメボタン、リンクなど
8	外部ファイルの取り込み	効果音や写真、手書きのイラストを活用する
9	課題作成1	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
10	課題作成2	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
11	課題作成3	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
12	課題作成4	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
13	パブリッシング	パブリッシュと設定、アクセシビリティ、ftpによる転送
14	プレゼンテーションと採点1	作品の発表と説明を行なう
15	プレゼンテーションと採点2	作品の発表と説明を行なう

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods**

Flashに関する書籍は、参考に挙げたもの以外にもたくさんあります。また、web上にはFlashに関するチュートリアルやTipsが多数存在しており、これらの多くは無料で利用できます。これらは授業内容を深く理解するために役立つだけでなく、課題の作成を行う際にも有用です。もちろん、これらを用いなければ授業が十分に消化できないわけではありませんが、積極的に自学自習すれば、それだけ良い結果が得られるでしょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	第14・15回で行うプレゼンテーションの内容と、出席や各回の授業で出す課題などを総合して成績を評価します。 なお、授業内の課題に関して学生同士が教え合うことは制限しませんが、最終課題で盗用が認められた場合、定期試験でカンニングした場合と同様の厳しい処分を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

教科書は使用しません。その代わりに、毎回の授業では資料をweb(教材配布フォルダ)にupします。受講生は必要に応じてこれを保存、あるいは印刷して用いてください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
おしえて!!FLASH 8 : Flash 8スーパー・エンターテインメント・チュートリアル	まつむらまきお, たなかもり / 東京 : 毎日コミュニケーションズ / 978-4-8399-1961-0 / 絶版ですが、図書館にはあるようです

入門書には、ソフトの体験版が同梱されていることが多くあります。ここで挙げた書籍にもFlashの30日間トライアル版が付いていますので、折を見てインストール&自習してみるのも良いでしょう。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

必要に応じて授業中に指示します。それ以外の場合は事務室を通じて連絡してください。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 柴田 悠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態(既婚/非婚)や居住地(都市/郊外/農村)で比べたらどうだろうか。また、そういった状況(職業・婚姻・居住地)と「幸せです」との間の関連は、直接的な関連だろうか、それとも、他の状況(たとえば所得)に起因する「見かけ上の関連」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの関連に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国(たとえばアメリカ合衆国)と比べたら、それらの関連に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの関連・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる(目安としては「重回帰分析」まで)。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- ・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
- ・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
- ・自分用のUSBフラッシュメモリ(1GB以上)を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。

1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること(ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更)。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。

もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『社会調査のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29, 『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220, 『社会調査のウソ』pp. 119-215, 『入門はじめての統計解析』p. 2, 『統計学入門』pp. 1-15, 178-180, 『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学(統計的推測)、全数調査(悉皆調査)と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数(母集団分布に関する情報=パラメータ)、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学の基礎概念 	(要約)統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35, 『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295], 検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114], 確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109, 『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189, 『入門はじめての統計解析』p. 90], 区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137, 『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出 	個票データ(マイクロデータ)、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	<ul style="list-style-type: none"> ・データの変換 ・グラフと図 	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	<ul style="list-style-type: none"> ・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120, 『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243, 『統計学入門』pp. 41-55, 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232, 教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度(数値データ)、散布図、(ピアソンの積率)相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	<ul style="list-style-type: none"> ・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145, 『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193, 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231] 	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189, 『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189, 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ^2[カイ2乗]検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207, 教科書pp. 194-205] 	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、 χ^2 分布、独立性の検定
8	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179, 『統計学入門』pp. 240-244, 教科書pp. 180-191] 	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	<ul style="list-style-type: none"> ・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100, 『入門はじめての統計解析』pp.248-259, 『統計学入門』pp. 58-63, 257-70, 教科書pp. 126-139] 	反応変数(=被説明変数=目的変数=従属変数)と説明変数(=独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値-予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	<ul style="list-style-type: none"> ・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148, 『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83, 『統計学入門』pp. 63, 270-276, 『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58, 『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23, 『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138] 	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	<p>【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192, 『自然科学の統計学』pp. 231-249, 『統計学入門』pp. 132-137, 『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134, 『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199, 『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169] 	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	<ul style="list-style-type: none"> ・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193, 『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93, 『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69] 	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	<ul style="list-style-type: none"> ・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210, 『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175, 『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360, 『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65, 『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259] 	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237, 『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129, 『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293, 『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145] 	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介 	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』, 『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215], マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

毎回出席していることを前提として、授業を進める。

よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント(産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること)と、欠席した回の参考書の該当ページ(上記「授業スケジュール」参照)を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容(および「キーワード」に挙げた概念・用語)を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来(成果点50%)と、授業への出席の頻度(努力点50%)とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法(の一つ)である。よって、どんなことでもよいので——「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので——、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」(パートナーの有無)についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前(あなたが生まれた頃or若かった頃)との時代比較や、他国(あなたが行ってみたい国)との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語(受講生同士の会話)は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと(出席点の減点対象とする)。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「(単)回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

<中級レベル>

「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順(第3版)、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順(第2版)、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

<上級レベル>

「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

- ・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。
- ・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。
- ・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。
- ・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。
- ・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

<発展レベル>

「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

- ・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体(企業・世帯・個人など)に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。
- ・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉農・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
- ・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル(社会集団など)とミクロレベル(個人など)を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS(混合モデル)での操作法も詳しく説明してある。

(備考)本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある(使用法は授業で説明する)。

・WVS(世界価値観調査World Values Survey) [データは即時ダウンロード可能(無料登録が必要)] : <http://www.worldvaluessurvey.org/>

・ISSP(国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme) [データは即時ダウンロード可能(無料登録が必要)] :
<http://zacas.gesis.org/webview/index.jsp>

・ICPSR(政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research) [立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能(無料登録とメール認証が必要)] : <https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct>
→ (JGSSのデータ)
[http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+\(jgss\)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3](http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3)

・SSJDA(東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive) [データは無料申請後にCD-Rで送られてくる(CD-R代と郵送料は申請者が負担)] :
<http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/>
→ https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。

やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名(回生・学籍番号)」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで(メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック)、メールを送信してください。

送信先アドレス: haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点ご注意ください。また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるため、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください(なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません)。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『PhotoShopとGoLive』: フォトレタッチとWebページ入門

Adobe PhotoShopによる写真などの画像処理と、Adobe GoLiveによるWebページを作成、公開するまでを学ぶ。デジタルカメラなどによる写真の撮影、PhotoShopによる写真の調整・加工、Adobe GoLiveによるWebページ作成、完成したWebページの公開を行い、プレゼンテーションを行う。Webページを作成する講義としては、「入門」クラス。発展としては、『HTML+CSS+JavaScript』(SHクラス)がある。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
ソフトによるWebページ作成の基本。
Webページ公開の基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基礎習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	写真の撮り方	画素数 画像保存形式 画像の取り込み
3	PhotoShop入門	(解像度、全体での明るさ、カラーバランス)
4	PhotoShop入門	(範囲指定 / 自動・マグネット中心、縁取り)
5	PhotoShop入門	(画像修正 / 赤目・バッチ・コピー・ぼかし・スポンジ・指)
6	PhotoShop入門	(フィルター / ギャラリー・シャープネス・描画(逆光))
7	PhotoShop入門	(画像合成・レイヤー / 文字 / 切り抜き)
8	実習(1)	ポスター作成
9	実習(1)内覧	Webページの基礎 (ネチケット・ブラウザ・HTML)
10	GoLive操作法	(作成から保存)
11	実習(2)-1	Webページ作成
12	実習(2)-2	Webページ作成
13	リンク貼り	アップロード 更新
14	プレゼンテーション	(ページ紹介)
15	プレゼンテーション	(ページ紹介) まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	Webページ(作品)とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。

最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。
素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 宮浦 崇

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、情報化社会の中で、個人のレベルにおいても対応することが不可欠となっている「情報セキュリティ」に関する「入門講義」として位置づけられている。講義は情報教室で受講者がPCを使用しながら、実習・実験を伴う形で行われる。「私は大丈夫」「私には関係がない」と思いがちな日常の情報コミュニケーション技術利用の落とし穴について、様々な具体事例を取り上げながら、受講者が授業時間内に実際にセキュリティ技術について確認する機会を設ける。情報セキュリティ意識を高め「自分の身を守る」ための知識習得の場としてほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.情報化社会における「安全性」について考える端緒を得る。
- 2.インターネット利用に伴う「危険性」(脆弱性)について説明できるようになる。
- 3.被害者「加害者」にならないための基本的な知識・スキルを身につける。
- 4.デジタルデータの著作権について理解し、情報発信を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシー等の情報技術関係入門講義は履修済みであることが望ましい。
立命館大学の情報環境利用方法、コンピュータの基本操作、レポート作成レベルの文書作成技術(Word,Excel等)については一定習得済みのものとして講義はすすめられる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション(情報リテラシーⅢ共通)	
2	情報社会における「セキュリティ」とは(概説)	「情報セキュリティ」とは何か。今、何が問題になっているのかを理解する。
3	インターネットおよびWebサービスの仕組み	インターネットとはどのような技術によって成立しているのか、歴史的経緯を踏まえ理解する。
4	被害者・加害者にならないために1(コンピュータ犯罪の今昔1)	コンピュータ犯罪の事例を紹介し、そこに見える問題と、自らできる対策についての知識を得る。脅威となるWebサイト、サービスへの模擬接続と情報流出の状況確認。(実習)
5	インターネット上での「匿名性」「非匿名性」	「匿名」「非匿名」の実態について、アクセスログを用いて考える。アクセスログ解析、IPアドレス・ドメイン名によるトレース(実習)
6	コンピュータウィルスの脅威から身を守るために	コンピュータウィルスやネット上での危険要因についてその性格を理解し、対処の知識を得る。コンピュータウィルスの模擬作動実験(実習)
7	不正アクセス監視の仕組み(IDS)とファイアーウォール	実際のIDSシステムを見ながら、その有効性について考える。簡易IDSの構築(実習)
8	データの暗号化技術(1)	情報の保護という観点から、暗号化の方式、諸技術について理解する。暗号化作業(実習)
9	データの暗号化技術(2)	暗号化とその解読の具体的事例を見ながら、その有効性について考える。暗号解読の作業(実習)
10	情報セキュリティのための法律・諸制度・体制について	セキュリティ対策に係る、昨今の取組についての知識を得る。
11	情報化社会における「著作権」(1)	現行著作権法に基づいた、デジタルデータの取り扱いについて学習する。各自の所持している「コンテンツ」(授業成果物・レポート・Webサイト等)の検証(実習)
12	情報化社会における「著作権」(2)	現行著作権法に基づいた、データの取り扱いについて学習。ルールに則ったコンテンツ作成(実習)
13	情報セキュリティビジネス	情報セキュリティをビジネスとする事例を見ることを通して、セキュリティのあり方を考える。
14	管理者およびユーザに求められる「情報倫理」	技術者としての倫理・ユーザとしての情報倫理について考える。
15	総括「情報セキュリティ」	情報セキュリティについて、各回学んだ知識を総括する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義外学習をすすめたい者は個人的に質問に来るとよい。テーマに沿った文献・資料等を紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業時間内確認小テスト・小レポート、授業時間外課題、到達度確認テスト等を課す。(70%) また実習を伴う授業であるため、日々の参加姿勢をも含めた平常点評価とする。(30%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義時間中に随時指示する。

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books**

講義時間中に必要な資料、文献等を随時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義時間中に随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

初回講義で指示する。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Illustrator』: イラスト作成の基礎...(SKクラスと同内容)
ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。
Illustratorの基本操作。
画像ファイルの基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
3	Illustrator 入門	(cmykとrgb/ブラシツール/オプション・バー)
4	Illustrator 入門 + 実習(1)ポスター	(カラー/Web用保存)
5	実習(1)内覧 + Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線)
6	Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線/塗りと線)
7	Illustrator 入門	(レイヤー/その他)
8	実習(2)-1	携帯デザイン
9	実習(2)-2	携帯デザイン
10	実習(2)-3	提出、印刷、組み立て=>展示
11	写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
12	最終課題	(作品集)
13	最終課題	(作品集)
14	最終課題	(作品集)
15	最終課題内覧・まとめ	(作品集)

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	最終課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『コンピュータ教育(入門)』

教員をはじめ、コンピュータを教える立場になることを想定し、グループ学習やプレゼンテーションなどの実践を通じて、コンピュータ教育の技術や方法を探っていく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータ教育法の基礎習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	コンピュータの基礎知識	ハード/ソフト/OS/アプリ/NET
3	教材作成の基礎	マニュアルとプリント・スクリーン
4	実習(1)-1	Windows基本教室づくり
5	実習(1)-2	Windows基本教室プレゼン ディスカッション
6	実習(2)-2	Word基本教室づくり
7	実習(2)-2	Word基本教室プレゼン ディスカッション
8	Word/Excel/OLE/NET復習	
9	実習(3)-1	Excel基本教室づくり
10	実習(3)-2	Excel基本教室プレゼン ディスカッション
11	実習(4)-1	NET/OLE基本教室づくり
12	実習(4)-2	NET/OLE基本教室プレゼン ディスカッション
13	コメント	
14	実習(5)-1	最終課題
15	実習(5)-2	最終課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods**

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	そのほかの実習課題、実習状況など。

進捗等により調整を行う。

最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

また、グループ学習への不参加は、大きな減点となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。

グループ課題などを作成するために、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Webページ中級』:HTML~JavaScript
 Webページを作成するために必要な基本知識と技術を総合的に身につける。
 もっとも基本となるHTMLから、CSS(スタイル)、JavaScriptまで。

到達目標 / Attainment Objectives

NETの基礎知識。
 Webページの基礎知識。
 HTML、CSS、JavaScriptの基礎知識。
 Webページ公開。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
 もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Webページの基礎	(ネチケット・ブラウザ・HTMLとCSSとJavaScriptの関係)
3	HTML入門	(html,head,body,h,p,br,div / 保存・閲覧・更新)
4	HTML追加	(table)
5	CSS入門	(box,座標 / box系,font系,img系)
6	CSS入門	(box,座標 / box系,font系,img系)
7	実習(1)	基本的なWebデザイン・サンプル作成
8	JavaScript入門	(script,onClick,onMouseOverなどイベント)
9	JavaScript入門	(for / if)
10	JavaScript入門	(その他)
11	実習(2)-1	Webページ作成
12	実習(2)-2	Webページ作成
13	リンク貼り・アップロード・実習(2)-3	リンク貼り アップロード 更新
14	プレゼンテーション	(ページ紹介)
15	プレゼンテーション・まとめ	(ページ紹介)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	Webページ(作品)とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
 最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。
 素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。
 課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
 Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。
 また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『プログラミング入門』:Visual Basicによるプログラミングの基礎。

パソコン上の全ての機能は、プログラムによって提供されている。そのプログラム作成の最初歩を、簡単なゲームなどを学んでいく。同時に、プログラミングに於いて大切な思考と発想も身につけていく。

なお、プログラミング言語としては比較的初心者にも親しみやすい、Microsoft Visual Basicを用いる予定。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラムの役割の理解。

プログラミングの基礎の理解。

プログラミングの基礎的な思考と発想の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	プログラミング初歩	Hello World!! 操作の基礎 クリックとその反応
3	アニメーション(1)	移動による表現
4	アニメーション(2)	切り替えによる表現
5	計算と落とし穴	四則演算とその落とし穴
6	タイマーの作成	
7	実習(1)	クリックゲーム(VB風モグラたたき)の作成
8	プログラミングの思考(1)	素数を求める
9	プログラミングの思考(2)	計算の効率化
10	プログラミングの思考(3)	何が大切か
11	ゲーム・プログラミングのヒント	
12	実習(4)-1	オリジナル・ゲーム作り(1)
13	実習(4)-2	オリジナル・ゲーム作り(1)
14	実習(4)-3	オリジナル・ゲーム作り(2)
15	実習(4)-4	オリジナル・ゲーム作り(3) 検証と課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	実習課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『まなぶ・おしえるプログラミング[まなぶ編]』 上出 浩 /ふくろう出版/4-434-04018-9 /

上記の他、必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII (SJ) § 情報処理 (SJ)

15459

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Office総合(中級)』: Officeソフト総合演習(Excel中心)

情報リテラシーI、IIIに続く上級編。

Officeソフトの総合的な利用を目指すとともに、もっともよく使われるExcelのスキル・アップを図っていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Officeソフトの基礎と応用。

特にExcelの実践的な使用方法。

Excelの関数

Excelのデータベース機能。

Excelのマクロ機能の基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word・Excel・OLE復習	
3	Word発展(1)	スタイルとアウトライン/脚注/目次/ページ区切り
4	実習(1)	アウトライン
5	Excel発展(1)	Database オートフィルタ/並び替え/集計/フォーム
6	Excel発展(2)	Database 項目作成/vlookup
7	実習(2)	Database 仮想店舗売り上げ
8	Excel発展(3)	文字列操作(len,mid,find)
9	Excel発展(4)	Webデータの利用
10	実習(3)	検索実習
11	Excel発展(5)	マクロの基礎(1) 記録と保存
12	Excel発展(6)	マクロの基礎(2) 変数、繰り返し、if
13	実習(4)-1	課題
14	実習(4)-2	課題
15	実習(4)-3	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終課題など。
平常点評価	40 %	実習状況など。

進捗等により調整を行う。

最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーⅢ (SK) § 情報処理 (SK)

15460

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Illustrator』: イラスト作成の基礎...(SFクラスと同内容)
ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。
Illustratorの基本操作。
画像ファイルの基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
3	Illustrator 入門	(cmykとrgb/ブラシツール/オプション・バー)
4	Illustrator 入門 + 実習(1)ポスター	(カラー/Web用保存)
5	実習(1)内覧 + Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線)
6	Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線/塗りと線)
7	Illustrator 入門	(レイヤー/その他)
8	実習(2)-1	携帯デザイン
9	実習(2)-2	携帯デザイン
10	実習(2)-3	提出、印刷、組み立て=>展示
11	写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
12	最終課題	(作品集)
13	最終課題	(作品集)
14	最終課題	(作品集)
15	最終課題内覧・まとめ	(作品集)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	最終課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Office総合(入門)』:Officeソフト総合演習..(SAクラスと同内容)

「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。

上級クラスは、『Office総合(中級)』(SJクラス)。

Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Windows/パソコンの基礎。

Officeソフトの基礎と応用。

特にExcelの実用的な使用方法。

パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を含んでいる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト/書式/プリント・スクリーンの利用)
3	実習(1)	パソコン・マニュアル
4	Excel復習-1	(位置関係/表と計算/絶対参照)
5	Excel復習-2	(表示形式/関数(sum,average,count,if)/グラフ)
6	Excel復習-3	(復習と応用)
7	実習(2)	Excelによる分析
8	Excel発展-1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展-2	(エラー処理(isna)/検索応用)
10	Excel発展-3	(復習と応用)
11	実習(3)	検索実習
12	OLE発展-1	(Web上のデータ利用/ペイント)
13	OLE発展-2	(リンク貼り付け)
14	実習(4)-1	課題
15	実習(4)-2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行う。

最後課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 黒田 学

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講ではコミュニティケアに関する基礎的な理解を以下の3点から求める。①コミュニティケアの系譜および概念の整理・検討を、イギリスなどにおける国際動向および日本における実態と課題に照らして検討する。②社会福祉の構造的把握からコミュニティケアを考察する。特に、障害者福祉における地域福祉実践の構造的な理解を基礎にして、コミュニティケアを福祉援助の技術論的アプローチとともに、地域社会での生活を支える福祉、構成員すべての人間的発達を保障する視点から考察する。③ノーマライゼーションの視点からコミュニティレベルのケアの体系化(計画化)を提起する。福祉・医療・教育の各領域及びその協同、さらにはすべての構成員の社会参加と自己実現を基礎にして、総合的かつ横断的な施策と計画の必要性をノーマライゼーションの視点から提起する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. コミュニティケアに関する基礎知識の習得と系統的な理解
2. コミュニティにおける福祉課題に対する問題意識の形成
3. コミュニティケアの関連領域を踏まえての総合的理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域福祉論、児童福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、国際福祉社会論(それぞれ、少なくとも同時履修が望ましい)。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに — 講義を始めるにあたって—	1. コミュニティケアとは (1) 概念の検討と整理
第2回	2. コミュニティケアとは (2) イギリスの政策動向と系譜①	シーボーム報告、グリフィス報告、コミュニティケア法、ケアマネジメント
第3回	3. コミュニティケアとは (3) イギリスの政策動向と系譜②	新自由主義政策、福祉ミックス論、シェアスタート
第4回	4. コミュニティケアとは (4) 国際社会における展開	ノーマライゼーション、社会的排除、インクルージョン、CBR
第5回	5. 日本におけるコミュニティケア (1) 政策展開と実際①	高度経済成長期、コミュニティ政策、住民主体の原則、地域社会の構造変動
第6回	6. 日本におけるコミュニティケア (2) 政策展開と実際②	ゴールドプラン、地方分権、福祉のまちづくり、社会福祉基礎構造改革
第7回	7. 日本におけるコミュニティケア (3) 政策展開と実際③	介護保険制度、ケアマネジメント、支援費制度、障害者自立支援法
第8回	8. コミュニティにおける福祉課題 (1) 構造的把握の意味	三元構造論、生活の社会化論
第9回	9. コミュニティにおける福祉課題 (2) 福祉問題の検討①	障害児家族と心中事件、利用抑制
第10回	10. コミュニティにおける福祉課題 (3) 福祉問題の検討②	児童虐待、子どもの貧困、子育て支援
第11回	11. コミュニティにおける福祉課題 (4) 福祉問題の検討③	高齢者の孤独死と自殺、老老介護、遠距離介護、介護難民
第12回	12. 地域福祉計画の実際と課題(自治体の事例的検討)(1)「高齢者保健福祉計画」「介護保険事業計画」	社会福祉法、地域福祉計画、社会福祉協議会、ケアプラン
第13回	13. 地域福祉計画の実際と課題(自治体の事例的検討)(2)「次世代育成支援行動計画」	少子化対策、子どもの権利、就学前保育、学童保育
第14回	14. 地域福祉計画の実際と課題(自治体の事例的検討)(3)「障害者計画」「障害福祉計画」	ノーマライゼーション、バリアフリー、コンフリクト
第15回	15. コミュニティケアの展望と課題 —あらためてコミュニティケアを考える、まとめにかえて—	住民参加、共同と連帯、発達保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義で紹介する文献・資料に触れ、自学自習にも努めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講義内容に関する基礎知識の習得と論理的思考
平常点評価	40 %	講義内容に対する問題意識の形成と積極的受講

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生が居住する地域社会の福祉課題に対して日常的な関心を持って講義に望んでもらいたい。
講義への出席を通じて自分の頭で考え問題意識を高め、基礎的な事項への理解を深めてほしい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『障害のある子ども・家族とコミュニケーション』 黒田学、渡邊武編／クリエイツかもがわ／

『イギリスのコミュニケーションと介護者—介護者支援の国際的展開』 三富紀敬／ミネルヴァ書房／

その他、講義中に適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各自治体(福祉関係の情報・資料)および厚生労働省のホームページ(<http://www.mhlw.go.jp/>)。その他、講義中に適宜指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Eメールによる。

その他 / Others

ソーシャルワーク論(S) § 社会福祉援助技術論II(S) § 社会福祉援助技術論II(SG) § ソーシャルワーク論(SG)

12722

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会福祉実践(ソーシャルワーク)に必要な専門性の礎を築くことである。講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方や視点、実践に必要な理論や専門技術などについてである。ソーシャルワークは、個人から地域、政策までさまざまなレベルで展開されているが、本講義ではソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、グループへの支援に焦点をあてて学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ソーシャルワークの専門性と役割について説明できる。
- ・ソーシャルワーク実践のプロセスと方法について述べるができる。
- ・ソーシャルワーカーが常に遵守しなければならないことを述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目を可能なかぎり履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークとは	定義、目的、目標、方法
第2回	ソーシャルワークの分野・領域	事例、専門性
第3回	相談援助とは (テキスト第1章)	構成要素、専門職、実践領域、対象とする社会問題、介入の単位
第4回	相談援助の構造と機能(テキスト第2、3章)	視点、基本的な考え方、役割・機能
第5回	援助関係(テキスト第4章)	原則、機能・役割、自己覚知
第6回	援助の展開課程I(テキスト第5章)	インテーク、アセスメント、計画
第7回	援助の展開課程II(テキスト第6章)	計画の実施、モニタリング、評価、開発
第8回	アウトリーチ、契約(テキスト第7、8章)	アウトリーチ、契約
第9回	アセスメント (テキスト第9章)	援助関係、面接、情報
第10回	介入(テキスト第10章)	方法、理論、レポートリー
第11回	モニタリング、評価(テキスト第11章)	モニタリング、再アセスメント、効果測定、サービス開発
第12回	面接(テキスト第12章)	面接の形態、コミュニケーション・スキル
第13回	記録(テキスト第13章)	記録の目的、種類、方法
第14回	交渉、スーパービジョン(テキスト第14章)	交渉、エンパワメント、スーパービジョンの種類と方法
第15回	確認テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業内容について理解し、自分の言葉で説明できるか、また、それらの知識を応用することができるか、小レポートおよびテストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中には講義だけでなく演習を行うこともあるので主体的な参加が重要である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法I』	社会福祉士養成講座編集委員会編 / 中央法規 / 978-4-8058-3107-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会 <http://www.jacsw.or.jp/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール: m-okada@ss.ritsumeai.ac.jp

個人研究室: 修学館307&356号室(直通電話466-3371)

医学一般 (S) § 医学一般 (SG)

15356

担当者名 / Instructor 中川 克

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士の国家試験では、毎年150問中10問が医学一般から出題されている。本講義は社会福祉士を目指すものの必修講義として、医学・医療の基礎知識を習得し、国家試験に合格することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会福祉士の試験に合格する。
- ② 福祉に従事するものとしての医学的基礎知識を習得する。
- ③ 個人の健康管理に資する知識を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	インフルエンザ・麻疹など感染症の基本と対策
2	身体の構造と機能①	
3	身体の構造と機能②	
4	身体の構造と機能③	
5	身体の構造と機能④	
6	発生・成長と老化	
7	疾病①: 感染症(1)感染症法の改正	
8	疾病②: 感染症(2)結核	
9	疾病③: 生活習慣病・メタボリックシンドローム・糖尿病	
10	疾病④: 生活習慣病・がん	
11	疾病⑤: 生活習慣病・高血圧・脂質異常症	
12	疾病⑥: 神経疾患・脳卒中	
13	疾病⑦: 高齢者の病態・認知症	
14	リハビリテーション	
15	公衆衛生	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	記述問題・択一問題
レポート試験	20 %	11月頃に一回のリポートを求める。 課題は授業にて提示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

15回の講義のみで上記テーマを詳細に講義することは不可能である。
したがって、各自で予習・復習に努めることが必須である。【復習を中心に勉学に励むこと。】
授業で用いるパワーポイントの図表をWebCTに掲載しておくので、各自でプリントアウトして授業に持参すること。

※国家試験合格を目指すものは、社会福祉士国家試験の問題集に取り組むこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人体の構造と機能及び疾病	社会福祉士養成講座編集委員会編集／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3101-4／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉士精神保健福祉士受験ワークブック	社会福祉士精神保健福祉士受験ワークブック編集委員会／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3030-7／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/>

国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
厚生労働省の指標 <http://www.hws-kyokai.or.jp/16tokeipage-index.html>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mailで連絡: nkt07645@fc.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

応用精神保健学(S) § 精神保健学II(S)

20257

担当者名 / Instructor 石橋 典子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神保健学で学んだ内容をふまえて、精神保健活動の場としての地域、学校、職場の特性をふまえてそれぞれの場面における精神保健活動のあり方を学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健活動に関する諸理論をふまえて、具体的な精神保健活動のあり方を分析・討論・報告することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健学の履修を終えていることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1,2	人間にとっての精神とは	
3,4	精神保健とは	
5,6	精神を病むということ	
7,8	偏見のなかでつくられた病像	
9,10	精神障害者の充実した生活とは	
11,12	当事者と家族の社会参加	
13,14	障害と共に生きるということ	
15	まとめ 確認テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books

精神保健福祉士養成セミナー編集会編「精神保健福祉士養成セミナー第2巻精神保健学」(東京:へるす出版)
 石橋典子『呆けを「仕舞」として』中央法規

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staffその他 / Others

授業の概要 / Course Outline

本概論では、福祉専門職として必要な介護に関する諸概念および専門知識と援助の方法について学習する。具体的には、今日の介護問題の背景と現状、介護保険制度を主とする社会施策の学習を通して、主として高齢者と家族を中心にその立場や状況を明らかにし、専門職の果たす役割・責任を理解する。さらに、要介護者のニーズに沿ったサービスに必要な視点として健康、生活、自律の概念を学習し、対象の理解、生活援助の意味と認識を深める。問題解決技法としての介護過程、寝たきり、認知症、終末期の対象者・家族に対する根拠に基づいた援助の基本、対象者・家族の生命、身体、精神、生活上の安全と人権尊重の重要性を理解し、専門職者としての責務について自覚を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 介護の概念や基本原則、介護の場や介護に関わる専門職の種類と連携など介護の概要を理解する。
2. 今日の介護問題の背景と現状を理解することにより、介護対象者および家族の立場や状況に対する理解と認識ができる。
3. 人にとっての健康、生活、自律の意味、在り方を学ぶことにより、介護対象者・家族の生活援助の意義を認識できる。
4. 介護問題解決の方法論、援助技術の原理を根拠に基づき理解できる。
5. 寝たきり、認知症、終末期など特定領域別の対象者・家族の状況理解、援助の特徴と基本的な関わりの方法がわかる。
6. 対象者・家族の人権尊重の重要性および安全確保のための倫理的、法的根拠が理解できる。
7. 専門職としての理念、態度、在り方について理解でき、その責務を自覚する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、専門知識や関連情報、援助技術の学習に留まることなく、人に関する幅広い視点、多様で相対的思考でマクロに学習する立場で受講される事を希望します。また、社会福祉概論、社会福祉援助技術、ソーシャルワークなど主要な専門基礎科目を履修している2年次以降の受講が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	1. 介護の理解 1) 介護の概念とその発展	介護の概念、介護の原則、介護の歴史
第2回目	2) 介護の現状と問題、その背景	少子高齢社会、疾病構造の変化、介護問題、介護問題の背景
第3回目	2. 介護対象者の理解 1) 人・対象者にとっての生活	人の生活、家族、地域、クオリティ・オブ・ライフ
第4回目	2) 人・対象者にとっての健康	健康の概念、健康観の変遷、健康の意味
第5回目	3) 人・対象者にとっての自律/自立	自律、自立、自立尊重
第6回目	3. 介護のしくみ 1) 介護に関する政策、制度 2) 介護の場(在宅、施設)	保健・医療・福祉政策、介護の場、施設、在宅
第7回目	3) 介護を担う人と役割 4) 保健・医療・福祉の連携	介護者、介護者の役割、保健・医療・福祉、専門職、連携
第8回目	5) 介護保険制度の概要	介護保険法、要介護認定、要介護度、要支援、在宅サービス、施設サービス、介護予防
第9回目	4. 介護のスキル 1) 介護(問題解決)過程 2) ケアマネジメントの方法	介護過程、問題解決技法、ケアマネジメント、ケアプラン、個別援助計画
第10回目	2) 日常生活(ADL、IADL)援助	ADL、IADL、援助の原則
第11回目	3) 介護技術の原則 ①状態観察 ②コミュニケーション	援助技術、観察、コミュニケーション
第12回目	4) 主な領域と介護 ①寝たきり高齢者と介護	寝たきり高齢者、寝たきりの要因、寝たきり予防、介護の方法、日常生活自立度
第13回目	②認知症高齢者と介護	アルツハイマー病、脳血管性認知症、記憶障害、中核症状、周辺症状
第14回目	③終末期と尊厳死の理解	人の死、尊厳死、安楽死、高齢者、終末期、延命治療
第15回目	5. 介護における倫理 1) 対象者・家族の人権擁護 2) 介護専門職の責務	倫理、人権擁護、守秘義務、プライバシー保護、インフォームド・コンセント、意思決定、専門職の責務、倫理綱領

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書、講義のレジュメ、資料および紹介した著書、文献などによる予習・復習などの自己学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	筆記試験により介護問題の背景、関連する専門知識、対象の理解、援助の方法論などの基本的理解、知識の修得状況を評価・判定します。
レポート試験	0 %	定期試験の得点によっては、レポート評価を加味する場合があります。
平常点評価	0 %	定期試験の得点によっては、出席状況を加味する場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

提示した授業計画に沿って授業は進める予定です。教科書による事前学習および授業後のジユメを中心にした復習が、授業理解を円滑に深める前提と考えます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・社会福祉士養成講座13 高齢者福祉論	社会福祉士養成講座編集委員会＝編集／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3113-7 / 授業は、独自のレジュメに沿って出来るだけ広範な内容で進める予定ですが、時間の関係で、授業では触れられないこともあります。そのため、国家試験に備えて、標準的な知識として教科書で補足していただきたいです。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ケアその思想と実践1, 2, 3	上野千鶴子他／岩波書店／授業で学習する内容については、最新の考え方や研究結果、社会状況、政策などの知識や情報を取り入れ、根拠に基づいた理解を得て頂く事に努めます。そのために、適宜、適切な文献を資料として活用しますが、その出典となった文献には出来るだけ全体に目を通して頂きたいです。
介護の質に挑む人々	加藤仁／中央法規／／上記に同じ
死は誰のものか	斉藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ
アルツハイマー病にならない	井原康夫 / 朝日新聞社／／上記に同じ
痴呆性高齢者ケア	小宮英実／中央公論社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術論(S) § 社会福祉援助技術論I(S) § 社会福祉援助技術論I(SG) § 社会福祉援助技術論(SG)

12719

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉活動とその社会福祉領域での相談援助活動について以下の内容で学ぶ。国民の生活問題および社会福祉活動の対象である社会福祉課題の現実、公的社会福祉制度と社会福祉活動との必要性を学ぶ。社会福祉活動・相談援助活動の現実の展開の基本を学ぶ。社会福祉活動・相談援助活動の原理(概念、理念、構造)を、歴史的な形成過程、生活問題を解決・緩和する国民のイニシアティブ、国家による制度の関係の角度から学ぶ。社会福祉従事者の現状と倫理を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉活動の対象となる国民生活問題を理解する。社会福祉活動の原理と構造を理解する。社会福祉活動の基礎的知識と理論を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、社会福祉六法に関する各福祉論(公的扶助論、老人福祉論など)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	①授業の概要と導入 ②社会福祉活動・相談援助を理解するための導入事例	社会福祉活動、相談援助、生活の困りごと、社会福祉資源
2	社会福祉制度、社会福祉活動の構造(1)	生活と労働、社会問題、生活問題、ニーズ、社会福祉制度
3	社会福祉制度、社会福祉活動の構造(2)	社会福祉の主体、社会福祉活動、相談援助
4	社会福祉制度、社会福祉活動の構造(3)	地域、社会資源(相談機関、社会福祉施設)、人材(社会福祉労働者・ボランティア)
5	社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応および資源(1)	生活問題の発生、危機、生活の再設計、児童期の社会的養護
6	社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応および資源(2)	生活障害、在宅ケア、施設ケア、ネットワーク、地域、ボランティア、ターミナル
7	社会福祉活動の考え方と構成要素(1)	基本的人権、契約と権利、ノーマライゼーション、社会的包摂、自立
8	社会福祉活動の考え方と構成要素(2)	社会福祉活動の種類、社会福祉活動・相談援助の諸機能
9	社会福祉活動の考え方と構成要素(3)	ゼネリック、共通基盤、価値と倫理、地域展開
10	社会福祉活動の歴史と理論(1)	本源の蓄積、救貧法、産業革命、貧困、慈善事業、ソーシャルワーク、COS、セツルメント、
11	社会福祉活動の歴史と理論(2)	ルフォード会議、統合化、世界恐慌、ニューディール、社会保障、診断主義、機能主義、折衷主義、ベヴァリッジ報告、福祉国家
12	日本の社会福祉活動(1)	第二次大戦、GHQ、日本国憲法、社会福祉事業法、社会福祉論争、社会福祉主事、5法ワーカー、専門職
13	日本の社会福祉活動(2) 1970年中旬～	福祉見直し、在宅福祉、多元化、福祉供給システム、ケアマネジメント、社会福祉基礎構造改革、反貧困運動
14	相談援助専門職と社会福祉労働(1)	専門職制度、社会福祉士、分業と協業
15	相談援助専門職と社会福祉労働(2)	専門職と価値・倫理、社会福祉労働過程、主体形成、制度形成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	筆記試験による。
平常点評価	20 %	随時の提出物、コミュニケーションペーパーによる。

- ・ソーシャルワーク歴史と理論の概要を問う
- ・社会福祉課題の基本的性格と社会的対応としての社会福祉活動についての理解がなされているかを問う。
- ・随時のコミュニケーションペーパーにより、社会福祉課題についての問題関心の涵養を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現実の社会福祉課題を知り、いかに対応すべきなのか、個人・家族、地域・自治体、国家の各レベルで主体的に考察してください。

教科書 / Textbooks

教科書:社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座⑥相談援助の基盤と専門職』中央法規 2009年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉方法原論	植田章・岡村正幸・結城俊哉 / 法律文化社 / /
新・社会福祉士養成テキストブック2社会福祉援助技術論 上	北島英治 / ミネルヴァ書房 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉は今は私たちの生活にとって必要不可欠な社会資源となっています。福祉の仕事に就く人にとってだけでなく、生活者にとっての社会福祉の意義と成り立ちについて歴史的かつ現実的に考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会の中での社会福祉の位置と役割について過去・現在・未来の視点から捉える視点の獲得をめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入:本講義でのねらいや受講の心得について説明する	
2	共同社会のなかでの福祉的営みの必須性を考える	ポノボ、共同社会
3	資本主義による家族と地域社会における自生的な共同関係の衰退	合掌造り、複合家族、直系家族、核家族、地域共同体
4	共同関係の衰退と貧困化から社会福祉形成の歴史的前提を考える	資本主義、労働力の商品化、国・地方自治体、民間非営利組織
5	義務教育で権利としての社会保障・社会福祉について何を学びましたか？	出産手当、育児手当、医療保障、老後保障、障害者福祉、スウェーデンの教科書
6	社会福祉問題の現代的広がり～児童・青少年問題の今～	児童相談所、家庭裁判所調査官
7	認知症の人と向き合う	痴呆、認知症、デイケア
8	当事者が語る若年認知症の世界	若年認知症、スティグマ、残存能力、ケアパートナー
9	社会福祉援助が必要となる場面での自己と他者関係	ミード、Iとme、社会統制、自我意識の獲得
10	地域福祉と権利擁護の課題	消費者被害、一人暮らし、悪質商法、地域福祉権利擁護事業、成年後見人、消費生活センター
11	保育所から見える児童の貧困と社会福祉	保育所の二つの役割
12	社会福祉の三元構造	対象、運動、政策主体
13	社会福祉従事者と社会福祉法人、社会福祉協議会、地方自治体、国の役割と責任	社会福祉従事者、資格制度、社会福祉法人
14	当事者組織と社会福祉運動と社会福祉研究運動	社会運動、当事者運動
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ビデオを多用しながら、社会福祉の多様な現場とその奥の深さを考えます。また講義では考えるテーマを出して受講者に思考訓練を行ってまいります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義の理解度を問う試験によって評価します。
平常点評価	30 %	講義の出席と講義で出すテーマをどれくらい考えてくれたかで評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるだけ欠席がないことを要請します。続けて出席することで理解が深まるように、授業を組み立てています。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現場がつくる新しい社会福祉	総合社会福祉研究所 / かもがわ出版 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義時間中かメールで連絡を取ってください。isikura@ss.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

社会福祉法制 (S)

12767

担当者名 / Instructor 密田 逸郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現在、私たちにとって「社会保障・社会福祉制度」は、必要不可欠な生活の条件となっている。この講義では、社会保障・社会福祉制度の生成・発展の歴史を辿ることで、社会保障・社会福祉の理念、本質、機能について学ぶとともに、21世紀における福祉国家再生のための社会保障・社会福祉のあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

今日、社会保障・社会福祉は、テレビ・新聞等に取り上げられない日がないほどポピュラーになっているものの、一方では、学問としてとらえられ、難しいと敬遠されているのが現状である。そこで講義では、社会保障・社会福祉の体系や理念を学び、少しでも身近なものと感じ興味を持っていただこうと思っている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義①」	所得保障、対人社会サービス、社会保障法(アメリカ、ニュージーランド)
2	「社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義②」	ILO、ベヴァリッジ・リポート、憲法第25条、社会保障制度審議会
3	「社会保障のあゆみとダイナミクス—イギリス及びドイツにおける歴史」	救済法、本源的蓄積、ブース、ラウントリー、鉛と鞭の政策、ビスマルク
4	「社会保障・社会福祉の基本原理と限界」	生活障害、生活危険、生活不能、生活の社会化、労働の価値、社会保険方式、消費税
5	「生活保護①」	貧困問題、セーフティネット、社会的排除
6	「生活保護②」	格差社会、ベーシックインカム
7	第1回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性はある。
8	「公的年金①」	国民年金、厚生年金保険、共済年金、国民年金制度の成立、国民皆年金
9	「公的年金②」	年金記録管理問題、社会保険方式、消費税
10	「社会福祉法の成立、社会福祉基礎構造改革」	措置制度の解体、利用料概念、営利企業参入、新自由主義
11	「介護保険法と障害者自立支援法」	福祉の市場化、福祉サービスの「商品化」、介護保険と障害者自立支援法の将来的統合
12	「保健・医療制度」	国民皆保険、医療の質と水準、医療の市場化、混合診療、後期高齢者医療制度
13	「消費税の本質と福祉目的税化」	売上税、輸出戻し税
14	第2回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性はある。
15	「新しい社会保障・社会福祉の姿」	社会保障基金、社会保障事務所、社会保障税

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート試験は70点とする。
平常点評価	30 %	前半、後半に1回ずつ計2回の検証テストを行う。配点は1回を15点とする。
検証テストは、授業の進度によって実施時期を変更する場合がある。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会保障の設計	芝田英昭編著 / 文理閣 / 4-89259-521-7 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省 : <http://www.mhlw.go.jp>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

imr09070@fc.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

精神医学(S) § 精神医学I(S)

12753

担当者名 / Instructor 辻 正之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「こころ」の働きやストレス、精神疾患、精神医療など「精神医学」の基礎論を学習します。

到達目標 / Attainment Objectives

「精神医学の基礎となる知識を習得し、概念を理解して、それらを説明できる」水準への到達を目標に致しましょう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
①4/12	授業の概要と導入(科目のガイダンス)	シラバス、「こころ」の働き、ストレス、精神疾患、診断分類、チーム医療
②4/19	精神科診断(1) 最初の診察・面接	主訴、精神的現在症、問診、聴くこと
③4/26	精神科診断(2) 精神症状	知覚、思考、感情、意欲・行動、表情、自我
④5/10	統合失調症	妄想、幻覚、解体した会話/行動、感情の平板化、4A症状
⑤5/17	気分障害	躁うつ病、躁病、うつ病、内因性、心因性
⑥5/24	神経症 ICD-10の疾病分類	葛藤、不安、ICD-10
⑦5/31	パーソナリティ障害 思春期の精神障害	同一性、思春期心性、登校拒否、対人恐怖、摂食障害
⑧6/7	老年期の精神障害	老化、対象喪失、認知症、老年期うつ病
⑨6/14	特別講師「講義」: 崔秀賢 岩倉病院長	精神医療・精神科病院の歴史、開放医療、「病院」と「地域」
⑩6/19(土)	精神保健スタッフに求められる技能 ご意見の交換	精神症状、効果的なコミュニケーション、BPRS
⑪6/21	特別講師「講義」: 大谷和世 岩倉病院副看護部長	精神科看護、「こころ」と「身体」、医療現場の実際
⑫6/28	精神療法	精神療法的態度、精神療法的技法、治療メカニズム、治療的变化、治療構造
⑬7/5	精神科薬物療法 「腕試しテスト」(7/19)の事前説明	向精神薬、プラセボ、作用要因、「転移」と「逆転移」
⑭7/12	「ストレスケア病棟」と職場のメンタルヘルス	ストレスケア病棟、うつ病、チーム医療
⑮7/19(海の日)	45分間の腕試しテスト+45分間の講義(事後説明・解説、科目のまとめ)	シラバスのレビュー、「到達目標」と「自己評価」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

①テレビや新聞の精神医療・精神保健など「精神医学」に関する報道などにも関心が持てれば更に良いと思います ②授業内では症例もご提示します。秘密の保持には十分、ご配慮ください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①授業時間内に書いて頂く簡単なレポートに対する評価に加えて、受講状況による加点を行いません→全評価中の65%に充当します ②第15回授業(7/19)で45分間の「腕試しテスト」を行いません→全評価中の35%に充当します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

白紙の状態でご受講して頂いて構いません。授業内で集中的に学習を致しましょう。

教科書 / Textbooks

テキストは用いません。必要時に、レジュメなどを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ストレスとうつ	徳永雄一郎 / 西日本新聞社 / 特に第5,8,14回の授業内容の理解を深めたいときの参考書的新書です。
事例で学ぶSST	高柴哲次郎 / 日総研出版 / 特に第3,4,10回の授業内容の理解を深めたいときの参考書です。

禪的森田療法

宇佐晋一／三聖病院／森田療法を原法に忠実に継承して来られている臨床医の貴重な「エッセイ」と「日記指導実例」です。

上記の3冊は気軽に読める書籍です。

授業の理解にだけでなく、ご自分自身の健康維持にも役立つかもしれません。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

岩倉病院 <http://www.toumonkai.net/>
不知火病院 <http://shiranui-byoin.or.jp>
日本精神神経学会 <http://www.jpsn.or.jp>
日本うつ病学会 <http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/>
日本統合失調症学会 <http://square.umin.ac.jp/jssr05/index.html>
日本不安障害学会 <http://www.jpsad.jp/>
日本精神分析的な精神医学会 <http://www.jaapp.jp>
日本森田療法学会 <http://www.jps-morita.jp/index.html>
福岡BPRS評価トレーニング協会 <http://www.dia-net.ne.jp/~bprs/home.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。
<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

精神科リハビリテーション学(S) § 精神リハビリテーション学II(S)

12887

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神障害という病気になった人が、自身の病気と向き合いながら社会生活において人間らしく生活していくことを援助するかが精神科リハビリテーションです。

精神科リハビリテーション学は精神保健医療福祉全般にかかわる領域であることから、病気の経過、機能回復の訓練、さらに、精神科リハビリテーションの経緯、多職種連携のなかで精神保健福祉士としてどう取り組むのかという視点を育てることを目的とします。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として障害者の視点に立って、精神科リハビリテーションにどう取り組むかの視座を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の到達目標・進め方
2	障害者リハビリテーションの概念	リハビリテーションの概念、歴史、分野
3	障害者リハビリテーションの理念、意義と基本原則	ADLからQOLへ、ノーマライゼーション、国際機能分類
4	障害者リハビリテーションの理念と意義	WHOの理念、基本原則と技法
5	精神科リハビリテーションの構成①	精神科リハビリテーションの対象、専門職種との連携、
6	精神科リハビリテーションの構成②	精神保健福祉士の役割、精神科リハビリテーションの施設、関連領域
7	精神科リハビリテーションのプロセス	リハビリテーション計画、アプローチの方法
8	医療機関におけるリハビリテーション①	作業療法、レクルエーション療法、集団精神療法、行動療法、
9	医療機関におけるリハビリテーション②	認知行動療法と社会生活技能訓練、家族教育プログラム、
10	医療機関におけるリハビリテーション③	デイケア、ナイトケア、精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
11	医療機関におけるリハビリテーション④	地域移行支援
12	精神保健福祉士が行うリハビリテーション	医学的リハビリテーションと社会的リハビリテーション
13	精神科リハビリテーションの総合化	地域リハビリテーション、職業リハビリテーション
14	精神保健福祉施策の展開	わが国の現状と課題、諸外国の現状と課題
15	総括講義 点検試験	精神科リハビリテーションの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度(発言内容を含)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座「精神科リハビリテーション学」	日本精神保健福祉士養成校協会 / 中央法規 / 978-4-8058-3153-3 / 2,700円(税別)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail: morii@hyoseikyoku.jp で連絡してください。

その他 / Others

精神障害リハビリテーション論 (S) § 精神リハビリテーション学I (S)

12752

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人生の途上で精神障害と出会った人が、その障害と向き合い価値ある人生を創造することを科学的に支援する取り組みが精神科リハビリテーションである。この授業では、統合失調症圏を中心に精神障害者の社会参加支援の実際についてふれ、精神障害の生活と支援をどう理解するのかを学び、精神科ソーシャルワーカーとして精神障害者のリハビリテーションに取り組む視座とスキルを明確にする。

到達目標 / Attainment Objectives

生活モデルに立脚しながら精神科リハビリテーションに取り組む専門職として精神科ソーシャルワーカーに求められる視座を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神医学
精神保健福祉援助技術総論・各論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション:精神科リハビリテーションと精神保健福祉支援の歴史	地域居住プログラム、退院患者クラブ
第2回	精神障害者の生活実態	生活困難状態 援助必要性
第3回	精神科リハビリテーションの対象①-統合失調症圏を中心に-	精神障害 特性 認知の障害 統合の障害
第4回	精神科リハビリテーションの対象②-統合失調症圏を中心に-	生活の仕方の障害 対人関係の障害 働くことの障害
第5回	精神科リハビリテーションの対象③-神経症圏を中心に-	不安 自己尊厳 自己肯定
第6回	リハビリテーションの場とプロセス①-病院、診療所-	SST、デイケア
第7回	リハビリテーションの場とプロセス②-地域支援機関-	保健所、危機、アウトリーチ コミュニティ
第8回	リハビリテーションの場とプロセス③-就労-	過渡的雇用、雇用管理、ジョブコーチ
第9回	専門職としてのスタンス	場の力動 エンパワメント
第10回	長い入院とリハビリテーション-当事者へのアプローチ-	院内寛解、認知障害、施設症
第11回	親へのアンビバレントな感情や行動とリハビリテーション-家族のアプローチ-	EE、危機介入
第12回	地域での生活と支援	ハードな資源 ソフトな資源 当事者の役割 市民の役割
第13回	リハビリテーションとピアスタッフ	セルフヘルプ ピアスタッフ ピアアドボケーション
第14回	共同作業所実践が築いてきたリハビリテーションモデル	なかま 当事者観 フレンドシップ
第15回	総括講義 点検試験	精神科リハの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況ならびに講義への積極的参加を評価する。 なお、授業終了時の点検試験は、評価の50%を占める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーション学	日本精神保健福祉士養成校協会 / 中央法規 / 978-4-8058-2813-7 /
教科書は、精神科リハビリテーション学と共通	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーションケースブック	野田文隆 寺田久子 / 医学書院 / 4-260-11883-8 C3047 /
精神障害リハビリテーション学	蜂谷英彦 岡上和夫 他 / 金剛出版 / 4-7724-0663-8 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神障害者の人権とくらし(S) § 精神保健福祉論II(S)

12777

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉士としての基礎的な知識といえる精神障害者の視点に立って人権とは何かとそれを権利擁護する精神保健福祉士の役割について、その現状と課題を取り上げる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として、精神障害者の人権をどう保障するか。そのためには客観的な視点がどう必要かを理解し、精神保健福祉士としての共通認識基盤の確立を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の到達目標、進め方
2	障害者の人権保障	世界人権宣言、国際障害者年、障害者感の変遷
3	精神障害者の人権保障	精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則
4	わが国における障害者の人権保障の枠組み	障害者基本法、障害者プラン
5	精神医療における権利擁護①	インフォームド・コンセント、病院内の審査体制
6	精神医療における権利擁護②	精神医療審査会、実地指導・実地審査
7	権利擁護と市民運動	精神医療オンブズマン
8	人権侵害の現状	宇都宮病院事件、大和川病院事件
9	権利擁護の取り組み	欠格条項、青年後見制度、アドボカシー
10	偏見・差別・スティグマ	権利擁護の担い手としてのPSW
11	精神保健福祉援助活動①	精神科病院での相談援助
12	精神保健福祉援助活動②	地域(保健所等)での相談援助
13	精神保健福祉援助活動③	災害時の相談援助
14	精神保健福祉士の役割・課題	PSWのアイデンティティ
15	「検証テスト(確認テスト)」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度(発言内容を含)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座「第4巻 精神保健福祉論」	日本精神保健福祉士養成校協会 / 中央法規 / 978-4-8058-3154 / 定価2,835円(税込み)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail: morii@hyoseikyoku.jp で連絡してください。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「こころの時代」といわれて久しいが、現代社会は複雑な社会背景から、いじめ・虐待・自殺などさまざまな問題が発生している。特に自殺者は1998年以後12年連続で3万人を越えている中、自殺者の多くがうつ病などの精神疾患が原因と言われている。

多くの現代人は常に様々なストレスを感じており、こころの健康を害しやすくなっている。

現代社会での生活とストレスは常に近くに接しており、ストレス社会と言われる所以でもある。

精神保健には、幼少期から老年期までの人生のライフサイクルにおいて、家庭、学校、地域、職場などの生活・環境の視点からの理解が必要不可欠であり、ただ単に病気の予防、再発防止、自立的な生活の維持だけでなく、広く国民全体の精神保健の保持、増進の必要性について知識が必要となってくる。

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルにおける精神保健の問題や課題についての取り組みについて学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルを通じての精神保健の問題や課題についての取り組みを学び、精神保健福祉士としての概要を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の到達目標・進め方
2	精神保健の概要・意義と課題	WHO憲章、わが国の現状と課題
3	ライフサイクルにおける精神保健①	胎児期・乳幼児期における精神保健
4	ライフサイクルにおける精神保健②	学童期・思春期における精神保健
5	ライフサイクルにおける精神保健③	青年期・成人期における精神保健
6	ライフサイクルにおける精神保健④	老年期における精神保健
7	精神障害者対策	歴史と障害者自立支援法・課題
8	アルコール関連問題対策	アルコール関連問題とは・健康日本21
9	薬物乱用防止対策	薬物乱用の現状・特徴・対策
10	地域精神保健対策	危機介入・アウトリーチ
11	家庭における精神保健	少子高齢化・児童虐待・DV
12	学校における精神保健	不登校・いじめ・学校精神保健の課題
13	職場のメンタルヘルス	職場のメンタルヘルス・4つのケア
14	諸外国における精神保健	イタリア・オーストラリア・カナダの精神保健施策
15	検証テストと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度(発言内容を含)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉養成講座 第2巻「精神保健学」	日本精神保健福祉士養成校協会 / 中央法規 / 3152 / 定価2,835円(税込み)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail: morii@hyoseikyo.jp で連絡してください。

その他 / Others

精神保健福祉コミュニティワーク(S) § 精神保健福祉援助技術各論II(S)

15440

担当者名 / Instructor 知名 純子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる個別援助技術、集団援助技術を踏まえたうえで、コミュニティワークの実践の質をより深めるために必要な間接援助技術やその他関連援助技術のあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 間接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
- ・ 習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉、精神保健福祉科目を履修しているか、その知識があることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コミュニティワークとは	時代に応じた概念の変化
2	精神障害者を対象とした地域援助技術	ソーシャルワーク・リサーチ
3	間接援助技術の内容と機能	ソーシャル・プランニング
4	関連専門援助技術について1	心理療法・面接技法
5	関連専門援助技術について2	家族療法・家族支援
6	地域福祉の枠組み	地域福祉をめぐる考え方の違い
7	これからの地域福祉	ボランティア活動、セルフヘルプグループへの支援
8	コミュニティワークの理論①コミュニティ・ディベロップメント	イネープリング、セツルメントとパートナーリズム、ラジカル・ワーカー
9	コミュニティワークの理論②ポリティカル・エンパワメント	多元的世界観、マイノリティの参加と社会の安定
10	コミュニティワークの理論③プランニング	新しいプランニング理論
11	コミュニティワークの理論④プログラム・ディベロップメント	インターグループワーク、多元主義と資源配分
12	コミュニティワークの理論⑤コミュニティ・リエゾン	ボランティアリズム、当事者参加促進策
13	実習	京都市内の施設見学
14	まとめ 予備日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてコミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉の現状と課題 (S) § 精神保健福祉論III (S)

15367

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、精神科ソーシャルワークに求められる障害者観や実践観につき講義するものである。精神障害当事者の人権を保障する働き手となる精神科ソーシャルワーカーに求められる障害者観や実践観、さらに実践上の現状と課題をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉上の切実な要求を持つ人の人権を保障する為に必要な障害者観や実践観を理解し、政策や実践課題に関心を持つ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	精神障害者観と精神保健福祉の流れ	隔離収容政策 スティグマ パターナリズム
第2回	PSWと精神障害者の地域生活	危機 連携 包括的地域生活支援
第3回	パートナーとしてのPSW 実践の価値	パートナー フレンドシップライン
第4回	精神障害者と精神科医療	法34条 受療アクセス
第5回	精神障害者と精神科医療	社会的入院 施設症 当事者ニーズ
第6回	精神障害者と暮らしの場	家族 グループホーム ケアホーム
第7回	精神障害者といこいの場	なかま 自治 自律
第8回	精神障害者と就労	就労支援 ジョブコーチ 適応から参加
第9回	青年期の課題を持つ当事者達と支援	ひきこもり 摂食障害 リスクカット
第10回	災害・事故の被害と支援	トラウマ PTSD 災害支援
第11回	触法精神障害者と回復支援	池田小学校事件 医療観察法
第12回	他の精神保健福祉ニーズを持つ人の生活と支援	薬害HIV 遺族
第13回	当事者からの発言	薬害HIV遺族
第14回	当事者からの発言	統合失調症 ひきこもり
第15回	総括講義 点検試験	精神保健福祉の政策的課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終講義日に試験に代わるレポート課題を提起し、即日作成。 講義は、議論を重視する。積極的に議論に参加すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。
- ☆精神障害者に関わる議論すべき事例が生じた時には講義計画を変更する。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めませんが、講義内で紹介した書籍には必ず目を通すこと

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害をもつ人が地域でくらししていくために－ 介護保険統合論と、求められる社会的支援	山本耕平／かもがわ出版／4-87699-840-x／
障害者のくらしはまもれるか	中内福成、植田章、田中智子、井上泰司、峰島厚、山本耕平／かもがわ出版／4-7803-0047-9 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉援助技術各論(S) § 精神保健福祉援助技術各論I(S)

12780

担当者名 / Instructor 知名 純子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者を対象とした直接援助技術(ケースワーク、グループワーク)について学び、援助技術を習得することを目的とする。講義では、直接援助技術の実践に必要な理論を学び、演習によってこれを体験することで、社会福祉援助活動について総合的に理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 直接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
- ・ 習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	ケースワークとグループワークについて
2	ソーシャルワークの周辺理論①	交流分析
3	ソーシャルワークの周辺理論②	防衛機制
4	精神障害者を対象としたケースワーク①	面接の意味と目的
5	精神障害者を対象としたケースワーク②	面接技法
6	精神障害者を対象としたケースワーク③	記録の内容
7	精神障害者を対象としたケースワークの展開①	インテーク、アセスメント
8	精神障害者を対象としたケースワークの展開②	プランニング、モニタリング、評価
9	事例検討	ケアマネジメント計画
10	精神障害者を対象としたグループワーク①	歴史、目的
11	精神障害者を対象としたグループワーク②	メンバーの選択、グループワークの準備
12	精神障害者を対象としたグループワーク③	グループワークの始め方、規範の形成
13	グループの発展段階と構造	発展の5段階
14	グループへの介入、評価、終結	個人・環境への介入、グループの葛藤
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてコミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉論(S) § 精神保健福祉論I(S)

12878

担当者名 / Instructor 塩満 卓

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉論の原論としてとらえる。精神保健福祉論は、精神保健福祉士養成の指定科目の1つとして創設された科目である。しかし、本講義は、精神保健福祉士養成の基礎的な知識の教授を目的とせず、我が国の精神障害者をめぐる政策、実践、運動を捉える視座を獲得することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①精神障害者福祉の政策背景を歴史的に探る力を獲得する
- ②精神科ソーシャルワークの原則を理解する力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

障害者福祉論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	精神障害者福祉の歩み-1	宗教治療 ゲールと岩倉村 自宅監置 精神病患者監護法
2	精神障害者福祉の歩み-2	呉秀三 精神病院法と侵略戦争
3	精神障害者福祉を阻んだ棄民政策-1	精神障害者とハンセン病患者政策 ロボトミー
4	精神障害者福祉を阻んだ棄民政策-2	精神病患者建設拍車 民間精神科病院優位
5	ライシャワー事件と精神衛生法改正	ライシャワー ステイグマ マスメディア 通報制度拡大
6	日本における精神病院スキャンダルへの国際的批判	宇都宮病院事件 ICJ,ICHPの合同調査
7	精神保健法の意義と役割	精神医療審査会 社会復帰施設
8	1991年国連原則とわが国の現状の乖離	日本国憲法 治療に参加する権利 地域で生きる権利
9	「自由こそ治療だ」ジル・シュミットのレポートから学ぶ精神科支援-1	権力の行使 福祉施設と排除 共同
10	「自由こそ治療だ」ジル・シュミットのレポートから学ぶ精神科支援-2	患者との向き合い 精神科病院解体 地域
11	なぜ、地域移行が困難か-わが国の精神保健福祉の課題-1	改革ビジョン グランドデザイン 自立支援法
12	なぜ、病院施設内に住まいを建設するのか-わが国の精神保健福祉の課題-	中間施設 排除と囲い込み 福祉ホームB グループホーム 退院支援施設
13	なぜ、家族が保護義務を背負うのか-わが国の精神保健福祉の課題-	家族 保護義務
14	地域で精神障害者が暮らす政策について	働く場 住む場 憩う場 医療 危機介入
15	まとめの授業 確認試験	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害をもつ人が地域でくらししていくために 介護保険統合論と、求められる社会的支援	山本耕平 / かがわ出版 / 978-4-87699-840-1 (4-87699-840-X) /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
自由こそ治療だ	ジル シュミット, Sil Schmid, 半田 文穂 / 社会評論社 / 4784501819 /
精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本	大熊一夫 / 岩波書店 / 4000236857 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉発達史 (S)

15328

担当者名 / Instructor 福住 節子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日の世界的不況の中、社会福祉の課題はその重要性和緊急性を増している。日本においては、「派遣切りから路上生活」を余儀なくされる人々が増加し、「労働者派遣法」の改正の問題点が指摘されている。このように、過去の出来事がそれ以降の状況へとさまざまな影響を及ぼしていることは、「歴史とは、現在と過去との対話である」(E・H・カー『歴史とは何か』)という言葉の重さを再認識させる。

本講義では、貧困救済から始まったイギリスの社会福祉制度を出発点として、世界と日本の社会福祉の歴史的展開を概観しながら、その過程において、歴史を動かす原動力となったものは何か、また人々の状況はどのようであったか等を知る中で、なぜ、社会福祉がこれほど重大な課題となってきたのか・・・を考え、社会福祉の変遷が、現在に示していること、そして未来に伝えてゆくことは何なのかを考え合っけたい。また、その学びの中で、人々が社会的に生きてゆく上での、社会福祉・社会保障の必要性・重要性を確認し、その発達における歴史的認識を通して、今日的課題をみなさんと共に考え合っけたい。

到達目標 / Attainment Objectives

○社会福祉の歴史的展開を学ぶ中で、それらを「歴史的事実」としてのみ捉えるのではなく、その変遷の意味することや、今後の社会福祉の発展に何が必要かという課題についても考えることができる。

○社会福祉発達の歴史に、多面的な興味関心を持ち、受講者間の意見交流にも積極的姿勢で臨む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション: 社会福祉の歴史を学ぶ意義・社会福祉の概念	
2	ヨーロッパにおける前近代(古代～中世)の貧困の救済	
3	絶対王政下での救済政策(イギリス救済法の形成過程)	
4	市民革命期の貧困救済のあり方	
5	産業革命期の貧困救済のあり方(新救済法の形成過程・目的・評価)	
6	社会事業の組織的展開①(慈善組織協会・セツルメント)	
7	社会事業の組織的展開②(社会保障の諸課題—教育・福祉・医療)	
8	大恐慌期から1940年代の「福祉国家」と社会福祉	
9	第二次世界大戦後における社会福祉の展開過程	
10	スウェーデンにおける「福祉国家」の建設と発展	
11	日本における社会福祉の発展過程—戦前①(明治期の福祉政策)	
12	日本における社会福祉の発展過程—戦前②(民間慈善事業と感化救済事業)	
13	日本における社会福祉の発展過程—戦後①(戦後改革期)	
14	日本における社会福祉の発展過程—戦後②(「高度経済成長」と「社会福祉」)	
15	まとめ と テスト(またはレポート)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①毎回、提出を求めるミニ・レポート(質問や要望 など、担当者とのコミュニケーション、あるいは、受講者間の意見交流の役割ともなる)。 ②個人の「研究テーマ」レポート(A42枚程度) ③最終講義テスト(学習到達確認テスト)

上記①～③を中心として、総合的に評価する。

○受講者数によっては、可能な限り個別のプレゼンテーションや、グループ討論等も取り入れ、それらへの積極的姿勢も併せて評価したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

○文献やTVのドキュメンタリーなどでも、福祉発達史を学ぶ上で参考になるものなどを活用されたい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用せず、随時、レジュメ・資料等を配布する。

参考書 / Reference Books

授業にて、適宜提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

○初回授業で、連絡する。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 近藤 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神医学の臨床は「援助を求める人」と「援助を提供する人」とそれらを取り巻く人・環境から成り立っている。このため援助を提供する人は、この三つの要素とそれらの関係に注意を向け、理解しようとする姿勢が求められる。実際には、援助を求める主体の状態を客体として把握しつつ主観的な体験を汲み、援助の受け手と提供者の関係がどのような状態にあるかモニターし、環境と主体との関係を把握した上で主体および環境に働きかける、といった作業を行うのである。講義では臨床の実際も提示しつつ、精神医学の基礎知識を概説し、臨床精神医学に必要な思考の枠組みが理解できるよう試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①精神状態のアセスメントに必要な知識と視点を理解する
- ②精神療法や薬物療法など精神医学的援助の概略を理解する
- ③主要な精神疾患の概略について理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	精神医学の特徴と精神医療の歴史	
第2回	精神機能と主要兆候のとらえ方	意識 認知 気分 思考 知覚 不安
第3回	精神医学における疾患分類と診断	記述精神医学 操作的診断基準 面接
第4回	脳および神経の解剖と生理	中枢神経系 自律神経 神経伝達物質 認知 情動 記憶
第5回	第一回小テスト 治療法(1)	薬物療法 精神療法 環境調整 リハビリテーション
第6回	治療法(2)	精神分析的な精神療法
第7回	治療法(3)	認知行動療法 家族への援助
第8回	症状性を含む器質性精神障害	
第9回	統合失調症とその近縁疾患	
第10回	第二回小テスト ストレスとその反応・職場における精神保健	
第11回	気分障害	
第12回	アルコール依存症・老年期の精神障害	
第13回	パーソナリティ障害・発達障害	
第14回	強迫性障害・摂食障害	
第15回	第三回小テスト 不安障害・解離性障害	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	小テスト60%:講義内容の理解度を確認するために、第5回、第10回、第15回の講義の中で小テストを実施します。 小レポート40%:いくつかのテーマを提示しますので、その中から一つテーマを選んで小レポートを作成してもらいます。字数や提出期限等、詳細については講義の中で説明します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
TEXT精神医学	加藤進昌 神庭重信 編 / 南山堂 / 978-4-525-38003-8 /
精神症状の把握と理解	原田憲一 / 中山書店 / 978-4-521-73076-9 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎)(GA) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎)(LA)

14835

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students ability to express concepts in the Italian language by way of presenting a speech or writing an essay, both on topics previously tackled with the active help of the teacher. Students will learn how to introduce themselves, to meet people, to ask and give information, to describe people and places and to relate events concerning their life and young people in general.

到達目標 / Attainment Objectives

Level A1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Breakthrough (i.e. Beginners).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

No specific preparatory study is required.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
01	Salutare, chiedere il nome; presentarsi.	
02	Chiedere e indicare la provenienza; congedarsi.	
03	Chiedere il numero di telefono e l'indirizzo e rispondere; chiedere di ripetere un'informazione; numeri cardinali da 0 a 20.	
04	Informarsi dello stato di salute; presentare; chiedere e fornire informazioni personali.	
05	Informarsi delle conoscenze linguistiche altrui e fornire le proprie; essere spiacenti di qualcosa.	
06	Ringraziare; chiedere e dire l'età; numeri cardinali fino a 100.	
07	Ordinare al bar e al ristorante; chiedere qualcosa che manca al tavolo; chiedere il conto.	
08	Fare una prenotazione telefonica.	
09	L'alfabeto; compitare.	
10	Parlare del tempo libero; parlare della frequenza con cui si fa qualcosa.	
11	Parlare di gusti e preferenze; esprimere accordo e disaccordo.	
12	Manifestare desideri; chiedere e dire l'ora.	
13	Prenotare una camera d'albergo; prendere informazioni; chiedere il prezzo della camera; dare informazioni.	
14	Parlare dell'arredamento di una stanza; informarsi sulla eventuale presenza di oggetti; lamentarsi.	
15	Descrivere un appartamento; prendere in affitto un appartamento; motivare una scelta; i numeri da 100 in su; la data.	
16	Descrivere un luogo; chiedere un'informazione e reagire.	
17	Descrivere un percorso; rammaricarsi; indirizzare qualcuno ad altre persone; scusarsi.	
18	L'orario (a che ora...?); parlare degli orari di apertura e di chiusura.	
19	Raccontare eventi del passato; parlare delle vacanze.	
20	Locuzioni temporali nel passato.	
21	Parlare del tempo.	
22	Parlare degli acquisti e delle proprie abitudini in merito; fare la spesa in un negozio di alimentari.	

- | | |
|----|---|
| 23 | Parlare di prodotti tipici; confrontare le abitudini alimentari. |
| 24 | Descrivere un negozio; farsi dare una ricetta; le stagioni. |
| 25 | Parlare degli orari lavorativi, di una giornata tipo e delle abitudini. |
| 26 | Parlare della frequenza. |
| 27 | Fare gli auguri; le festività in Italia. |
| 28 | Descrivere e comprare vestiti; chiedere il prezzo. |
| 29 | Chiedere di poter cambiare qualcosa; essere indecisi. |
| 30 | Esprimere gusti e preferenze; fare confronti; gli acquisti. |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	75%: Active participation in classroom activity.

25%: Regular attendance.

Regular attendance and active participation in classroom activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is most important for the students to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always reviewing and memorizing the contents of the latest class.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Espresso 1, Corso di italiano + CD	Luciana Ziglio, Giovanna Rizzo / Luciana Ziglio, Giovanna Rizzo / 9 788886 440301 /

Given the high cost of the textbook, students are kindly required not to purchase it. Photocopies will be regularly provided by the teacher.

参考書 / Reference Books

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Students should spend some time on a daily base checking the following websites: www.Rai.it for practice in listening comprehension; and www.LASTAMPA.it for practice in reading comprehension.

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎)(GB) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎)(LB)

14836

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students ability to express concepts in the Italian language by way of presenting a speech or writing an essay, both on topics previously tackled with the active help of the teacher. Students will learn how to introduce themselves, to meet people, to ask and give information, to describe people and places and to relate events concerning their life and young people in general.

到達目標 / Attainment Objectives

Level A1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Breakthrough (i.e. Beginners).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

No specific preparatory study is required.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
01	Salutare, chiedere il nome; presentarsi.	
02	Chiedere e indicare la provenienza; congedarsi.	
03	Chiedere il numero di telefono e l'indirizzo e rispondere; chiedere di ripetere un'informazione; numeri cardinali da 0 a 20.	
04	Informarsi dello stato di salute; presentare; chiedere e fornire informazioni personali.	
05	Informarsi delle conoscenze linguistiche altrui e fornire le proprie; essere spiacenti di qualcosa.	
06	Ringraziare; chiedere e dire l'età; numeri cardinali fino a 100.	
07	Ordinare al bar e al ristorante; chiedere qualcosa che manca al tavolo; chiedere il conto.	
08	Fare una prenotazione telefonica.	
09	L'alfabeto; compitare.	
10	Parlare del tempo libero; parlare della frequenza con cui si fa qualcosa.	
11	Parlare di gusti e preferenze; esprimere accordo e disaccordo.	
12	Manifestare desideri; chiedere e dire l'ora.	
13	Prenotare una camera d'albergo; prendere informazioni; chiedere il prezzo della camera; dare informazioni.	
14	Parlare dell'arredamento di una stanza; informarsi sulla eventuale presenza di oggetti; lamentarsi.	
15	Descrivere un appartamento; prendere in affitto un appartamento; motivare una scelta; i numeri da 100 in su; la data.	
16	Descrivere un luogo; chiedere un'informazione e reagire.	
17	Descrivere un percorso; rammaricarsi; indirizzare qualcuno ad altre persone; scusarsi.	
18	L'orario (a che ora...?); parlare degli orari di apertura e di chiusura.	
19	Raccontare eventi del passato; parlare delle vacanze.	
20	Locuzioni temporali nel passato.	
21	Parlare del tempo.	
22	Parlare degli acquisti e delle proprie abitudini in merito; fare la spesa in un negozio di alimentari.	

- 23 Parlare di prodotti tipici; confrontare le abitudini alimentari.
- 24 Descrivere un negozio; farsi dare una ricetta; le stagioni.
- 25 Parlare degli orari lavorativi, di una giornata tipo e delle abitudini.
- 26 Parlare della frequenza.
- 27 Fare gli auguri; le festività in Italia.
- 28 Descrivere e comprare vestiti; chiedere il prezzo.
- 29 Chiedere di poter cambiare qualcosa; essere indecisi.
- 30 Esprimere gusti e preferenze; fare confronti; gli acquisti.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

Students are supposed to spend a certain amount of weekly time for self learning, i.e. reviewing and memorizing the course contents: vocabulary and communicative structures.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	75%: Active participation in classroom activity. 25%: Regular attendance.

Regular attendance and active participation in classroom activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is most important for the students to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always reviewing and memorizing the contents of the latest class.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Espresso 1, Corso di italiano + CD	Luciana Ziglio, Giovanna Rizzo / Alma Edizioni, Firenze / 9 788886 440301 /

Given the high cost of the textbook, students are kindly required not to purchase it. Photocopies will be regularly provided by the teacher.

参考書 / Reference Books

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Students should spend some time on a daily base checking the following websites: www.Rai.it for practice in listening comprehension; and www.LASTAMPA.it for practice in reading comprehension.

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。
<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎)(GC) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション・基礎)(LC)

14837

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students ability to express concepts in the Italian language by way of presenting a speech or writing an essay, both on topics previously tackled with the active help of the teacher. Students will learn how to introduce themselves, to meet people, to ask and give information, to describe people and places and to relate events concerning their life and young people in general.

到達目標 / Attainment Objectives

Level A1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Breakthrough (i.e. Beginners).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

No specific preparatory study is required.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
01	Salutare, chiedere il nome; presentarsi.	
02	Chiedere e indicare la provenienza; congedarsi.	
03	Chiedere il numero di telefono e l'indirizzo e rispondere; chiedere di ripetere un'informazione; numeri cardinali da 0 a 20.	
04	Informarsi dello stato di salute; presentare; chiedere e fornire informazioni personali.	
05	Informarsi delle conoscenze linguistiche altrui e fornire le proprie; essere spiacenti di qualcosa.	
06	Ringraziare; chiedere e dire l'età; numeri cardinali fino a 100.	
07	Ordinare al bar e al ristorante; chiedere qualcosa che manca al tavolo; chiedere il conto.	
08	Fare una prenotazione telefonica.	
09	L'alfabeto; compitare.	
10	Parlare del tempo libero; parlare della frequenza con cui si fa qualcosa.	
11	Parlare di gusti e preferenze; esprimere accordo e disaccordo.	
12	Manifestare desideri; chiedere e dire l'ora.	
13	Prenotare una camera d'albergo; prendere informazioni; chiedere il prezzo della camera; dare informazioni.	
14	Parlare dell'arredamento di una stanza; informarsi sulla eventuale presenza di oggetti; lamentarsi.	
15	Descrivere un appartamento; prendere in affitto un appartamento; motivare una scelta; i numeri da 100 in su; la data.	
16	Descrivere un luogo; chiedere un'informazione e reagire.	
17	Descrivere un percorso; rammaricarsi; indirizzare qualcuno ad altre persone; scusarsi.	
18	L'orario (a che ora...?); parlare degli orari di apertura e di chiusura.	
19	Raccontare eventi del passato; parlare delle vacanze.	
20	Locuzioni temporali nel passato.	
21	Parlare del tempo.	
22	Parlare degli acquisti e delle proprie abitudini in merito; fare la spesa in un negozio di alimentari.	

- | | |
|----|---|
| 23 | Parlare di prodotti tipici; confrontare le abitudini alimentari. |
| 24 | Descrivere un negozio; farsi dare una ricetta; le stagioni. |
| 25 | Parlare degli orari lavorativi, di una giornata tipo e delle abitudini. |
| 26 | Parlare della frequenza. |
| 27 | Fare gli auguri; le festività in Italia. |
| 28 | Descrivere e comprare vestiti; chiedere il prezzo. |
| 29 | Chiedere di poter cambiare qualcosa; essere indecisi. |
| 30 | Esprimere gusti e preferenze; fare confronti; gli acquisti. |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

Students are supposed to spend a certain amount of weekly time for self learning, i.e. reviewing and memorizing the course contents: vocabulary and communicative structures.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	75%: Active participation in classroom activity. 25%: Regular attendance.

Regular attendance and active participation in classroom activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is most important for the students to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always reviewing and memorizing the contents of the latest class.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Espresso 1, Corso di italiano + CD	Luciana Ziglio, Giovanna Rizzo / Alma Edizioni, Firenze / 9 788886 440301 /

Given the high cost of the textbook, students are kindly required not to purchase it. Photocopies will be regularly provided by the teacher.

参考書 / Reference Books

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Students should spend some time on a daily base checking the following websites: www.Rai.it for practice in listening comprehension; and www.LASTAMPA.it for practice in reading comprehension.

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。
<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語の日常会話の基礎を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目では、学生はイタリア語の日常生活に役に立つ表現を学び、文法の基礎を身につけながら、比較的簡単な会話の能力を習得し、イタリア文化の知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	入門。自己紹介、挨拶、授業への参加に役に立つ表現。	
2	曜日、月、季節。	
3	数字、加減乗除、数字のゲーム。	
4	日付、誕生日、年齢、家族の人数、身長、体重。	
5	時間を言う。	
6	時間の副詞と表現。	
7	飲み物と食べ物を注文する。	
8	買い物をする。ユーロの使い方。	
9	ものの値段を訪ねたり、教えたりする。	
10	好みに関して話す。語彙のゲーム。	
11	ものがあるかどうかを教える。	
12	ものの位置を訪ねる。場所の表現。	
13	店などがあるかどうかを訪ねる。	
14	道を訪ねる。行き方を教える。	
15	復習。会話のテスト。	
16	許可を求める。依頼する。ものを頼む。	
17	ご地租する。招待する。断る。予定と義務に関して話す。	
18	動詞「である」、「ある」、「いる」を使った会話。形容詞と名詞の合わせ方。動詞のゲーム。	
19	動詞「持っている」を使った会話。感覚を表現する。	
20	動詞の現在形を用いて、習慣などに関して話す。(areとere動詞)	
21	動詞の現在形を用いて、習慣などに関して話す。(ire動詞)	
22	動詞「行く」を使った会話。場所によって異なる前置詞の使い方。動詞「する」を使う表現。	
23	能力に関して話す。進行形の使い方。動詞「知っている」。	
24	主な不規則動詞の現在形を使う表現。	
25	再帰動詞を用いて、毎日の習慣などに関して話す。	
26	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 avereとともに使う過去形。	
27	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 avereとともに使う過去形。	
28	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 essereとともに使う過去形。	
29	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 essereとともに使う過去形。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席率、授業での態度、期末口頭テストの結果による評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

教室で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

anmajeru@hotmail.co.jp

その他 / Others

文学部初修外国語(イタリア語)が受講可能な学生はこの授業を受講せず、初修外国語(イタリア語)の授業を受講してください。

特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎)(GB) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎)(LB)

14833

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語の日常会話の基礎を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目では、学生はイタリア語の日常生活に役に立つ表現を学び、文法の基礎を身につけながら、比較的簡単な会話の能力を習得し、イタリア文化の知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	入門。自己紹介、挨拶、授業への参加に役に立つ表現。	
2	曜日、月、季節。	
3	数字、加減乗除、数字のゲーム。	
4	日付、誕生日、年齢、家族の人数、身長、体重。	
5	時間を言う。	
6	時間の副詞と表現。	
7	飲み物と食べ物を注文する。	
8	買い物をする。ユーロの使い方。	
9	ものの値段を訪ねたり、教えたりする。	
10	好みに関して話す。語彙のゲーム。	
11	ものがあるかどうかを教える。	
12	ものの位置を訪ねる。場所の表現。	
13	店などがあるかどうかを訪ねる。	
14	道を訪ねる。行き方を教える。	
15	復習。会話のテスト。	
16	許可を求める。依頼する。ものを頼む。	
17	ご地租する。招待する。断る。予定と義務に関して話す。	
18	動詞「である」、「ある」、「いる」を使った会話。形容詞と名詞の合わせ方。動詞のゲーム。	
19	動詞「持っている」を使った会話。感覚を表現する。	
20	動詞の現在形を用いて、習慣などに関して話す。(areとere動詞)	
21	動詞の現在形を用いて、習慣などに関して話す。(ire動詞)	
22	動詞「行く」を使った会話。場所によって異なる前置詞の使い方。動詞「する」を使う表現。	
23	能力に関して話す。進行形の使い方。動詞「知っている」。	
24	主な不規則動詞の現在形を使う表現。	
25	再帰動詞を用いて、毎日の習慣などに関して話す。	
26	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 avereとともに使う過去形。	
27	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 avereとともに使う過去形。	
28	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 essereとともに使う過去形。	
29	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 essereとともに使う過去形。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席率、授業での態度、期末口頭テストの結果による評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

教室で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

anmajeru@hotmail.co.jp

その他 / Others

文学部初修外国語(イタリア語)が受講可能な学生はこの授業を受講せず、初修外国語(イタリア語)の授業を受講してください。

特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎)(GC) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎)(LC)

14834

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語の日常会話の基礎を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目では、学生はイタリア語の日常生活に役に立つ表現を学び、文法の基礎を身につけながら、比較的簡単な会話の能力を習得し、イタリア文化の知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	入門。自己紹介、挨拶、授業への参加に役に立つ表現。	
2	曜日、月、季節	
3	数字、加減乗除、数字のゲーム。	
4	日付、誕生日、年齢、家族の人数、身長、体重。	
5	時間を言う。	
6	時間の副詞と表現。	
7	飲み物と食べ物を注文する。	
8	買い物をする。ユーロの使い方。	
9	ものの値段を訪ねたり、教えたりする。	
10	好みに関して話す。語彙のゲーム。	
11	ものがあるかどうかを教える。	
12	ものの位置を訪ねる。場所の表現。	
13	店などがあるかどうかを訪ねる。	
14	道を訪ねる。行き方を教える。	
15	復習。会話のテスト。	
16	許可を求める。依頼する。ものを頼む。	
17	ご地租する。招待する。断る。予定と義務に関して話す。	
18	動詞「である」、「ある」、「いる」を使った会話。形容詞と名詞の合わせ方。動詞のゲーム。	
19	動詞「持っている」を使った会話。感覚を表現する。	
20	動詞の現在形を用いて、習慣などに関して話す。(areとere動詞)	
21	動詞の現在形を用いて、習慣などに関して話す。(ire動詞)	
22	動詞「行く」を使った会話。場所によって異なる前置詞の使い方。動詞「する」を使う表現。	
23	能力に関して話す。進行形の使い方。動詞「知っている」。	
24	主な不規則動詞の現在形を使う表現。	
25	再帰動詞を用いて、毎日の習慣などに関して話す。	
26	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 avereとともに使う過去形。	
27	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 avereとともに使う過去形。	
28	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 essereとともに使う過去形。	
29	動詞の過去形を用いて、できごとと経験を語る。助動詞 essereとともに使う過去形。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席率、授業での態度、期末口頭テストの結果による評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

教室で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

anmajeru@hotmail.co.jp

その他 / Others

文学部初修外国語(イタリア語)が受講可能な学生はこの授業を受講せず、初修外国語(イタリア語)の授業を受講してください。

特殊講義(イタリアの言語と文化・入門I) (L) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・入門I) (L) § 特殊講義(イタリアの言語と文化・入門I) (GA)

13690

担当者名 / Instructor 鯖江 秀樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、古代から20世紀へいたるイタリアの文化と歴史を主要なテーマとする。とくに、絵画作品をさまざまな角度から分析することを通じて、この国の宗教、社会、習俗、感性など、さまざまな文化的側面にアプローチする。なじみのあるルネサンス芸術のみならず、古代ローマや20世紀の前衛芸術について理解を深め、私たちの日常にあふれる「かたち」や「ことば」を見つめなおすきっかけを見出してほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

古代から現代までのイタリアの文化と歴史の全体像を把握するとともに、芸術作品を分析するためのいくつかの方法論を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

言語や歴史についての専門的知識は必要ないが、イタリアという国の文化に関心のある学生が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	本講義のテーマの確認、および授業の進め方の説明
2	本講義の全体像について	時代区分の説明、および主要な論点と分析方法の解説
3	古代・中世の芸術[1]	
4	古代・中世の芸術[2]	
5	ルネサンスの世界観[1]	
6	ルネサンスの世界観[2]	
7	バロック的感性[1]	
8	バロック的感性[2]	
9	中間小論文テスト	第3回から第8回の講義内容の復習と質疑応答、および60分間の理解度確認テスト
10	芸術作品の修復と近代	
11	20世紀前半のイタリア絵画[1]	
12	20世紀前半のイタリア絵画[2]	
13	20世紀後半のイタリア絵画[1]	
14	20世紀後半のイタリア絵画[2]	
15	小論文テスト	第10回から第14回までの講義内容の復習と質疑応答、および60分間の理解度確認テスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業中に指示した文献やウェブサイトを参照すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席を重視したうえで、理解度確認テストなどをもとに総合評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に使用せず、そのつど関連資料やレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

テーマに応じて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎回提出してもらうコミュニケーションペーパーで質問を受け付ける。

その他 / Others

特殊講義(イタリアの言語と文化・入門II)(L) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・入門II)(L) § 特殊講義(イタリアの言語と文化・入門II)(GA)

16368

担当者名 / Instructor 石井 元章

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではイタリア文化・言語の諸相の中で、特にルネサンス期の彫刻に光を当て、イタリア文化の持つ本質を探る。15世紀から16世紀初頭にかけてのフィレンツェ、ヴェネツィア彫刻を時代を追いながら解説し、ヨーロッパ文明の根幹をなすギリシア・ローマ神話とキリスト教に対する理解を深める。その中で当然のことながら言語についても触れることになる。

到達目標 / Attainment Objectives

ギリシア・ローマ神話とキリスト教、およびテーマであるルネサンス期彫刻に対する理解を深めることで、ヨーロッパ美術の解読ができる力を涵養することを旨とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	彫刻をどう見るか。ミケランジェロ《ダヴィデ》
2	国際ゴシック様式の彫刻と1401年のコンクール	アンドレア・ピサーノ《洗礼者聖ヨハネの生涯》 ロレンツォ・ギベルティ、フィリッポ・ブルネッレスキ
3	フィレンツェ洗礼堂青銅扉1	ロレンツォ・ギベルティ《キリストの生涯》
4	フィレンツェ洗礼堂青銅扉2	ロレンツォ・ギベルティ《旧約聖書の物語》
5	対立する様式: ヤコポ・デラ・クエルチャとドナテッロ	
6	ドナテッロの芸術	
7	ミケランジェロの芸術1	
8	ミケランジェロの芸術2	
9	ヴェネツィア共和国の歴史	海の都の成立と栄光
10	15世紀前半のヴェネツィア彫刻	フィリッポ・カレンダリーオ、バルトロメオ・ボン
11	古典主義の導入: ピエトロ・ロンバルドとアントニオ・リッツォ	
12	トゥッリオ・ロンバルドの芸術1	
13	トゥッリオ・ロンバルドの芸術2	
14	アントニオ・ロンバルドの芸術	
15	イタリア宮廷と美術	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	調査対象についての知識だけでなく、それをどう提示するかというプレゼンテーションについても評価する。当然、誤字脱字、文法語法上の間違いは心象を損なうと理解すべきである。
平常点評価	30 %	出席率、授業中の態度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ギリシア・ローマ神話やキリスト教の聖人等については、未知の事項が多々あると思う。これについては参考書として掲げた文献などを参照して自ら知識を増やす努力を怠らないで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ルネサンスの彫刻 15・16世紀のイタリア	石井元章／ブリュッケ／9784434104077／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
西洋美術解説事典	ジェイムズ・ホール／河出書房新社／4309260918／
西洋絵画の主題物語 I-II	諸川春樹監修／美術出版社／9784568400403/10／
黄金伝説1-4	ヤコブス・デ・ウオラギネ／平凡社ライブラリー／9784582765748, etc／
フィレンツェ 初期ルネサンス美術の運命	高階秀爾／中央公論社／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

イタリアの言語とエクスプレッション応用I (LA) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション応用I) (LA) § 特殊講義(イタリアの言語とエクスプレッション応用I) (GA)

14831

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

イタリアの言語とエクスペッション応用II (LA) § 特殊講義(イタリアの言語とエクスペッション応用II) (GA) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とエクスペッション応用II) (LA)

14922

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing in the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students' ability to express concepts in the Italian language by way of presenting a speech or writing an essay, both on topics previously tackled with the active help of the teacher. Various subjects as books, music, films, youth, the contemporary world and aspects of Italy will be examined and discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

到達目標 / Attainment Objectives

Level A2-B1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Waystage-Threshold (i.e. Lower-mid Intermediate).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

A specific preparatory study is required. The students must have attended a first year Italian language course (Beginners) at Ritsumeikan. If any prospective students should feel prepared to attend the course without having studied Italian at Ritsumeikan (i.e. having attended language courses elsewhere, or having studied the language independently), they are kindly requested to contact the teacher Mr Franco Corona for an interview. Please email as specified below.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
01	Descrivere l'aspetto fisico di una persona; parlare dei cambiamenti della vita.	
02	Descrivere il carattere e gli interessi di una persona. Conversazione alla cassa del teatro.	
03	Proporre di fare qualcosa insieme; darsi un appuntamento. Descrivere: la disposizione delle stanze, i lavori di ristrutturazione e il quartiere.	
04	Parlare delle proprie capacità. Parlare dell'arredamento di una casa.	
05	Parlare della vita in o fuori città; esporre un punto di vista.	
06	Parlare della qualità della vita in diverse città.	
07	Fare una graduatoria; conversazione sull'affitto di una casa.	
08	Parlare di prodotti della cucina italiana e della loro produzione.	
09	Dire che cosa si sta facendo.	
10	Spiegare come si prepara un piatto; scrivere una ricetta.	
11	Parlare di vari sport.	
12	Parlare di preferenze personali e del proprio benessere.	
13	Esprimere la propria opinione e contrapporla ai punti di vista degli altri.	
14	Descrivere una città com'era una volta; parlare di come si viveva una volta.	
15	Chiedere qualcosa cortesemente; indicare oggetti.	
16	Chiedere il permesso e dare dei consigli.	
17	Parlare di esperienze professionali; descrivere scopi e settori di un'istituzione.	
18	Conversazione sulla carriera; fare una telefonata formale; esigere qualcosa.	
19	Stabilire delle regole; dare consigli.	

- 20 Raccontare e descrivere al passato; informarsi su un film, raccontarne la trama ed esprimere la propria opinione.
- 21 Conversazione tra due donne su un'esperienza personale.
- 22 Viaggiare in treno: chiedere informazioni, fare una prenotazione, comprare un biglietto.
- 23 Parlare di un contrattempo (spiacevole); mantenere viva una conversazione.
- 24 Esprimere insicurezza, dubbi o paure; incoraggiare qualcuno.
- 25 Fare una telefonata informale; parlare di progetti futuri.
- 26 Parlare dei propri sogni, dei propri desideri e rifletterci sopra.
- 27 Esprimere malessere e chiedere un consiglio in farmacia.
- 28 In giro con la macchina: chiedere aiuto, consiglio e indicazioni.
- 29 Parlare della vita in un paese straniero.
- 30 Parlare delle decisioni prese nella propria vita.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

Students are supposed to spend a certain amount of weekly time for self learning, i.e. reviewing and memorizing the course contents: vocabulary and communicative structures.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	75%: Active participation in classroom activity. 25%: Regular attendance.

Regular attendance and active participation in classroom activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is most important for the students to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always reviewing and memorizing the contents of the latest class.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Allegro 2, corso multimediale di italiano	L. Toffolo, M.G. Tommasini, R.Merklinghaus / Edilingua //

Given the high cost of the textbook, students are kindly required not to purchase it. Photocopies will be regularly provided by the teacher.

参考書 / Reference Books

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Students should spend some time on a daily base checking the following websites: www.Rai.it for practice in listening comprehension; and www.LASTAMPA.it for practice in reading comprehension.

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

イタリアの言語とコミュニケーション応用I (LA) § 特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) (GA) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) (LA)

14829

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語会話中級レベルを学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目では、学生は次第に難しくなる、日常生活によく使われる表現を学ぶ。尚、聴解、書き取り、読解、会話などのような練習を通じて日常生活に必要な言語能力を養成しながら、イタリア文化の知識を拡げていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目には、イタリア語会話基礎を学んだ学生だけ参加出来る。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	この授業のスケジュールや内容や教材などは教室で相談の上で決める。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席率、授業での態度、期末口頭テストの結果による評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

教室で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

anmajeru@hotmail.co.jp

その他 / Others

イタリアの言語とコミュニケーション応用II (LA) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用II) (L) § 特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用II) (GA)

14830

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語会話上級を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目では、イタリア語中級を学んだ学生は次第に難しくなる読解、聴解、書き取り、会話などのような練習を通じて上級文法を身につけながら、日常生活の複雑な状況でも必要とされる表現を学び、様々なテーマについて論理的に述べるができる。尚、イタリア文化の知識を更に深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目には、イタリア語会話基礎と中級を学んだ学生だけ参加出来る。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	この授業のスケジュールや内容や教材などは教室で相談の上で決める。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席率、授業での態度、期末口頭テストの結果による評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

教室で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

anmajeru@hotmail.co.jp

その他 / Others

イタリア文化研究 (L) § 特殊講義(イタリア文化研究) (GA) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリア文化研究) (L)

14921

担当者名 / Instructor 竹山 博英

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業はイタリア文化の諸分野をより深く研究したい学生を対象にしている。対象となる分野は、具体的には文学、民俗学、歴史学、美術、映像学などが考えられるが、それ以外の分野も許容される。授業は演習形式で行い、イタリアの諸文化に関する専門書の講読や学生諸君の研究発表を中心に進める。この授業はイタリアに関する専門的研究の基盤を作り、今後の研究に生かすことを目的とした、イタリア文化に特化した授業で、今後本学におけるイタリア研究の拠点的地位を占めることをめざしているため、イタリアの文化に興味のある学生の積極的な参加が大いに期待される。

到達目標 / Attainment Objectives

イタリア文化の諸分野に関する知見を広め、自らの研究を深化させる。
この授業で得た成果を卒業論文に生かす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	研究主題に関する討論	
2	文献講読、あるいは研究発表と討論	
3	文献講読、あるいは研究発表と討論	
4	文献講読、あるいは研究発表と討論	
5	文献講読、あるいは研究発表と討論	
6	文献講読、あるいは研究発表と討論	
7	文献講読、あるいは研究発表と討論	
8	文献講読、あるいは研究発表と討論	
9	文献講読、あるいは研究発表と討論	
10	文献講読、あるいは研究発表と討論	
11	文献講読、あるいは研究発表と討論	
12	文献講読、あるいは研究発表と討論	
13	文献講読、あるいは研究発表と討論	
14	文献講読、あるいは研究発表と討論	
15	文献講読、あるいは研究発表と討論	
16	研究発表と討論	
17	研究発表と討論	
18	研究発表と討論	
19	研究発表と討論	
20	研究発表と討論	
21	研究発表と討論	
22	研究発表と討論	
23	研究発表と討論	
24	研究発表と討論	
25	研究発表と討論	
26	研究発表と討論	
27	研究発表と討論	
28	研究発表と討論	
29	研究発表と討論	
30	研究発表と討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
-----------	-----------------	-------------------------------

レポート試験	50 %	
--------	------	--

平常点評価	50 %	出席を重視する。
-------	------	----------

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教室で指示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

イタリア文化講義I (L) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリア文化講義I) (L) § 特殊講義(イタリア文化講義I) (GA)

13687

担当者名 / Instructor 松田 博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Culturaの語源は「耕す」という意味である。したがって「イタリア文化」を考えることは、一定の歴史的・社会的条件のもとで、その文化的・精神的土壌がどのように「耕され」、どのような成果を挙げ、さらにその成果を通じてどのように人間精神・文化を豊かなものにしていったか？を考えることと言える。本講義では①ルネサンス文化の中核としてのUmanesimo(人文主義)精神、②Risorgimento(国家統一運動)と近代文化(とくに自由主義文化・思想)、③20世紀イタリア文化(Futurismo,Fascismo,Liberalismo)を検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

上記の基本テーマとその歴史的・社会的背景にかんする学習を通じて、イタリア文化を構成する基本概念を理解し、さらに現代文化におけるその意義についての認識を深めることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ヨーロッパ史・イタリア史に関する科目、および文化史に関する科目。さらに簡単なイタリア語資料を使う場合があるのでイタリア語基礎の履修が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	文化(Cultura)概念、評価方法など
2	Rinascimento & Umanesimo ①	Rinascimento
3	同上②	Umanesimo
4	同上③	Arte politica
5	Risorgimento & Cultura①	Risorgimento
6	同上②	Liberalismo(B.Croce)
7	中間まとめ	質疑、小論文
8	Futurismo(未来派)の形成	Futurismo
9	Futurismo vs Liberalismo	Modernismo
10	Fascismo & Cultura	Cultura fascista
11	Fascismo vs Liberalismo	Cultura liberalistica(B.Croce)
12	Fascismo vs Anti-Fascismo①	Cultura anti-fascista
13	同上②	Cocetto di Liberta'
14	Cultura moderna & Liberta'	Pensiero moderno & Liberta'
15	全体まとめ、質疑、期末レポート注意事項	Conclusione & Gli altri informazioni

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

シラバスや講義資料で紹介した参考文献を少なくとも一冊は熟読することを期待する。理解力、読解力向上のためには文献の精読がもっとも有効なので努力して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	レポートとしての基本的な必要条件を達成しているか否かを重視する。感想文やエッセイとレポート、論文との質的な相違を自覚して、また文章表現能力の向上をめざして作成すること。コピーや他人の著作の盗用は失格とする。
平常点評価	40 %	中間まとめとしての小論文、およびCPでの質問、コメントを重視する。また講義にたいする自覚的な受講態度(質問、コメントなど)も評価対象とする。講義の円滑な進行を阻害するような態度は減点とし、他の受講生の妨害となる場合は退室を命じる場合がある。

CPでの質問、コメントにたいしては講義初頭においてレプライの時間を設けて解説する。また講義内における質問やコメントも歓迎する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自己の関心や問題意識を明確にし、自発的な学習・研究を継続する事を期待する。とくに関心ある文献の精読を勧めたい。

教科書 / Textbooks

参考書は使用しない。講義テーマに応じて資料レジュメを配布し、参考文献の紹介をおこなう。CP等での質問を歓迎します。講義内でレプライの時間を設けます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

イタリア史	北原敦・編／山川出版／／イタリア史の概説書
未来派	ディズダル／パルコ出版／／未来派の運動と歴史
思考としての歴史と行動としての歴史	クローチェ／法大出版局／／自由主義思想・文化の意義
永遠のファシズム	エーコ／岩波書店／／エーコのファシズム論
ファシズム	山口定／岩波現代文庫／／ファシズムの概説書
ルネサンス文化史	ガレン／平凡社／／ルネサンス文化の優れた研究書
ルネサンス人	ガレン／岩波書店／／ルネサンス人間像の優れた論文集
君主論	マキアヴェッリ／岩波文庫／／政治文化論を考える点でも有益な名著
クローチェ政治哲学論集	クローチェ／法政大学出版／／現代的自由の問題にとって有益な論考
クローチェ	倉科岳志／藤原書店／／自由主義問題、ファシズム批判

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

イタリア文化に関する英文や伊文サイトを参照してほしい。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

イタリア文化講義II (L) § ヴィジョン形成特殊講義(イタリア文化講義II) (L) § 特殊講義(イタリア文化講義II) (GA)

16367

担当者名 / Instructor 竹山 博英

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、実際の作品を分析することで、イタリアの映画史を追う。今年度は戦後のイタリア映画を代表する映画監督ヴィスコンティの初期の作品を取り上げる。この時期の彼の作品を分析し、それらが映画界のみならず、文化界全体でどのような意味を持ち、いかなる影響を与えたか考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

個々の作品を理解する。
ヴィスコンティの映画がイタリアの文化にどのような影響をもたらしたか理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イタリアの文化と映画。ヴィスコンティの生涯。	
2	映画を見る、分析と考察	『ベリッシマ』(1951)
3	映画を見る、分析と考察	『ベリッシマ』(1951)
4	映画を見る、分析と考察	『夏の嵐』(1954)
5	映画を見る、分析と考察	『夏の嵐』(1954)
6	映画を見る、分析と考察	『白夜』(1957)
7	映画を見る、分析と考察	『白夜』(1957)
8	映画を見る、分析と考察	『若者のすべて』(1960)
9	映画を見る、分析と考察	『若者のすべて』(1960)
10	映画を見る、分析と考察	『若者のすべて』(1960)
11	映画を見る、分析と考察	『山猫』(1963)
12	映画を見る、分析と考察	『山猫』(1963)
13	映画を見る、分析と考察	『山猫』(1963)
14	映画を見る、分析と考察	短編
15	映画を見る、分析と考察	短編

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教室で指示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others